

処理区名：公共下水道

令和〇年〇月末時点

番号	実施日	実施項目	実施場所	実施内容	実施費用（税込）	備考
1						
2						
3						
4						
5						
6						
7						
8						
9						
10						
11						
12						
13						
14						
15						
16						

実施回数・金額集計

	予定回数	予定金額（税込）	実施回数	実施金額（税込）	回数差	金額差（税込）
汚水処理施設修繕		12,140,000				12,140,000
マンホールポンプ施設修繕		7,200,000				7,200,000
公共汚水ます修繕	35	6,730,000			35	6,730,000
止水修繕	5	480,000			5	480,000
取付管修繕	5	1,710,000			5	1,710,000
本管簡易修繕	5	1,750,000			5	1,750,000
物品調達（薬品）		13,150,000				13,150,000
物品調達（機械電気部品）		2,610,000				2,610,000
物品調達（水質部品）		980,000				980,000
その他		0				0
合計		46,750,000				46,750,000

第3編 特環地区下水道施設運転管理等業務

第1章 下水道処理施設管理等業務

第1節 管理施設

(1) 施設名称

- ①三和浄化センター
- ②大江中部浄化センター
- ③寺尾汚水中継ポンプ場
- ④波美汚水中継ポンプ場
- ⑤金屋汚水中継ポンプ場

(2) 施設規模

別紙 1-2「処理施設規模」及び別紙 1-3「処理施設位置図」参照

第2節 業務内容

水処理設備における各機器の正常な運転を確保するために行う業務等とする。

1 三和浄化センター・大江中部浄化センター

(1) 昼間保守点検管理

- ア 施設の運転管理・操作・監視・点検・記録・簡易整備・簡易な故障修理・環境整備等
- イ 現場作業指示・異常処置事項等の情報収集及び、とりまとめ
- ウ 別紙 3-1「日常管理記録表」、別紙 3-2「機器運転時間記録表」など報告書の作成
- エ 物品調達管理
- オ 雨水対応

(2) 夜間緊急保守管理

- ア 降雨時における雨水対応
- イ 施設緊急警報発報時対応

2 汚水中継ポンプ場

(1) 昼間保守点検管理

(2) 雨水対応

(3) 環境整備

(4) 簡易な故障修理

3 水質試験

(1) 各浄化センター放流水等検査

4 その他

(1) 調査物回答

(2) 施設整備に係わる備品、材料等の整理整頓、在庫管理

第3節 運転管理及び運転操作管理

管理施設における運転管理及び運転操作管理は、次に示す事項とする。

- 1 現場における操作作業等の指示
- 2 管理日報の作成
- 3 現場作業事項及び突発事項等の情報収集
- 4 点検記録、運転日報及び月報、年報の整理整頓
- 5 管理室内の清掃

第4節 保守点検

機器の正常な運転を確保するために行う日常保守点検、定期保守点検及び臨時点検を行うものである。

第5節 運転管理報告

本業務では、次に示す報告書類を提出すること。

- 1 月度報告
第1編 第1章 第13節 業務履行報告 3 月度報告 に記載の内容に準ずる。
- 2 年度報告
第1編 第1章 第13節 業務履行報告 4 年度報告 に記載の内容に準ずる。
- 3 適宜報告
第1編 第1章 第13節 業務履行報告 5 適宜報告 に記載の内容に準ずる。

第6節 使用薬品類

- 1 三和浄化センター及び大江中部浄化センターにおいて、汚水処理に使用する薬品類は、次に示すものとする。
 - (1) 水処理設備
 - ア 塩素滅菌剤 (処理水放流)
 - (ア) 外 観 円形扁平型錠剤(約30mmφ×約13mmφ)
 - (イ) 有効成分 トリクロイソシアヌール酸：99%
 - (ウ) 納 入 量 1,525kg (年間見込み量)
- 2 使用する薬品類が水処理の処理結果が想定と異なる場合、または、使用する薬品類により施設等に影響を及ぼす場合には、速やかに発注者に報告し、協議の上、新たな薬品類を使用することとする。

第3編 特環地区下水道施設運転管理等業務
第2章 水質等検査業務

第2章 水質等検査業務

第1節 概要

三和浄化センター及び大江中部浄化センターからの放流水や処分される汚泥等の状況を定期的に測定し、基準値内であることを確認するため水質検査を行うものである。

第2節 下水道施設における水質に係る検査業務

1 日常水質管理

(1) 業務概要

ア 施設における水処理の正常性を確保するための自主検査。

イ 放流先河川における占用条件のための定期検査。

(2) 検査頻度、検体名及び検査項目

各処理場の流入水、放流水や場内汚泥の水質検査を行う検体は、検査頻度ごとにまとめた表に示したとおりとする。なお、発注者からの依頼により、臨時的な検査についても協議により決定するものとする。水質検査に関する共通事項は次のとおりとする。

【月2回】汚水系

採水箇所	三和浄化センター			大江中部浄化センター		合計
	流入水 (寺尾)	流入水 (草山)	放流水	流入水	放流水	
気温	24	24	24	24	24	120
水温	24	24	24	24	24	120
pH	24	24	24	24	24	120
浮遊物質(SS)	24	24	24	24	24	120
COD	24	24	24	24	24	120
BOD	24	24	24	24	24	120
全磷(T-P)	24	24	24	24	24	120
全窒素(T-N)	24	24	24	24	24	120
大腸菌数	24	24	24	24	24	120
蒸発残留物	24	24	24	24	24	120

【月2回】汚泥系

採泥箇所	三和浄化センター						合計
	活性汚泥		余剰汚泥		濃縮汚泥		
	1系	2系	1系	2系	1系	2系	
MLSS（活性汚泥濃度 mg/l）	24	24	-	-	-	-	48
MLVSS（活性汚泥有機分%）	24	24	-	-	-	-	48

第3編 特環地区下水道施設運転管理等業務
第2章 水質等検査業務

汚泥含水率（％）	-	-	24	24	24	24	96
汚泥有機分（％）	-	-	24	24	24	24	96

採泥箇所	大江中部浄化センター					合計
	活性汚泥		余剰汚泥		濃縮汚泥	
	1 系	2 系	1 系	2 系		
MLSS（活性汚泥濃度 mg/l）	24	24	-	-	-	48
MLVSS（活性汚泥有機分％）	24	24	-	-	-	48
汚泥含水率（％）	-	-	24	24	24	72
汚泥有機分（％）	-	-	24	24	24	72

（３）検査要領

- ア 採水及び採泥等をするときは、採取記録をすること。
- イ 採取した検体は、速やかに水質検査を行うこと。
ただし、速やかに検査が出来ない場合は、関係法令等の方法により措置を施すこと。
- ウ 関係法令及び、水質測定方法手順書に基づき行うこと。
- エ 各項目の検査結果が基準値の２分の１以上を超過した場合は、超過している項目を、速やかに発注者に報告すること。
- オ 測定値が基準値内でない、もしくは検査結果が基準値を超過している場合は、その項目の再検査を実施すること。
- カ 測定機器毎の誤差をなくするため、同一測定機器を用いて行うこと。
- キ 受注者の用意した測定機器を使用する場合は、測定機器のリストと 測定機器の校正記録又は、それに相当するものを提出すること。

（４）検査結果報告書等

- ア 検査結果報告書に、各施設の採水、採泥記録を記載すること。
- イ 検査結果報告書は、採取日の１０日以内に発注者に報告すること。
- ウ 検査結果が基準値の２分の１以上を超過した場合は、超過している項目を速やかに発注者に報告すること。
- エ 月報に水質検査結果及び次月の採取予定表を発注者に提出すること。

（５）基準値超過

- ア 本業務において、放流水質等の法定基準を達成できない場合は、次のとおり対応すること。
 - a 未達成状況の確認及び報告
放流水質が法定基準を達成できていないことを把握した場合は、速やかに発注者に報告すること。

第3編 特環地区下水道施設運転管理等業務
第2章 水質等検査業務

b 改善計画書の提出

- ①改善計画書の提出を命じられてから 10 日以内に改善計画書を発注者に提出し、発注者の指導、監督に従って原因究明や改善対応をすること。
- ②原因究明、改善計画書の作成及び実施にかかる費用は、受注者が負担すること。
- ③受注者は、自らの負担で行う計測において、改善対応の効果を確認し、改善の状況を発注者に報告すること。

(6) 月報告書

月報告書は、各施設の別紙 3-3「水質分析検査報告書」を完了届と共に提出すること。

(7) 年報告書

年報告書は、検査結果報告書及び週報告書のデータをそれぞれ、年ごとにまとめ、日平均値、最小値、最大値及び基準値を表記したものを、業務完了届及びエクセル形式データと共に提出すること。

(8) 維持管理年報資料の作成

発注者の指示に従い維持管理年報資料の作成を行うこと。

2 法定水質検査

(1) 業務概要

三和浄化センター及び大江中部浄化センターにおける流入水、放流水等の採水及び水質検査を行うものである。

水質検査は、日常水質管理のための自主検査と同日に行うものとする。

(※関係法令 下水道法第 8 条及び下水道法施行令第 6 条関係)

(2) 検査要領

ア 定期検査採水及び水質検査

- ①三和浄化センター及び大江中部浄化センター流入水
- ②三和浄化センター及び大江中部浄化センター放流水

イ 法定水質検査は、月に 1 回実施し、日常水質検査と同日に実施すること。

ウ ダイオキシン類測定採水及び検査（年 1 回）

No	検査項目	検査場所		
		三和浄化センター・大江中部浄化センター		
		流入水（年 1 回）	流入水（年 11 回）	放流水（年 12 回）
1	水温	1	1	1
2	気温	-	-	1
3	pH	1	1	1

第3編 特環地区下水道施設運転管理等業務
第2章 水質等検査業務

4	浮遊物質(SS)	-	-	1
5	COD	-	-	1
6	BOD	-	-	1
7	全燐 (T-P)	-	-	1
8	全窒素 (T-N)	-	-	1
9	大腸菌	-	-	1
10	蒸発残留物	-	-	1
11	1・4-ジオキサン	1	1	1
12	フェノール類	1	-	1
13	銅	1	1	1
14	亜鉛	1	1	1
15	溶解性マンガン	1	1	1
16	溶解性鉄	1	1	1
17	ニッケル	1	1	1
18	全クロム	1	1	1
19	ふっ素	1	-	1
20	ほう素	1	-	1
21	カドミウム	1	1	1
22	全シアン	1	-	1
23	有機リン	1	-	1
24	鉛	1	1	1
25	六価クロム	1	1	1
26	砒素	1	1	1
27	全水銀	1	1	1
28	アルキル水銀化合物	1	-	1
29	ポリ塩化ビフェニル	1	-	1
30	アンモニア性窒素	1	-	1
31	亜硝酸性窒素	1	-	1
32	硝酸性窒素	1	-	1
33	リン酸イオン	-	-	1
34	塩化物イオン	-	-	1
35	硫酸イオン	-	-	1
36	鉱物油	1	1	1
37	動植物油	1	1	1

第3編 特環地区下水道施設運転管理等業務
第2章 水質等検査業務

38	セレン	1	-	1
39	臭素イオン	-	-	1
40	1,1,1-トリクロロエタン	1	-	1
41	四塩化炭素	1	-	1
42	1,2-ジクロロエタン	1	-	1
43	1,1-ジクロロエチレン	1	-	1
44	ジクロロメタン	1	-	1
45	シス-1,2-ジクロロエチレン	1	-	1
46	テトラクロロエチレン	1	-	1
47	1,1,2-トリクロロエタン	1	-	1
48	トリクロロエチレン	1	-	1
49	ベンゼン	1	-	1
50	1,3-ジクロロプロペン	1	-	1
51	シマジン	1	-	1
52	チウラム	1	-	1
53	チオベンカルブ	1	-	1
計		41 項目	16 項目	53 項目

No	検査項目	検査場所	
		三和浄化センター・大江中部浄化センター	
		流入水	放流水
1	ダイオキシン類	1	1
計		2 項目	

年間項目数（三和浄化センター及び大江中部浄化センター合算）

流入水 41 項目×2 検体×1 ヶ月＝82 項目

16 項目×2 検体×11 ヶ月＝352 項目

放流水 53 項目×2 検体×12 ヶ月＝1,272 項目

ダイオキシン類 1 項目×4 検体×1 回＝4 項目

合計 52 検体 1,710 項目

（3）提出書類

ア 計画書及び報告書

イ 計量証明書

ウ 作業写真等

ア ～ ウ について、実施月以降の月次報告時に提出することとする。

(4) 特記事項

ア 関係法令及び下水試験方法に基づき行うこと。

イ 油分等試験に使用する採水容器については、必要な処理を施したものを使用すること。
また、検体自体が汚染されている以外の要因によって必要でない物質が検出されないこと。

ウ 測定値又は検査結果が基準値を超過している場合は、直ちに発注者に報告をし、指示どおり検査すること。

エ 検査項目で基準値の2分の1以上超過した項目がある場合は、直ちに発注者に報告すること。

オ 測定機器による誤差を考慮し同一の機器を用いて測定すること。

カ 受注者が用意した測定器を使用する場合は、測定機器のリストと測定器の校正記録を提出すること。

キ 計量証明書は、計量法に定める計量証明事業の登録を受けていること。

第3節 有害物質測定

1 業務概要

三和浄化センター及び大江中部浄化センターの濃縮汚泥に係る有害物質の測定を行う。

2 留意事項

(1) 検査実施機関は、計量法に定める計量証明事業の登録を受けている者であること。

(2) サンプルングは、上記実施機関が行うこと。

(3) サンプルング時には、採取項目、採取年月日及び時間を記録すること。

(4) 関係法令等に基づく測定を行うこと。

(5) 測定数値の値が、法基準に定められた値の2分の1を超過した場合は、発注者に連絡するとともに速やかに打合せ簿により報告すること。

(6) 測定値が法定基準を超過している場合は、速やかに発注者に報告すること。また、10日以内に改善計画書を作成するとともに原因究明や改善の対応を行うこと。

(7) 各測定を行う際には、事前に発注者に報告すること。

3 測定結果報告書の提出

(1) サンプルングした日毎に速やかに測定結果報告書を2部提出すること。

また年間検査結果報告書を2部と電子データを1部提出すること。

4 測定項目、測定時期、検体数等

次の表のとおり実施すること。

(1) 溶出試験

第3編 特環地区下水道施設運転管理等業務
第2章 水質等検査業務

		濃縮汚泥	
		三和浄化センター	大江中部浄化センター
1	p H	2	2
2	アルキル水銀化合物	2	2
3	水銀又はその化合物	2	2
4	カドミウム又はその化合物	2	2
5	鉛又はその化合物	2	2
6	有機燐化合物	2	2
7	六価クロム	2	2
8	砒素又はその化合物	2	2
9	シアン化合物	2	2
10	P C B	2	2
11	トリクロロエチレン	2	2
12	テトラクロロエチレン	2	2
13	ジクロロメタン	2	2
14	四塩化炭素	2	2
15	1,2-ジクロロエタン	2	2
16	1,1-ジクロロエチレン	2	2
17	シス-1,2-ジクロロエチレン	2	2
18	1,1,1-トリクロロエタン	2	2
19	1,1,2-トリクロロエタン	2	2
20	1,3-ジクロロプロペン	2	2
21	1,4-ジオキサン	2	2
22	チウラム	2	2
23	シマジン	2	2
24	チオベンカルブ	2	2
25	ベンゼン	2	2
26	セレン又はその化合物	2	2
27	銅又はその化合物	2	2
28	亜鉛又はその化合物	2	2
29	クロム又はその化合物	2	2
30	ニッケル又はその化合物	2	2
31	鉄含有量	2	2
32	マンガン含有量	2	2

第3編 特環地区下水道施設運転管理等業務
第2章 水質等検査業務

(2) 全量試験

		濃縮汚泥	
		三和浄化センター	大江中部浄化センター
1	蒸発残留物	2	2
2	灼熱残留物	2	2
3	窒素	2	2
4	炭素	2	2
5	水素	2	2
6	総発熱量	2	2
7	硫黄	2	2
8	水銀	2	2
9	カドミウム	2	2
10	鉛	2	2
11	砒素	2	2
12	銅	2	2
13	亜鉛	2	2
14	クロム	2	2
15	ニッケル	2	2
16	鉄	2	2
17	マンガン	2	2

第3編 特環地区下水道施設運転管理等業務
第3章 処理施設附帯業務

第3章 処理施設附帯業務

第1節 共通事項

本章は、し渣沈砂及び汚泥の運搬、特環地区下水道施設に関連する下水道施設等における計装機器点検、建物附帯設備法令点検等及び場内環境整備ほか各業務について記載する。

なお、各節における業務については、実施後の月度報告において随時提出するものとする。

第2節 し渣沈砂収集運搬業務

1 業務概要

特環下水道施設及び下水道施設汚水中継ポンプ場に設置しているスクリーン設備、除砂設備より収集される、し渣沈砂の収集運搬を行い収集運搬日計表および概ねの量を報告すること。

2 業務範囲

し渣沈砂の収集運搬とし、搬出先は、双方協議を行い決定するものとする。

3 業務場所及び運搬回数等

次の表のとおりとする。

コース	A	B	C	D
収集運搬 業務回数	2カ月に1回	2カ月に1回	2カ月に1回	2カ月に1回
収集運搬車両	軽トラック	軽トラック	軽トラック	軽トラック
収集対象 施設名	三和浄化 センター	寺尾汚水中継 ポンプ場	大江中部 浄化センター	波美汚水 ポンプ場

4 その他

- (1) 本業務に係わるポンプ場等設備は、その機能上休止できないので、支障とならないよう十分配慮し作業を行うこと。
- (2) 本業務受注者は、産業廃棄物の収集、運搬の委託について法律で定める基準に適合するものであること。

第3節 発生汚泥の管理及び運搬

- (1) 汚水処理で発生する汚泥は、定期的又は臨機に必要と認められた場合は、汚泥槽の清掃として実施する。
- (2) 汚泥槽の清掃は、バキューム車で引抜き、福知山終末処理場へ搬入する。(汚泥等の運搬費用についても本業務に含むものとする。年間当りの汚泥発生量は、それぞれ三和浄化センター1,400 m³、大江浄化センター1,600 m³を見込んでいる。) 引抜汚泥量については別紙 3-1「日常管理記録表」により記録することとする。

第3編 特環地区下水道施設運転管理等業務
第3章 処理施設附帯業務

第4節 水処理施設・ポンプ場ほか計装設備保守点検業務

1 業務概要

特環地区下水道施設の計装設備を維持するため、設備の保守・点検調整を行う。点検を行う施設は別紙3-4「計装設備点検対象機器一覧表」のとおりとする。

2 業務内容

(1) 水位計点検

ア 実水位及び各出力値測定

イ 検出器引上げ、清掃及び本体受圧部、中空ケーブル外観目視点検

ウ ベロフラム、下部本体交換(別紙3-4「計装設備点検対象機器一覧表」における対象機器のみ)

エ 差動トランスセット、中空ケーブル一次・二次抵抗値及び絶縁抵抗測定

オ 検出器ゼロ点調整及び変換器ゼロ点・スパン調整

(2) 流量計点検

ア 検出器外観目視点検

イ 変換器設定値確認

ウ 検出器絶縁抵抗測定

エ 模擬信号による指示値確認及びゼロ点・スパン調整

3 留意事項

(1) 本業務の履行に際して、点検対象となる機器について、事前に現場に確認を行い、対象機器の形式や設置場所などを理解したうえ業務を行うこと。

(2) 対象機器の点検に必要な消耗品類は、事前に準備しておくこと。

点検時に、部品などの劣化や損傷により機器等の障害または障害の発生するおそれがあるときは、速やかに報告するとともに障害原因の除去及び再発防止を講じること。なお、その除去及び再発防止に関し、別途費用が発生する場合は、その負担について発注者と協議を行い決定するものとする。

(3) 対象機器の一般的消耗品（メーカー推奨で通常1年間で交換する消耗品など）一式の補充も含むものとする。

(4) 雨水貯留施設の点検においては、必要に応じて交通誘導員の配置を行い実施すること。

(5) 水位計の点検は、検出器の位置が非常に深い所にあるため、機器等の落下、転落及び酸欠には十分注意を払うこと。

第5節 消防設備点検業務

1 業務概要

消防法第17条の3の3の規定対象となる処理施設の消防用設備の機器点検、総合点検を行うものである。また、対象外となる処理施設については自主点検を行うものとする。

2 業務内容

- (1) 機器点検、総合点検を行う対象施設と点検回数は次のとおりとする。

- ①点検の時期
前期：機器点検+総合点検（8月～10月）
後期：機器点検（2月～3月）
- ②対象施設
三和浄化センター
大江中部浄化センター
寺尾汚水中継ポンプ場
機器点検2回／年
総合点検1回／年

3 対象消防設備

別紙3-5「消防設備点検対象機器一覧表」のとおり

4 業務要領

- (1) 作業範囲及び実施回数等

- ア 対象設備の法定点検を実施すること。
- イ 対象設備に不時の異常・故障が発生した場合及び発注者の依頼があった場合は、受注者は技術者を派遣し対応すること。
- ウ 消防法の点検基準に基づいて実施すること。
- エ 対象設備の点検有資格者を派遣し、法定点検を実施するとともに「点検報告書」を作成すること。
- オ 「点検結果報告書」は、3年ごとにを所轄消防署へ提出するため、提出準備に協力すること。
- カ 受注者は、下記の書類を提出すること。
- ア) 業務工程表 (毎回点検実施10日前)
- イ) 点検報告書 (前期分2部、後期分2部)

5 不具合事項対応

消防設備不具合事項において以下に示す項目以外については小修繕対応とする。

- (1) 消火器等の交換または薬剤詰め替え
- (2) 屋内消火栓設備等のホース耐圧試験
- (3) 故障・異常時の出動対応に要する経費
- (4) 大規模と判断される消防設備の修理または取替

第6節 脱臭設備活性炭吸着塔活性炭入替業務

1 業務場所

- (1) 大江中部浄化センター
(2) 寺尾汚水中継ポンプ場

2 業務概要

- (1) 本業務は、活性炭吸着塔の活性炭を撤去し、再生活性炭又は新活性炭を投入する。
- (2) 撤去した活性炭は工場へ搬送し再生する。

第3編 特環地区下水道施設運転管理等業務
第3章 処理施設附帯業務

(3) 工場の再生工程で目減りした分を補充した分量に相当する再生活性炭を次回入替用として納入すること。

3 入替期間

3年に1回実施することとし、次のとおりとする。

(1) 大江中部浄化センター

【令和8年度：前回令和5年度実施】

(2) 寺尾污水中継ポンプ場

【令和10年度：前回令和7年度実施】

第7節 自家発電機用エンジン点検業務

1 業務概要

自家発電設備の機能を良好な状態に保つため、専門業者による整備点検を受けることとする。

2 業務要領

(1) 三和浄化センターほかの自家発電機用エンジン点検整備を行う。

(2) 履行期間内において対象の設備に重大なトラブルが発生した場合は、即時にその復旧に対応するものとする。

(3) 点検整備を行うたびに速報として報告書を速やかに作成して提出するものとする。

(4) 履行期間中に対象機器以外の機器故障などが発生した場合は、機器の早急な復旧を行うとともに、原因調査を迅速に行い報告すること。

復旧に際して発生した費用は、その内容により協議して決定する。

3 点検整備内容

(1) 本点検業務範囲には、対象機器の点検、調整及び、対象機器の一般的消耗品（メーカー推奨で交換する消耗品など）の交換も含むこととするため、準備及び不足分の補充も行うこと。

(2) 点検整備計画

業務契約期間内に以下の整備点検を受けることとする。

場所	機関型式	台数	令和8年度	令和9年度	令和10年度
三和浄化センター	4TNV106T-GGL6	1	D点検	-	-
寺尾中継ポンプ場	4TNE84T-GH2	1	-	D点検	-
大江中部浄化センター	AP155D-6T	1	-	-	D点検

4 整備点検報告

整備点検を完了した時は、専門業者から提出される報告書（写真含む）を提出すること。

第8節 空調設備点検業務

1 業務概要

第3編 特環地区下水道施設運転管理等業務
第3章 処理施設附帯業務

フロン類の使用の合理化及び管理の適正化に関する法律に基づき簡易点検を行い、報告書を作成すること。

2 対象機器

No	処理場名	対象機器	台数
1	三和浄化センター	管理棟（管理室・作業員控室）	2台
2	大江中部浄化センター	管理等（事務室・会議室・作業員控室・仮眠室）	4台

3 業務要領

- （1）対象機器全てに対する簡易点検（3か月に1回）
- （2）簡易点検及びフロン充填、回収を行った記録表の作成、提出

4 主な点検内容

（1）簡易点検内容

室外機：目視点検（振動、音、油漏れ、凍結、摩耗、腐食、錆び、外観損傷）

室内機：目視点検（振動、音、霜）

第9節 クレーン自主点検業務

1 業務概要

クレーン等安全規則第34条に基づき年次自主検査を行い、天井クレーンの使用による事故の防止・故障の予知・機械性能の維持・安全性の強化を図るものとする。

2 対象機器

No	処理場名	対象機器	台数
1	三和浄化センター	汚泥処理棟 1.0 t H=6 m	1台
2	大江中部浄化センター	汚泥処理棟 1.0 t H=12 m	1台
3	波美汚水中継ポンプ場	天井クレーン	1台

3 業務内容

上記、対象機器について年次自主検査を行う。

4 業務要領

- （1）荷重テストに必要な物及びスペースは、安全に留意し重量物は施設床の強度を考慮し、建物の梁部分に保管すること。
- （2）定期点検方法は、社団法人日本下水道協会下水道施設維持管理積算要領終末処理場・ポンプ場施設編を参考とする。
- （3）完了後は、自主検査報告書を提出すること。

5 その他

- （1）業務期間中に点検対象以外の機器に故障などが発生した場合は、機器の早急な復旧を行うとともに、原因調査を迅速に行い発注者に報告すること。

- (2) 業務期間中、修繕及び更新により年次自主検査対象機器を使用する場合は、使用前にクレーン等安全規則第34条に基づいた自主検査を行うこと。

第10節 第2種圧力容器自主検査業務

1 業務概要

ボイラー及び圧力容器安全規則第88条に基づき、安全に使用するために自主検査を行う。

2 対象機器

No	処理場名	対象機器	台数
1	三和浄化センター	汚泥処理棟 型式：40UYRMD622A	1台
2	大江中部浄化センター	消毒棟 自動空気補給式 TSN-V型	1台

3 点検回数 1回／年間

4 業務要領

- (1) 点検対象となる機器について、事前に現場を確認を行い、対象機器の形式や設置場所などを理解したうえ業務を行うこと。
- (2) ボイラー及び圧力容器安全規則第88条1項の項目に基づき検査を実施し、検査報告書を作成すること。また、報告書を月報とともに提出すること。

第11節 場内環境整備業務

1 業務概要

各施設の管理敷地内及び周辺一般清掃、草刈・樹木剪定等の作業により、景観を保つことを目的とする。

2 対象施設

- (1) 三和浄化センター
- (2) 大江中部浄化センター
- (3) 寺尾污水中継ポンプ場
- (4) 波美污水中継ポンプ場
- (5) 金屋污水中継ポンプ場

3 業務内容

(1) 一般清掃、草刈・樹木剪定

各施設内及び周辺の環境整備作業により、景観を保つため適宜、草刈及び剪定等を行うこと。

(2) 刈草及び剪定くず等の処分

① 場内環境整備作業により発生した刈草及び剪定くず等の処分は、福知山市一般廃棄物処理基本計画の廃棄物の資源化拡大に基づいて、福知山バイオマスセンターに運搬して、再資源化として処分を行うこと。

第3編 特環地区下水道施設運転管理等業務
第3章 処理施設附帯業務

②処分量は、市特定環境保全公共下水道の大江中部処理区分1.0t、三和处理区分0.5tを見込んでいる。なお、受注者の創意工夫により、別途資源の有効活用を実施する場合は、発注者と協議を行い、承諾を得た再資源化を行うことができるものとする。

(3) 処分報告

廃棄物計量施設で発行される計量証明（領収書）の空欄に「運搬物名」「会社名」「署名」等を記入して月報でまとめて報告すること。

第4章 マンホールポンプ施設業務

第1節 共通事項

- 1 作業前には、「マンホールポンプ場台帳」、「福知山市下水道管路台帳管理システム」、「福知山市下水道施設台帳管理システム」、「マンホールポンプ巡回点検記録表」等を活用して、業務を履行する。
- 2 公道上及び私有地内の作業となるため、作業前後には関係者への周知や連絡を行うこととする。
- 3 作業を行う際には、周辺の状況を確認して、歩行者や車両の通行に支障を及ぼさないように安全な作業とする。
- 4 作業後は、周辺も含めて片付け、清掃を行うこととする。
- 5 業務を実施した内容の集計については、一覧表に整理して月度報告に添付することとし、各年度の実施状況の把握を行うこととする。
- 6 マンホールポンプ施設業務に関する費用は、本業務内で流用可能とする。

第2節 マンホールポンプ設備点検業務

1 マンホールポンプ設備点検概要

マンホールポンプ設備を巡回方式で点検を行う。点検対象設備の名称は別紙3-6「マンホールポンプ設備点検業務対象箇所一覧表」のものとし、箇所数はマンホールポンプ施設63箇所とする。

2 点検回数

設備点検は1箇所当たり年1回を基本とし、次の3項について作業を行うものとする。

ただし、故障表示が多発するなど特殊な事象がある箇所については、監督員との協議により、7項に示す特殊点検を実施できるものとする。

特殊点検の点検回数については、年間計19回を見込んでいる。

3 点検作業（巡回点検記録表に基づく）※下記内容を基本とする。

（1）汚水ポンプ

- ア 外観の確認
- イ 運転状況（異音、振動、電流値、運転時間、減水）の確認
- ウ 自動起動、停止（水位）の確認
- エ 絶縁抵抗測定
- オ 着脱装置、逆止弁の機能確認
- カ 吊り下げチェーン（摩耗、損傷、腐食、変形）の確認

（2）現場操作盤

- ア 外観（汚損、損傷、腐食、変形）、過熱の確認

- イ 回転灯、表示灯、計器指示値の確認
 - ※電流計は正常な送水時の値に赤色指針をあわせ、後から行った者が異常か正常か判断出来るようにしておくこと。
- ウ 各機器の作動テスト
- エ 断線、ゆるみ、端子の腐食（スパーク痕など）、ヒューズの確認
- オ マンホール槽への配線状況の確認
 - ※電線管内のケーブルの撤去・入線が容易にできることを確認する。
- カ 内部侵入物（雨水、小動物、昆虫、草等）の痕跡等確認
- (3) 計器収納ボックス
 - ア 外観（汚損、損傷、腐食、変形）、過熱の確認
 - イ 断線、ゆるみ
 - ウ 内部侵入物（雨水、小動物、昆虫、草等）の痕跡等確認
- (4) 液位検出器
 - ア レベルスイッチの設置位置及び作動確認
 - イ 投げ込み式水位計の水位検知状況及び作動確認
- (5) マンホールポンプ槽内
 - スカム堆積状況等の確認
- (6) 配管
 - ア 漏水、ジョイント部の確認
 - イ 支持金物、支持材の確認
- (7) マンホール蓋
 - ア コネクタ部の設置状況等の確認
 - イ 大蓋のみ（小蓋なし）の場合はその旨記載すること
 - ウ ゆがみ、ガタツキ、摩耗、腐食の有無
 - エ 大蓋、子蓋共に固着等が無く開閉が行えることを確認すること
- (8) 操作盤自動・施錠確認
- (9) その他
 - ア 臨時点検
 - イ 簡易な故障修理
 - 電気設備（表示灯、ヒューズ、リレー、タイマー等の取替）
 - 機械設備（ポンプ、配管の詰まり除去・ポンプの据付直し）
 - ウ 設備の清掃
- (10) 道路上の作業場所の確保及び安全処置
 - 車両及び歩行者の通行の妨げにならないよう、また作業が充分に行えるようバリケード等により作業場所を確保し、安全管理を行い事故防止に努めること。また、必要箇

第3編 特環地区下水道施設運転管理等業務
第4章 マンホールポンプ施設業務

所に交通誘導警備員を配置すること。

- ・交通誘導警備員人員：N=2人/7箇所（想定）

※1日あたり7箇所を想定し1箇所あたりに換算。

4 取替用電気部品等

表示灯及びタイマー等の消耗品は本業務に含むものとする。

なお、液位検出器、水中ポンプ、回転灯、漏電遮断器、電磁接触器、コンデンサの取替作業は小修繕として取り扱う。

5 高所取り付け型制御盤の作業

高所設置の制御盤作業を実施する際は、高所作業車を使用するなど各種法令や規則に則った安全な作業をすること。

6 報告

(1) 点検作業報告は、別紙 3-7「マンホールポンプ設備巡回点検記録表」の内容を、「福知山市下水道施設台帳管理システム」に入力するものとする。ただし、故障などがある場合は、紙媒体での提出を合わせてするものとする。

(2) 業務着手初年度の点検時には、点検箇所の全景、マンホール蓋据付状況、槽内状況等について撮影を行い、写真を添付することとする。

(3) 不具合箇所があった場合は、その箇所の写真を添付することとする。

7 特殊点検

(1) 特殊点検は、管理範囲内のマンホールポンプ場において、故障表示が多発することや、他のポンプ場に比べ運転時間が非常に長いポンプ場など特殊な事象があるポンプ場を対象に実施する点検とする。

(2) 特殊点検の作業内容の基本は記載しないが、特殊事象の解消を目的とした作業とする。実施する作業内容については、発注者と協議、調整を行うものとする。

(3) 特殊点検の報告は、6項と同様とする。ただし、点検内容に報告書様式が適さない場合や記入欄が不足する等の場合には、別途任意様式にて提出を行うこととする。

第3節 槽内清掃業務

1 業務概要

マンホールポンプ場の点検状況に応じて受注者の判断で清掃・浚渫を行う。

2 対象施設

清掃対象箇所は、別紙 3-6「マンホールポンプ設備点検業務対象箇所一覧表」の箇所で受注者の判断で実施するが、年間4箇所を見込んでいる。

3 提出書類

マンホールポンプ槽内清掃箇所報告書及び作業写真（着手前と完了後の対比写真、作業中、安全管理、使用機材等作業内容の判別できるもの）。

なお、清掃時に得た知見について可能な限り記録し提出すること。

4 作業要領

(1) 道路上の作業場所の確保及び安全処置

車両及び歩行者の通行の妨げにならないよう、また作業が充分に行えるようバリケード等により作業場所を確保し、安全管理を行い事故防止に努めること。また、必要箇所に交通誘導警備員を配置すること。

・交通誘導警備員人員：N=2人/6箇所（想定）

※1日あたり6箇所を想定し1箇所あたりに換算。

(2) 槽内の液面

ポンプ槽内の液面を下げる場合、操作盤で手動運転を行い、液面を下げる。

(3) 槽内の洗浄

槽内の洗浄範囲としては、側壁、底面、ポンプ外面、レベルスイッチ、ケーブル、チェーン及びガイドパイプを洗浄する。

(4) 槽内堆積物の除去

槽内のし渣、沈砂及び汚泥を吸泥車等により除去する。

(5) ポンプの送水確認

手動運転にてポンプを起動させ水位が下がるのを確認し、自動運転に切り替える。

(6) 逆止弁開放点検

逆止弁への異物噛み込み等による送水不良の場合には開放点検を行い、機能を復旧させる。

(7) 後片付け

作業終了後は、マンホール蓋を閉じ、バリケード等を片付け、復旧する。

また、マンホール周辺の状況を確認し、必要に応じて清掃も行う。

(8) 堆積物の処理

吸泥車等により除去した堆積物は、発注者と協議の上、指示された場所に搬入することとする。

第5章 管路施設業務

第1節 共通事項

- 1 作業前には「福知山市下水道管路台帳管理システム」等を活用し、周囲の下水道管路の管径・材質・土被り・流下方向、取付管延長、公共汚水ますの内径・材質等を確認し、本管を破損させることがないように注意すること。
- 2 水道管・ガス管等の地下埋設物について、事前に調整・確認を十分に行うこと。
- 3 作業に伴う切削等による破片・ごみ等については必ず回収し、周辺清掃に努めること。
- 4 作業完了後は、水を流して流下状況を必ず確認すること。
- 5 清掃及び洗浄等のために吸引した汚水については、下流側最寄りのマンホールまたは中継ポンプ場へ投入すること。ただし、閉塞の原因となる堆積物等ものを含む場合は、発注者と協議の上、指示された場所に搬入することとする。
- 6 公道上の作業においては、受注者により道路管理者及び福知山警察署への届出を行うこと。
- 7 業務を実施した内容の集計については、別紙 3-8「管路施設業務集計表」に整理し月例の報告書に添付することとし、各年度の実施状況の把握を行うこと。
- 8 本業務で実施した内容のうち、管路施設の維持管理上、必要な情報については、「福知山市下水道管路台帳管理システム」に登録を行うこと。登録する内容については、発注者と受注者との協議による。
- 9 点検や調査により発見された管路の破損、その他異常のうち、道路陥没や管路閉塞等の原因となる重大なものや不明水の異常流入等を確認した場合には、直ちに発注者に報告すること。
- 10 点検や調査により発見された管路施設の破損や不明水等の流入、その他異常のうち、第3編の第6章 小修繕等業務で修繕可能なものについては、発注者との協議の上、本業務内で修繕対応を行うこと。

第2節 圧送管清掃業務

1 業務内容

高压洗浄車等の機材を使用し、圧送管管路内の清掃を実施する。

2 業務場所

業務範囲内圧送管において、維持管理上支障を及ぼす恐れのある箇所を受注者により選定し、発注者に承諾を受けた箇所とする。

3 特記事項

- (1) 発注者の承諾を受けた箇所の圧送管内部（マンホールポンプ含む）の清掃等を実施する。作業延長は約 100mとし、1 箇所の作業で 100mに達しない場合は、他の場所

で達成すること。

ただし、発注者の判断により3割を超える作業延長の増減を行う場合には、発注者と受注者で協議するものとする。

- (2) 車両及び歩行者の通行の妨げにならないよう、また作業が充分に行えるようバリケード等により作業場所を確保し、安全管理を行い事故防止に努めること。また、必要箇所に交通誘導警備員を配置すること。

・交通誘導警備員人員：N=2人/日(想定)

- (3) 清掃業務の実施にあたり、高圧洗浄車以外の方法が有効な箇所については高圧洗浄以外の方法による清掃も可能とする。ただし高圧洗浄車で施工した場合の費用と同等となるように延長換算した延長を作業延長とすることとし、実際の清掃延長と延長換算した清掃延長を換算根拠を併せて報告すること。

4 報告

- (1) 圧送管清掃を行った後には、速やかに圧送管清掃報告を行い、月例の業務完了報告時に、圧送管清掃報告書・作業写真を提出すること。
- (2) 作業写真は、着手前と完了後の対比、作業中、安全管理、使用資機材、作業内容等が判別できるものを添付すること。

第3節 管路緊急対応業務

1 業務内容

下水道本管及び公共汚水ます・取付管内での障害発生連絡を受けた、または発見した場合、直ちに現場確認を行い、障害の特定及び機能回復を図る。

2 業務実施時間等

24時間体制とする。

3 特記事項

- (1) 車両及び歩行者の通行の妨げにならないよう、また作業が充分に行えるようバリケード等により作業場所を確保し、安全管理を行い事故防止に努めること。また、必要箇所に交通誘導警備員を配置すること。

・交通誘導警備員：N=1人/回（高圧洗浄）※2人×0.5日(想定)

・交通誘導警備員：N=1人/回（汚泥吸引）※2人×0.5日(想定)

対応想定件数はそれぞれ高圧洗浄1回、汚泥吸引1回とし、そのうち、簡易作業を伴う件数は日中1回、時間外深夜1回である。

- (2) 復旧作業において市民への影響が大きいと判断される場合は、監視室に連絡し、発注者の承諾を得た後、作業を実施すること。
- (3) 管路施設等から汚水が溢れた場合には、現場周辺の洗浄及び消毒作業を実施すること。

(4) 業務に際し不明な点等が発生した場合には、発注者と協議すること。

4 報告

(1) 管路緊急対応を行った後には、速やかに緊急対応報告を行い、月例の業務完了報告時に改めて、緊急対応報告書・作業写真を提出すること。

(2) 作業写真は、着手前と完了後の対比、作業中、安全管理、使用資機材、作業内容等が判別できるよう整理すること。

第4節 不明水調査業務（マンホール内部調査）

1 業務内容

下水道管路に流入する不明水を発見するため、降雨時または降雨後に管路内部・マンホール内部を目視により確認する。また、不明水等の流入や、その他異状を確認した場合には、直ちに発注者に報告すること。

2 業務場所

業務範囲内において、維持管理上支障を及ぼす恐れのある箇所を受注者により選定し、発注者に承諾を受けた箇所とする。その他、発注者が異常の恐れがあると判断し、指示した箇所を含むものとする。

3 特記事項

(1) 不明水調査は、1回4時間（0.5日）、年3回実施するものとする。

ただし、発注者の判断により調査日数を追加する場合は、発注者と受注者で協議するものとする。

(2) 作業は、指定された地区のマンホール蓋を開け、マンホール内部の状況を目視し、下記（3）から（6）の内容等を確認する。

また確認した内容が分かるように写真撮影を行い整理すること。

(3) 躯体と管路のジョイント部等からの不明水の流入を確認する。

(4) 管路・インバート部を点検し、流量・流下状況等の異常の有無を確認する。

(5) マンホール蓋開閉時にマンホール蓋の錆等の劣化状況を点検・確認し、全景、表面、裏面の写真を撮影すること。

(6) その他不明水の原因となる兆候、破損等がないかを確認する。

(7) 調査にあたり事前にマンホール内の洗浄が必要となった場合は、適宜実施すること。

4 報告

(1) 不明水調査業務を行った後には、月例の業務完了報告時に、調査報告書・業務写真を提出すること。

(2) 報告書には、調査箇所を「福知山市下水道管路台帳管理システム」の図面に記入したものを添付すること。

第5節 本管テレビカメラ調査業務

第3編 特環地区下水道施設運転管理等業務
第5章 管路施設業務

1 業務内容

下水道管路に流入する不明水や管路の破損等を発見するため、本管用テレビカメラにより、下水道管路内を確認する。

2 業務場所

業務範囲内において、維持管理上支障を及ぼす恐れのある箇所を受注者により選定し、発注者に承諾を受けた箇所とする。その他、発注者が異常の恐れがあると判断し、指示した箇所を含むものとする。

3 特記事項

(1) 車両及び歩行者の通行の妨げにならないよう、また作業が充分に行えるようバリケード等により作業場所を確保し、安全管理を行い事故防止に努めること。また、必要箇所に交通誘導警備員を配置すること。

・交通誘導警備員：N=2 人/回(想定)

・調査は、1 回 2 時間 (0.25 日)、年 1 回を見込んでいる。

ただし、発注者の判断により調査箇所を追加する場合は、発注者と受注者で協議するものとする。

(2) 調査は、「下水道維持管理指針 実務編（公益社団法人 日本下水道協会）」の内容を準用し実施することとするが、調査記録等は異常の有無が判断できる程度に簡素化できるものとする。

(3) 不明水の発見を目的にした調査については、降雨時または降雨後の流入の増加が見込まれる時期に実施すること。

(4) 調査にあたり事前に管内の洗浄が必要となった場合は、適宜実施すること。

4 報告

(1) 業務を行った後には、月例の業務完了報告時に、調査報告書・業務写真を提出すること。

(2) 報告書には、調査箇所を「福知山市下水道管路台帳管理システム」の図面に記入したものを添付すること。

第6節 取付け管テレビカメラ調査業務

1 業務内容

取付け管テレビカメラを公共ますから取付け管に挿入し、本管接合部に向けて移動させ、取付管の異常の有無を、地上の調査員が目視により調査する。公共ますは地上から目視により点検する。

2 業務場所

維持管理上支障を及ぼす恐れのある箇所を受注者により選定し、発注者に承諾を受けた箇所とする。その他、発注者が異常の恐れがあると判断し、指示した箇所を含むもの

とする。

3 特記事項

- (1) 車両及び歩行者の通行の妨げにならないよう、また作業が充分に行えるようバリケード等により作業場所を確保し、安全管理を行い事故防止に努めること。また、必要箇所には交通誘導警備員を配置すること。

・交通誘導警備員：N=0.5人/回※2人×2時間(0.25日)(想定)

調査想定件数は1回である。

- (2) 洗浄のために吸引した汚水については、下流側最寄りのマンホールまたは中継ポンプ場へ投入すること。ただし、閉塞の原因となるものを含む場合は、発注者と協議の上、指示された場所に搬入することとする。
- (3) 業務に際し不明な点等が発生した場合には、発注者と協議すること。
- (4) 調査にあたり事前に管内の洗浄が必要となった場合は、適宜実施すること。

4 報告

- (1) 対応を行った後には、月例の業務完了報告時に、調査報告書・業務写真を提出すること。
- (2) 報告書には、調査箇所を「福知山市下水道管路台帳管理システム」の図面に記入したものを添付すること。

第7節 水管橋点検業務

1 業務内容

- (1) 河川や軌道上を横断する水管橋の目視による点検と簡易な維持管理作業を行う。異常を確認した場合には、直ちに発注者に報告すること。
- (2) 箇所数は合計4箇所、契約期間内ですべての水管橋を1回以上点検することとする。
- (3) 点検は1回あたり0.25日とし、1年間当り2回実施するものとする。また、発注者の判断により点検箇所数を追加する場合は、発注者と受注者で協議するものとする。

2 業務場所

業務範囲内において、維持管理上支障を及ぼす恐れのある箇所を受注者により選定し、発注者に承諾を受けた箇所とする。

点検箇所は、別紙3-9「水管橋点検位置図」のとおりとする。

3 特記事項

- (1) 車両及び歩行者の通行の妨げにならないよう、また作業が充分に行えるようバリケード等により作業場所を確保し、転落防止等の安全管理を行い事故防止に努めること。また、必要箇所には交通誘導警備員を配置すること。

第3編 特環地区下水道施設運転管理等業務
第5章 管路施設業務

・交通誘導警備員：N=0.5人/回（想定）

※1日あたり4回を想定し1回あたりに換算。

※2人×1日÷4回(想定)

(2) 点検項目は、下記の内容等を確認する。

ア.上部工...漏水、変形、鋼材の締付、腐食及び外面塗装の異常の有無を確認する。

イ.下部工...コンクリートのひび割れ、鉄筋の露出、傾き及び沈下の有無を確認する。

ウ.周辺...フェンス等の立入禁止措置や条件護岸の異常や不法投棄の有無を確認する。

エ.その他...沓座面への土砂の堆積及び樹木等の繁茂状況を確認する。

(3) 点検時に異常があった際に簡易な維持管理作業により異常を除去できる場合は除去作業を実施する。

4 報告

(1) 月例の業務完了報告に、点検報告書及び業務写真を提出すること。

(2) 報告書には、点検箇所を「福知山市下水道管路台帳管理システム」の図面に記入したものを添付すること。

第8節 仕切弁調査業務

1 業務内容

(1) 中継ポンプ場やマンホールポンプ場からの下水道管（圧送管）の仕切弁の位置調査及び動作確認を行う。動作確認を行う際にはポンプの送水の停止等、必要な措置を行う。調査時に異常を確認した場合には、直ちに発注者に報告すること。

(2) 調査は1回あたり0.25日とし、1年間当り2回実施するものとする。また、発注者の判断により調査箇所数を追加する場合は、発注者と受注者で協議するものとする。

2 業務場所

業務範囲内において、維持管理上支障を及ぼす恐れのある箇所を受注者により選定し、発注者に承諾を受けた箇所とする。

3 特記事項

(1) 車両及び歩行者の通行の妨げにならないよう、また作業が充分に行えるようバリケード等により作業場所を確保し、安全管理を行い事故防止に努めること。また、必要箇所に交通誘導警備員を配置すること。

・交通誘導警備員：N=0.5人/回（想定）

※1日あたり4回を想定し1回あたりに換算。

※2人×1日÷4回(想定)

(2) 本業務は圧送管での漏水修繕等、緊急時の対応を検討することを目的として仕切弁自体の有無や開閉の可否を調査するものである。よって、弁の固着等による全閉不可

第3編 特環地区下水道施設運転管理等業務
第5章 管路施設業務

を強引に閉める必要はなく、開閉不可であることや回転可能回数を報告する。

- (3) 開閉の可否の確認が完了した際には、ポンプの送水や仕切弁の開度を調査前の状態へ戻したことを確認する。ただし、調査前の状態が異常であった場合は正常な状態へ回復することを基本とする。
- (4) 調査時に異常があった際、簡易な維持管理作業により異常を除去できる場合は除去作業を実施する。

4 報告

- (1) 月例の業務完了報告に調査報告書及び業務写真を提出すること。
- (2) 報告書には、調査箇所を「福知山市下水道管路台帳管理システム」の図面に記入したものを添付すること。

第6章 小修繕等業務

第1節 共通事項

1 業務概要

- (1) 本業務委託にかかる対象施設における設備等の機能を正常に発揮、維持できるよう適切に修繕及び物品調達等を行うものとする。詳細な概要は次節以降のとおりとする。
- (2) 受注者が負担を負う修繕等は、次節以降に示す1件あたりの費用未満のものを原則とする。ただし受注者が行う修繕等が、1件あたりの費用を超える場合や次節以降に示す各年度の予定件数や上限額を超える場合であっても、年度末までの委託業務費用内で、可能と判断される場合は、発注者との協議のうえ、実施してよいものとする。なお、年度末までの委託業務費用内を超過する恐れがある等で本業務内での実施が困難な場合は、発注者との協議により別途契約とする場合がある。

2 報告

- (1) 修繕等を実施した場合は、作業内容が確認できる実施報告書（写真帳含む）及び修繕等に要した費用の分かる内訳書について、月例の報告書に添付し報告することとする。ただし発注者が緊急を要するものとして提出を求めたものについては、月例の報告書とは別に報告することとする。
- (2) 修繕に要した費用の集計については、別紙3-10「小修繕等業務集計表」に整理し月例の報告書に添付することとし、各年度の修繕費用の把握を行うこと。この集計様式については、全小修繕項目を集約した報告様式でも可能とする。
- (3) 修繕内容は、「福知山市下水道施設台帳管理システム」、「福知山市下水道管路台帳管理システム」に入力することとする。

第2節 汚水処理施設修繕

1 業務概要

対象施設における設備等の機能を正常に発揮、維持できるよう適切に修繕を行うものとする。

2 対象施設

- (1) 三和浄化センター
- (2) 大江中部浄化センター
- (3) 特環区域に関連する中継ポンプ場

3 各年度の上限額

汚水処理施設修繕における各年度の累計上限額は、315万円（消費税及び地方消費税含む）とする。

ただし、遅行状況により限度額を超える恐れがある場合は、下記の特記事項によるものとする。

4 提出書類

- (1) 実施前

第3編 特環地区下水道施設運転管理等業務
第6章 小修繕等業務

・修繕実施打合せ簿 ・修繕見積書（押印不要）等

(2) 実施後（月度報告時）

・修繕施工写真 ・修繕費用集計表（年度累計様式） ・報告書等

5 特記事項

- (1) 受注者は、対象施設の施設故障状況一覧表に優先順位を受注者と協議の上、決定し修繕を実施することとする。点検等により、施設状況に変動が見られた場合には、適宜施設故障状況一覧表について変更を行い発注者と協議を行うこととする。
- (2) 受注者が負担を行う修繕は、1件あたりの費用が30万円未満（消費税及び地方消費税を含む）のものとする。ただし、修繕内容や機器等の性能上、1件あたりの費用が30万円以上（消費税及び地方消費税含む）となる場合は、発注者と協議して決定することとする。
- (3) 修繕に使用する部品等は、仕様変更による性能低下とならないよう実施することとする。
- (4) 受注者は、修繕の実施にあたって、発注者の承諾を得ることとする。
- (5) 受注者は、設備修繕の結果について報告書に記録を行わなければならない。
- (6) (5) の記録に対して、発注者から提出を求めた場合は速やかに提出することとする。
- (7) 当初において小修繕で実施中に想定外の異常が発見され、大幅に費用が増加すると判断された際には、発注者と協議するものとする。
- (8) 年度内において、修繕件数が想定を大幅に超え、小修繕費用が不足すると予想される場合は、発注者と協議するものとする。
- (9) かし担保期間は、修繕の完了した日から1年間とする。

第3節 マンホールポンプ施設修繕

1 業務概要

住居などから流入する汚水を次の施設に送水する機能に異常等が発生した場合には、速やかに対象施設の機能回復が行い、対象施設の機能を正常に発揮、維持できるよう適切に修繕を行うものとする。

2 対象施設

当該処理区域のマンホールポンプ施設とする。

3 各年度の上限額

マンホールポンプ施設修繕における各年度の累計上限額は、177万円（消費税及び地方消費税含む）とする。

ただし、履行状況により限度額を超える恐れがある場合は、下記の特記事項によるものとする。

4 提出書類

(1) 実施前

・修繕実施打合せ簿 ・修繕見積書（押印不要）等

(2) 実施後（月度報告時）

第3編 特環地区下水道施設運転管理等業務
第6章 小修繕等業務

・修繕施工写真 ・修繕費用集計表（年度累計様式） ・報告書等

5 特記事項

- (1) 受注者は、対象施設の施設故障状況一覧表に優先順位を受注者と協議の上、決定し修繕を実施することとする。点検等により、施設状況に変動が見られた場合には、適宜施設故障状況一覧表について変更を行い発注者と協議を行うこととする。
- (2) 受注者が負担を行う修繕は、1件あたりの費用が30万円未満（消費税及び地方消費税を含む）のものとする。ただし、修繕機器等の性能上、1件あたりの費用が30万円以上（消費税及び地方消費税含む）となる場合は、発注者と協議して決定することとする。
- (3) 修繕に使用する部品等は、仕様変更による性能低下とならないよう実施すること。
- (4) 受注者は、修繕の実施にあたって発注者の承諾を得ること。
- (5) 受注者は、設備修繕の結果について報告書に記録を行わなければならない。また、その記録に対して、発注者から提出を求めた場合は速やかに提出すること。
- (6) 当初において小修繕で実施中に想定外の異常が発見され、大幅に費用がかさむと判断された際には、発注者と協議するものとする。
- (7) 年度内において、修繕件数が想定を大幅に超え、小修繕費用が不足する場合は発注者と協議するものとする。
- (8) かし担保期間は、修繕の完了した日から1年間とする。

第4節 公共汚水ます修繕

1 業務概要

下水道管路に接続している公共汚水ますに、破損や不具合が発生している場合は、下水道管路の接続機能が正常に維持できるよう適切に修繕を行う。また、修繕の施工に際しては、発注者の承諾を得てから実施すること。

2 対象箇所

当該処理区域の公共汚水ますとする。

3 各年度の予定件数及び限度額

公共汚水ます修繕の費用における各年度の累計上限額は、20万円（消費税及び地方消費税を含む）とする。修繕想定件数は、1件である。

ただし、履行状況により限度額を超える恐れがある場合は、下記の特記事項によるものとする。

4 提出書類

(1) 実施前

・修繕実施打合せ簿 ・修繕見積書（押印不要）等

(2) 実施後（月度報告時）

・修繕施工写真 ・修繕費用集計表（年度累計様式） ・報告書等

5 特記事項

第3編 特環地区下水道施設運転管理等業務
第6章 小修繕等業務

(1) 車両及び歩行者の通行の妨げにならないよう、また作業が十分に行えるようバリケード等により作業場所を確保し、安全管理を行い事故防止に努めること。また、必要箇所に交通誘導警備員を配置すること。

・交通誘導警備員：N=2人/件（想定）

(2) 使用する部材は、福知山市下水道用標準構造図の仕様を満足したもの、または、下水道協会及び下水道推進機構の認定品を基本とする。

(3) 作業の前日までに、自治会や作業場所周辺住民の理解を得ること。

(4) 当初の修繕予定件数と実績の差が大きい場合、その他修繕内容で疑義が生じた場合には、発注者と受注者で協議するものとする。

(5) 修繕内容の確認が困難な場合には、掘削を求めることがある。

第5節 止水修繕

1 業務概要

(1) 下水道管路及びマンホール本体における漏水や浸入水を伴う不良箇所の修繕を行う。工法においては、状況に応じた適切な方法を選択し止水を行う。

(2) この修繕により、下水道管路の機能を正常に維持できるよう適切に修繕を行うこととする。

また、修繕の施工に際しては、発注者の承諾を得てから実施することとする。

2 対象箇所

当該処理区域の管路施設とする。

3 各年度の予定件数等

止水修繕の費用における各年度の累計上限額は、20万円（消費税及び地方消費税含む）とする。修繕想定件数は、2件である。

ただし、施工条件等によりこの費用を超える恐れがある場合は、下記の特記事項によるものとする。

4 提出書類

(1) 実施前

・修繕実施打合せ簿 ・修繕見積書（押印不要）等

(2) 実施後（月度報告時）

・修繕施工写真 ・修繕費用集計表（年度累計様式） ・報告書等

5 特記事項

(1) 車両及び歩行者の通行の妨げにならないよう、また作業が十分に行えるようバリケード等により作業場所を確保し、安全管理を行い事故防止に努めること。また、必要箇所に交通誘導警備員を配置すること。

・交通誘導警備員：N=2人/5件（想定）

※1日あたり5件を想定し1件あたりに換算。

- (2) 使用する部材は、福知山市下水道用標準構造図の仕様を満足したもの、または、下水道協会及び下水道推進機構の認定品を基本とする。
- (3) 作業の前日までに、自治会や作業場所周辺住民の理解を得ること。
- (4) 当初の修繕予定件数と実績の差が大きい場合、その他修繕内容で疑義が生じた場合には、発注者と受注者で協議するものとする。
- (5) 修繕内容の確認が困難な場合には、掘削を求めることがある。

第6節 取付管修繕

1 業務概要

下水道管路に接続している取付管に、破損や不具合が発生している場合は、下水道管路への接続機能が正常に維持できるよう適切に修繕を行うこととする。

また、修繕の施工に際しては、発注者の承諾を得てから実施することとする。

2 対象箇所

当該処理区域の取付管とする。

3 各年度の予定件数及び限度額

取付管修繕の費用における各年度の累計上限額は、35万円（消費税及び地方消費税を含む）とする。修繕予定件数は1件である。

ただし、履行状況により限度額を超える恐れがある場合は、下記の特記事項によるものとする。

4 提出書類

(1) 実施前

・修繕実施打合せ簿 ・修繕見積書（押印不要）等

(2) 実施後（月度報告時）

・修繕施工写真 ・修繕費用集計表（年度累計様式） ・報告書等

5 特記事項

- (1) 車両及び歩行者の通行の妨げにならないよう、また作業が十分に行えるようバリケード等により作業場所を確保し、安全管理を行い事故防止に努めること。また、必要箇所に交通誘導警備員を配置すること。

・交通誘導警備員：N=2人/件（想定）

- (2) 使用する部材は、福知山市下水道用標準構造図の仕様を満足したもの、または、下水道協会及び下水道推進機構の認定品を基本とする。
- (3) 作業の前日までに、自治会や作業場所周辺住民の理解を得ること。
- (4) 当初の修繕予定件数と実績の差が大きい場合、その他修繕内容で疑義が生じた場合には、発注者と受注者で協議するものとする。
- (5) 修繕内容の確認が困難な場合には、掘削を求めることがある。

第7節 本管簡易修繕

1 業務概要

下水道本管に、破損や不具合が発生している場合は、本管路の機能が正常に維持できるよう適切に修繕を行う。

また、修繕の施工に際しては、発注者の承諾を得てから実施すること。

2 対象箇所

当該処理区域の下水道本管とする。

3 各年度の予定件数及び限度額

本管簡易修繕の費用における各年度の累計上限額は、36万円（消費税及び地方消費税を含む）とする。簡易修繕予定件数は1件である。

ただし、履行状況により限度額を超える恐れがある場合は、下記の特記事項によるものとする。

4 提出書類

（1）実施前

・修繕実施打合せ簿 ・修繕見積書（押印不要）等

（2）実施後（月度報告時）

・修繕施工写真 ・修繕費用集計表（年度累計様式） ・報告書等

5 特記事項

（1）車両及び歩行者の通行の妨げにならないよう、また作業が十分に行えるようバリケード等により作業場所を確保し、安全管理を行い事故防止に努めること。また、必要箇所に交通誘導警備員を廃止すること。

・交通誘導警備員：N=2人/件（想定）

（2）使用する部材は、福知山市下水道用標準構造図の仕様を満足したもの、または、下水道協会及び下水道推進機構の認定品を基本とする。

（3）作業の前日までに、自治会や作業場所周辺住民の理解を得ること。

（4）当初の修繕予定件数と実績の差が大きい場合、その他修繕内容で疑義が生じた場合には、発注者と受注者で協議するものとする。

（5）修繕内容の確認が困難な場合には、掘削を求めることがある。

第8節 物品調達

1 業務概要

本業務は、対象となる施設において、放流水質の基準値内の放流水を維持ができ、機器類の安定した稼働を継続できるよう、適正な物品類の調達を行うものである。

また、処理施設維持管理業務の履行に際して、適正な在庫管理を行うこととする。

2 調達する物品区分

調達する物品について、区分概要を次に記載し、各調達物品の内容を下記の表に示す。

（1）薬品類及び機械・電気部品類

薬品類は、污水处理施設からの放流水質の確保や保全、発生する汚泥の安定処理に必要なとなる薬品類とする。

機械・電気部品類は、異常または故障が発生した場合に、所有しているその部品類を使用して復旧できる部品類とする。

(2) 維持管理消耗品

維持管理消耗品は、作業に必要なとなる燃料費、機器類の保守管理に係る油脂類、現場整備に係る清掃用具や現場作業者の衛生用品等のような作業現場業務を履行するために必要とする消耗品とする。

(3) その他消耗品

その他消耗品は、業務履行報告に関する事務用品費用等の一般的な消耗品とする。

表 調達物品の区分と例

薬品類	<ul style="list-style-type: none"> ・放流水塩素消毒用薬品 ・処理水等 pH調整用薬品
機械・電気部品類	<ul style="list-style-type: none"> ・簡易な補修に関する機械及び電気部品
維持管理消耗品	<ul style="list-style-type: none"> ・燃料費（作業用（草刈り機含む）、車両用） ・潤滑油類費（交換及び補充用のオイル・グリース等） ・塗装費（軽微な部分補修用塗料） ・整備費用（掃除道具、ウエス、洗浄油類） ・補修用材料（ボルト、ナット、パッキン、ヒューズ、ランプ等一般汎用品の範囲内とする。） ・水質測定用薬剤 ・衛生用品（石鹸、消毒液、救急用薬品） ・上記に該当しないものであっても本業務を遂行するために、一般的に当然必要であると認められる消耗品
その他消耗品	<ul style="list-style-type: none"> ・報告記録用紙費（日報、月報、年報、FAX用紙等） ・その他日用品、事務用品等 ・上記に該当しないものであっても本業務を遂行するために、一般的に当然必要であると認められる物品

3 各年度の上限額

(1) 薬品類

薬品類の各年度の購入累計上限額は、256万円（消費税及び地方消費税含む）とする。

想定した使用量に対して増減が激しい場合は、発注者と調達費用に関する協議を行い、決定するものとする。

(2) 機械・電気部品類

機械・電気部品類の各年度の購入累計上限額は、222万円（消費税及び地方消費税含む）とする。

調達する部品類の単価は、5万円未満（消費税及び地方消費税含む）とするが、部品の性能上、単価が5万円以上（消費税及び地方消費税を含む）の部品類は、発注者と協議の上、調達方法を決定する。

4 調達物品の管理

(1) 受注者は、処理場等の管理運転に要する薬剤等及び潤滑油脂類、消耗品等の調達及び管理を行わなければならない。

(2) 物品管理者及び薬品類の管理者を選任し、保管、取扱等には十分注意して適正な管理を行うこととする。

(3) 物品の調達管理は、適正な品質及び規格の物品等を調達し、施設等の運転、耐用年数等に影

第3編 特環地区下水道施設運転管理等業務
第6章 小修繕等業務

響を与えないようにすることとする。

(4) 常に在庫数量等を把握して適宜適切に調達し、在庫不足、品質低下等による施設運転等への支障を与えないようにすることとする。

(5) 薬品類については、品質証明書等の書類を保管し、発注者から提出を求められた場合は、写し等を提出することとする。

(6) 調達する薬品類の化学物質等安全データシート(MSDS)は、常に最新のものを常備し、保管することとする。

5 記録及び報告

受注者は、納入品及び数量(使用量含む)の記録を行い、定期的にその記録の報告を行うこととする。

また、その記録に対して、発注者の求めがあった場合は速やかに提出することとする。

6 その他

物品調達の実施にあたっては、地元経済の発展のため、地元企業から優先して購入することをお願いする。

その他の記載なき事項については、発注者と受注者の協議の上、決定するものとする。

日	流入量 m ³	pH		透視度		水温		残留塩素 mg/l	減菌剤 (k g)			汚泥引放量 m ³	水道		動力電気		電灯電気		備考
		流入	放流	流入	放流	流入	放流		入荷量	使用量	在庫量		表示値	使用量	表示値	使用量	表示値	使用量	
1																			
2																			
3																			
4																			
5																			
6																			
7																			
8																			
9																			
10																			
11																			
12																			
13																			
14																			
15																			
16																			
17																			
18																			
19																			
20																			
21																			
22																			
23																			
24																			
25																			
26																			
27																			
28																			
29																			
30																			
31																			
平均																			
最大																			
最小																			
計																			
累計																			

特記事項

三和浄化センター（寺尾中P含む）
令和 年度 機器運転時間等 年間集計

機器運転時間 [h]		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
1系	No1汚水ポンプ (返流水)													
1系	No2汚水ポンプ (返流水)													
1系	No1スクリーン													
1系	No1-1エアレーション													
1系	No1-2エアレーション													
1系	No1-3エアレーション													
1系	No1-4エアレーション													
1系	No1-5エアレーション													
1系	No1沈殿池掻き機													
1系	No1-1汚泥ポンプ (返送)													
1系	No1-2汚泥ポンプ (返送)													
1系	No1濃縮汚泥ポンプ													
1系	No1濃縮槽掻き機													
1系	No1貯留槽攪拌機													
2系	No2スクリーン													

※ 毎月1日、出来るだけ同じ時間に読んで下さい。
※ メーターの積算値は、小数点第1位まで読んで下さい。
[上段： カウンター積算値]
[下段： 当月機器運転時間等]

三和浄化センター（寺尾中P含む）
令和 年度 機器運転時間等 年間集計

機器運転時間 [h]		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
1系	機器名													
No.2-1エアレーション	2系													
No.2-2エアレーション	2系													
No.2-3エアレーション	2系													
No.2-4エアレーション	2系													
No.2-5エアレーション	2系													
No.2沈殿池攪拌機	2系													
No.2-1汚泥ポンプ（返送）	2系													
No.2-2汚泥ポンプ（返送）	2系													
No.2濃縮汚泥ポンプ	2系													
No.2濃縮槽攪拌機	2系													
No.2貯留槽攪拌機	2系													
消泡水ポンプ														
No.1汚泥移送ポンプ														
No.2汚泥移送ポンプ														
濾心脱水機														

※ 毎月1日、出来るだけ同じ時間に読んで下さい。
※ メーターの積算値は、小数点第1位まで読んで下さい。

[上段：カウンター積算値]
[下段：当月機器運転時間等]

三和浄化センター（寺尾中P含む）

[illegible]

[上段：カウンター積算値]

[下段：当月機器運轉時間等]

※ 毎月1日、出来るだけ同じ時間に読んで下さい。

※メーターの積算値は、小数点第1位まで読んで下さい。

大江中部浄化センター（波美中P含む） 令和 年度 機器運転時間等 年間集計

機器運転時間〔h〕													
機 器 名	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	計
水処理系													
スクリーン													
水処理系													
1系エアレーション1-A													
水処理系													
1系エアレーション1・B													
水処理系													
2系エアレーション2-A													
水処理系													
2系エアレーション2・B													
水処理系													
1系沈殿池掻き機													
水処理系													
2系沈殿池掻き機													
水処理系													
逆流ポンプNo1号機													
水処理系													
逆流ポンプNo2号機													
水処理系													
自家発電機													
波美汚水中継ポンプ場 ポンプNo1号機													
波美汚水中継ポンプ場 ポンプNo2号機													
波美汚水中継ポンプ場 ポンプNo3号機													
波美汚水中継ポンプ場 ポンプNo3号機													

※ 毎月1日、出来るだけ同じ時間に読んで下さい。
※ メーターの積算値は、小数点第1位まで読んで下さい。

〔上段：カウンター積算値〕
〔下段：当月機器運転時間等〕

大江中部浄化センター（波美中P含む） 令和 年度 機器運転時間等 年間集計

機器運転時間 [h]	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	計
汚泥処理系													
返送汚泥ポンプ1-A													
汚泥処理系													
返送汚泥ポンプ1-B													
汚泥処理系													
返送汚泥ポンプ2-A													
汚泥処理系													
返送汚泥ポンプ2-B													
汚泥処理系													
1系余剰汚泥ポンプ													
汚泥処理系													
2系余剰汚泥ポンプ													
汚泥処理系													
No.1濃縮汚泥ポンプ													
汚泥処理系													
No.2濃縮汚泥ポンプ													
汚泥処理系													
汚泥濃縮掻き機													
汚泥処理系													
汚泥貯留槽攪拌機													
汚泥処理系													
遠心脱水機													
汚泥処理系													
汚泥供給ホップ No.1号機													
汚泥処理系													
汚泥供給ホップ No.2号機													
汚泥処理系													
凝集剤注入ポンプNo.1号機													
汚泥処理系													
凝集剤注入ポンプNo.2号機													

※ 毎月1日、出来るだけ同じ時間に読んで下さい。
※ メーターの積算値は、小数点第1位まで読んで下さい。

[上段： カウンター積算値]
[下段： 当月機器運転時間等]

水 質 分 析 検 査 報 告 書

月分

測定項目	単位	三和浄化センター		大江中部浄化センター	
		流入水	放流水	流入水	放流水
気温	℃				
水温	℃				
pH	-				
浮遊物質 (SS)	m g / ℓ				
COD	m g / ℓ				
BOD	m g / ℓ				
ATU-BOD	m g / ℓ				
全磷 (T-P)	m g / ℓ				
全窒素 (T-N)	m g / ℓ				
大腸菌	個/ℓ				
蒸発残留物	m g / ℓ				
透明度	c m				

月分

採水箇所	単位	三和浄化センター					
		活性汚泥1系	活性汚泥2系	余剰汚泥1系	余剰汚泥2系	濃縮汚泥1系	濃縮汚泥2系
MLSS (活性汚泥濃度)	mg/l			-	-	-	-
MLVSS (活性汚泥有機分)	%			-	-	-	-
汚泥含水率	%	-	-				
汚泥有機分	%	-	-				

採水箇所	単位	大江中部浄化センター			
		活性汚泥1系	活性汚泥2系	余剰汚泥1系	濃縮汚泥
MLSS (活性汚泥濃度)	mg/l			-	-
MLVSS (活性汚泥有機分)	%			-	-
汚泥含水率	%	-	-		
汚泥有機分	%	-	-		

施設名	計器名	メーカー	検出器	変換器	製造番号	備考	年
三和浄化センター	1系放流流量計	アズビル/山武	NNK140-0100L80A-A2	KIX20B-A1202TV-2XX	-		1997
三和浄化センター	2系放流流量計	アズビル/山武	NNK140-0100L80A-B2	MG10C-MH2K-1B1X-J	-		1997
大江中部浄化センター	流入流量計	アズビル/山武	MG11F-200PG1LS3AAA1-AK	MG10C-AA2J-1B1X-J	-		1997
大江中部浄化センター	放流流量計	アズビル/山武	NNK140-0200L80A-Y2	KIX20B-A1202TV-1XX	-		1997

施設名	計器名	メーカー	検出器	中継箱	変換器	製造番号	備考	年	月	8年度	9年度	10年度
大江波美2号汚水中継ポンプ場	槽内水位計	JFEアドバンテック	SL-130C	JB-433M	TL C-123AF	101839	0～3 m	1999	1	○	○	◎
大江金屋2号汚水中継ポンプ場	槽内水位計	JFEアドバンテック	ML-122		MC-123	0143190	0～3 m	2014	3	◎	○	○
三和浄化センター汚泥貯留槽	汚泥貯留槽液位計	JFEアドバンテック	SL-130C	JB-433M	PSB-130A	9090411	0～4.5 m	1997	9	◎	○	○
寺尾汚水中継ポンプ場	ポンプ井水位計	JFEアドバンテック	SL-130C	JB-433M	PSB-130A	9121169	0～4 m	1997	12	◎	○	○

◎	ベロフラム等交換
○	点検のみ

三和浄化センター（管理棟）

大枠	分類				数量	機器点検(回)	機器点検及び 総合点検(回)
消火器具	粉末	蓄圧			3	2	0
誘導灯及び誘導標識	誘導標識	避難口			4	2	0
	誘導標識	通路			1	2	0
配線	総合点検				1	0	1

三和浄化センター（汚泥処理棟）

大枠	分類				数量	機器点検(回)	機器点検及び 総合点検(回)
消火器具	粉末	加圧			2	2	0
	強化液	蓄圧			1	2	0
誘導灯及び誘導標識	誘導標識	避難口			2	2	0

大江中部浄化センター（管理棟）

大枠	分類				数量	機器点検(回)	機器点検及び 総合点検(回)
消火器具	粉末	蓄圧			3	2	0
	粉末	加圧			1	2	0
	強化液	蓄圧			1	2	0
誘導灯及び誘導標識	誘導標識	避難口			3	2	0
	誘導標識	通路			3	2	0

大江中部浄化センター（汚泥処理棟）

大枠	分類				数量	機器点検(回)	機器点検及び 総合点検(回)
消火器具	粉末	加圧			2	2	0
	強化液	蓄圧			2	2	0
誘導灯及び誘導標識	誘導灯	避難口	C級		3	2	0
	誘導灯	通路	C級		1	2	0
配線	総合点検				1	0	1

大江中部浄化センター（汚泥ポンプ棟）

大枠	分類				数量	機器点検(回)	機器点検及び 総合点検(回)
消火器具	粉末	加圧			1	2	0
	強化液	蓄圧			1	2	0
誘導灯及び誘導標識	誘導灯	避難口	C級		1	2	0
	誘導標識	避難口			1	2	0
配線	総合点検				1	0	1

大江中部浄化センター（消毒棟）

大枠	分類				数量	機器点検(回)	機器点検及び 総合点検(回)
消火器具	粉末	加圧			1	2	0
誘導灯及び誘導標識	誘導灯	避難口	C級		2	2	0
配線	総合点検				1	0	1

寺尾 汚水中継ポンプ場

大枠	分類				数量	機器点検(回)	機器点検及び 総合点検(回)
消火器具	粉末	蓄圧			2	2	0
誘導灯及び誘導標識	誘導灯	避難口	C級		2	2	0
配線	総合点検				1	0	1

特定環境保全公共下水道事業 三和处理区

1	三和町 千束 1 号	51		101	
2	三和町 千束 2 号	52		102	
3	三和町 千束 3 号	53		103	
4	三和町 千束 4 号	54		104	
5	三和町 千束 5 号	55		105	
6	三和町 千束 6 号	56		106	
7	三和町 千束 7 号	57		107	
8	三和町 寺尾 1 号	58		108	
9	三和町 寺尾 2 号	59		109	
10	三和町 寺尾 3 号	60		110	
11	三和町 寺尾 4 号	61		111	
12	三和町 寺尾 5 号	62		112	
13	三和町 芦渕 1 号	63		113	
14	三和町 芦渕 2 号	64		114	
15	三和町 芦渕 3 号	65		115	
16	三和町 芦渕 4 号 ◎	66		116	
17	三和町 芦渕 5 号	67		117	
18	三和町 芦渕 6 号	68		118	
19	三和町 芦渕 7 号	69		119	
20	三和町 芦渕 8 号	70		120	
21	三和町 芦渕 9 号	71		121	
22	三和町 芦渕 1 0 号	72		122	
23	三和町 芦渕 1 1 号	73		123	
24	三和町 芦渕 1 2 号	74		124	
25	三和町 芦渕 1 3 号	75		125	
26		76		126	
27		77		127	
28		78		128	
29		79		129	
30		80		130	
31		81		131	
32		82		132	
33		83		133	
34		84		134	
35		85		135	
36		86		136	
37		87		137	
38		88		138	
39		89		139	
40		90		140	
41		91		141	
42		92		142	
43		93		143	
44		94		144	
45		95		145	
46		96		146	
47		97		147	
48		98		148	
49		99		149	
50		100		150	

※ 特定環境保全公共下水道 三和浄化センター系統

※ 施設名の◎印はポンプ出力7.5kW以上を示す。

特定環境保全公共下水道事業 大江中部処理区

1	大江町 波美 1号	51	101
2	大江町 波美 3号	52	102
3	大江町 金屋 1号	53	103
4	大江町 金屋 3号	54	104
5	大江町 金屋 4号	55	105
6	大江町 関 1号	56	106
7	大江町 関 2号	57	107
8	大江町 河守 1号	58	108
9	大江町 河守 2号	59	109
10	大江町 河守 3号	60	110
11	大江町 河守 4号	61	111
12	大江町 河守 5号	62	112
13	大江町 河守 6号	63	113
14	大江町 蓼原 1号	64	114
15	大江町 蓼原 2号	65	115
16	大江町 蓼原 3号	66	116
17	大江町 公庄 1号	67	117
18	大江町 公庄 2号	68	118
19	大江町 公庄 3号	69	119
20	大江町 公庄 4号	70	120
21	大江町 公庄 5号	71	121
22	大江町 公庄 6号	72	122
23	大江町 公庄 7号	73	123
24	大江町 公庄 8号	74	124
25	大江町 天田内 1号	75	125
26	大江町 天田内 2号	76	126
27	大江町 二俣 1号	77	127
28	大江町 二俣 2号	78	128
29	大江町 二俣 3号	79	129
30	大江町 二股 4号	80	130
31	大江町 二俣 5号	81	131
32	大江町 二俣 6号	82	132
33	大江町 二俣 7号	83	133
34	大江町 二俣 8号	84	134
35	大江町 内宮 1号	85	135
36	大江町 内宮 2号	86	136
37	大江町 内宮 3号	87	137
38	大江町 内宮 4号	88	138
39		89	139
40		90	140
41		91	141
42		92	142
43		93	143
44		94	144
45		95	145
46		96	146
47		97	147
48		98	148
49		99	149
50		100	150

※ 特定環境保全公共下水道 大江中部浄化センター系統

マンホールポンプ設備巡回点検記録表

設備点検 ・ 特殊点検

施 設 名	号 マンホールポンプ設備		
点 検 日	令和 年 月 日 () 天候		
号 数	1号	2号	3号
仕 様	Kw / / φ / 台		
ポ ン プ 型 式			
ポ ン プ 製 造 番 号			
吐 出 し 量 (定 格)	m3/min	m3/min	
ポ ン プ 点 検			
外 観	良 ・ 不良	良 ・ 不良	良 ・ 不良
異 常 音	有 ・ 無	有 ・ 無	有 ・ 無
振 動	有 ・ 無	有 ・ 無	有 ・ 無
電流値 定格 A	A (指示 A)	A (指示 A)	A (指示 A)
運 転 時 間 (h r)			
上段：指示値 下段：前回差引			
減 水 確 認	良 ・ 不良	良 ・ 不良	良 ・ 不良
停止水位による自動停止確認	良 ・ 不良		
フロートスイッチ動作・外観	良 ・ 不良		
絶 縁 抵 抗 測 定	MΩ	MΩ	MΩ
着 脱 装 置	良 ・ 不良	良 ・ 不良	良 ・ 不良
逆 止 弁	良 ・ 不良	良 ・ 不良	良 ・ 不良
吊 り 下 げ チ ェ ー ン	良 ・ 不良	良 ・ 不良	良 ・ 不良
操 作 盤 点 検			
外 観	良 ・ 不良 ・ 不良箇所 ()		
回 転 灯 ・ 表 示 灯 等 確 認	良 ・ 不良	・ 回転灯設置無	・ 計器指示値
回 転 灯 損 傷 内 部 水 滴 付 着	良 ・ 不良	・ 設置無	
通報装置作動テスト	良 ・ 不良	・ 設置無	
漏 電 遮 断 機 作 動 テ ス ト	良 ・ 不良	良 ・ 不良	良 ・ 不良
3 E ト リ ッ プ 作 動 テ ス ト	良 ・ 不良	良 ・ 不良	良 ・ 不良
断線・ゆるみ・ヒューズ切れの有無	有 ・ 無	・ 取替部品 ()	
水 位 計 指 示 値 の 誤 差	有 (誤差)	無	・ 設置無
操 作 盤 内 清 掃 ほ か	／ 予備品 良 ・ 不足 (補充)		
マンホール槽への配線状況	良 ・ 不良		
そ の 他			
液位検出器の状況及び作動確認	良 ・ 不良	・ 不良箇所 ()	
ス カ ム 堆 積	有 / 多 (清掃要) ・ 少 (観察)] ・ 無		
配 管 漏 水	有 ・ 無	有 ・ 無	有 ・ 無
ジョイント部接合状況	良 ・ 不良	良 ・ 不良	良 ・ 不良
マ ン ホ ー ル 蓋	良 ・ 不良	不良箇所 ()	
操 作 盤 自 動 ・ 施 錠 確 認	(氏名)		
備 考			
	別紙報告書等 (写真ほか) 有 ・ 無		
受 注 者 ・ 氏 名	Ⓜ	Ⓜ	Ⓜ

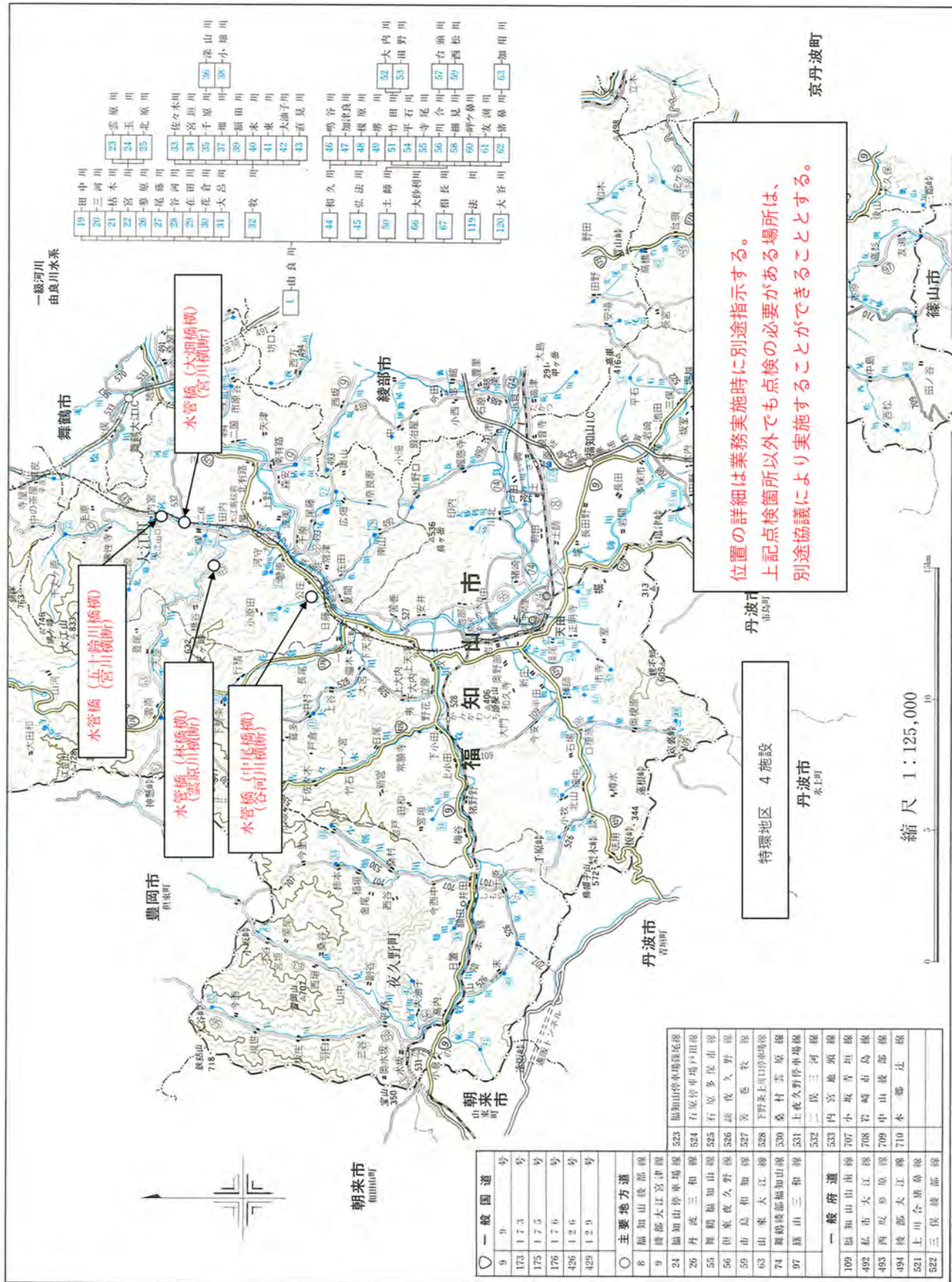
※ 右上の「設備点検・特殊点検」は、該当する方に○をつけてください。

処理区名：特環地区

番号	実施日	実施項目	実施場所	実施内容	単位	実施数量	備考
1							
2							
3							
4							
5							
6							
7							
8							
9							
10							
11							
12							
13							
14							
15							
16							
17							
18							
19							
20							
21							
22							
23							
24							
25							

実施回数・金額集計

項目	予定回数	実施数量	単位	差	備考
圧送管清掃	1		回		1 回100m 高圧洗浄
管路緊急対応（高圧洗浄：昼間）	1		回		
管路緊急対応（高圧洗浄：夜間）	0		回		
管路緊急対応（汚泥吸引：昼間）	1		回		
管路緊急対応（汚泥吸引：夜間）	0		回		
管路緊急対応（簡易作業：昼間）	1		回		
管路緊急対応（簡易作業：夜間）	1		回		
不明水調査	3		回		1 回 4 時間
本管テレビカメラ	1		回		
取付管テレビカメラ	1		回		
水管橋点検	2		箇所		
仕切弁調査	2		箇所		
その他	0		回		



処理区名：特環地区

番号	実施日	実施項目	実施場所	実施内容	実施費用（税込）	備考
1						
2						
3						
4						
5						
6						
7						
8						
9						
10						
11						
12						
13						
14						
15						
16						
17						
18						
19						
20						
21						
22						
23						
24						
25						
26						
27						
28						
29						
30						

実施回数・金額集計

項目	予定回数	予定金額（税込）	実施回数	実施金額（税込）	回数差	金額差（税込）
污水处理施設修繕		3,150,000				3,150,000
マンホールポンプ施設修繕		1,770,000				1,770,000
公共污水ます修繕	1	200,000			1	200,000
止水修繕	2	200,000			2	200,000
取付管修繕	1	350,000			1	350,000
本管簡易修繕	1	360,000			1	360,000
物品調達（薬品）		2,560,000				2,560,000
物品調達（機械電気部品）		2,220,000				2,220,000
その他		0				0
合計		10,810,000				10,810,000

第4編 農集福知山東部地区下水道施設運転管理等業務
第1章 污水处理施設管理等業務

第4編 農集福知山東部地区下水道施設運転管理等業務

第1章 污水处理施設管理等業務

第1節 污水处理施設運転・保守管理業務

1 管理施設

(1) 施設名称

- ①佐賀污水处理場
- ②宮大内污水处理場
- ③田野污水处理場

(2) 施設規模等

別紙 1-2「処理施設規模」及び別紙 1-3「処理施設位置図」参照

2 日常点検

(1) 日数 毎日（土曜日、日曜日、祝日、年末年始、保守点検日及び受注者の定める休日を除く。但し、特別な事情がある場合は発注者と協議すること。）

(2) 内容 別紙 4-1「日常目視点検表」及び別紙 4-2「日常管理記録表」に基づき実施し、故障、異常があった場合には、適切な応急措置を行うと共に、発注者に連絡することとする。

3 保守点検

(1) 日数 毎週1回（但し、特別な事情がある場合は発注者と協議すること。）

(2) 内容 別紙 4-3「施設点検表」に基づき、施設の機器と水質について技術的な判断と管理を行うこととする。また、定期的に機器の保守を実施することとする。各月最終週における保守点検において、機器運転時間を別紙 4-4「機器運転時間集計表」により記録することとする。

4 放流水質の確保

日常点検時には、放流水質が基準値以内であり、安定した水質管理に努めることとする。

5 薬品類の管理

(1) 污水处理に必要となる薬品類は、常に使用状況と在庫数を別紙 4-2「日常管理記録表」に記録するとともに管理し、不足が無いように物品調達を行うこととする。

(2) 当該污水处理施設で使用する薬品は、次のとおりである。

① 塩素滅菌剤（放流処理水用）

ア 外 観 円形扁平型錠剤(約 30mmφ×約 13mmφ)

イ 有効成分 トリクロロイソシアヌル酸：99%

ウ 納 入 量 510kg（年間見込み量）

(3) 污水处理に使用する薬品類が污水处理の放流水質と合わない場合には、速やかに発

第4編 農集福知山東部地区下水道施設運転管理等業務
第1章 污水处理施設管理等業務

注者に報告し、協議の上、新たな薬品類を使用することとする。

6 発生汚泥の管理

- (1) 污水处理で発生する汚泥は、定期的又は臨機に必要と認められた場合は、汚泥槽の清掃として実施する。
- (2) 汚泥槽の清掃は、バキューム車で引抜き、福知山終末処理場へ搬入する。(汚泥等の運搬費用についても本業務に含むものとする。年間当りの汚泥発生量は宮大内污水处理場 236m³、田野污水处理場 60m³、佐賀污水处理場 454m³を見込んでいる。) 引抜き汚泥量については別紙 4-2「日常管理記録表」により記録することとする。

7 簡易な故障修理

通常の勤務者が時間内でできる作業とし、外部より作業者を求めなくてもよい作業であり、特殊な機器・部品、または高度な専門技術を必要としない修理である。日常点検時には、放流水質が基準値以内であり、安定した水質管理に努めることとする。

8 緊急時の措置

故障等の連絡があった場合は、直ちに現場を確認し、適切な応急措置を行うと共に、発注者へ連絡することとする。

9 施設管理報告

本業務では、次に示す報告書類を提出すること。

- (1) 月度報告事項
第1編 第1章 第13節 業務履行報告 3 月度報告 に記載の内容に準ずる。
- (2) 年度報告事項
第1編 第1章 第13節 業務履行報告 4 年度報告 に記載の内容に準ずる。
- (3) 適宜報告事項
第1編 第1章 第13節 業務履行報告 5 適宜報告 に記載の内容に準ずる。

10 疑義等

本仕様書に定めのない事項又は疑義が生じたときは、発注者、受注者の双方協議の上、定めるものとする。

第2節 水質検査業務

1 業務概要

福知山東部地区の農業集落排水処理施設からの放流水質や、処分される汚泥等の状況を定期的に測定し基準値内であることを確認するための試験を行うものである。

2 業務内容

- (1) 日常水質検査
- (2) 法定水質検査

3 共通事項

- (1) 検査要領

第4編 農集福知山東部地区下水道施設運転管理等業務
第1章 汚水処理施設管理等業務

ア 採水及び採泥等をするときは、採取記録をすること。

イ 採取した検体は、速やかに水質検査を行うこと。

ただし、速やかに検査が出来ない場合は、関係法令等の方法により措置を施すこと。

ウ 関係法令及び、水質測定方法手順書に基づき行うこと。

エ 測定機器毎の誤差をなくするため、同一測定機器を用いて行うこと。

オ 受注者の用意した測定機器を使用する場合は、測定機器のリストと測定機器の校正記録又は、それに相当するものを提出すること。

(2) 検査結果報告書等

ア 別紙 4-5「水質分析検査報告書」に施設ごとの採水、採泥記録を記載し、速やかに発注者に報告すること。

イ 各項目の検査結果が基準値の2分の1以上を超過した場合は、超過している項目を速やかに発注者に打合せ簿により報告すること。

ウ 測定値が基準値内でない、もしくは検査結果が基準値を超過している場合は、その結果を発注者に報告するとともに、その項目の再検査を実施すること。

エ 月度報告として、当該月の水質検査結果と次月の採取予定表を発注者に提出すること。

(3) 基準値超過

ア 本業務において、放流水質等の法定基準を達成できない場合は、次のとおり対応すること。

①未達成状況の確認及び報告

放流水質が法定基準を達成できていないことを把握した場合は、速やかに発注者に報告すること。

②改善計画書の提出

(ア) 改善計画書の提出を命じられてから 10 日以内に改善計画書を発注者に提出し、発注者の指導、監督に従って原因究明や改善対応をすること。

(イ) 原因究明、改善計画書の作成及び実施にかかる費用は、受注者が負担すること。

(ウ) 受注者は、自らの負担で行う計測において、改善対応の効果を確認し、改善の状況を発注者に報告すること。

(4) 月度報告書

月度報告書は、各施設の水質検査結果及び次月採取予定表を完了届と共に提出すること。

(5) 年度報告書

年度報告書では、水質検査結果及び週報告書のデータをそれぞれ、年ごとにまと

第4編 農集福知山東部地区下水道施設運転管理等業務
第1章 污水处理施設管理等業務

め、日平均値、最小値、最大値及び基準値を表記したものをエクセル形式データと共に提出すること。

(6)維持管理年報資料の作成

発注者の指示に従い維持管理年報資料の作成を行うこと。

4 日常水質検査

(1) 汚水の水質検査

汚水の水質検査は、毎月1回実施する。

採取検体と年間の検体数は、次の表のとおりとする。

検体項目		1施設の年間採取検体		対象施設	年間 検体数
		流入水	放流水	施設数：3施設	
1	気温	12	12	佐賀污水处理場 宮大内污水处理場 田野污水处理場	72
2	水温	12	12		72
3	pH	12	12		72
4	浮遊物質(SS)	12	12		72
5	COD	12	12		72
6	BOD	12	12		72
7	ATU-BOD	12	12		72
8	全燐(T-P)	12	12		72
9	全窒素(T-N)	12	12		72
10	大腸菌	12	12		72
11	蒸発残留物	12	12		72

(2) 汚泥の性状検査

汚泥の性状検査は、毎月1回実施する。

採取検体と年間の検体数は、次の表のとおりとする。

検体項目		1施設の年間採取検体	対象施設	年間 検体数
		濃縮汚泥	施設数：1 施設	
1	MLSS(活性汚泥濃度 mg/l)	12	宮大内污水处理場	12
2	MLVSS(活性汚泥有機分%)	12		12
3	汚泥含水率(%)	12		12

第4編 農集福知山東部地区下水道施設運転管理等業務
第1章 污水处理施設管理等業務

4	汚泥有機分(%)	12		12
---	----------	----	--	----

検体項目		1 施設の年間採取検体	対象施設	年間 検体数
		濃縮汚泥	施設数：1 施設	
1	汚泥含水率(%)	12	田野污水处理場	12
2	汚泥有機分(%)	12		12

検体項目		1 施設の年間採取検体		対象施設	年間 検体数
		活性汚泥・濃縮汚泥		施設数：1 施設	
1	汚泥含水率(%)	12	12	佐賀污水处理場	24
2	汚泥有機分(%)	12	12		24

5 法定水質検査

法定水質検査は、四半期ごとに1回実施する。

採取検体と年間の検体数は、次の表のとおりとする。

法定水質検査は、検査機関から提出される計量証明を添付すること。

対象箇所年間回数（四半期／回）

検体項目		1 施設の年間採取検体	対象施設	年間 検体数
		放流水	施設数：3 施設	
1	水温	4	佐賀污水处理場	12
2	気温	4	宮大内污水处理場	12
3	pH	4	田野污水处理場	12
4	浮遊物質(SS)	4		12
5	COD	4		12
6	BOD	4		12
7	ATU - BOD	4		12
8	全磷（T-P）	4		12
9	全窒素（T-N）	4		12
10	大腸菌	4		12
11	蒸発残留物	4		12

第4編 農集福知山東部地区下水道施設運転管理等業務
第1章 汚水処理施設管理等業務

12	鉱物油類	4		12
13	動植物油類	4		12
14	銅	4		12
15	亜鉛	4		12
16	溶解性鉄	4		12
17	溶解性マンガ	4		12
18	全クロム	4		12
19	カドミウム	4		12
20	鉛及びその化合物	4		12
21	六価クロム	4		12
22	砒素及びその化合物	4		12
23	全水銀	4		12
24	1,4 ジオキサン	4		12
25	ニッケル	4		12

第4編 農集福知山東部地区下水道施設運転管理等業務
第2章 処理施設附帯業務

第2章 処理施設附帯業務

第1節 共通事項

本章は、農集福知山東部地区に関連する下水道施設等における計装機器点検、建物附帯設備法令点検等及び場内環境整備ほか各業務について記載する。なお、各節における業務については、実施後の月度報告において随時提出するものとする。

第2節 自家発電機用エンジン点検業務

1 業務概要

自家発電機用エンジンの機能を良好な状態に保つため、専門業者による整備点検を受けることとする。

2 業務要領

- (1) 宮大内、田野、佐賀汚水処理場の自家発電機用エンジン点検整備を行う。
- (2) 履行期間内において対象の設備に重大なトラブルが発生した場合は、即時にその復旧に対応するものとする。
- (3) 点検整備を行うたびに速報として報告書を速やかに作成して提出するものとする。
- (4) 履行期間中に対象機器以外の機器故障などが発生した場合は、機器の早急な復旧を行うとともに、原因調査を迅速に行い報告すること。復旧に際して発生した費用は、その内容により協議して決定する。

3 点検整備内容

- (1) 本点検業務範囲には、対象機器の点検、調整及び、対象機器の一般的消耗品（メーカー推奨で交換する消耗品など）の交換も含むこととするため、準備及び不足分の補充も行うこと。
- (2) 点検整備計画

業務契約期間内に以下の整備点検を受けることとする。

場所	機関型式	台数	令和8年度	令和9年度	令和10年度
宮大内汚水処理場	YAP-30B FC3040B	1	-	-	D点検
田野汚水処理場	3TNE82T-RGH 02651	1	-	-	D点検
佐賀汚水処理場	NS2X-56RES 581930	1	-	D点検	-

4 整備点検報告

整備点検を完了した時は、専門業者から提出される報告書（写真含む）を提出すること。

第3節 計装機器保守点検業務

1 業務概要

農業福知山東部地区下水道施設の計装設備を維持するため、設備の保守・点検調整を行う。点検を行う施設は別紙4-6「計装設備点検対象機器一覧表」のとおりとする。

2 業務内容

(1) 流量計点検

ア 検出器外観目視点検

イ 変換器設定値確認

ウ 検出器絶縁抵抗測定

エ 模擬信号による指示値確認及びゼロ点・スパン調整

3 留意事項

(1) 本業務の履行に際して、点検対象となる機器について、事前に現場に確認を行い、対象機器の形式や設置場所などを理解したうえ業務を行うこと。

(2) 対象機器の点検に必要な消耗品類は、事前に準備しておくこと。

点検時に、部品などの劣化や損傷により機器等の障害または障害の発生するおそれがあるときは、速やかに報告するとともに障害原因の除去及び再発防止を講じること。なお、その除去及び再発防止に関し、別途費用が発生する場合は、その負担について発注者と協議を行い決定するものとする。

(3) 対象機器の一般的消耗品（メーカー推奨で通常1年間で交換する消耗品など）一式の補充も含むものとする。

第4節 消防設備点検業務

1 業務概要

消防法第17条の3の3の規定対象となる処理施設の消防用設備の機器点検、総合点検を行うものである。また、対象外となる処理施設については自主点検を行うものとする。

自主点検は、消火器の使用期限の確認及び誘導標識の損傷等を確認するものである。

2 業務内容

(1) 機器点検、総合点検を行う対象施設と点検回数は次のとおりとする。

①点検の時期 前期：機器点検+総合点検（8月～10月）

後期：機器点検（2月～3月）

②対象施設

佐賀污水处理場 機器点検2回／年

総合点検1回／年

(2) 自主点検を行う対象施設と点検回数は次のとおりとする。

宮大内污水处理場 自主点検1回／年

田野污水处理場 自主点検1回／年

3 対象消防設備

別紙4-7「消防設備点検対象機器一覧表」のとおり

4 業務要領

(1) 作業範囲及び実施回数等

- ア 対象設備の法定点検を実施すること。
- イ 対象設備に不時の異常・故障が発生した場合及び発注者の依頼があった場合は、受注者は技術者を派遣し対応すること。
- ウ 消防法の点検基準に基づいて実施すること。
- エ 対象設備の点検有資格者を派遣し、法定点検を実施するとともに「点検報告書」を作成すること。
- オ 「点検結果報告書」は3年ごとに所轄消防署へ提出するため、提出準備に協力すること。
- カ 受注者は、下記の書類を提出すること。
 - ア) 業務工程表 (毎回点検実施10日前)
 - イ) 点検報告書 (前期分2部、後期分2部、自主点検分1部)

5 不具合事項対応

消防設備不具合事項において以下に示す項目以外については小修繕対応とする。

- (1) 消火器等の交換または薬剤詰め替え
- (2) 屋内消火栓設備等のホース耐圧試験
- (3) 故障・異常時の出動対応に要する経費
- (4) 大規模と判断される消防設備の修理または取替
- (5) その他発注者との協議により決定した事項

第5節 場内環境整備業務

1 業務概要

各施設等の管理敷地内及び周辺の一般清掃、草刈・樹木剪定等の作業により、景観を保つことを目的とする。

2 対象施設

- (1) 佐賀污水处理場
- (2) 宮大内污水处理場
- (3) 田野污水处理場

3 業務内容

(1) 一般清掃、草刈・樹木剪定

各施設内及び周辺の環境整備作業により、景観を保つため適宜、草刈及び剪定等を行うこと。

なお、宮大内処理場においては、放流水が円滑に排出されるよう放流水路に係る部分も草刈りを行うこと。

(2)刈草及び剪定くず等の処分

①場内環境整備作業により発生した刈草及び剪定くず等の処分は、福知山市一般廃棄物処理基本計画の廃棄物の資源化拡大に基づいて、福知山バイオマスセンターに運搬して、再資源化として処分を行うこと。

②処分量は、対象施設で年間0.5t程度を見込んでいる。なお、受注者の創意工夫により、別途資源の有効活用を実施する場合は、発注者と協議を行い、承諾を得た再資源化を行うことができるものとする。

(3) 処分報告

廃棄物計量施設で発行される計量証明（領収書）の空欄に「運搬物名」「会社名」「署名」等を記入して月報でまとめて報告すること。

第3章 マンホールポンプ施設業務

第1節 共通事項

- 1 作業前には、「マンホールポンプ場台帳」、「福知山市下水道管路台帳管理システム」、「マンホールポンプ巡回点検記録表」等を活用して、業務を履行する。
- 2 公道上及び私有地内の作業となるため、作業前後には関係者への周知や連絡を行うこととする。
- 3 作業を行う際には、周辺の状況を確認して、歩行者や車両の通行に支障を及ぼさないように安全な作業とする。
- 4 作業後は、周辺も含めて片付け、清掃を行うこととする。
- 5 業務を実施した内容の集計については、一覧表に整理して月度報告に添付することとし、各年度の実施状況の把握を行うこととする。

第2節 マンホールポンプ設備点検業務

1 業務概要

マンホールポンプ設備を巡回方式で点検を行う。

2 対象箇所

別紙 4-8「マンホールポンプ設備点検業務対象箇所一覧表」のとおり箇所数は42箇所とする。

3 点検回数

設備点検は1箇所当たり年1回を基本とし、次の4項の作業を行うものとする。

ただし、故障表示が多発するなど特殊な事象がある箇所については、発注者との協議により、8項に示す特殊点検を実施できるものとする。

1年間で通常点検42回、特殊点検14回を見込んでいる。

4 点検作業（巡回点検記録表に基づく）※下記内容を基本とする。

(1)汚水ポンプ

- ア 外観の確認
- イ 運転状況（異音、振動、電流値、運転時間、減水）の確認
- ウ 自動起動、停止（水位）の確認
- エ 絶縁抵抗測定
- オ 着脱装置、逆止弁の機能確認
- カ 吊り下げチェーン（摩耗、損傷、腐食、変形）の確認

(2)現場操作盤

- ア 外観（汚損、損傷、腐食、変形）、過熱の確認
- イ 回転灯、表示灯、計器指示値の確認

※電流計は正常な送水時の値に赤色指針をあわせ、後から行った者が異常か正常

第4編 農集福知山東部地区下水道施設運転管理等業務
第3章 マンホールポンプ施設業務

か判断出来るようにしておくこと。

ウ 各機器の作動テスト

エ 断線、ゆるみ、端子の腐食（スパーク痕など）、ヒューズの確認

オ マンホール槽への配線状況の確認

※電線管内のケーブルの撤去・入線が容易にできることを確認する。

カ 内部侵入物（雨水、小動物、昆虫、草等）の痕跡等確認

(3)計器収納ボックス

ア 外観（汚損、損傷、腐食、変形）、過熱の確認

イ 断線、ゆるみ

ウ 内部侵入物（雨水、小動物、昆虫、草等）の痕跡等確認

(4)液位検出器

ア レベルスイッチの設置位置及び作動確認

イ 投げ込み式水位計の水位検知状況及び作動確認

(5)マンホールポンプ槽内

スカム堆積状況等の確認

(6)配管

ア 漏水、ジョイント部の確認

イ 支持金物、支持材の確認

(7)マンホール蓋

ア コネクタ部の設置状況等の確認

イ 大蓋のみ（小蓋なし）の場合はその旨記載すること

ウ ゆがみ、ガタツキ、摩耗、腐食の有無

エ 大蓋、子蓋共に固着等が無く開閉が行えることを確認すること

(8)操作盤自動・施錠確認

(9)その他

ア 臨時点検

イ 簡易な故障修理

電気設備（表示灯、ヒューズ、リレー、タイマー等の取替）

機械設備（ポンプ、配管の詰まり除去・ポンプの据付直し）

ウ 設備の清掃

(10)道路上の作業場所の確保及び安全処置

車両及び歩行者の通行の妨げにならないよう、また作業が充分に行えるようバリケード等により作業場所を確保し、安全管理を行い事故防止に努めること。また、必要箇所には交通誘導警備員を配置すること。

・交通誘導警備員人員：N=2人/7箇所（想定）

※ 1日あたり7箇所を想定し1箇所あたりに換算。

5 取替用電気部品等

(1) 表示灯及びタイマー等の消耗品は本業務に含むものとする。

なお、液位検出器、水中ポンプ、回転灯、漏電遮断器、電磁接触器、コンデンサの取替作業は小修繕として取り扱う。

6 高所取り付け型制御盤の作業

(1) 高所設置の制御盤作業を実施する際は、高所作業車を使用するなど各種法令や規則に則った安全な作業をすること。

7 報告

(1) 点検作業報告は、別紙 4-9「マンホールポンプ設備巡回点検記録表」に必要事項を記入して、作業月の報告をまとめて月度報告とする。

(2) 業務着手初年度の点検時には、点検箇所の全景、マンホール蓋据付状況、槽内状況等について撮影を行い、写真を添付することとする。

(3) 不具合箇所があった場合は、その箇所の写真を添付することとする。

8 特殊点検

(1) 特殊点検は、管理範囲内のマンホールポンプ場において、故障表示が多発することや、他のポンプ場に比べ運転時間が非常に長いポンプ場など特殊な事象があるポンプ場を対象に実施する点検とする。

(2) 特殊点検の作業内容の基本は記載しないが、特殊事象の解消を目的とした作業とする。実施する作業内容については、発注者と協議、調整を行うものとする。

(3) 特殊点検の報告は、7項と同様とする。ただし、点検内容に報告書様式が適さない場合や記入欄が不足する等の場合には、別途任意様式にて提出を行うこととする。

第3節 槽内清掃業務

1 業務概要

マンホールポンプ場の点検状況に応じて受注者の判断で清掃・浚渫を行う。

2 対象施設

清掃対象箇所は、別紙 4-8 の箇所内で受注者の判断で実施する。年間4箇所を見込んでいる。

3 提出書類

マンホールポンプ槽内清掃箇所報告書及び作業写真(着手前と完了後の対比写真、作業中、安全管理、使用機材等作業内容の判別できるもの)

なお、清掃時に得た可能な限りのマンホールポンプ場の記録も提出する。

4 作業要領

(1) 道路上の作業場所の確保及び安全処置

車両及び歩行者の通行の妨げにならないよう、また作業が充分に行えるようバリケード等により作業場所を確保し、安全管理を行い事故防止に努めること。また、必要箇所に交通誘導警備員を配置すること。

・交通誘導警備員人員：N=2人/6箇所（想定）

※1日あたり6箇所を想定し1箇所あたりに換算。

(2)槽内の液面

ポンプ槽内の液面を下げる場合、操作盤で手動運転を行い、液面を下げる。

(3)槽内の洗浄

槽内の洗浄範囲としては、側壁、底面、ポンプ外面、レベルスイッチ、ケーブル、チェーン及びガイドパイプを洗浄する。

(4)槽内堆積物の除去

槽内のし渣、沈砂及び汚泥を吸泥車等により除去する。

(5)ポンプの送水確認

手動運転にてポンプを起動させ水位が下がるのを確認し、自動運転に切り替える。

(6)逆止弁開放点検

逆止弁への異物噛み込み等による送水不良の場合には開放点検を行い、機能を復旧させる。

(7)後片付け

作業終了後は、マンホール蓋を閉じ、バリケード等を片付け、復旧する。また、マンホール周辺の状況を確認し、必要に応じて清掃も行う。

(8)堆積物の処理

吸泥車等により除去した堆積物は、発注者と協議の上、指示された場所に搬入することとする。

第4章 管路施設業務

第1節 共通事項

- 1 作業前には「福知山市下水道管路台帳管理システム」等を活用し、周囲の下水道管路の管径・材質・土被り・流下方向、取付管延長、公共汚水ますの内径・材質等を確認し、本管を破損させることがないように注意すること。
- 2 水道管・ガス管等の地下埋設物について、事前に調整・確認を十分に行うこと。
- 3 作業に伴う切削等による破片・ごみ等については必ず回収し、周辺清掃に努めること。
- 4 作業完了後は、水を流して流下状況を必ず確認すること。
- 5 清掃及び洗浄等のために吸引した汚水については、下流側最寄りのマンホールまたは中継ポンプ場へ投入すること。ただし、閉塞の原因となる堆積物等ものを含む場合は、発注者と協議の上、指示された場所に搬入することとする。
- 6 公道上の作業においては、受注者により道路管理者及び福知山警察署への届出を行うこと。
- 7 業務を実施した内容の集計については、別紙 4-10「管路施設業務集計表」に整理し月例の報告書に添付することとし、各年度の実施状況の把握を行うこと。
- 8 本業務で実施した内容のうち、管路施設の維持管理上、必要な情報については、「福知山市下水道管路台帳管理システム」に登録を行うこと。登録する内容については、発注者と受注者との協議による。
- 9 点検や調査により発見された管路の破損、その他異常のうち、道路陥没や管路閉塞等の原因となる重大なものや不明水の異常流入等を確認した場合には、直ちに発注者に報告すること。
- 10 点検や調査により発見された管路施設の破損や不明水等の流入、その他異常のうち、第4編農集福知山東部地区下水道施設運転管理等業務 第5章 小修繕等業務で修繕可能なものについては、発注者との協議の上、本業務内で修繕対応を行うこと。

第2節 圧送管清掃業務

1 業務内容

高压洗浄車等の機材を使用し、圧送管管路内の清掃を実施する。

2 業務場所

業務範囲内圧送管において、維持管理上支障を及ぼす恐れのある箇所を受注者により選定し、発注者に承諾を受けた箇所とする。

3 特記事項

- (1) 発注者の承諾を受けた箇所の圧送管内部（マンホールポンプ含む）の清掃等を実施する。作業延長は約 100mとし、1 箇所の作業で 100mに達しない場合は、他の場所

で達成すること。

ただし、発注者の判断により3割を超える作業延長の増減を行う場合には、発注者と受注者で協議するものとする。

- (2) 車両及び歩行者の通行の妨げにならないよう、また作業が充分に行えるようバリケード等により作業場所を確保し、安全管理を行い事故防止に努めること。また、必要箇所に交通誘導警備員を配置すること。

・交通誘導警備員人員：N=2人/日(想定)

- (3) 清掃業務の実施にあたり、高圧洗浄車以外の方法が有効な箇所については高圧洗浄以外の方法による清掃も可能とする。ただし高圧洗浄車で施工した場合の費用と同等となるように延長換算した延長を作業延長とすることとし、実際の清掃延長と延長換算した清掃延長を換算根拠を併せて報告すること。

4 報告

- (1) 圧送管清掃を行った後には、速やかに圧送管清掃報告を行い、月例の業務完了報告時に、圧送管清掃報告書・作業写真を提出すること。
- (2) 作業写真は、着手前と完了後の対比、作業中、安全管理、使用資機材、作業内容等が判別できるものを添付すること。

第3節 管路緊急対応業務

1 業務内容

下水道本管及び公共汚水ます・取付管内での障害発生の連絡を受けた、または発見した場合、直ちに現場確認を行い、障害の特定及び機能回復を図る。

2 業務実施時間等

24時間体制とする。

3 特記事項

- (1) 車両及び歩行者の通行の妨げにならないよう、また作業が充分に行えるようバリケード等により作業場所を確保し、安全管理を行い事故防止に努めること。また、必要箇所に交通誘導警備員を配置すること。

・交通誘導警備員：N=1人/回（高圧洗浄）※2人×0.5日(想定)

・交通誘導警備員：N=1人/回（汚泥吸引）※2人×0.5日(想定)

対応想定件数はそれぞれ高圧洗浄1回とし、そのうち、簡易作業を伴う件数は日中1回、時間外深夜1回である。

- (2) 復旧作業において市民への影響が大きいと判断される場合は、監視室に連絡し、発注者の承諾を得た後、作業を実施すること。
- (3) 管路施設等から汚水が溢れた場合には、現場周辺の洗浄及び消毒作業を実施すること。

第4編 農集福知山東部地区下水道施設運転管理等業務
第4章 管路施設業務

(4) 業務に際し不明な点等が発生した場合には、発注者と協議すること。

4 報告

(1) 管路緊急対応を行った後には、速やかに緊急対応報告を行い、月例の業務完了報告時に改めて、緊急対応報告書・作業写真を提出すること

(2) 作業写真は、着手前と完了後の対比、作業中、安全管理、使用資機材、作業内容等が判別できるよう整理すること。

第4節 不明水調査業務（マンホール内部調査）

1 業務内容

下水道管路に流入する不明水を発見するため、降雨時または降雨後に管路内部・マンホール内部を目視により確認する。

2 業務場所

業務範囲内において、維持管理上支障を及ぼす恐れのある箇所を受注者により選定し、発注者に承諾を受けた箇所とする。その他、発注者が異常の恐れがあると判断し、指示した箇所を含むものとする。

3 特記事項

(1) 不明水調査は、1回4時間（0.5日）、年2回実施するものとする。

ただし、発注者の判断により調査日数を追加する場合は、発注者と受注者で協議するものとする。

(2) 作業は、指定された地区のマンホール蓋を開け、マンホール内部の状況を目視し、下記（3）から（6）の内容等を確認する。

また確認した内容が分かるように写真撮影を行い整理すること。

(3) 躯体と管路のジョイント部等からの不明水の流入を確認する。

(4) 管路・インバート部を点検し、流量・流下状況等の異常の有無を確認する。

(5) マンホール蓋開閉時にマンホール蓋の錆等の劣化状況を点検・確認し、全景、表面、裏面の写真を撮影すること。

(6) その他不明水の原因となる兆候、破損等がないかを確認する。

(7) 調査にあたり事前にマンホール内の洗浄が必要となった場合は、適宜実施すること。

4 報告

(1) 不明水調査業務を行った後には、月例の業務完了報告時に、調査報告書・業務写真を提出すること。

(2) 報告書には、調査箇所を「福知山市下水道管路台帳管理システム」の図面に記入したものを添付すること。

第5節 本管テレビカメラ調査業務

第4編 農集福知山東部地区下水道施設運転管理等業務
第4章 管路施設業務

1 業務内容

下水道管路に流入する不明水や管路の破損等を発見するため、本管用テレビカメラにより、下水道管路内を確認する。

2 業務場所

業務範囲内において、維持管理上支障を及ぼす恐れのある箇所を受注者により選定し、発注者に承諾を受けた箇所とする。その他、発注者が異常の恐れがあると判断し、指示した箇所を含むものとする。

3 特記事項

(1) 車両及び歩行者の通行の妨げにならないよう、また作業が充分に行えるようバリケード等により作業場所を確保し、安全管理を行い事故防止に努めること。また、必要箇所に交通誘導警備員を配置すること。

・交通誘導警備員：N=2 人/回(想定)

・調査は、1 回 2 時間 (0.25 日)、年 1 回を見込んでいる。

ただし、発注者の判断により調査箇所を追加する場合は、発注者と受注者で協議するものとする。

(3) 調査は、「下水道維持管理指針 実務編 (公益社団法人 日本下水道協会)」の内容を準用し実施することとするが、調査記録等は異常の有無が判断できる程度に簡素化できるものとする。

(4) 不明水の発見を目的にした調査については、降雨時または降雨後の流入の増加が見込まれる時期に実施すること。

(5) 調査にあたり事前に管内の洗浄が必要となった場合は、適宜実施すること。

4 報告

(1) 業務を行った後には、月例の業務完了報告時に、調査報告書・業務写真を提出すること。

(2) 報告書には、調査箇所を「福知山市下水道管路台帳管理システム」の図面に記入したものを添付すること。

第6節 取付け管テレビカメラ調査業務

1 業務内容

取付け管テレビカメラを公共ますから取付け管に挿入し、本管接合部に向けて移動させ、取付管の異常の有無を、地上の調査員が目視により調査する。公共ますは地上から目視により点検する。

2 業務場所

維持管理上支障を及ぼす恐れのある箇所を受注者により選定し、発注者に承諾を受けた箇所とする。その他、発注者が異常の恐れがあると判断し、指示した箇所を含むもの

とする。

3 特記事項

- (1) 車両及び歩行者の通行の妨げにならないよう、また作業が充分に行えるようバリケード等により作業場所を確保し、安全管理を行い事故防止に努めること。また、必要箇所交通誘導警備員を配置すること。

・交通誘導警備員：N=0.5人/回※2人×2時間(0.25日)(想定)

調査想定件数は1回である。

- (2) 洗浄のために吸引した汚水については、下流側最寄りのマンホールまたは中継ポンプ場へ投入すること。ただし、閉塞の原因となるものを含む場合は、発注者と協議の上、指示された場所に搬入することとする。
- (3) 業務に際し不明な点等が発生した場合には、発注者と協議すること。
- (4) 調査にあたり事前に管内の洗浄が必要となった場合は、適宜実施すること。

4 報告

- (1) 対応を行った後には、月例の業務完了報告時に、調査報告書・業務写真を提出すること。
- (2) 報告書には、調査箇所を「福知山市下水道管路台帳管理システム」の図面に記入したものを添付すること。

第5章 小修繕等業務

第1節 共通事項

1 業務概要

- (1) 本業務委託にかかる対象施設における設備等の機能を正常に発揮、維持できるよう適切に修繕及び物品調達等を行うものとする。詳細な概要は次節以降のとおりとする。
- (2) 受注者が負担を負う修繕等は、次節以降に示す1件あたりの費用未満のものを原則とする。ただし受注者が行う修繕等が、1件あたりの費用を超える場合や次節以降に示す各年度の予定件数や上限額を超える場合であっても、年度末までの委託業務費用内で、可能と判断される場合は、発注者との協議のうえ、実施してよいものとする。なお、年度末までの委託業務費用内を超過する恐れがある等で本業務内での実施が困難な場合は、発注者との協議により別途契約とする場合がある。

2 報告

- (1) 修繕等を実施した場合は、作業内容が確認できる実施報告書（写真帳含む）及び修繕等に要した費用の分かる内訳書について、月例の報告書に添付し報告することとする。ただし発注者が緊急を要するものとして提出を求めたものについては、月例の報告書とは別に報告することとする。
- (2) 修繕に要した費用の集計については、別紙4-11「小修繕等業務集計表」に整理し月例の報告書に添付することとし、各年度の修繕費用の把握を行うこと。この集計様式については、全小修繕項目を集約した報告様式でも可能とする。
- (3) 修繕内容は、「福知山市下水道管路台帳管理システム」に入力することとする。

第2節 污水处理施設修繕

1 業務概要

対象施設における設備等の機能を正常に発揮、維持できるよう適切に修繕を行うものとする。

2 対象施設

- (1) 宮大内污水处理場
- (2) 田野污水处理場
- (3) 佐賀污水处理場

3 各年度の上限額

污水处理施設修繕における各年度の累計上限額は、12万円とする。

ただし、遅行状況により限度額を超える恐れがある場合は、下記の特記事項によるものとする。

4 提出書類

(1) 実施前

- ・修繕実施打合せ簿
- ・修繕見積書（押印不要）等

(2) 実施後（月度報告時）

・修繕施工写真 ・修繕費用集計表（年度累計様式） ・報告書等

5 特記事項

(1) 受注者は、対象施設の施設故障状況一覧表の優先順位を発注者と協議の上決定し修繕を実施することとする。

点検等により、施設状況に変動が見られた場合には、適宜施設故障状況一覧表について変更を行い、発注者と協議を行うこととする。

(2) 受注者が負担を行う修繕は、1件あたりの費用が30万円未満（消費税及び地方消費税を含む）のものとする。ただし、修繕内容や機器等の性能上、1件あたりの費用が30万円以上となる場合は、発注者と協議して決定することとする。

(3) 修繕に使用する部品等は、仕様変更による性能低下とならないよう実施することとする。

(4) 受注者は、修繕の実施にあたって、発注者の承諾を得ることとする。

(5) 受注者は、設備修繕の結果について報告書に記録を行わなければならない。

(6) (5) の記録に対して、発注者から提出を求めた場合は速やかに提出することとする。

(7) 当初において小修繕で実施中に想定外の異常が発見され、大幅に費用が増加すると判断された際には、発注者と協議するものとする。

(8) 年度内において、修繕件数が想定を大幅に超え、小修繕費用が不足すると予想される場合は、発注者と協議するものとする。

(9) かし担保期間は、修繕の完了した日から1年間とする。

第3節 マンホールポンプ施設修繕

1 業務概要

住居などから流入する汚水を次の施設に送水する機能に異常等が発生した場合には、速やかに対象施設の機能回復が行い、対象施設の機能を正常に発揮、維持できるよう適切に修繕を行うものとする。

2 対象施設

当該処理区域のマンホールポンプ施設とする。

3 各年度の上限額

マンホールポンプ施設修繕における各年度の累計上限額は、423万円（消費税及び地方消費税含む）とする。

ただし、履行状況により限度額を超える恐れがある場合は、下記の特記事項によるものとする。

4 提出書類

(1) 実施前

・修繕実施打合せ簿 ・修繕見積書（押印不要）等

(2) 実施後（月度報告時）

・修繕施工写真 ・修繕費用集計表（年度累計様式） ・報告書等

5 特記事項

(1) 受注者は、対象施設の施設故障状況一覧表に優先順位を受注者と協議の上決定し修繕を実施することとする。

点検等により、施設状況に変動が見られた場合には、適宜施設故障状況一覧表について変更を行い、発注者と協議を行うこととする。

(2) 受注者が負担を行う修繕は、1件あたりの費用が30万円未満（消費税及び地方消費税を含む）のものとする。ただし、修繕機器等の性能上、1件あたりの費用が30万円以上となる場合は、発注者と協議して決定することとする。

(3) 修繕に使用する部品等は、仕様変更による性能低下とならないよう実施すること。

(4) 受注者は、修繕の実施にあたって発注者の承諾を得ること。

(5) 受注者は、設備修繕の結果について報告書に記録を行わなければならない。

また、その記録に対して、発注者から提出を求めた場合は速やかに提出すること。

(6) 当初において小修繕で実施中に想定外の異常が発見され、大幅に費用がかさむと判断された際には、発注者と協議するものとする。

(7) 年度内において、修繕件数が想定を大幅に超え、小修繕費用が不足する場合は発注者と協議するものとする。

(8) かし担保期間は、修繕の完了した日から1年間とする。

第4節 公共汚水ます修繕

1 業務概要

下水道管路に接続している公共汚水ますに、破損や不具合が発生している場合は、下水道管路の接続機能が正常に維持できるよう適切に修繕を行う。また、修繕の施工に際しては、発注者の承諾を得てから実施すること。

2 対象箇所

当該処理区域の公共汚水ますとする。

3 各年度の予定件数及び限度額

公共汚水ます修繕の費用における各年度の累計上限額は、20万円（消費税及び地方消費税を含む）とする。修繕想定件数は、1件である。

ただし、履行状況により限度額を超える恐れがある場合は、下記の特記事項によるものとする。

4 提出書類

(1) 実施前

・修繕実施打合せ簿 ・修繕見積書（押印不要）等

(2) 実施後（月度報告時）

・修繕施工写真 ・修繕費用集計表（年度累計様式） ・報告書等

5 特記事項

(1) 車両及び歩行者の通行の妨げにならないよう、また作業が十分に行えるようバリケード等により作業場所を確保し、安全管理を行い事故防止に努めること。また、必要箇所に交通誘導警備員を配置すること。

・交通誘導警備員：N=2人/件（想定）

(2) 使用する部材は、福知山市下水道用標準構造図の仕様を満足したもの、または、下水道協会及び下水道推進機構の認定品を基本とする。

(3) 作業の前日までに、自治会や作業場所周辺住民の理解を得ること。

(4) 当初の修繕予定件数と実績の差が大きい場合、その他修繕内容で疑義が生じた場合には、発注者と受注者で協議するものとする。

(5) 修繕内容の確認が困難な場合には、掘削を求めることがある。

第5節 止水修繕

1 業務概要

下水道管路及びマンホール本体における漏水や浸入水を伴う不良箇所の修繕を行う。工法においては、状況に応じた適切な方法を選択し止水を行う。

この修繕により、下水道管路の機能を正常に維持できるよう適切に修繕を行うこととする。また、修繕の施工に際しては、発注者の承諾を得てから実施することとする。

2 対象箇所

当該処理区域の管路施設とする。

3 各年度の予定件数等

止水修繕の費用における各年度の累計上限額は、20万円（消費税及び地方消費税含む）とする。修繕想定件数は、2件である。

ただし、施工条件等によりこの費用を超える恐れがある場合は、下記の特記事項によるものとする。

4 提出書類

(1) 実施前

・修繕実施打合せ簿 ・修繕見積書（押印不要）等

(2) 実施後（月度報告時）

・修繕施工写真 ・修繕費用集計表（年度累計様式） ・報告書等

5 特記事項

- (1) 車両及び歩行者の通行の妨げにならないよう、また作業が十分に行えるようバリケード等により作業場所を確保し、安全管理を行い事故防止に努めること。また、必要箇所に交通誘導警備員を配置すること。
- ・交通誘導警備員：N=2人/5件（想定）
- ※1日あたり5件を想定し1件あたりに換算。
- (2) 使用する部材は、福知山市下水道用標準構造図の仕様を満足したもの、または、下水道協会及び下水道推進機構の認定品を基本とする。
- (3) 作業の前日までに、自治会や作業場所周辺住民の理解を得ること。
- (4) 当初の修繕予定件数と実績の差が大きい場合、その他修繕内容で疑義が生じた場合には、発注者と受注者で協議するものとする。
- (5) 修繕内容の確認が困難な場合には、掘削を求めることがある。

第6節 取付管修繕

1 業務概要

下水道管路に接続している取付管に、破損や不具合が発生している場合は、下水道管路への接続機能が正常に維持できるよう適切に修繕を行うこととする。

また、修繕の施工に際しては、発注者の承諾を得てから実施することとする。

2 対象箇所

当該処理区域の取付管とする。

3 各年度の予定件数及び限度額

取付管修繕の費用における各年度の累計上限額は、35万円（消費税及び地方消費税を含む）とする。修繕予定件数は1件である。

ただし、履行状況により限度額を超える恐れがある場合は、下記の特記事項によるものとする。

4 提出書類

(1) 実施前

- ・修繕実施打合せ簿
- ・修繕見積書（押印不要）等

(2) 実施後（月度報告時）

- ・修繕施工写真
- ・修繕費用集計表（年度累計様式）
- ・報告書等

5 特記事項

- (1) 車両及び歩行者の通行の妨げにならないよう、また作業が十分に行えるようバリケード等により作業場所を確保し、安全管理を行い事故防止に努めること。また、必要箇所に交通誘導警備員を配置すること。

- ・交通誘導警備員：N=2人/件（想定）

- (2) 使用する部材は、福知山市下水道用標準構造図の仕様を満足したもの、または、下

水道協会及び下水道推進機構の認定品を基本とする。

- (3) 作業の前日までに、自治会や作業場所周辺住民の理解を得ること。
- (4) 当初の修繕予定件数と実績の差が大きい場合、その他修繕内容で疑義が生じた場合には、発注者と受注者で協議するものとする。
- (5) 修繕内容の確認が困難な場合には、掘削を求めることがある。

第7節 本管簡易修繕

1 業務概要

下水道本管に、破損や不具合が発生している場合は、本管路の機能が正常に維持できるように適切に修繕を行う。

また、修繕の施工に際しては、発注者の承諾を得てから実施すること。

2 対象箇所

当該処理区域の下水道本管とする。

3 各年度の予定件数及び限度額

本管簡易修繕の費用における各年度の累計上限額は、36万円（消費税及び地方消費税を含む）とする。簡易修繕予定件数は1件である。

ただし、履行状況により限度額を超える恐れがある場合は、下記の特記事項によるものとする。

4 提出書類

(1) 実施前

・修繕実施打合せ簿 ・修繕見積書（押印不要）等

(2) 実施後（月度報告時）

・修繕施工写真 ・修繕費用集計表（年度累計様式） ・報告書等

5 特記事項

- (1) 車両及び歩行者の通行の妨げにならないよう、また作業が十分に行えるようバリケード等により作業場所を確保し、安全管理を行い事故防止に努めること。また、必要箇所に交通誘導警備員を廃止すること。

・交通誘導警備員：N=2人/件（想定）

- (2) 使用する部材は、福知山市下水道用標準構造図の仕様を満足したもの、または、下水道協会及び下水道推進機構の認定品を基本とする。
- (3) 作業の前日までに、自治会や作業場所周辺住民の理解を得ること。
- (4) 当初の修繕予定件数と実績の差が大きい場合、その他修繕内容で疑義が生じた場合には、発注者と受注者で協議するものとする。
- (5) 修繕内容の確認が困難な場合には、掘削を求めることがある。

第8節 物品調達

1 業務概要

本業務は、対象となる施設において、放流水質の基準値内の放流水を維持ができ、機器類の安定した稼働を継続できるよう、適正な物品類の調達を行うものである。

また、処理施設維持管理業務の履行に際して、適正な在庫管理を行うこととする。

2 調達する物品区分

調達する物品について、区分概要を次に記載し、各調達物品の内容を下記の表に示す。

(1) 薬品類及び機械・電気部品類

薬品類は、汚水処理施設からの放流水質の確保や保全、発生する汚泥の安定処理に必要な薬品類とする。

機械・電気部品類は、異常または故障が発生した場合に、所有しているその部品類を使用して復旧できる部品類とする。

(2) 維持管理消耗品

維持管理消耗品は、作業に必要な燃料費、機器類の保守管理に係る油脂類、現場整備に係る清掃用具や現場作業者の衛生用品等のような作業現場業務を履行するために必要とする消耗品とする。

(3) その他消耗品

その他消耗品は、業務履行報告に関する事務用品費用等の一般的な消耗品とする。

表 調達物品の区分と例

薬品類	<ul style="list-style-type: none"> ・放流水塩素消毒用薬品 ・処理水等pH調整用薬品
機械・電気部品類	<ul style="list-style-type: none"> ・簡易な補修に関する機械及び電気部品
維持管理消耗品	<ul style="list-style-type: none"> ・燃料費（作業用（草刈り機含む）、車両用） ・潤滑油類費（交換及び補充用のオイル・グリース等） ・塗装費（軽微な部分補修用塗料） ・整備費用（掃除道具、ウエス、洗浄油類） ・補修用材料（ボルト、ナット、パッキン、ヒューズ、ランプ等一般汎用品の範囲内とする。） ・水質測定用薬剤 ・衛生用品（石鹼、消毒液、救急用薬品） ・上記に該当しないものであっても本業務を遂行するために、一般的に当然必要であると認められる消耗品
その他消耗品	<ul style="list-style-type: none"> ・報告記録用紙費（日報、月報、年報、FAX用紙等） ・その他日用品、事務用品等 ・上記に該当しないものであっても本業務を遂行するために、一般的に当然必要であると認められる物品

3 各年度の上限額

(1) 薬品類

薬品類の各年度の購入累計上限額は、86万円（消費税及び地方消費税含む）とする。

想定した使用量に対して増減が激しい場合は、発注者と調達費用に関する協議を行い、決定するものとする。

(2) 機械・電気部品類

機械・電気部品類の各年度の購入累計上限額は、4万円（消費税及び地方消費税

含む)とする。

調達する部品類の単価は、5万円未満(消費税及び地方消費税含む)とするが、部品の性能上、単価が5万円以上(消費税及び地方消費税を含む)の部品類は、発注者と協議の上、調達方法を決定する。

4 調達物品の管理

- (1) 受注者は、処理場等の管理運転に要する薬剤等及び潤滑油脂類、消耗品等の調達及び管理を行わなければならない。
- (2) 物品管理者及び薬品類の管理者を選任し、保管、取扱等には十分注意して適正な管理を行うこととする。
- (3) 物品の調達管理は、適正な品質及び規格の物品等を調達し、施設等の運転、耐用年数等に影響を与えないようにすることとする。
- (4) 常に在庫数量等を把握して適宜適切に調達し、在庫不足、品質低下等による施設運転等への支障を与えないようにすることとする。
- (5) 薬品類については、品質証明書等の書類を保管し、発注者から提出を求められた場合は、写し等を提出することとする。
- (6) 調達する薬品類の化学物質等安全データシート(MSDS)は、常に最新のものを常備し、保管することとする。

5 記録及び報告

受注者は、納入品及び数量(使用量含む)の記録を行い、定期的にその記録の報告を行うこととする。

また、その記録に対して、発注者の求めがあった場合は速やかに提出することとする。

6 その他

物品調達の実施にあたっては、地元経済の発展のため、地元企業から優先して購入することをお願いする。

その他の記載なき事項については、発注者と受注者の協議の上、決定するものとする。

処理場名

令和 年 月 日

点検日	1日	2日	3日	4日	5日	6日	7日	8日	9日	10日	11日	12日	13日	14日	15日	16日	17日	18日	19日	20日	21日	22日	23日	24日	25日	26日	27日	28日	29日	30日	31日
曜 日																															
天 候																															
気 温																															
表示ランプ																															
悪臭・異常音																															
各槽内目視																															
機器目視																															
排水流入水路																															
スクリーン残渣処分																															
消毒薬剤残量																															
窓・扉・照明																															
工具・備品の整頓																															
戸締まり及び施錠																															
敷地内危険・異常箇所																															
敷地内清掃・除草																															
敷地内植木の散水																															
保守点検があるとき○																															
点検者氏名																															
不良 (作業) 箇所																															
不良 (作業) 内容																															
処置・対応内容																															
処置日																															
備考																															

*記載方法：良→○、不良→× 不良内容等を備考欄に記載すること。また、作業等について特記事項を記載。

日	流入量 m ³	pH		透視度		水温		残留塩素 mg/l	滅菌剤 (k g)		汚泥引抜量 m ³	水道		動力電気		電灯電気		備考
		流入	放流	流入	放流	流入	放流		入荷量	使用量		表示値	使用量	表示値	使用量	表示値	使用量	
1																		
2																		
3																		
4																		
5																		
6																		
7																		
8																		
9																		
10																		
11																		
12																		
13																		
14																		
15																		
16																		
17																		
18																		
19																		
20																		
21																		
22																		
23																		
24																		
25																		
26																		
27																		
28																		
29																		
30																		
31																		
平均																		
最大																		
最小																		
計																		
累計																		

特記事項

施設名	東 部 佐 賀 汚 水 処 理 場					点検者	検 印		
施設規模	1220 人		402 m ³ /日		点検年月日	年 月 日	天 候		
型 式	OD型		系列		作業時間	: ~ :	気 温	℃	
月 日	/	/	/	/	/	/	/	計	平均
流入 水量	m ³	m ³	m ³	m ³	m ³	m ³	m ³	m ³	m ³ /日
機 器 類 の 点 検									
機器名称	NO.	定格電流値	電流計指針値	現場測定器	絶縁抵抗	異常の有無	備 考		
		(A)	(A)	指示値(A)	測定値(MΩ)				
マンホールポンプ	NO.1					無 ・ 有			
	NO.2					無 ・ 有			
自動荒目スクリーン						無 ・ 有			
破砕機						無 ・ 有			
流量調整ポンプ	NO.1					無 ・ 有			
	NO.2					無 ・ 有			
水中攪拌ポンプ	NO.1					無 ・ 有			
ばっ気攪拌装置	NO.1					無 ・ 有			
	NO.2					無 ・ 有			
汚泥掻寄機	NO.1					無 ・ 有			
沈殿槽汚泥引抜ポンプ	NO.1					無 ・ 有			
	NO.2					無 ・ 有			
	NO.3					無 ・ 有			
散水ポンプ	NO.1					無 ・ 有			
スカム移送ポンプ	NO.1					無 ・ 有			
放流ポンプ	NO.1					無 ・ 有			
	NO.2					無 ・ 有			
床排水ポンプ	NO.1					無 ・ 有			
汚泥貯留槽用ブロワ	NO.1					無 ・ 有			
ばっ気沈砂槽用ブロワ	NO.1					無 ・ 有			
エアリフト用ブロワ	NO.1					無 ・ 有			
換気ファン	NO.1					無 ・ 有			
	NO.2					無 ・ 有			
	NO.3					無 ・ 有			
自家発換気扇	NO.1					無 ・ 有			
可搬汚泥ポンプ	NO.1					無 ・ 有			
スクリーン洗浄ポンプ	NO.1					無 ・ 有			
計 装 機 器 の 点 検									
計装機器	計器指示値	現場測定値	センサー清掃の 有無	校正の有無	備 考				
					(現場測定器の仕様、次回指示事項等)				
流量計				無 ・ 有					
	OD槽	OD槽	OD槽	OD槽					
DO計			無・有	無・有					
MLSS計			無・有	無・有					

東部地区

佐賀污水处理場(2)

令和 年 月 日

各単位装置の点検			
単位装置	点検事項	点検結果	備考(機器の設定等)
マンホールポンプ	異常水位	無・有	
	レベルスイッチの作動状況	良・不良・調整	
	原水ポンプの揚水状況	良・不良・調整	
自動荒目スクリーン	し渣の量	少・中・多(1)	
	し渣の掻き上げ状況	良・不良・調整	
ばっ気沈砂槽	ばっ気攪拌状況	良・不良・調整	
	臭気、スカムの状況	無・有 (少・中・多)	
	沈砂排出ポンプの作動状況	良・不良・調整	
	沈砂槽沈砂量	少・中・多(1)	
破砕機	異常音	無・有・要補修	
流量調整槽	スカム、発泡の状況	少・中・多	
	異常水位	無・有	
	レベルスイッチの作動状況	良・不良・調整	
	流量調整ポンプの作動状況	良・不良・調整	
	水中攪拌ポンプの攪拌状況	良・不良・調整	
スカム槽ポンプ	スカムの有無	無・有	
	レベルスイッチの作動状況	良・不良・調整	
	異常水位の痕跡	無・有	
スクリーンユニット	し渣の量	少・中・多(1)	
	し渣の掻き上げ状況	良・不良・調整	
汚水計量槽	スカム、汚泥の堆積状況	少・中・多、除去	
	汚水の色相と異常臭	色相 無・有	
	三角堰の越流量	H=	
OD槽	色相・臭気の異常、異常水位	色相 、無・有、無・有	
	スカム、発泡の状況	良・不良	
	ばっ気攪拌装置の運転状況	良・不良・調整	
	ばっ気用ブロワの運転状況	良・不良・調整	
	送風量	m3/時	
	SV30	cm	
	活性汚泥濃度の調整	不要・要(高い・低い)	
沈殿槽	スカム、汚泥の堆積状況	無・少量・多量	
	固液分離の状況	良好・不良	
	汚泥引抜ポンプの作動状況	良・不良・調整	
	余剰汚泥引抜ポンプの作動状況	稼動 分、停止 分	
	処理水の越流状況	良・不良・調整	
散水ポンプ槽	スカム、汚泥の堆積状況	無・少量・多量	
	散水ポンプの作動状況	良・不良・調整	
	散水時刻の適否状況	適・否	
消毒槽	消毒状況	良・不良・調整	
	消毒剤の残量	少・中・多(補充 kg)	
放流ポンプ槽	レベルスイッチの作動状況	良・不良・調整	
	放流ポンプの作動状況	良・不良・調整	
汚泥濃縮槽	スカムの状況	少・中・多	汚泥引抜ポンプ
	汚泥界面高さ	スラブ上から cm	作動時刻、時間
	汚泥引抜ポンプの作動状況	良・不良・調整	(、 分/回)
汚泥貯留槽	臭気、ガスの発生状況	少・中・多	
	散気装置の目詰まり	無・有・調整	散気装置
	貯留汚泥量	スラブ上から m	作動時刻、時間
	汚泥の系外搬出	要・不要	(、 分/回)

水質試験

令和 年 月 日

検査箇所									
	水温	透視度	色相	臭気	DO	pH	SV30	MLSS	残留塩素
流入水	℃	cm			※		※	※	※
流量調整槽	℃	cm			mg/ℓ		※	※	※
OD槽	℃	※			mg/ℓ		%	mg/ℓ	※
沈殿槽	※	cm			※		※	※	※
消毒槽	※	※			※	※	※	※	※
汚泥濃縮槽 脱離液	※	cm	※	※	※	※	※	※	※
放流ポンプ槽									
放流水	℃	cm			※		※	※	mg/ℓ

機器点検表

施設名	東部 宮大内		汚水処理場		点検者		検 印					
施設規模	1020 人		306 m ³ /日		点検年月日 年 月 日		天 候					
型 式	JARUS－Ⅰ型		2 系列		作業時間 : ~ :		気 温		℃			
月 日	/		/		/		/		計 平均			
流入水量	m ³		m ³		m ³		m ³		m ³ m ³ /日			
機器類の状況						各単位装置の状況						
名 称	NO.	電流値	絶縁抵抗	異常の有無	野間仁田1号MP		レベルスイッチの作動状況		良・不良・調整			
商用電源		(V)		無 ・ 有			ポンプの揚水状況		良・不良・調整			
流入ゲート		(A)		無 ・ 有	流入ポンプ		レベルスイッチの作動状況		良・不良・調整			
流入ポンプ	NO.1	(A)		無 ・ 有			流入ポンプの揚水状況		良・不良・調整			
	NO.2	(A)		無 ・ 有	ばっ気沈砂槽		電磁流量計の作動状況		良・不良・調整			
スクリーンユニット		(A)		無 ・ 有			ばっ気状況		良・不良・調整			
自動微細目スクリーン		(A)		無 ・ 有			沈砂排出ポンプの作動状況		良・不良・調整			
原水ポンプ	NO.1	(A)		無 ・ 有			排砂槽沈砂状況(量)		少・中・多(L)			
	NO.2	(A)		無 ・ 有	破碎機		発泡の状況		少・中・多・消泡			
ブロワ(常用)	NO.1	(A)		無 ・ 有			スクリーン		スクリーンし渣		少・中・多・除去	
(常用)	NO.2	(A)		無 ・ 有	ユニット		スクリーンつまりの有無		無・有			
(予備)	NO.3	(A)		無 ・ 有			原水ポンプ		レベルスイッチの作動状況		良・不良・調整	
(予備)	NO.4	(A)		無 ・ 有	原水ポンプの揚水状況				良・不良・調整			
換気ファン	NO.1	(A)		無 ・ 有	電磁流量計の作動状況				良・不良・調整			
	NO.2	(A)		無 ・ 有	分水計量槽		スカム、汚泥の堆積状況		少・中・多・除去			
散水ポンプ		(A)		無 ・ 有			三角堰の越流量		h=			
汚泥引抜ポンプ		(A)		無 ・ 有			非常用エンジンポンプ		エンジンポンプの揚水状況		良・不良・調整	
野間仁田1号MP	NO.1	(A)		無 ・ 有	散水ポンプ		散水ポンプの揚水状況		良・不良・調整			
	NO.2	(A)		無 ・ 有			1 系列		沈殿分離槽		移流部の詰まりの発生 無・有(第 室)	
	NO.3	(A)		無 ・ 有					接触ばっ気槽		空気量・ばっ気強度 1室	
機器のタイマー設定				2 系列		空気量・ばっ気強度 2室		m ³ /h				
ばっ気沈砂槽	運転方法	連続運転・間欠運転				旋回流の状況		良・不良・調整				
沈殿槽	設定時刻					発泡の状況		少・中・多・消泡				
汚泥引抜ポンプ	作動時間	回 分/回				逆洗の要・不要 1室		要・不要・実施				
特記事項						逆洗の要・不要 2室		要・不要・実施				
						沈殿槽		越流せきの越流状況		良・不良・調整		
				汚泥引抜ポンプの作動				良・不良・調整				
				消毒槽		消毒剤の残量		少・中・多・補充 (kg)				
						消毒状況		良・不良・調整				
				汚泥濃縮貯留槽		汚泥濃縮の状況		良・不良				
						攪拌装置の目詰まりの有無		無・有・調整				
				汚泥貯留槽		汚泥濃縮の状況		良・不良				
						攪拌装置の目詰まり		無・有・調整				

東部地区 宮大内污水处理場(2) 令和 年 月 日

各 単 位 装 置 の 水 質									
装置名		現 場 測 定 項 目							
		色相	臭気	生物膜	水温	pH	透視度	DO	残留塩素
流入水					℃		cm	mg/l	— mg/l
1 系 列	沈殿分離第1室								—
	沈殿分離第2室								—
	接触ばっ気槽第1室							中央部	—
								上	
								中	
	接触ばっ気槽第2室							下	—
								上	
								中	
2 系 列	沈殿槽								—
	沈殿分離第1室								—
	沈殿分離第2室								—
	接触ばっ気槽第1室							中央部	—
								上	
								中	
	接触ばっ気槽第2室							下	—
								上	
								中	
	沈殿槽								—
	消毒槽								
	放流槽								
	脱離液								—

各 単 位 装 置 の 汚 泥 堆 積 状 況										
単位装置名		汚泥厚			スカム		引抜き 除去量	異常水位 の痕跡	ガスの発生 (硫化水素等)	
		流入部	中央部	流出部	引抜き	無・有				引抜き
ばっ気沈砂槽			無・少・中・多		要・不要	無・有	要・不要		無・有	－
原水ポンプ槽			無・少・中・多		要・不要	無・有	要・不要		無・有	－
流量調整槽			無・少・中・多		要・不要	無・有	要・不要		無・有	無・少・中・多
1 系 列	沈殿分離槽第1室	無・少・中・多		無・少・中・多	要・不要	無・有	要・不要		無・有	無・少・中・多
	沈殿分離槽第2室	無・少・中・多		無・少・中・多	要・不要	無・有	要・不要		無・有	無・少・中・多
	接触ばっ気槽第1室								無・有	無・少・中・多
	接触ばっ気槽第2室								無・有	無・少・中・多
	沈殿槽		無・少・中・多		要・不要	無・有	要・不要		無・有	無・少・中・多
2 系 列	沈殿分離槽第1室	無・少・中・多		無・少・中・多	要・不要	無・有	要・不要		無・有	無・少・中・多
	沈殿分離槽第2室	無・少・中・多		無・少・中・多	要・不要	無・有	要・不要		無・有	無・少・中・多
	接触ばっ気槽第1室								無・有	無・少・中・多
	接触ばっ気槽第2室								無・有	無・少・中・多
	沈殿槽		無・少・中・多		要・不要	無・有	要・不要		無・有	無・少・中・多
消毒槽			無・少・中・多		要・不要				無・有	－
放流槽			無・少・中・多		要・不要				無・有	－
汚泥濃縮貯留槽					要・不要	無・有	要・不要		無・有	無・少・中・多
汚泥貯留槽		汚泥厚さ m			要・不要		要・不要		－	無・少・中・多
－ メ モ －										

機 器 点 検 表

施設名	東部 田野 汚水処理場			点検者			検 印			
施設規模	440 人		144 m ³ /日	点検年月日 年 月 日			天 候			
型 式	JARUS－I 型		1 系列	作業時間 : ~ :			気 温	℃		
月 日	/	/	/	/	/	/	/	計	平均	
流入 水量	m ³	m ³	m ³	m ³	m ³	m ³	m ³	m ³	m ³ /日	
機器類の状況					各単位装置の状況					
名 称	NO.	電流値	絶縁抵抗	異常の有無	笹場1号MP	レベルスイッチの作動状況		良・不良・調整		
商用電源		(A)		無 ・ 有		流入ポンプの揚水状況		良・不良・調整		
ブロワ(常用)	NO.1	(A)		無 ・ 有	分水計量槽	スカム、汚泥の堆積状況		少・中・多・除去		
(常用)	NO.2	(A)		無 ・ 有		三角堰の越流状況		良・不良・調整		
(予備)	NO.3	(A)		無 ・ 有	沈殿分離槽	移流部の詰まりの発生 無・有(第 室)				
(予備)	NO.4	(A)		無 ・ 有	接触ばっ気槽	空気量・ばっ気強度(第1室)		m ³ /h		
排水ポンプ	NO.1	(A)		無 ・ 有		空気量・ばっ気強度(第2室)		m ³ /h		
	NO.2	(A)		無 ・ 有		空気量・ばっ気強度(第3室)		m ³ /h		
	換気ファン	NO.1	(A)			無 ・ 有	旋回流の状況		良・不良・調整	
NO.2		(A)		無 ・ 有		発泡の状況		少・中・多・消泡		
笹場1号MP	NO.1	(A)		無 ・ 有		逆洗の要・不要(第1室)		要・不要・実施		
	NO.2	(A)		無 ・ 有		逆洗の要・不要(第2室)		要・不要・実施		
機器のタイマー設定							逆洗の要・不要(第3室)		要・不要・実施	
沈殿槽	設定時刻					沈殿槽	越流せきの越流状況		良・不良・調整	
汚泥引抜ポンプ	作動時間		回 分/回				汚泥引抜ポンプの作動		良・不良・調整	
特記事項					消毒槽	消毒剤の残量		少・中・多・補充 (kg)		
						消毒状況		良・不良・調整		
					汚泥濃縮貯留槽	汚泥濃縮の状況		良・不良		
						攪拌装置の目詰まりの有無		無・有・調整		

東部地区

田野污水处理場(2)

令和 年 月 日

各 単 位 装 置 の 水 質										
装置名	現 場 測 定 項 目									
	色相	臭気	生物膜	水温	pH	透視度	DO		残留塩素	
流入水(分水計量槽)				℃		cm	mg/l		— mg/l	
沈殿分離第1室									-	
沈殿分離第2室									-	
接触ばっ気槽第1室							中央部		—	
							上			
							中			
							下			
接触ばっ気槽第2室							上		-	
							中			
							下			
接触ばっ気槽第3室							上		-	
							中			
							下			
沈殿槽									-	
放流水(消毒槽)										
脱離液									-	
各 単 位 装 置 の 汚 泥 堆 積 状 況										
単位装置名	汚泥				スカム		引抜き 除去量	異常水位 の痕跡	ガスの発生 (硫化水素等)	
	流入部	中央部	流出部	引抜き	有・無	引抜き				
沈殿分離槽第1室	無・少・中・多		無・少・中・多	要・不要	有・無	要・不要		無 ・ 有	無・少・中・多	
沈殿分離槽第2室	無・少・中・多		無・少・中・多	要・不要	有・無	要・不要		無 ・ 有	無・少・中・多	
接触ばっ気槽第1室								無 ・ 有	無・少・中・多	
接触ばっ気槽第2室								無 ・ 有	無・少・中・多	
接触ばっ気槽第3室								無 ・ 有	無・少・中・多	
沈殿槽		無・少・中・多		要・不要	有・無	要・不要		無 ・ 有	無・少・中・多	
消毒槽		無・少・中・多		要・不要				無 ・ 有	—	
汚泥濃縮貯留槽	汚泥高さ m			要・不要		要・不要		無 ・ 有	無・少・中・多	
- メ モ -										

処理場名 佐賀汚水処理場

機器運転時間 [h]		4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	計
No.1 流量調整ポンプ														0.0
														0.0
														0.0
No.2 流量調整ポンプ														0.0
自家発電装置														0.0
														0.0

※ 毎月1日、出来るだけ同じ時間に読んで下さい。
※ メーターの積算値は、小数点第1位まで読んで下さい。

処理場名 宮大内汚水処理場

機器名	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
電動流入ゲート													0.0
1号流入ポンプ													0.0
2号流入ポンプ													0.0
スクリーンユニット													0.0
自動微細目スクリーン													0.0
1号原水ポンプ													0.0
2号原水ポンプ													0.0
1系汚泥引抜ポンプ													0.0
2系汚泥引抜ポンプ													0.0
1号曝気ブローワー													0.0
2号曝気ブローワー													0.0
3号曝気ブローワー													0.0
4号曝気ブローワー													0.0
散水ポンプ													0.0
自家発電装置													0.0
原水ポンプ槽 流入流量[m3]													0.0

※ 毎月1日、出来るだけ同じ時間に読んで下さい。
※ メーカーの積算値は、小数点第1位まで読んで下さい。
[上段：カウンター積算値]
[下段：当月機器運転時間等]

処理場名 田野汚水処理場

機器運転時間 [h]	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	計
機器名													
No.1 曝気用ブロワー													
No.2 曝気用ブロワー													
No.3 曝気用ブロワー													
No.4 曝気用ブロワー													
No.1 排水ポンプ													
No.2 排水ポンプ													
No.1 発電機室換気扇													
No.2 発電機室換気扇													
自家発電装置													
笹場1号マンホールポンプ* 1号ポンプ													
笹場1号マンホールポンプ* 2号ポンプ													

※ 毎月1日、出来るだけ同じ時間に読んで下さい。
※ メーターの積算値は、小数点第1位まで読んで下さい。

[下段：当月機器運転時間等]

水 質 分 析 検 査 報 告 書

月分

測定項目	単位	宮大内污水处理場		田野污水处理場		佐賀污水处理場	
		流入水	放流水	流入水	放流水	流入水	放流水
気温	℃						
水温	℃						
pH	-						
浮遊物質(SS)	m g / ℓ						
C O D	m g / ℓ						
B O D	m g / ℓ						
ATU-B O D	m g / ℓ						
全磷 (T - P)	m g / ℓ						
全窒素 (T - N)	m g / ℓ						
大腸菌	個/ ℓ						
蒸発残留物	m g / ℓ						
透視度	c m						

月分

採水箇所	単位	宮大内污水处理場	田野污水处理場	佐賀污水处理場	
		濃縮汚泥	濃縮汚泥	活性汚泥	濃縮汚泥
MLSS (活性汚泥濃度)	m g / ℓ		-	-	-
MLVSS (活性汚泥有機分)	%		-	-	-
汚泥含水率	%				
汚泥有機分	%				

施 設 名	計 器 名	メーカ	検 出 器	変 換 器	製造番号	備考	年
宮大内汚水処理場	流入流量計	愛知時計	TAV100V-30UE		Ser. 51704		2024
佐賀汚水処理場	流入流量計	愛知時計	TAV100V-30UE		Ser. 50858		2022
田野汚水処理場	流入流量計	アズビル/山武	NNK140Z-0050L80A-X2	MCG10C-MH2J-1B1X-X	-		-

佐賀污水处理場

大枠	分類				数量	機器点検(回)	機器点検 及び総合 点検(回)
消火器具	粉末 (ABC)	蓄圧			5	2	0
誘導灯及び誘導標識	誘導灯	地下 1 階	B 級		2	2	0
	誘導標識	避難口			4	2	0
配線	総合点検				1	0	1

宮大内污水处理場

大枠	分類				数量	自主点検(回)
消火器具	粉末 (ABC)	蓄圧			1	1
誘導灯及び誘導標識	誘導灯	1 階	C 級		1	1
	誘導灯	地下 1 階	C 級		1	1

田野污水处理場

大枠	分類				数量	自主点検(回)
消火器具	粉末 (ABC)	蓄圧			1	1

福知山東部農集排水エリア
農業集落排水事業 福知山

1	島田 1 号 (*)	51		101	
2	野間仁田 1 号(*)	52		102	
3	下地 1 号	53		103	
4	下地 2 号	54		104	
5	大内山田 1 号	55		105	
6	大内山田 2 号	56		106	
7	大内山田 3 号	57		107	
8	大内山田 4 号	58		108	
9	大内山田 5 号	59		109	
10	笹場 1 号	60		110	
11	笹場 2 号	61		111	
12	笹場 3 号	62		112	
13	笹場 4 号	63		113	
14	笹場 5 号	64		114	
15	口田野 1 号	65		115	
16	口田野 2 号	66		116	
17	口田野 3 号	67		117	
18	田野山田 1 号	68		118	
19	田野山田 2 号	69		119	
20	田野山田 3 号	70		120	
21	報恩寺 1 号	71		121	
22	報恩寺 2 号	72		122	
23	報恩寺 3 号	73		123	
24	報恩寺 4 号	74		124	
25	報恩寺 5 号	75		125	
26	報恩寺 6 号	76		126	
27	報恩寺 7 号	77		127	
28	報恩寺 8 号	78		128	
29	報恩寺 9 号	79		129	
30	報恩寺 10 号	80		130	
31	報恩寺 11 号	81		131	
32	報恩寺 12 号	82		132	
33	印内 1 号	83		133	
34	印内 2 号	84		134	
35	印内 3 号	85		135	
36	印内 4 号	86		136	
37	私市 1 号	87		137	
38	私市 2 号	88		138	
39	私市 3 号	89		139	
40	山野口 1 号	90		140	
41	山野口 2 号	91		141	
42	山野口 3 号	92		142	
43		93		143	
44		94		144	
45		95		145	
46		96		146	
47		97		147	
48		98		148	
49		99		149	
50		100		150	

※ 中六人部地区（宮大内）系統(1-9)・田野地区系統(10-20)・佐賀地区系統(21-42)

※ (*)はボックス型マンホール

マンホールポンプ設備 巡回点検記録表 設備点検 ・ 特殊点検

施 設 名	号 マンホールポンプ設備		
点 検 日	令和 年 月 日 () 天候		
号 数	1号	2号	3号
仕 様	Kw /	/ φ /	/ 台
ポ ン プ 型 式			
ポ ン プ 製 造 番 号			
吐 出 し 量 (定 格)	m3/min	m3/min	
ポ ン プ 点 検			
外 観	良 ・ 不良	良 ・ 不良	良 ・ 不良
異 常 音	有 ・ 無	有 ・ 無	有 ・ 無
振 動	有 ・ 無	有 ・ 無	有 ・ 無
電流値 定格 A	A (指示 A)	A (指示 A)	A (指示 A)
運 転 時 間 (h r)			
上 段 : 指 示 値 下 段 : 前 回 差 引			
減 水 確 認	良 ・ 不良	良 ・ 不良	良 ・ 不良
停 止 水 位 に よ る 自 動 停 止 確 認	良 ・ 不良		
フ ロ ー ト ス イ ッ チ 動 作 ・ 外 観	良 ・ 不良		
絶 縁 抵 抗 測 定	MΩ	MΩ	MΩ
着 脱 装 置	良 ・ 不良	良 ・ 不良	良 ・ 不良
逆 止 弁	良 ・ 不良	良 ・ 不良	良 ・ 不良
吊 り 下 げ チ ェ ー ン	良 ・ 不良	良 ・ 不良	良 ・ 不良
操 作 盤 点 検			
外 観	良 ・ 不良 ・ 不良箇所 ()		
回 転 灯 ・ 表 示 灯 等 確 認	良 ・ 不良 ・ 回転灯設置無 ・ 計器指示値		
回 転 灯 損 傷 内 部 水 滴 付 着	良 ・ 不良 ・ 設置無		
通 報 装 置 作 動 テ ス ト	良 ・ 不良 ・ 設置無		
漏 電 遮 断 機 作 動 テ ス ト	良 ・ 不良	良 ・ 不良	良 ・ 不良
3 E ト リ ッ プ 作 動 テ ス ト	良 ・ 不良	良 ・ 不良	良 ・ 不良
断 線 ・ ゆ る み ・ ヒ ュ ー ズ 切 れ の 有 無	有 ・ 無 ・ 取替部品 ()		
水 位 計 指 示 値 の 誤 差	有 (誤差) 無 ・ 設置無		
操 作 盤 内 清 掃 ほ か	/ 予備品 良 ・ 不足 (補充)		
マンホール槽への配線状況	良 ・ 不良		
そ の 他			
液位検出器の状況及び作動確認	良 ・ 不良 ・ 不良箇所 ()		
ス カ ム 堆 積	有 [/ 多 (清掃要) ・ 少 (観察)] ・ 無		
配 管 漏 水	有 ・ 無	有 ・ 無	有 ・ 無
ジ ョ イ ン ト 部 接 合 状 況	良 ・ 不良	良 ・ 不良	良 ・ 不良
マ ン ホ ー ル 蓋	良 ・ 不良	不良箇所 ()	
操 作 盤 自 動 ・ 施 錠 確 認	(氏名)		
備 考			
	別紙報告書等 (写真ほか) 有 ・ 無		
受 注 者 ・ 氏 名	⑩	⑩	⑩

※ 右上の「設備点検・特殊点検」は、該当する方に○をつけてください。

处理区名：福知山東部集落排水处理施設管理業務

令和〇年〇月末時点

[illegible]

実施回数集計

項 目	予定数量	実施数量	単位	差	備考
圧送管清掃	1	0	回	1	1回100m高圧洗浄
管路緊急対応(高圧洗浄：昼間)	1	0	回	1	
管路緊急対応(高圧洗浄：夜間)	0	0	回	0	
管路緊急対応(簡易作業：昼間)	1	0	回	1	
管路緊急対応(簡易作業：夜間)	1	0	回	1	
不明水調査	2	0	回	2	1回4時間
本管テレビカメラ	1	0	回	1	
取付け管テレビカメラ	1	0	回	1	
その他	0	0	回	0	

处理区名：福知山東部集落排水処理施設管理業務

令和〇年〇月末時点

[illegible]

実施回数・金額集計						
	予定回数	予定金額（税込）	実施回数	実施金額（税込）	回数差	金額差（税込）
汚水処理場施設修繕		120,000		0		120,000
マンホールポンプ施設修繕		4,230,000		0		4,230,000
公共汚水ます修繕	1	200,000	0	0	1	200,000
止水修繕	2	200,000	0	0	2	200,000
取付管修繕	1	350,000	0	0	1	350,000
本管簡易修繕	1	360,000	0	0	1	360,000
物品調達（薬品）		860,000		0		860,000
物品調達（機械電気部品）		40,000		0		40,000
その他		0		0		0
合 計		6,360,000		0		6,360,000

第5編 農集福知山西部地区下水道施設運転管理等業務

第1章 汚水処理施設管理業務

第1節 汚水処理施設運転・保守管理業務

1 対象施設

(1) 管理名称

①上豊富汚水処理場

②福知山北部汚水処理場

(2) 施設規模

別紙 1-2「処理施設規模」及び別紙 1-3「処理施設位置図」参照

2 日常点検

(1) 日数 毎日（土曜日、日曜日、祝日、年末年始、保守点検日及び受注者の定める休日を除く。但し、特別な事情がある場合は発注者と協議すること。）

(2) 内容 別紙 5-1「日常目視点検表」及び別紙 5-2「日常管理記録表」に基づき実施し、故障、異常があった場合には、適切な応急措置を行うと共に、発注者に連絡することとする。

3 保守点検

(1) 日数 毎週1回（但し、特別な事情がある場合は発注者と協議すること。）

(2) 内容 別紙 5-3「施設点検表」に基づき、施設の機器と水質について技術的な判断と管理を行うこととする。また、定期的に機器の保守を実施することとする。各月最終週における保守点検において、機器運転時間を別紙 5-4「機器運転時間集計表」により記録することとする。

4 放流水質の確保

日常点検時には、放流水質が基準値以内であり、安定した水質管理に努めることとする。

5 薬品類の管理

(1) 汚水処理に必要な薬品類は、常に使用状況と在庫数を薬品使用状況報告書に記録するとともに管理し、不足が無いように物品調達を行うこととする。

(2) 当該汚水処理施設で使用する薬品は、次のとおりである。

① 塩素滅菌剤（放流処理水用）

ア 外 観 円形扁平型錠剤（約 30mm φ × 約 13mm φ）

イ 有効成分 トリクロロイソシアヌル酸：99%

ウ 納 入 量 515kg（年間見込み量）

(3) 汚水処理に使用する薬品類が汚水処理の放流水質と合わない場合には、速やかに発注者に報告し、協議の上、新たな薬品類を使用することとする。

6 発生汚泥の管理

- (1) 汚水処理で発生する汚泥は、定期的又は臨機に必要と認められた場合は、汚泥槽の清掃として実施する。
- (2) 汚泥槽の清掃は、バキューム車で引抜き、福知山終末処理場へ搬入する。(汚泥等の運搬費用についても本業務に含むものとする。年間当りの汚泥発生量は上豊富汚水処理場 652m³、福知山北部汚水処理場 266m³を見込んでいる。)

7 簡易な故障修理

通常の勤務者が時間内でできる作業とし、外部より作業者を求めなくてもよい作業であり、特殊な機器・部品、または高度な専門技術を必要としない修理である。日常点検時には、放流水質が基準値以内であり、安定した水質管理に努めることとする。

8 緊急時の措置

故障等の連絡があった場合は、直ちに現場を確認し、適切な応急措置を行うと共に、発注者へ連絡することとする。

9 施設管理報告

本業務では、次に示す報告書類を提出すること。

(1) 月度報告事項

第1編 第1章 第13節 業務履行報告 3 月度報告 に記載の内容に準ずる。

(2) 年度報告事項

第1編 第1章 第13節 業務履行報告 4 年度報告 に記載の内容に準ずる。

(3) 適宜報告事項

第1編 第1章 第13節 業務履行報告 5 適宜報告 に記載の内容に準ずる。

10 疑義等

本仕様書に定めのない事項又は疑義が生じたときは、発注者、受注者の双方協議の上、定めるものとする。

第2節 水質検査業務

1 業務概要

福知山西部地区の農業集落排水処理施設からの放流水質や、処分される汚泥等の状況を定期的に測定し基準値内であることを確認するための試験を行うものである。

2 業務内容

- (1) 日常水質検査
- (2) 法定水質検査

3 共通事項

(1) 検査要領

- ア 採水及び採泥等をするときは、採取記録をすること。
- イ 採取した検体は、速やかに水質検査を行うこと。

ただし、速やかに検査が出来ない場合は、関係法令等の方法により措置を施すこと。

ウ 関係法令及び、水質測定方法手順書に基づき行うこと。

エ 測定機器毎の誤差をなくするため、同一測定機器を用いて行うこと。

オ 受注者の用意した測定機器を使用する場合は、測定機器のリストと測定機器の校正記録又は、それに相当するものを提出すること。

(2) 検査結果報告書等

ア 別紙 5-5「水質分析検査報告書」に施設ごとの採水、採泥記録を記載し、速やかに発注者に報告すること。

イ 各項目の検査結果が基準値の2分の1以上を超過した場合は、超過している項目を速やかに発注者に打合せ簿により報告すること。

ウ 測定値が基準値内でない、もしくは検査結果が基準値を超過している場合は、その結果を発注者に報告するとともに、その項目の再検査を実施すること。

エ 月度報告として、当該月の水質検査結果と次月の採取予定表を発注者に提出すること。

(3) 基準値超過

ア 本業務において、放流水質等の法定基準を達成できない場合は、次のとおり対応すること。

①未達成状況の確認及び報告

放流水質が法定基準を達成できていないことを把握した場合は、速やかに発注者に報告すること。

②改善計画書の提出

(ア) 改善計画書の提出を命じられてから 10 日以内に改善計画書を発注者に提出し、発注者の指導、監督に従って原因究明や改善対応をすること。

(イ) 原因究明、改善計画書の作成及び実施にかかる費用は、受注者が負担すること。

(ウ) 受注者は、自らの負担で行う計測において、改善対応の効果を確認し、改善の状況を発注者に報告すること。

(4) 月度報告書

月度報告書は、各施設の水質検査結果及び次月採取予定表を提出すること。

(5) 年度報告書

年度報告書では、水質検査結果及び週報告書のデータをそれぞれ、年ごとにまとめ、日平均値、最小値、最大値及び基準値を表記したものをエクセル形式データと共に提出すること。

(6) 維持管理年報資料の作成

第5編 農集福知山西部地区下水道施設運転管理等業務
第1章 汚水処理施設管理業務

発注者の指示に従い維持管理年報資料の作成を行うこと。

4 日常水質検査

(1) 汚水の水質検査

汚水の水質検査は、毎月1回実施する。

採取検体と年間の検体数は、次の表のとおりとする。

検体項目		1施設の年間採取検体		対象施設	年間 検体数
		流入水	放流水	施設数：2施設	
1	気温	12	12	上豊富汚水処理場 福知山北部汚水処理場	48
2	水温	12	12		48
3	pH	12	12		48
4	浮遊物質 (SS)	12	12		48
5	COD	12	12		48
6	BOD	12	12		48
7	ATU-BOD	12	12		48
8	全磷(T-P)	12	12		48
9	全窒素(T-N)	12	12		48
10	大腸菌	12	12		48
11	蒸発残留物	12	12		48

(2) 汚泥の性状検査

汚泥の性状検査は、毎月1回実施する。

採取検体と年間の検体数は、次の表のとおりとする。

検体項目		1施設の年間採取検体	対象施設	年間 検体数
		濃縮汚泥	施設数：2施設	
1	汚泥含水率(%)	12	上豊富汚水処理場	24
2	汚泥有機分(%)	12	福知山北部汚水処理場	24

検体項目		1施設の年間採取検体	対象施設	年間 検体数
------	--	------------	------	-----------

第5編 農集福知山西部地区下水道施設運転管理等業務
第1章 汚水処理施設管理業務

		活性汚泥	施設数：1施設	
1	MLSS(活性汚泥濃度 mg/l)	12	上豊富汚水処理場	12
2	MLVSS(活性汚泥有機 分%)	12		12

5 法定水質検査

法定水質検査は、四半期ごとに1回実施する。

採取検体と年間の検体数は、次の表のとおりとする。

法定水質検査は、検査機関から提出される計量証明を添付すること。

対象箇所年間回数 (四半期／回)

検体項目		1施設の年間採取検体	対象施設	年間 検体数
		放流水	施設数：2施設	
1	水温	4	上豊富汚水処理場	8
2	気温	4	福知山北部汚水処理場	8
3	pH	4		8
4	浮遊物質(SS)	4		8
5	COD	4		8
6	BOD	4		8
7	ATU - BOD	4		8
8	全燐 (T-P)	4		8
9	全窒素 (T-N)	4		8
10	大腸菌	4		8
11	蒸発残留物	4		8
12	鉱物油類	4		8
13	動植物油類	4		8
14	銅	4		8
15	亜鉛	4		8
16	溶解性鉄	4		8
17	溶解性マンガン	4		8
18	全クロム	4		8
19	カドミウム	4		8
20	鉛及びその化合物	4		8

第5編 農集福知山西部地区下水道施設運転管理等業務
第1章 汚水処理施設管理業務

21	六価クロム	4		8
22	砒素及びその化合物	4		8
23	全水銀	4		8
24	1,4 ジオキサン	4		8
25	ニッケル	4		8

第2章 処理施設附帯業務

第1節 共通事項

本章は、農集福知山西西部地区に関連する下水道施設等における計装機器点検、建物附帯設備法令点検等及び場内環境整備ほか各業務について記載する。なお、各節における業務については、実施後の月度報告において随時提出するものとする。

第2節 自家発電機用エンジン点検業務

1 業務概要

自家発電機用エンジンの機能を良好な状態に保つため、専門業者による整備点検を受けることとする。

2 業務要領

- (1) 上豊富污水处理場の自家発電機用エンジン点検整備を行う。
- (2) 履行期間内において対象の設備に重大なトラブルが発生した場合は、即時にその復旧に対応するものとする。
- (3) 点検整備を行うたびに速報として報告書を速やかに作成して提出するものとする。
- (4) 履行期間中に対象機器以外の機器故障などが発生した場合は、機器の早急な復旧を行うとともに、原因調査を迅速に行い報告すること。復旧に際して発生した費用は、その内容により協議して決定する。

3 点検対象機器及び整備内容

- (1) 本点検業務範囲には、対象機器の点検、調整及び、対象機器の一般的消耗品（メーカー推奨で交換する消耗品など）の交換も含むこととするため、準備及び不足分の補充も行うこと。

- (2) 点検対象機器及び整備計画

業務契約期間内に以下の整備点検を受けることとする。

場所	機関型式	台数	令和8年度	令和9年度	令和10年度
上豊富污水处理場	6CXL-DTA	1	D点検	-	-

4 整備点検報告

整備点検を完了した時は、専門業者から提出される報告書（写真含む）を提出すること。

第3節 計装機器保守点検業務

1 業務概要

農業福知山西西部地区下水道施設の計装設備を維持するため、設備の保守・点検調整を行う。点検を行う施設は別紙5-6「計装設備点検対象機器一覧表」のとおりとする。

2 業務内容

- (1) 流量計点検

ア 検出器外観目視点検

イ 変換器設定値確認

ウ 検出器絶縁抵抗測定

エ 模擬信号による指示値確認及びゼロ点・スパン調整

3 留意事項

(1) 本業務の履行に際して、点検対象となる機器について、事前に現場に確認を行い、対象機器の形式や設置場所などを理解したうえ業務を行うこと。

(2) 対象機器の点検に必要な消耗品類は、事前に準備しておくこと。

点検時に、部品などの劣化や損傷により機器等の障害または障害の発生するおそれがあるときは、速やかに報告するとともに障害原因の除去及び再発防止を講じること。なお、その除去及び再発防止に関し、別途費用が発生する場合は、その負担について発注者と協議を行い決定するものとする。

(3) 対象機器の一般的消耗品（メーカー推奨で通常1年間で交換する消耗品など）一式の補充も含むものとする。

第4節 消防設備点検業務

1 業務概要

消防法第17条の3の3の規定対象となる処理施設の消防用設備の機器点検、総合点検を行うものである。また、対象外となる処理施設については自主点検を行うものとする。

自主点検は、消火器の使用期限の確認及び誘導標識の損傷等を確認するものである。

2 業務内容

(1) 機器点検、総合点検を行う対象施設と点検回数は次のとおりとする。

①点検の時期 前期：機器点検+総合点検（8月～10月）

後期：機器点検（2月～3月）

②対象施設

上豊富污水处理場 機器点検2回／年

総合点検1回／年

(2) 自主点検を行う対象施設と点検回数は次のとおりとする。

福知山北部污水处理場 自主点検1回／年

3 対象消防設備

別紙5-7「消防設備点検対象機器一覧表」のとおり

4 業務要領

(1) 作業範囲及び実施回数等

ア 対象設備の法定点検を実施すること。

イ 対象設備に不時の異常・故障が発生した場合及び発注者の依頼があった場合は、受注者は技術者を派遣し対応すること。

ウ 消防法の点検基準に基づいて実施すること。

エ 対象設備の点検有資格者を派遣し、法定点検を実施するとともに「点検報告書」を作成すること。

オ 「点検結果報告書」は、3年ごとに所轄消防署へ提出するため、提出準備に協力すること。

カ 受注者は、下記の書類を提出すること。

ア) 業務工程表 (毎回点検実施10日前)

イ) 点検報告書 (前期分2部、後期分2部、自主点検分1部)

5 不具合事項対応

消防設備不具合事項において以下に示す項目以外については小修繕対応とする。

- (1) 消火器等の交換または薬剤詰め替え
- (2) 屋内消火栓設備等のホース耐圧試験
- (3) 故障・異常時の出動対応に要する経費
- (4) 大規模と判断される消防設備の修理または取替
- (5) その他発注者との協議により決定した事項

第5節 場内環境整備業務

1 業務概要

各施設等の管理敷地内及び周辺の一般清掃、草刈・樹木剪定等の作業により、景観を保つことを目的とする。

2 対象施設

- (1) 上豊富污水处理場
- (2) 福知山北部污水处理場

3 業務内容

- (1) 一般清掃、草刈・樹木剪定

各施設内及び周辺の環境整備作業により、景観を保つため適宜、草刈及び剪定等を行うこと。

- (2) 刈草及び剪定くず等の処分

①場内環境整備作業により発生した刈草及び剪定くず等の処分は、福知山市一般廃棄物処理基本計画の廃棄物の資源化拡大に基づいて、福知山バイオマスセンターに運搬して、再資源化として処分を行うこと。

②処分量は、対象施設で年間1t程度を見込んでいる。なお、受注者の創意工夫により、別途資源の有効活用を実施する場合は、発注者と協議を行い、承諾を得た再資源化を行うことができるものとする。

- (3) 処分報告

廃棄物計量施設で発行される計量証明(領収書)の空欄に「運搬物名」「会社名」「署名」

第5編 農集福知山西部地区下水道施設運転管理等業務
第2章 処理施設附帯業務

等を記入して月報でまとめて報告すること。

第3章 マンホールポンプ施設業務

第1節 共通事項

- 1 作業前には、「マンホールポンプ場台帳」、「福知山市下水道管路台帳管理システム」、「マンホールポンプ巡回点検記録表」等を活用して、業務を履行する。
- 2 公道上及び私有地内の作業となるため、作業前後には関係者への周知や連絡を行うこととする。
- 3 作業を行う際には、周辺の状況を確認して、歩行者や車両の通行に支障を及ぼさないように安全な作業とする。
- 4 作業後は、周辺も含めて片付け、清掃を行うこととする。
- 5 業務を実施した内容の集計については、一覧表に整理して月度報告に添付することとし、各年度の実施状況の把握を行うこととする。

第2節 マンホールポンプ設備点検業務

1 業務概要

マンホールポンプ設備を巡回方式で点検を行う。

2 対象箇所

別紙 5-8「マンホールポンプ設備点検業務対象箇所一覧表」のとおり箇所数は86箇所とする。

3 点検回数

設備点検は1箇所当たり年1回を基本とし、次の4項の作業を行うものとする。

ただし、故障表示が多発するなど特殊な事象がある箇所については、発注者との協議により、8項に示す特殊点検を実施できるものとする。

1年間で通常点検86回、特殊点検27回を見込んでいる。

4 点検作業（巡回点検記録表に基づく）※下記内容を基本とする。

（1）汚水ポンプ

- ア 外観の確認
- イ 運転状況（異音、振動、電流値、運転時間、減水）の確認
- ウ 自動起動、停止（水位）の確認
- エ 絶縁抵抗測定
- オ 着脱装置、逆止弁の機能確認
- カ 吊り下げチェーン（摩耗、損傷、腐食、変形）の確認

（2）現場操作盤

- ア 外観（汚損、損傷、腐食、変形）、過熱の確認
- イ 回転灯、表示灯、計器指示値の確認

※電流計は正常な送水時の値に赤色指針をあわせ、後から行った者が

異常か正常か判断出来るようにしておくこと。

ウ 各機器の作動テスト

エ 断線、ゆるみ、端子の腐食（スパーク痕など）、ヒューズの確認

オ マンホール槽への配線状況の確認

※電線管内のケーブルの撤去・入線が容易にできることを確認する。

カ 内部侵入物（雨水、小動物、昆虫、草等）の痕跡等確認

(3)計器収納ボックス

ア 外観（汚損、損傷、腐食、変形）、過熱の確認

イ 断線、ゆるみ

ウ 内部侵入物（雨水、小動物、昆虫、草等）の痕跡等確認

(4)液位検出器

ア レベルスイッチの設置位置及び作動確認

イ 投げ込み式水位計の水位検知状況及び作動確認

(5)マンホールポンプ槽内

スカム堆積状況等の確認

(6)配管

ア 漏水、ジョイント部の確認

イ 支持金物、支持材の確認

(7)マンホール蓋

ア コネクタ部の設置状況等の確認

イ 大蓋のみ（小蓋なし）の場合はその旨記載すること

ウ ゆがみ、ガタツキ、摩耗、腐食の有無

エ 大蓋、子蓋共に固着等が無く開閉が行えることを確認すること

(8)操作盤自動・施錠確認

(9)その他

ア 臨時点検

イ 簡易な故障修理

電気設備（表示灯、ヒューズ、リレー、タイマー等の取替）

機械設備（ポンプ、配管の詰まり除去・ポンプの据付直し）

ウ 設備の清掃

(10)道路上の作業場所の確保及び安全処置

車両及び歩行者の通行の妨げにならないよう、また作業が充分に行えるようバリケード等により作業場所を確保し、安全管理を行い事故防止に努めること。また、必要箇所に交通誘導警備員を配置すること。

・交通誘導警備員人員：N=2人/7箇所（想定）

※ 1日あたり7箇所を想定し1箇所あたりに換算。

5 取替用電気部品等

表示灯及びタイマー等の消耗品は本業務に含むものとする。

なお、液位検出器、水中ポンプ、回転灯、漏電遮断器、電磁接触器、コンデンサの取替作業は小修繕として取り扱う。

6 高所取り付け型制御盤の作業

高所設置の制御盤作業を実施する際は、高所作業車を使用するなど各種法令や規則に則った安全な作業をすること。

7 報告

(1) 点検作業報告は、別紙5-9「マンホールポンプ設備巡回点検記録表」に必要事項を記入して、作業月の報告をまとめて月度報告とする。

(2) 業務着手初年度の点検時には、点検箇所の全景、マンホール蓋据付状況、槽内状況等について撮影を行い、写真を添付することとする。

(3) 不具合箇所があった場合は、その箇所の写真を添付することとする。

8 特殊点検

(1) 特殊点検は、管理範囲内のマンホールポンプ場において、故障表示が多発することや、他のポンプ場に比べ運転時間が非常に長いポンプ場など特殊な事象があるポンプ場を対象に実施する点検とする。

(2) 特殊点検の作業内容の基本は記載しないが、特殊事象の解消を目的とした作業とする。実施する作業内容については、発注者と協議、調整を行うものとする。

(3) 特殊点検の報告は、7項と同様とする。ただし、点検内容に報告書様式が適さない場合や記入欄が不足する等の場合には、別途任意様式にて提出を行うこととする。

第3節 槽内清掃業務

1 業務概要

マンホールポンプ場の点検状況に応じて受注者の判断で清掃・浚渫を行う。

2 対象施設

清掃対象箇所は、別紙5-8の箇所で受注者の判断で実施する。年間6箇所を見込んでいる。

3 提出書類

マンホールポンプ槽内清掃箇所報告書及び作業写真(着手前と完了後の対比写真、作業中、安全管理、使用機材等作業内容の判別できるもの)

なお、清掃時に得た可能な限りのマンホールポンプ場の記録も提出する。

4 作業要領

(1) 道路上の作業場所の確保及び安全処置

車両及び歩行者の通行の妨げにならないよう、また作業が充分に行えるようバリケード等により作業場所を確保し、安全管理を行い事故防止に努めること。また、必要箇所に交通誘導警備員を配置すること。

・交通誘導警備員人員：N=2人/6箇所（想定）

※1日あたり6箇所を想定し1箇所あたりに換算。

(2) 槽内の液面

ポンプ槽内の液面を下げる場合、操作盤で手動運転を行い、液面を下げる。

(3) 槽内の洗浄

槽内の洗浄範囲としては、側壁、底面、ポンプ外面、レベルスイッチ、ケーブル、チェーン及びガイドパイプを洗浄する。

(4) 槽内堆積物の除去

槽内のし渣、沈砂及び汚泥を吸泥車等により除去する。

(5) ポンプの送水確認

手動運転にてポンプを起動させ水位が下がるのを確認し、自動運転に切り替える。

(6) 逆止弁開放点検

逆止弁への異物噛み込み等による送水不良の場合には開放点検を行い、機能を復旧させる。

(7) 後片付け

作業終了後は、マンホール蓋を閉じ、バリケード等を片付け、復旧する。また、マンホール周辺の状況を確認し、必要に応じて清掃も行う。

(8) 堆積物の処理

吸泥車等により除去した堆積物は、発注者と協議の上、指示された場所に搬入することとする。

第4章 管路施設業務

第1節 共通事項

- 1 作業前には「福知山市下水道管路台帳管理システム」等を活用し、周囲の下水道管路の管径・材質・土被り・流下方向、取付管延長、公共汚水ますの内径・材質等を確認し、本管を破損させることがないように注意すること。
- 2 水道管・ガス管等の地下埋設物について、事前に調整・確認を十分に行うこと。
- 3 作業に伴う切削等による破片・ごみ等については必ず回収し、周辺清掃に努めること。
- 4 作業完了後は、水を流して流下状況を必ず確認すること。
- 5 清掃及び洗浄等のために吸引した汚水については、下流側最寄りのマンホールまたは中継ポンプ場へ投入すること。ただし、閉塞の原因となる堆積物等ものを含む場合は、発注者と協議の上、指示された場所に搬入することとする。
- 6 公道上の作業においては、受注者により道路管理者及び福知山警察署への届出を行うこと。
- 7 業務を実施した内容の集計については、別紙 5-10「管路施設業務集計表」に整理し月例の報告書に添付することとし、各年度の実施状況の把握を行うこと。
- 8 本業務で実施した内容のうち、管路施設の維持管理上、必要な情報については、「福知山市下水道管路台帳管理システム」に登録を行うこと。登録する内容については、発注者と受注者との協議による。
- 9 点検や調査により発見された管路の破損、その他異常のうち、道路陥没や管路閉塞等の原因となる重大なものや不明水の異常流入等を確認した場合には、直ちに発注者に報告すること。
- 10 点検や調査により発見された管路施設の破損や不明水等の流入、その他異常のうち、第5編第5章 小修繕等業務で修繕可能なものについては、発注者との協議の上、本業務内で修繕対応を行うこと。

第2節 圧送管清掃業務

1 業務内容

高压洗浄車等の機材を使用し、圧送管路内の清掃を実施する。

2 業務場所

業務範囲内圧送管において、維持管理上支障を及ぼす恐れのある箇所を受注者により選定し、発注者に承諾を受けた箇所とする。

3 特記事項

- (1) 発注者の承諾を受けた箇所の圧送管内部（マンホールポンプ含む）の清掃等を実

施する。作業延長は約 100m とし、1 箇所作業で 100m に達しない場合は、他の場所で達成すること。

ただし、発注者の判断により 3 割を超える作業延長の増減を行う場合には、発注者と受注者で協議するものとする。

- (2) 車両及び歩行者の通行の妨げにならないよう、また作業が充分に行えるようバリケード等により作業場所を確保し、安全管理を行い事故防止に努めること。また、必要箇所に交通誘導警備員を配置すること。

・交通誘導警備員人員：N=2 人/日(想定)

- (3) 清掃業務の実施にあたり、高圧洗浄車以外の方法が有効な箇所については高圧洗浄以外の方法による清掃も可能とする。ただし高圧洗浄車で施工した場合の費用と同等となるように延長換算した延長を作業延長とすることとし、実際の清掃延長と延長換算した清掃延長を換算根拠を併せて報告すること。

4 報告

- (1) 圧送管清掃を行った後には、速やかに圧送管清掃報告を行い、月例の業務完了報告時に、圧送管清掃報告書・作業写真を提出すること。
- (2) 作業写真は、着手前と完了後の対比、作業中、安全管理、使用資機材、作業内容等が判別できるものを添付すること。

第3節 管路緊急対応業務

1 業務内容

下水道本管及び公共汚水ます・取付管内での障害発生連絡を受けた、または発見した場合、直ちに現場確認を行い、障害の特定及び機能回復を図る。

2 業務実施時間等

24 時間体制とする。

3 特記事項

- (1) 車両及び歩行者の通行の妨げにならないよう、また作業が充分に行えるようバリケード等により作業場所を確保し、安全管理を行い事故防止に努めること。また、必要箇所に交通誘導警備員を配置すること。

・交通誘導警備員：N=1 人/回(高圧洗浄)※2 人×0.5 日(想定)

・交通誘導警備員：N=1 人/回(汚泥吸引)※2 人×0.5 日(想定)

対応想定件数はそれぞれ高圧洗浄 1 回とし、汚泥引抜 1 回とし、そのうち、簡易作業を伴う件数は日中 1 回、時間外深夜 1 回である。

- (2) 復旧作業において市民への影響が大きいと判断される場合は、監視室に連絡し、発注者の承諾を得た後、作業を実施すること。
- (3) 管路施設等から汚水が溢れた場合には、現場周辺の洗浄及び消毒作業を実施する

こと。

(4) 業務に際し不明な点等が発生した場合には、発注者と協議すること。

4 報告

(1) 管路緊急対応を行った後には、速やかに緊急対応報告を行い、月例の業務完了報告時に改めて、緊急対応報告書・作業写真を提出すること

(2) 作業写真は、着手前と完了後の対比、作業中、安全管理、使用資機材、作業内容等が判別できるよう整理すること。

第4節 不明水調査業務（マンホール内部調査）

1 業務内容

下水道管路に流入する不明水を発見するため、降雨時または降雨後に管路内部・マンホール内部を目視により確認する。

2 業務場所

業務範囲内において、維持管理上支障を及ぼす恐れのある箇所を受注者により選定し、発注者に承諾を受けた箇所とする。その他、発注者が異常の恐れがあると判断し、指示した箇所を含むものとする。

3 特記事項

(1) 不明水調査は、1回4時間（0.5日）、年2回実施するものとする。

ただし、発注者の判断により調査日数を追加する場合は、発注者と受注者で協議するものとする。

(2) 作業は、指定された地区のマンホール蓋を開け、マンホール内部の状況を目視し、下記（3）から（6）の内容等を確認する。

また確認した内容が分かるように写真撮影を行い整理すること。

(3) 躯体と管路のジョイント部等からの不明水の流入を確認する。

(4) 管路・インバート部を点検し、流量・流下状況等の異常の有無を確認する。

(5) マンホール蓋開閉時にマンホール蓋の錆等の劣化状況を点検・確認し、全景、表面、裏面の写真を撮影すること。

(6) その他不明水の原因となる兆候、破損等がないかを確認する。

(7) 調査にあたり事前にマンホール内の洗浄が必要となった場合は、適宜実施すること。

4 報告

(1) 不明水調査業務を行った後には、月例の業務完了報告時に、調査報告書・業務写真を提出すること。

(2) 報告書には、調査箇所を「福知山市下水道管路台帳管理システム」の図面に記入したものを添付すること。

第5節 本管テレビカメラ調査業務

1 業務内容

下水道管路に流入する不明水や管路の破損等を発見するため、本管用テレビカメラにより、下水道管路内を確認する。

2 業務場所

業務範囲内において、維持管理上支障を及ぼす恐れのある箇所を受注者により選定し、発注者に承諾を受けた箇所とする。その他、発注者が異常の恐れがあると判断し、指示した箇所を含むものとする。

3 特記事項

(1) 車両及び歩行者の通行の妨げにならないよう、また作業が充分に行えるようバリケード等により作業場所を確保し、安全管理を行い事故防止に努めること。また、必要箇所に交通誘導警備員を配置すること。

・交通誘導警備員：N=2人/回（想定）

・調査は、1回2時間（0.25日）、年1回を見込んでいる。

ただし、発注者の判断により調査箇所を追加する場合は、発注者と受注者で協議するものとする。

(2) 調査は、「下水道維持管理指針 実務編（公益社団法人 日本下水道協会）」の内容を準用し実施することとするが、調査記録等は異常の有無が判断できる程度に簡素化できるものとする。

(3) 不明水の発見を目的にした調査については、降雨時または降雨後の流入の増加が見込まれる時期に実施すること。

(4) 調査にあたり事前に管内の洗浄が必要となった場合は、適宜実施すること。

4 報告

(1) 業務を行った後には、月例の業務完了報告時に、調査報告書・業務写真を提出すること。

(2) 報告書には、調査箇所を「福知山市下水道管路台帳管理システム」の図面に記入したものを添付すること。

第6節 取付け管テレビカメラ調査業務

1 業務内容

取付け管テレビカメラを公共ますから取付け管に挿入し、本管接合部に向けて移動させ、取付管の異常の有無を、地上の調査員が目視により調査する。公共ますは地上から目視により点検する。

2 業務場所

維持管理上支障を及ぼす恐れのある箇所を受注者により選定し、発注者に承諾を

受けた箇所とする。その他、発注者が異常の恐れがあると判断し、指示した箇所を含むものとする。

3 特記事項

(1) 車両及び歩行者の通行の妨げにならないよう、また作業が充分に行えるようバリケード等により作業場所を確保し、安全管理を行い事故防止に努めること。また、必要箇所に交通誘導警備員を配置すること。

・交通誘導警備員： $N=0.5$ 人/回※2人×2時間(0.25日)(想定)

調査想定件数は1回である。

(2) 洗浄のために吸引した汚水については、下流側最寄りのマンホールまたは中継ポンプ場へ投入すること。ただし、閉塞の原因となるものを含む場合は、発注者と協議の上、指示された場所に搬入することとする。

(3) 業務に際し不明な点等が発生した場合には、発注者と協議すること。

(4) 調査にあたり事前に管内の洗浄が必要となった場合は、適宜実施すること。

4 報告

(1) 対応を行った後には、月例の業務完了報告時に、調査報告書・業務写真を提出すること。

(2) 報告書には、調査箇所を「福知山市下水道管路台帳管理システム」の図面に記入したものを添付すること。

第5章 小修繕等業務

第1節 共通事項

1 業務概要

- (1) 本業務委託にかかる対象施設における設備等の機能を正常に発揮、維持できるよう適切に修繕及び物品調達等を行うものとする。詳細な概要は次節以降のとおりとする。
- (2) 受注者が負担を負う修繕等は、次節以降に示す1件あたりの費用未満のものを原則とする。ただし受注者が行う修繕等が、1件あたりの費用を超える場合や次節以降に示す各年度の予定件数や上限額を超える場合であっても、年度末までの委託業務費用内で、可能と判断される場合は、発注者との協議のうえ、実施してよいものとする。なお、年度末までの委託業務費用内を超過する恐れがある等で本業務内での実施が困難な場合は、発注者との協議により別途契約とする場合がある。

2 報告

- (1) 修繕等を実施した場合は、作業内容が確認できる実施報告書（写真帳含む）及び修繕等に要した費用の分かる内訳書について、月例の報告書に添付し報告することとする。ただし発注者が緊急を要するものとして提出を求めたものについては、月例の報告書とは別に報告することとする。
- (2) 修繕に要した費用の集計については、別紙 5-11「小修繕等業務集計表」に整理し月例の報告書に添付することとし、各年度の修繕費用の把握を行うこと。この集計様式については、全小修繕項目を集約した報告様式でも可能とする。
- (3) 修繕内容は、「福知山市下水道管路台帳管理システム」に入力することとする。

第2節 污水处理施設修繕

1 業務概要

対象施設における設備等の機能を正常に発揮、維持できるよう適切に修繕を行うものとする。

2 対象施設

- (1) 上豊富污水处理場
- (2) 福知山北部污水处理場
- (3) 口榎原1号中継ポンプ場

3 各年度の上限額

污水处理施設修繕における各年度の累計上限額は、157万円（消費税及び地方消費税含む）とする。

ただし、遅行状況により限度額を超える恐れがある場合は、下記の特記事項によるものとする。

4 提出書類

- (1) 実施前

・修繕実施打合せ簿 ・修繕見積書等（押印省略）

（２）実施後（月度報告時）

・修繕施工写真 ・修繕費用集計表（年度累計様式） ・報告書等

5 特記事項

- （１）受注者は、対象施設の施設故障状況一覧表に優先順位を受注者と協議の上、決定し修繕を実施することとする。点検等により、施設状況に変動が見られた場合には、適宜施設故障状況一覧表について変更を行い発注者と協議を行うこととする。
- （２）受注者が負担を行う修繕は、１件あたりの費用が３０万円未満（消費税及び地方消費税を含む）のものとする。ただし、修繕内容や機器等の性能上、１件あたりの費用が３０万円以上（消費税及び地方消費税含む）となる場合は、発注者と協議して決定することとする。
- （３）修繕に使用する部品等は、仕様変更による性能低下とならないよう実施することとする。
- （４）受注者は、修繕の実施にあたって、発注者の承諾を得ることとする。
- （５）受注者は、設備修繕の結果について報告書に記録を行わなければならない。
- （６）（５）の記録に対して、発注者から提出を求めた場合は速やかに提出することとする。
- （７）当初において小修繕で実施中に想定外の異常が発見され、大幅に費用が増加すると判断された際には、発注者と協議するものとする。
- （８）年度内において、修繕件数が想定を大幅に超え、小修繕費用が不足すると予想される場合は、発注者と協議するものとする。
- （９）かし担保期間は、修繕の完了した日から１年間とする。

第３節 マンホールポンプ施設修繕

1 業務概要

住居などから流入する汚水を次の施設に送水する機能に異常等が発生した場合には、速やかに対象施設の機能回復が行い、対象施設の機能を正常に発揮、維持できるよう適切に修繕を行うものとする。

2 対象施設

当該処理区域のマンホールポンプ施設とする。

3 各年度の上限額

マンホールポンプ施設修繕における各年度の累計上限額は、１１８万円（消費税及び地方消費税含む）とする。

ただし、履行状況により限度額を超える恐れがある場合は、下記の特記事項によるものとする。

4 提出書類

(1) 実施前

・修繕実施打合せ簿 ・修繕見積書等（押印省略）

(2) 実施後（月度報告時）

・修繕施工写真 ・修繕費用集計表（年度累計様式） ・報告書等

5 特記事項

- (1) 受注者は、対象施設の施設故障状況一覧表に優先順位を受注者と協議の上、決定し修繕を実施することとする。点検等により、施設状況に変動が見られた場合には、適宜施設故障状況一覧表について変更を行い発注者と協議を行うこととする。
- (2) 受注者が負担を行う修繕は、1件あたりの費用が30万円未満（消費税及び地方消費税を含む）のものとする。ただし、修繕機器等の性能上、1件あたりの費用が30万円以上（消費税及び地方消費税含む）となる場合は、発注者と協議して決定することとする。
- (3) 修繕に使用する部品等は、仕様変更による性能低下とならないよう実施すること。
- (4) 受注者は、修繕の実施にあたって発注者の承諾を得ること。
- (5) 受注者は、設備修繕の結果について報告書に記録を行わなければならない。
また、その記録に対して、発注者から提出を求めた場合は速やかに提出すること。
- (6) 当初において小修繕で実施中に想定外の異常が発見され、大幅に費用がかさむと判断された際には、発注者と協議するものとする。
- (7) 年度内において、修繕件数が想定を大幅に超え、小修繕費用が不足する場合は発注者と協議するものとする。
- (8) マンホールポンプ場に設置のフロートスイッチについて、水銀含有する機器を水銀含有しない機器へ取替を行う。
- (9) 絶縁抵抗の低下しているポンプについて、取替を行う。1台マンホールポンプ場及び予備機を含むすべてのポンプにおいて絶縁抵抗が低下しているマンホールポンプ場を優先し取替えるものとするが、詳細な取替計画については、各年度当初において発注者と協議により決定するものとする。
- (10) かし担保期間は、修繕の完了した日から1年間とする。

第4節 公共汚水ます修繕

1 業務概要

下水道管路に接続している公共汚水ますに、破損や不具合が発生している場合は、下水道管路の接続機能が正常に維持できるよう適切に修繕を行う。また、修繕の施工に際しては、発注者の承諾を得てから実施すること。

2 対象箇所

当該処理区域の公共汚水ますとする。

3 各年度の予定件数及び限度額

公共汚水ます修繕の費用における各年度の累計上限額は、19万円（消費税及び地方消費税を含む）とする。修繕想定件数は、1件である。

ただし、履行状況により限度額を超える恐れがある場合は、下記の特記事項によるものとする。

4 提出書類

（1）実施前

・修繕実施打合せ簿 ・修繕見積書等（押印省略）

（2）実施後（月度報告時）

・修繕施工写真 ・修繕費用集計表（年度累計様式） ・報告書等

5 特記事項

（1）車両及び歩行者の通行の妨げにならないよう、また作業が十分に行えるようバリケード等により作業場所を確保し、安全管理を行い事故防止に努めること。また、必要箇所に交通誘導警備員を配置すること。

・交通誘導警備員：N=2人/件（想定）

（2）使用する部材は、福知山市下水道用標準構造図の仕様を満足したもの、または、下水道協会及び下水道推進機構の認定品を基本とする。

（3）作業の前日までに、自治会や作業場所周辺住民の理解を得ること。

（4）当初の修繕予定件数と実績の差が大きい場合、その他修繕内容で疑義が生じた場合には、発注者と受注者で協議するものとする。

（5）修繕内容の確認が困難な場合には、掘削を求めることがある。

第5節 止水修繕

1 業務概要

下水道管路及びマンホール本体における漏水や浸入水を伴う不良箇所の修繕を行う。工法においては、状況に応じた適切な方法を選択し止水を行う。この修繕により、下水道管路の機能を正常に維持できるよう適切に修繕を行うこととする。また、修繕の施工に際しては、発注者の承諾を得てから実施することとする。

2 対象箇所

当該処理区域の管路施設とする。

3 各年度の予定件数等

止水修繕の費用における各年度の累計上限額は、20万円（消費税及び地方消費税含む）とする。修繕想定件数は、2件である。

ただし、施工条件等によりこの費用を超える恐れがある場合は、下記の特記事項によるものとする。

4 提出書類

(1) 実施前

・修繕実施打合せ簿 ・修繕見積書等（押印省略）

(2) 実施後（月度報告時）

・修繕施工写真 ・修繕費用集計表（年度累計様式） ・報告書等

5 特記事項

(1) 車両及び歩行者の通行の妨げにならないよう、また作業が十分に行えるようバリケード等により作業場所を確保し、安全管理を行い事故防止に努めること。また、必要箇所に交通誘導警備員を配置すること。

・交通誘導警備員：N=2人/5件（想定）

※1日あたり5件を想定し1件あたりに換算。

(2) 使用する部材は、福知山市下水道用標準構造図の仕様を満足したもの、または、下水道協会及び下水道推進機構の認定品を基本とする。

(3) 作業の前日までに、自治会や作業場所周辺住民の理解を得ること。

(4) 当初の修繕予定件数と実績の差が大きい場合、その他修繕内容で疑義が生じた場合には、発注者と受注者で協議するものとする。

(5) 修繕内容の確認が困難な場合には、掘削を求めることがある。

第6節 取付管修繕

1 業務概要

下水道管路に接続している取付管に、破損や不具合が発生している場合は、下水道管路への接続機能が正常に維持できるよう適切に修繕を行うこととする。

また、修繕の施工に際しては、発注者の承諾を得てから実施することとする。

2 対象箇所

当該処理区域の取付管とする。

3 各年度の予定件数及び限度額

取付管修繕の費用における各年度の累計上限額は、35万円（消費税及び地方消費税を含む）とする。修繕予定件数は1件である。

ただし、履行状況により限度額を超える恐れがある場合は、下記の特記事項によるものとする。

4 提出書類

(1) 実施前

・修繕実施打合せ簿 ・修繕見積書等（押印省略）

(2) 実施後（月度報告時）

・修繕施工写真 ・修繕費用集計表（年度累計様式） ・報告書等

5 特記事項

(1) 車両及び歩行者の通行の妨げにならないよう、また作業が十分に行えるようバリケード等により作業場所を確保し、安全管理を行い事故防止に努めること。また、必要箇所に交通誘導警備員を配置すること。

・交通誘導警備員：N=2人/件（想定）

(2) 使用する部材は、福知山市下水道用標準構造図の仕様を満足したもの、または、下水道協会及び下水道推進機構の認定品を基本とする。

(3) 作業の前日までに、自治会や作業場所周辺住民の理解を得ること。

(4) 当初の修繕予定件数と実績の差が大きい場合、その他修繕内容で疑義が生じた場合には、発注者と受注者で協議するものとする。

(5) 修繕内容の確認が困難な場合には、掘削を求めることがある。

第7節 本管簡易修繕

1 業務概要

下水道本管に、破損や不具合が発生している場合は、本管路の機能が正常に維持できるよう適切に修繕を行う。

また、修繕の施工に際しては、発注者の承諾を得てから実施すること。

2 対象箇所

当該処理区域の下水道本管とする。

3 各年度の予定件数及び限度額

本管簡易修繕の費用における各年度の累計上限額は、37万円（消費税及び地方消費税を含む）とする。簡易修繕予定件数は1件である。

ただし、履行状況により限度額を超える恐れがある場合は、下記の特記事項によるものとする。

4 提出書類

(1) 実施前

・修繕実施打合せ簿 ・修繕見積書等（押印省略）

(2) 実施後（月度報告時）

・修繕施工写真 ・修繕費用集計表（年度累計様式） ・報告書等

5 特記事項

(1) 車両及び歩行者の通行の妨げにならないよう、また作業が十分に行えるようバリケード等により作業場所を確保し、安全管理を行い事故防止に努めること。また、必要箇所に交通誘導警備員を廃止すること。

・交通誘導警備員：N=2人/件（想定）

- （2）使用する部材は、福知山市下水道用標準構造図の仕様を満足したもの、または、下水道協会及び下水道推進機構の認定品を基本とする。
- （3）作業の前日までに、自治会や作業場所周辺住民の理解を得ること。
- （4）当初の修繕予定件数と実績の差が大きい場合、その他修繕内容で疑義が生じた場合には、発注者と受注者で協議するものとする。
- （5）修繕内容の確認が困難な場合には、掘削を求めることがある。

第8節 物品調達

1 業務概要

本業務は、対象となる施設において、放流水質の基準値内の放流水を維持ができ、機器類の安定した稼働を継続できるよう、適正な物品類の調達を行うものである。

また、処理施設維持管理業務の履行に際して、適正な在庫管理を行うこととする。

2 調達する物品区分

調達する物品について、区分概要を次に記載し、各調達物品の内容を下記の表に示す。

（1）薬品類及び機械・電気部品類

薬品類は、污水处理施設からの放流水質の確保や保全、発生する汚泥の安定処理に必要なとなる薬品類とする。

機械・電気部品類は、異常または故障が発生した場合に、所有しているその部品類を使用して復旧できる部品類とする。

（2）維持管理消耗品

維持管理消耗品は、作業に必要なとなる燃料費、機器類の保守管理に係る油脂類、現場整備に係る清掃用具や現場作業者の衛生用品等のような作業現場業務を履行するために必要とする消耗品とする。

（3）その他消耗品

その他消耗品は、業務履行報告に関する事務用品費用等の一般的な消耗品とする。

表 調達物品の区分と例

薬品類	・放流水塩素消毒用薬品 ・処理水等pH調整用薬品
機械・電気部品類	・簡易な補修に関する機械及び電気部品
維持管理消耗品	・燃料費（作業用（草刈り機含む）、車両用） ・潤滑油類費（交換及び補充用のオイル・グリース等） ・塗装費（軽微な部分補修用塗料）

	<ul style="list-style-type: none"> ・整備費用（掃除道具、ウエス、洗浄油類） ・補修用材料（ボルト、ナット、パッキン、ヒューズ、ランプ等一般汎用品の範囲内とする。） ・水質測定用薬剤 ・衛生用品（石鹼、消毒液、救急用薬品） ・上記に該当しないものであっても本業務を遂行するために、一般的に当然必要であると認められる消耗品
その他消耗品	<ul style="list-style-type: none"> ・報告記録用紙費（日報、月報、年報、FAX用紙等） ・その他日用品、事務用品等 ・上記に該当しないものであっても本業務を遂行するために、一般的に当然必要であると認められる物品

3 各年度の上限額

（1）薬品類

薬品類の各年度の購入累計上限額は、87万円（消費税及び地方消費税含む）とする。

想定した使用量に対して増減が激しい場合は、発注者と調達費用に関する協議を行い、決定するものとする。

（2）機械・電気部品類

機械・電気部品類の各年度の購入累計上限額は、52万円（消費税及び地方消費税含む）とする。

調達する部品類の単価は、5万円未満（消費税及び地方消費税含む）とするが、部品の性能上、単価が5万円以上（消費税及び地方消費税を含む）の部品類は、発注者と協議の上、調達方法を決定する。

4 調達物品の管理

（1）受注者は、処理場等の管理運転に要する薬剤等及び潤滑油脂類、消耗品等の調達及び管理を行わなければならない。

（2）物品管理者及び薬品類の管理者を選任し、保管、取扱等には十分注意して適正な管理を行うこととする。

（3）物品の調達管理は、適正な品質及び規格の物品等を調達し、施設等の運転、耐用年数等に影響を与えないようにすることとする。

（4）常に在庫数量等を把握して適宜適切に調達し、在庫不足、品質低下等による施設運転等への支障を与えないようにすることとする。

（5）薬品類については、品質証明書等の書類を保管し、発注者から提出を求められた場合は、写し等を提出することとする。

(6) 調達する薬品類の化学物質等安全データシート(MSDS)は、常に最新のものを常備し、保管することとする。

5 記録及び報告

受注者は、納入品及び数量(使用量含む)の記録を行い、定期的にその記録の報告を行うこととする。

また、その記録に対して、発注者の求めがあった場合は速やかに提出することとする。

6 その他

物品調達の実施にあたっては、地元経済の発展のため、地元企業から優先して購入することをお願いする。

その他の記載なき事項については、発注者と受注者の協議の上、決定するものとする。

処理場名

令和 年 月 日

点検日	1日	2日	3日	4日	5日	6日	7日	8日	9日	10日	11日	12日	13日	14日	15日	16日	17日	18日	19日	20日	21日	22日	23日	24日	25日	26日	27日	28日	29日	30日	31日
曜 日																															
天 候																															
気 温																															
表示ランプ																															
悪臭・異常音																															
各槽内目視																															
機器目視																															
排水流入水路																															
スクリーン残渣処分																															
消毒薬剤残量																															
窓・扉・照明																															
工具・備品の整頓																															
戸締まり及び施錠																															
敷地内危険・異常箇所																															
敷地内清掃・除草																															
敷地内植木の散水																															
保守点検があるとき○																															
点検者氏名																															
不良 (作業) 箇所																															
不良 (作業) 内容																															
処置・対応内容																															
処置日																															
備 考																															

*記載方法：良→○、不良→× 不良内容を備考欄に記載すること。また、作業等について特記事項を記載。

処理場			令和			年			月分			備考						
日	流入量 m³	pH		透視度		水温		残留塩素 mg/l	滅菌剤 (k g)		汚泥引抜量 m³	水道		動力電気		電灯電気		
		流入	放流	流入	放流	流入	放流		入荷量	使用量		表示値	使用量	表示値	使用量	表示値	使用量	
1																		
2																		
3																		
4																		
5																		
6																		
7																		
8																		
9																		
10																		
11																		
12																		
13																		
14																		
15																		
16																		
17																		
18																		
19																		
20																		
21																		
22																		
23																		
24																		
25																		
26																		
27																		
28																		
29																		
30																		
31																		
平均																		
最大																		
最小																		
計																		
累計																		

特記事項

機器点検表

施設名	西部	上豊富	污水处理場	点検者			検 印		
施設規模	人 m ³ /日			点検年月日 年 月 日			天 候		
型 式	OD型 系列			作業時間 : ~ :			気 温	℃	
月 日	/	/	/	/	/	/	/	計	平均
流入 水量	m ³	m ³	m ³	m ³	m ³	m ³	m ³	m ³	m ³ /日
機 器 類 の 点 検									
機器名称	NO.	定格電流値	電流計指針値	現場測定器	絶縁抵抗	異常の有無	備 考		
		(A)	(A)	指示値(A)	測定値(MΩ)				
口榎原中継ポンプ場	NO.1					無・有			
	NO.2					無・有			
自動荒目スクリーン						無・有			
破碎機						無・有			
流量調整ポンプ	NO.1					無・有			
	NO.2					無・有			
	NO.3					無・有			
水中攪拌ポンプ	NO.1					無・有			
	NO.2					無・有			
	NO.3					無・有			
	NO.4					無・有			
自動微細目スクリーン	NO.1					無・有			
	NO.2					無・有			
ばっ気攪拌装置	NO.1					無・有			
	NO.2					無・有			
污泥掻寄機	NO.1					無・有			
沈殿槽污泥引抜ポンプ	NO.1					無・有			
	NO.2					無・有			
	NO.3					無・有			
スカムポンプ	NO.1					無・有			
ばっ気沈砂槽用ブロワ	NO.1					無・有			
エアリフト用ブロワ	NO.1					無・有			
	NO.2					無・有			
污泥貯留槽用ブロワ	NO.1					無・有			
し渣脱水機	NO.1					無・有			
換気ファン関係	NO.1					無・有			
	NO.2					無・有			
床排水ポンプ	NO.1					無・有			
計 装 機 器 の 点 検									
計装機器	計器指示値	現場測定値	センサー清掃の有無	校正の有無	備 考				
					(現場測定器の仕様、次回指示事項等)				
流量計				無・有					
	OD槽								
水位計			無・有	無・有					
中継ポンプ水位計			無・有	無・有					
DO計			無・有	無・有					
MLSS計			無・有	無・有					

西部地区

上豊富污水处理場(2)

令和 年 月 日

各単位装置の点検			
単位装置	点検事項	点検結果	備考(機器の設定等)
口榎原中継ポンプ場	スカム、発泡の状況	少・中・多	
	異常水位	無・有	
	水位計の作動状況	良・不良・調整	
	流量調整ポンプの作動状況	良・不良・調整	
	流入口異物状況	少・中・多(内容)	
自動荒目スクリーン	し渣の量	少・中・多(1)	
	し渣の掻き上げ状況	良・不良・調整	
ばっ気沈砂槽	ばっ気攪拌状況	良・不良・調整	
	臭気、スカムの状況	無・有 (少・中・多)	
	沈砂排出ポンプの作動状況	良・不良・調整	
	沈砂槽沈砂量	少・中・多(1)	
破砕機	異常音	無・有・要補修	
流量調整槽	スカム、発泡の状況	少・中・多	
	異常水位	無・有	
	水位計の作動状況	良・不良・調整	
	流量調整ポンプの作動状況	良・不良・調整	
	水中攪拌ポンプの攪拌状況	良・不良・調整	
スカム槽	スカムの有無	無・有	
	異常水位の痕跡	無・有	
自動微細目スクリーン	し渣の量	少・中・多(1)	
	し渣の掻き上げ状況	良・不良・調整	
汚水計量槽	スカム、汚泥の堆積状況	少・中・多、除去	
	汚水の色相と異常臭	色相 無・有	
	三角堰の越流量	H=	
OD槽	色相・臭気の異常、異常水位	、無・有、無・有	
	スカム・発泡の状況と厚さ	無・有 cm	
	ばっ気攪拌装置の運転状況 1	良・不良・調整	
	ばっ気攪拌装置の運転状況 2	良・不良・調整	
	周波数設定 (高速設定)	HZ	
	周波数設定 (低速設定)	HZ	
	SV30	cm	
	活性汚泥濃度の調整	不要・要(高い・低い)	
沈殿槽	スカム、汚泥の堆積状況	無・少量・多量	
	固液分離の状況	良好・不良	
	汚泥引抜ポンプの作動状況	良・不良・調整	
	返送汚泥引抜ポンプの作動状況	稼動 分、回数 回	
	余剰汚泥引抜ポンプの作動状況	稼動 分、回数 回	
	処理水の越流状況	良・不良・調整	
消毒槽	消毒状況	良・不良・調整	
	消毒剤の残量	少・中・多(補充 kg)	
汚泥濃縮槽	スカムの状況	少・中・多	汚泥引抜ポンプ
	汚泥界面高さ	スラブ上から cm	作動時刻、時間
	汚泥引抜ポンプの作動状況	良・不良・調整	(、 分/回)
汚泥貯留槽	臭気、ガスの発生状況	少・中・多	
	散気装置の目詰まり	無・有・調整	散気装置
	貯留汚泥量	スラブ上から cm	作動時刻、時間
	汚泥の系外搬出	要・不要	(、 分/回)

水質試験

令和 年 月 日

検査箇所	検 査 項 目									
	外観	水温	透視度	色相	臭気	DO	pH	SV30	MLSS	残留塩素
流入水		℃	cm			※		※	※	※
流量調整槽		℃	cm			mg/ℓ		※	※	※
OD槽		℃	※			mg/ℓ		%	mg/ℓ	※
沈殿槽		※	cm			※		※	※	※
消毒槽		※	※			※	※	※	※	※
汚泥濃縮槽 脱離液		※	cm	※	※	※	※	※	※	※
放流水		℃	cm			※		※	※	mg/ℓ

機器点検表

施設名	西部 福知山北部 汚水処理場				点検者		検 印		
施設規模	人 m ³ /日				点検年月日 年 月 日		天 候		
型 式	JARUS-Ⅲ型 1 系列				作業時間 : ~ :		気 温	℃	
月 日	/	/	/	/	/	/	/	計	平均
流入 水量	m ³	m ³	m ³	m ³	m ³	m ³	m ³	m ³	m ³ /日
機器類の状況					各単位装置の状況				
名 称	NO.	電流値	絶縁抵抗	異常の有無	自動荒目スクリーン	スクリーンし渣の量	少・中・多(L)		
商用電源		(V)		無 ・ 有	ばっ気沈砂槽	ばっ気状況	良・不良・調整		
自動荒目スクリーン		(A)		無 ・ 有		沈砂排出ポンプの作動状況	良・不良・調整		
破 碎 機		(A)		無 ・ 有		排砂槽沈砂状況(量)	少・中・多(L)		
流量調整ポンプ	NO.1	(A)		無 ・ 有		発泡の状況	少・中・多・消泡		
	NO.2	(A)		無 ・ 有	破砕機	異常音	無・有・要補修		
水中攪拌ポンプ	NO.1	(A)		無 ・ 有	細目スクリーン	スクリーンし渣	少・中・多・除去		
自動微細目スクリーン	NO.1	(A)		無 ・ 有		し渣引上げの有無	少・中・多・除去		
	NO.2	(A)		無 ・ 有	流量調整槽	レベルスイッチの作動状況	良・不良・調整		
ブロウ(常用)	NO.1	(A)		無 ・ 有		流量調整ポンプの揚水状況	良・不良・調整		
(常用)	NO.2	(A)		無 ・ 有		水中攪拌ポンプの攪拌状況	良・不良・調整		
(常用)	NO.3	(A)		無 ・ 有		自動微細目スクリーン	スクリーンし渣	少・中・多・除去	
	NO.4	(A)		無 ・ 有	スクリーン	し渣の掻き上げ状況	良・不良・調整		
放流ポンプ	NO.1	(A)		無 ・ 有		汚水計量槽	スカム、汚泥の堆積状況	少・中・多・除去	
	NO.2	(A)		無 ・ 有	三角堰の越流量		h=		
換気ファン	NO.1	(A)		無 ・ 有	嫌気性ろ床槽	汚泥引抜ポンプの作動	良・不良・調整		
	NO.2	(A)		無 ・ 有		移流部のつまりの有無 1室	無・有・調整		
	NO.3	(A)		無 ・ 有		移流部のつまりの有無 2室	無・有・調整		
	NO.4	(A)		無 ・ 有		移流部のつまりの有無 3室	無・有・調整		
機器のタイマー設定					接触ばっ気槽	空気量・ばっ気強度(第1室)	m ³ /h		
ばっ気沈砂槽	運転方法	連続運転・間欠運転				空気量・ばっ気強度(第2室)	m ³ /h		
沈砂排出ポンプ	設定時刻					旋回流の状況	良・不良・調整		
	作動時間	回 分/回				発泡の状況	少・中・多・消泡		
嫌気性ろ床槽	設定時刻					逆洗の要・不要(第1室)	要・不要・実施		
汚泥引抜ポンプ	作動時間	回 分/回				逆洗の要・不要(第2室)	要・不要・実施		
沈殿槽	設定時刻				返送水計量槽	スカム、汚泥の堆積状況	少・中・多・除去		
汚泥引抜ポンプ	作動時間	回 分/回				三角堰の越流量	h=		
特記事項					沈殿槽	越流せきの越流状況	良・不良・調整		
						汚泥引抜ポンプの作動	良・不良・調整		
					消毒槽	消毒剤の残量	少・中・多・補充 (kg)		
						消毒状況	良・不良・調整		
					放流ポンプ槽	レベルスイッチの作動状況	良・不良・調整		
						放流ポンプの作動状況	良・不良・調整		
					汚泥濃縮貯留槽	汚泥濃縮の状況	良・不良		
						攪拌装置の目詰まりの有無	無・有・調整		
					汚泥貯留槽	汚泥濃縮の状況	良・不良		
						攪拌装置の目詰まり	無・有・調整		
					し渣脱水機	し渣脱水の状況	良・不良		

西部地区 福知山市北部污水处理場(2) 令和 年 月 日

各 単 位 装 置 の 水 質									
装置名	現 場 測 定 項 目								
	色相	臭気	生物膜	水温	pH	透視度	DO		残留塩素
流入水				℃		cm	mg/l		-
流量調整槽									-
嫌気性ろ床槽第1室									-
嫌気性ろ床槽第2室									-
嫌気性ろ床槽第3室									-
接触ばっ気槽第1室							中央部		-
							上		
							中		
							下		
接触ばっ気槽第2室							上		-
							中		
							下		
沈殿槽									-
消毒槽									
放流ポンプ槽									
脱離液									-
各 単 位 装 置 の 汚 泥 堆 積 状 況									
単位装置名	汚泥厚				スカム		引抜き 除去量	異常水位 の痕跡	ガスの発生 (硫化水素等)
	流入部	中央部	流出部	引抜き	無・有	引抜き			
ばっ気沈砂槽		無・少・中・多		要・不要	無・有	要・不要		無 ・ 有	
流量調整槽		無・少・中・多		要・不要	無・有	要・不要		無 ・ 有	
嫌気性ろ床槽第1室	無・少・中・多		無・少・中・多	要・不要	無・有	要・不要		無 ・ 有	無・少・中・多
嫌気性ろ床槽第2室	無・少・中・多		無・少・中・多	要・不要	無・有	要・不要		無 ・ 有	無・少・中・多
嫌気性ろ床槽第3室	無・少・中・多		無・少・中・多	要・不要	無・有	要・不要		無 ・ 有	無・少・中・多
接触ばっ気槽第1室								無 ・ 有	無・少・中・多
接触ばっ気槽第2室								無 ・ 有	無・少・中・多
沈殿槽		無・少・中・多		要・不要	無・有	要・不要		無 ・ 有	
消毒槽		無・少・中・多		要・不要				無 ・ 有	
放流ポンプ槽		無・少・中・多		要・不要				無 ・ 有	
汚泥濃縮貯留槽				要・不要	無・有	要・不要			無・少・中・多
汚泥貯留槽	汚泥高さ m			要・不要	無・有	要・不要			無・少・中・多
- メ モ -									

処理場名 上豊富汚水処理場

機器名	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
No.1流量調整ポンプ													
No.2流量調整ポンプ													
No.3流量調整ポンプ													
No.1水中攪拌ポンプ													
No.2水中攪拌ポンプ													
No.3水中攪拌ポンプ													
No.4水中攪拌ポンプ													
No.1自動微細目スクリーン													
No.2自動微細目スクリーン													
自動微細目し濾脱水機													
No.1曝気攪拌装置													
No.2曝気攪拌装置													
No.1エアリフトブロワ													
No.2エアリフトブロワ													
曝気沈砂用ブロワ													
No.1汚泥引抜ポンプ													
No.2汚泥引抜ポンプ													
No.3汚泥引抜ポンプ													
沈殿槽													
汚泥貯留槽ブロワ													
自家発電装置													

流量 [m3]	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
汚水流入流量													
返送汚泥流量													
余剰汚泥流量													

※ 毎月1日、出来るだけ同じ時間に読んで下さい。
※ メーターの積算値は、小数点第1位まで読んで下さい。
[上段：カウンター積算値]
[下段：当月機器運転時間]

処理場名 福知山北部汚水処理場

機器運転時間 [h]													
機 器 名	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	計
№1ブロワ(常用)													
№2ブロワ(常用)													
№1ブロワ(予備)													
№2ブロワ(予備)													
自動粗目スクリーン													
破砕機													
№1流量調整槽ポンプ													
№2流量調整槽ポンプ													
水中攪拌ポンプ													
№1自動微細目スクリーン													
№2自動微細目スクリーン													
し選脱水機													
嫌気汚泥引抜ポンプ													
№1放流ポンプ													
№2放流ポンプ													
前処理室排気ファン													
スクリーン室排気ファン													
ブロワ室排気ファン													
局所排気ファン													
汚泥貯留槽ブロワ													
流量 [m3]													
機 器 名	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	計
汚水流入流量													

[上段：カウンター積算値]
[下段：当月機器運転時間]

※ 毎月1日、出来るだけ同じ時間に読んで下さい。
※ メーターの積算値は、小数点第1位まで読んで下さい。

水 質 分 析 検 査 報 告 書

月分

測定項目	単位	上豊富污水处理場		福知山北部污水处理場	
		流入水	放流水	流入水	放流水
気温	℃				
水温	℃				
pH	-				
浮遊物質(SS)	m g / ℓ				
C O D	m g / ℓ				
B O D	m g / ℓ				
ATU-B O D	m g / ℓ				
全磷 (T - P)	m g / ℓ				
全窒素 (T - N)	m g / ℓ				
大腸菌	個 / ℓ				
蒸発残留物	m g / ℓ				
透視度	c m				

月分

採水箇所	単位	上豊富污水处理場		福知山北部污水处理場
		活性汚泥	濃縮汚泥	濃縮汚泥
MLSS (活性汚泥濃度)	m g / ℓ			
MLVSS (活性汚泥有機分)	%			
汚泥含水率	%			
汚泥有機分	%			

施設名	計器名	メーカー	検出器	変換器	製造番号	備考	年
福知山北部污水处理場	流入流量計	愛知時計	AXG150-GG000BJ1AL110B-NNNN/EG/SCT	TAV80V-30UN	Ser. 51936		2024
上豊富污水处理場	流入流量計	横河		AXG1A-G000101H011-EG5/SCT/RK/PJ	-		2025

上豊富污水处理場

大枠	分類				数量	機器点検(回)	機器点検 及び総合 点検(回)
消火器具	粉末 (ABC)	蓄圧			5	2	0
	強化液	蓄圧			1	2	0
誘導灯及び誘導標識	誘導灯	避難口	B級		4	2	0
	誘導灯	通路	B級		2	2	0
	誘導灯	通路	C級		1	2	0
	誘導標識	避難口			2	2	0
	誘導標識	通路			1	2	0
配線	総合点検				1	0	1

福知山北部污水处理場

大枠	分類				数量	自主点検(回)
消火器具	粉末 (ABC)	蓄圧			1	1

福知山西部農集排水エリア
農業集落排水事業 福知山

1	石場 1号 (*)	51	奥榎原 7号	101	
2	石場 2号	52	奥榎原 8号	102	
3	石場 3号	53	奥榎原 9号	103	
4	石場 4号	54	奥榎原 10号	104	
5	石場 5号	55	奥榎原 11号	105	
6	畑中 1号	56	奥榎原 12号	106	
7	畑中 2号	57	奥榎原 13号	107	
8	畑中 3号	58	天座 1号	108	
9	北山 1号	59	天座 2号	109	
10	小牧 1号	60	天座 3号	110	
11	小牧 2号	61	天座 4号	111	
12	小牧 3号	62	天座 5号	112	
13	小牧 4号	63	天座 6号	113	
14	小牧 5号	64	天座 7号	114	
15	小牧 6号	65	天座 8号	115	
16	下戸 1号	66	雲原 1号	116	
17	下戸 2号	67	雲原 2号	117	
18	下戸 3号	68	雲原 3号	118	
19	下戸 4号	69	雲原 4号	119	
20	法用 1号	70	雲原 5号	120	
21	法用 3号	71	雲原 6号	121	
22	法用 4号	72	雲原 7号	122	
23	法用 5号	73	雲原 8号	123	
24	法用 6号	74	雲原 9号	124	
25	法用 7号	75	雲原 10号	125	
26	上豊富談 1号	76	雲原 11号	126	
27	上豊富談 2号	77	雲原 12号	127	
28	樽水 1号	78	雲原 13号	128	
29	樽水 2号	79	雲原 14号	129	
30	樽水 3号	80	雲原 15号	130	
31	樽水 4号	81	雲原 17号	131	
32	樽水 5号	82	雲原 19号	132	
33	樽水 6号	83	雲原 20号	133	
34	甘栗 1号	84	雲原 21号	134	
35	甘栗 2号	85	雲原 22号	135	
36	甘栗 3号	86	雲原 23号	136	
37	甘栗 4号	87		137	
38	口榎原 2号	88		138	
39	口榎原 3号	89		139	
40	口榎原 4号	90		140	
41	口榎原 5号	91		141	
42	口榎原 6号	92		142	
43	口榎原 7号	93		143	
44	口榎原 8号	94		144	
45	奥榎原 1号	95		145	
46	奥榎原 2号	96		146	
47	奥榎原 3号	97		147	
48	奥榎原 4号	98		148	
49	奥榎原 5号	99		149	
50	奥榎原 6号	100		150	

※ 上豊富地区系統(1-56)、福知山北部地区系統(57-85)

マンホールポンプ設備 巡回点検記録表 設備点検 ・ 特殊点検

施 設 名	号 マンホールポンプ設備		
点 検 日	令和 年 月 日 () 天候		
号 数	1号	2号	3号
仕 様	Kw /	/ φ	/ 台
ポ ン プ 型 式			
ポ ン プ 製 造 番 号			
吐 出 し 量 (定 格)	m3/min	m3/min	
ポ ン プ 点 検			
外 観	良 ・ 不良	良 ・ 不良	良 ・ 不良
異 常 音	有 ・ 無	有 ・ 無	有 ・ 無
振 動	有 ・ 無	有 ・ 無	有 ・ 無
電流値 定格 A	A (指示 A)	A (指示 A)	A (指示 A)
運 転 時 間 (h r)			
上 段 : 指 示 値 下 段 : 前 回 差 引			
減 水 確 認	良 ・ 不良	良 ・ 不良	良 ・ 不良
停 止 水 位 に よ る 自 動 停 止 確 認	良 ・ 不良		
フ ロ ー ト ス イ ッ チ 動 作 ・ 外 観	良 ・ 不良		
絶 縁 抵 抗 測 定	MΩ	MΩ	MΩ
着 脱 装 置	良 ・ 不良	良 ・ 不良	良 ・ 不良
逆 止 弁	良 ・ 不良	良 ・ 不良	良 ・ 不良
吊 り 下 げ チ ェ ー ン	良 ・ 不良	良 ・ 不良	良 ・ 不良
操 作 盤 点 検			
外 観	良 ・ 不良 ・ 不良箇所 ()		
回 転 灯 ・ 表 示 灯 等 確 認	良 ・ 不良 ・ 回転灯設置無 ・ 計器指示値		
回 転 灯 損 傷 内 部 水 滴 付 着	良 ・ 不良 ・ 設置無		
通 報 装 置 作 動 テ ス ト	良 ・ 不良 ・ 設置無		
漏 電 遮 断 機 作 動 テ ス ト	良 ・ 不良	良 ・ 不良	良 ・ 不良
3 E ト リ ッ プ 作 動 テ ス ト	良 ・ 不良	良 ・ 不良	良 ・ 不良
断 線 ・ ゆ る み ・ ヒ ュ ー ズ 切 れ の 有 無	有 ・ 無 ・ 取替部品 ()		
水 位 計 指 示 値 の 誤 差	有 (誤差) 無 ・ 設置無		
操 作 盤 内 清 掃 ほ か	/ 予備品 良 ・ 不足 (補充)		
マンホール槽への配線状況	良 ・ 不良		
そ の 他			
液位検出器の状況及び作動確認	良 ・ 不良 ・ 不良箇所 ()		
ス カ ム 堆 積	有 [/ 多 (清掃要) ・ 少 (観察)] ・ 無		
配 管 漏 水	有 ・ 無	有 ・ 無	有 ・ 無
ジ ョ イ ン ト 部 接 合 状 況	良 ・ 不良	良 ・ 不良	良 ・ 不良
マ ン ホ ー ル 蓋	良 ・ 不良	不良箇所 ()	
操 作 盤 自 動 ・ 施 錠 確 認	(氏名)		
備 考			
	別紙報告書等 (写真ほか) 有 ・ 無		
受 注 者 ・ 氏 名	⑩	⑩	⑩

※ 右上の「設備点検・特殊点検」は、該当する方に○をつけてください。

处理区名：福知山西部集落排水处理施設管理業務

[illegible]

実施回数集計

項 目	予定数量	実施数量	単位	差	備考
圧送管清掃	1	0	回	1	1回100m 高圧洗浄
管路緊急対応(高圧洗浄：昼間)	1	0	回	1	
管路緊急対応(高圧洗浄：夜間)	0	0	回	0	
管路緊急対応(汚泥吸引：昼間)	1	0	回	1	
管路緊急対応(汚泥吸引：夜間)	0	0	回	0	
管路緊急対応(簡易作業：昼間)	1	0	回	1	
管路緊急対応(簡易作業：夜間)	1	0	回	1	
不明水調査	2	0	回	2	1回4時間
本管テレビカメラ	1	0	回	1	
取付け管テレビカメラ	1	0	回	1	
その他	0	0	回	0	

处理区名：福知山西部集落排水处理施設管理業務

[illegible]

実施回数・金額集計

実施回数	予定回数	予定金額（税込）	実施回数	実施金額（税込）	回数差	金額差（税込）
汚水処理場施設修繕		1,580,000		0		1,580,000
マンホールポンプ施設修繕		1,180,000		0		1,180,000
公共汚水ます修繕	1	190,000	0	0	1	190,000
止水修繕	2	200,000	0	0	2	200,000
取付管修繕	1	350,000	0	0	1	350,000
本管簡易修繕	1	370,000	0	0	1	370,000
物品調達（薬品）		870,000		0		870,000
物品調達（機械電気部品）		520,000		0		520,000
その他		0		0		0
合 計		5,260,000		0		5,260,000

第6編 農集福知山南部地区下水道施設運転管理等業務
第1章 污水处理施設管理等業務

第6編 農集福知山南部地区下水道施設運転管理等業務

第1章 污水处理施設管理等業務

第1節 污水处理施設運転・保守管理業務

1 管理施設

(1) 施設名称

- ①菟原污水处理場
- ②川合污水处理場
- ③大原污水处理場

(2) 施設規模

別紙 1-2「処理施設規模」及び別紙 1-3「処理施設位置図」参照

2 日常点検

(1) 日数 毎日（土曜日、日曜日、祝日、年末年始、保守点検日及び受注者の定める休日を除く。但し、特別な事情がある場合は発注者と協議すること。）

(2) 内容 別紙 6-1「日常目視点検表」及び別紙 6-2「日常管理記録表」に基づき実施し、故障、異常があった場合には、適切な応急措置を行うと共に、発注者に連絡することとする。

3 保守点検

(1) 日数 毎週1回（但し、特別な事情がある場合は発注者と協議すること。）

(2) 内容 別紙 6-3「施設点検表」に基づき、施設の機器と水質について技術的な判断と管理を行うこととする。また、定期的に機器の保守を実施することとする。各月最終週における保守点検において、機器運転時間を別紙 6-4「機器運転時間集計表」により記録することとする。

4 放流水質の確保

日常点検時には、放流水質が基準値以内であり、安定した水質管理に努めることとする。

5 薬品類の管理

(1) 污水处理に必要となる薬品類は、常に使用状況と在庫数を薬品使用状況報告書に記録するとともに管理し、不足が無いように物品調達を行うこととする。

(2) 当該污水处理施設で使用する薬品は、次のとおりである。

① 塩素滅菌剤（放流処理水用）

ア 外 観 円形扁平型錠剤(約 30mmφ×約 13mmφ)

イ 有効成分 トリクロロイソシアヌル酸：99%

ウ 納 入 量 360kg（年間見込み量）

(3) 污水处理に使用する薬品類が污水处理の放流水質と合わない場合には、速やかに発

第6編 農集福知山南部地区下水道施設運転管理等業務
第1章 污水处理施設管理等業務

注者に報告し、協議の上、新たな薬品類を使用することとする。

6 発生汚泥の管理

- (1) 污水处理で発生する汚泥は、定期的又は臨機に必要と認められた場合は、汚泥槽の清掃として実施する。
- (2) 汚泥槽の清掃は、バキューム車で引抜き、福知山終末処理場へ搬入する。(汚泥等の運搬費用についても本業務に含むものとする。年間当りの汚泥発生量は菟原污水处理場 264m³、川合污水处理場 60m³、大原污水处理場 40m³を見込んでいる。)

7 簡易な故障修理

通常の勤務者が時間内でできる作業とし、外部より作業者を求めなくてもよい作業であり、特殊な機器・部品、または高度な専門技術を必要としない修理である。日常点検時には、放流水質が基準値以内であり、安定した水質管理に努めることとする。

8 緊急時の措置

故障等の連絡があった場合は、直ちに現場を確認し、適切な応急措置を行うと共に、発注者へ連絡することとする。

9 施設管理報告

本業務では、次に示す報告書類を提出すること。

(1) 月度報告事項

第1編 第1章 第13節 業務履行報告 3 月度報告に記載の内容に準ずる。

(2) 年度報告事項

第1編 第1章 第13節 業務履行報告 4 年度報告に記載の内容に準ずる。

(3) 適宜報告事項

第1編 第1章 第13節 業務履行報告 5 適宜報告に記載の内容に準ずる。

10 疑義等

本仕様書に定めのない事項又は疑義が生じたときは、発注者、受注者の双方協議の上、定めるものとする。

第2節 水質検査業務

1 業務概要

福知山南部地区の農業集落排水処理施設からの放流水質や、処分される汚泥等の状況を定期的に測定し基準値内であることを確認するための試験を行うものである。

2 業務内容

- (1) 日常水質検査
- (2) 法定水質検査

3 共通事項

(1) 検査要領

ア 採水及び採泥等をするときは、採取記録をすること。

イ 採取した検体は、速やかに水質検査を行うこと。

ただし、速やかに検査が出来ない場合は、関係法令等の方法により措置を施すこと。

ウ 関係法令及び、水質測定方法手順書に基づき行うこと。

エ 測定機器毎の誤差をなくするため、同一測定機器を用いて行うこと。

オ 受注者の用意した測定機器を使用する場合は、測定機器のリストと測定機器の校正記録又は、それに相当するものを提出すること。

(2) 検査結果報告書等

ア 別紙 6-5「水質分析検査報告書」に施設ごとの採水、採泥記録を記載し、速やかに発注者に報告すること。

イ 各項目の検査結果が基準値の2分の1以上を超過した場合は、超過している項目を速やかに発注者に打合せ簿により報告すること。

ウ 測定値が基準値内でない、もしくは検査結果が基準値を超過している場合は、その結果を発注者に報告するとともに、その項目の再検査を実施すること。

エ 月度報告として、当該月の水質検査結果と次月の採取予定表を発注者に提出すること。

(3) 基準値超過

ア 本業務において、放流水質等の法定基準を達成できない場合は、次のとおり対応すること。

①未達成状況の確認及び報告

放流水質が法定基準を達成できていないことを把握した場合は、速やかに発注者に報告すること。

②改善計画書の提出

ア) 改善計画書の提出を命じられてから 10 日以内に改善計画書を発注者に提出し、発注者の指導、監督に従って原因究明や改善対応をすること。

イ) 原因究明、改善計画書の作成及び実施にかかる費用は、受注者が負担すること。

ウ) 受注者は、自らの負担で行う計測において、改善対応の効果を確認し、改善の状況を発注者に報告すること。

(4) 月度報告書

月度報告書は、各施設の水質検査結果及び次月採取予定表を提出すること。

(5) 年度報告書

第6編 農集福知山南部地区下水道施設運転管理等業務
第1章 污水处理施設管理等業務

年度報告書では、水質検査結果及び週報告書のデータをそれぞれ、年ごとにまとめ、日平均値、最小値、最大値及び基準値を表記したものをエクセル形式データと共に提出すること。

(6)維持管理年報資料の作成

発注者の指示に従い維持管理年報資料の作成を行うこと。

4 日常水質検査

(1) 汚水の水質検査

汚水の水質検査は、毎月1回実施する。

ただし、大原污水处理場のみ4半期ごとに実施する。

採取検体と年間の検体数は、次の表のとおりとする。

検体項目		菟原污水处理場 川合污水处理場		大原污水处理場		合計
		流入水	放流水	流入水	放流水	
1	気温	12	12	4	4	56
2	水温	12	12	4	4	56
3	pH	12	12	4	4	56
4	浮遊物質(SS)	12	12	4	4	56
5	COD	12	12	4	4	56
6	BOD	12	12	4	4	56
7	ATU- BOD	12	12	4	4	56
8	全燐（T-P）	12	12	4	4	56
9	全窒素（T-N）	12	12	4	4	56
10	大腸菌	12	12	4	4	56
11	蒸発残留物	12	12	4	4	56

(2) 汚泥の性状検査

汚泥の性状検査において菟原処理場は毎月1回、川合処理場は3か月に1回、大原污水处理場は年1回実施する。採取検体と年間の検体数は、次の表のとおりとする。

検体項目	菟原污水处理場	川合污水处理場	大原污水处理場	合計
	濃縮汚泥	濃縮汚泥	濃縮汚泥	
汚泥含水率 (%)	12	4	1	16
汚泥有機分 (%)	12	4	1	16

第6編 農集福知山南部地区下水道施設運転管理等業務
第1章 污水处理施設管理等業務

5 法定水質検査

法定水質検査は、四半期ごとに1回実施し、日常水質検査と同日に実施すること。

採取検体と年間の検体数は、次の表のとおりとする。

法定水質検査は、検査機関から提出される計量証明を添付すること。

対象箇所年間回数（四半期／回）

検体項目		1 施設の年間採取検体	対象施設	年間
		放流水	施設数：3施設	検体数
1	水温	4	菟原污水处理場 川合污水处理場 大原污水处理場	12
2	気温	4		12
3	pH	4		12
4	浮遊物質(SS)	4		12
5	COD	4		12
6	BOD	4		12
7	ATU - BOD	4		12
8	全磷（T-P）	4		12
9	全窒素（T-N）	4		12
10	大腸菌	4		12
11	蒸発残留物	4		12
12	鉱物油類	4		12
13	動植物油類	4		12
14	銅	4		12
15	亜鉛	4		12
16	溶解性鉄	4		12
17	溶解性マンガン	4		12
18	全クロム	4		12
19	カドミウム	4		12
20	鉛及びその化合物	4		12
21	六価クロム	4		12
22	砒素及びその化合物	4		12
23	全水銀	4		12
24	1,4 ジオキサン	4		12
25	ニッケル	4		12

第2章 処理施設附帯業務

第1節 共通事項

本章は、農集福知山南部地区に関連する下水道施設等における計装機器点検、建物附帯設備法令点検等及び場内環境整備ほか各業務について記載する。なお、各節における業務については、実施後の月度報告において随時提出するものとする。

第2節 自家発電機用エンジン点検業務

1 業務概要

自家発電機用エンジンの機能を良好な状態に保つため、専門業者による整備点検を受けることとする。

2 業務要領

- (1) 川合汚水処理場の自家発電機用エンジン点検整備を行う。
- (2) 履行期間内において対象の設備に重大なトラブルが発生した場合は、即時にその復旧に対応するものとする。
- (3) 点検整備を行うたびに速報として報告書を速やかに作成して提出するものとする。
- (4) 履行期間中に対象機器以外の機器故障などが発生した場合は、機器の早急な復旧を行うとともに、原因調査を迅速に行い報告すること。復旧に際して発生した費用は、その内容により協議して決定する。

3 点検整備内容

- (1) 本点検業務範囲には、対象機器の点検、調整及び、対象機器の一般的消耗品（メーカー推奨で交換する消耗品など）の交換も含むこととするため、準備及び不足分の補充も行うこと。
- (2) 点検整備計画

業務契約期間内に以下の整備点検を受けることとする。

場所	機関型式	台数	令和8年度	令和9年度	令和10年度
川合汚水処理場	D1703 01Y0222	1	-	D点検	-

4 整備点検報告

整備点検を完了した時は、専門業者から提出される報告書（写真含む）を提出すること。

第3節 計装機器保守点検業務

1 業務概要

農業福知山南部地区下水道施設の計装設備を維持するため、設備の保守・点検調整を行う。点検を行う施設は別紙6-6「計装設備点検対象機器一覧表」のとおりとする。

2 業務内容

- (1) 流量計点検

- ア 検出器外観目視点検
- イ 変換器設定値確認
- ウ 検出器絶縁抵抗測定
- エ 模擬信号による指示値確認及びゼロ点・スパン調整

3 留意事項

- (1) 本業務の履行に際して、点検対象となる機器について、事前に現場に確認を行い、対象機器の形式や設置場所などを理解したうえ業務を行うこと。
- (2) 対象機器の点検に必要な消耗品類は、事前に準備しておくこと。
点検時に、部品などの劣化や損傷により機器等の障害または障害の発生するおそれがあるときは、速やかに報告するとともに障害原因の除去及び再発防止を講じること。なお、その除去及び再発防止に関し、別途費用が発生する場合は、その負担について発注者と協議を行い決定するものとする。
- (3) 対象機器の一般的消耗品（メーカー推奨で通常1年間で交換する消耗品など）一式の補充も含むものとする。

第4節 消防設備点検業務

1 業務概要

消防法第17条の3の3の規定対象となる処理施設の消防用設備の機器点検、総合点検を行うものである。また、対象外となる処理施設については自主点検を行うものとする。

自主点検は、消火器の使用期限の確認及び誘導標識の損傷等を確認するものである。

2 業務内容

- (1) 機器点検、総合点検を行う対象施設と点検回数は次のとおりとする。

- ①点検の時期 前期：機器点検+総合点検（8月～10月）
後期：機器点検 （2月～3月）

- ②対象施設

- 菟原污水处理場 機器点検2回／年 総合点検1回／年
- 川合污水处理場 機器点検2回／年

3 対象消防設備

別紙6-7「消防設備点検対象機器一覧表」のとおり

4 業務要領

- (1) 作業範囲及び実施回数等

- ア 対象設備の法定点検を実施すること。
- イ 対象設備に不時の異常・故障が発生した場合及び発注者の依頼があった場合は、受注者は技術者を派遣し対応すること。
- ウ 消防法の点検基準に基づいて実施すること。

第6編 農集福知山南部地区下水道施設運転管理等業務
第2章 処理施設附帯業務

エ 対象設備の点検有資格者を派遣し、法定点検を実施するとともに「点検報告書」を作成すること。

オ 「点検結果報告書」は3年ごとに所轄消防署へ提出するため、提出準備に協力すること。

カ 受注者は、下記の書類を提出すること。

ア) 業務工程表 (毎回点検実施10日前)

イ) 点検報告書 (前期分2部、後期分2部、自主点検分1部)

5 不具合事項対応

消防設備不具合事項において以下に示す項目以外については小修繕対応とする。

- (1) 消火器等の交換または薬剤詰め替え
- (2) 屋内消火栓設備等のホース耐圧試験
- (3) 故障・異常時の出動対応に要する経費
- (4) 大規模と判断される消防設備の修理または取替
- (5) その他発注者との協議により決定した事項

第5節 場内環境整備業務

1 業務概要

各施設の管理敷地内及び周辺の一般清掃、草刈・樹木剪定等の作業により、景観を保つことを目的とする。

2 対象施設

- (1) 菟原污水处理場
- (2) 川合污水处理場
- (3) 大原污水处理場

3 業務内容

- (1) 一般清掃、草刈・樹木剪定

各施設内及び周辺の環境整備作業により、景観を保つため適宜、草刈及び剪定等を行うこと。

- (2) 刈草及び剪定くず等の処分

①場内環境整備作業により発生した刈草及び剪定くず等の処分は、福知山市一般廃棄物処理基本計画の廃棄物の資源化拡大に基づいて、福知山バイオマスセンターに運搬して、再資源化として処分を行うこと。

②処分量は、対象施設で年間0.75t程度を見込んでいる。なお、受注者の創意工夫により、別途資源の有効活用を実施する場合は、発注者と協議を行い、承諾を得た再資源化を行うことができるものとする。

- (3) 処分報告

廃棄物計量施設で発行される計量証明（領収書）の空欄に「運搬物名」「会社名」「署名」等を記入して月報でまとめて報告すること。

第3章 マンホールポンプ施設業務

第1節 共通事項

- 1 作業前には、「マンホールポンプ場台帳」、「福知山市下水道管路台帳管理システム」、「マンホールポンプ巡回点検記録表」等を活用して、業務を履行する。
- 2 公道上及び私有地内の作業となるため、作業前後には関係者への周知や連絡を行うこととする。
- 3 作業を行う際には、周辺の状況を確認して、歩行者や車両の通行に支障を及ぼさないように安全な作業とする。
- 4 作業後は、周辺も含めて片付け、清掃を行うこととする。
- 5 業務を実施した内容の集計については、一覧表に整理して月度報告に添付することとし、各年度の実施状況の把握を行うこととする。

第2節 マンホールポンプ設備点検業務

1 業務概要

マンホールポンプ設備を巡回方式で点検を行う。

2 対象箇所

別紙 6-8「マンホールポンプ設備点検業務対象箇所一覧表」のとおり箇所数は29箇所とする。

3 点検回数

設備点検は1箇所当たり年1回を基本とし、次の4項の作業を行うものとする。

ただし、故障表示が多発するなど特殊な事象がある箇所については、発注者との協議により、8項に示す特殊点検を実施できるものとする。

1年間で通常点検29回、特殊点検10回を見込んでいる。

4 点検作業（巡回点検記録表に基づく）※下記内容を基本とする。

（1）汚水ポンプ

- ア 外観の確認
- イ 運転状況（異音、振動、電流値、運転時間、減水）の確認
- ウ 自動起動、停止（水位）の確認
- エ 絶縁抵抗測定
- オ 着脱装置、逆止弁の機能確認
- カ 吊り下げチェーン（摩耗、損傷、腐食、変形）の確認

（2）現場操作盤

- ア 外観（汚損、損傷、腐食、変形）、過熱の確認
- イ 回転灯、表示灯、計器指示値の確認

※電流計は正常な送水時の値に赤色指針をあわせ、後から行った者が異常か正常か

判断出来るようにしておくこと。

ウ 各機器の作動テスト

エ 断線、ゆるみ、端子の腐食（スパーク痕など）、ヒューズの確認

オ マンホール槽への配線状況の確認

※電線管内のケーブルの撤去・入線が容易にできることを確認する。

カ 内部侵入物（雨水、小動物、昆虫、草等）の痕跡等確認

（3）計器収納ボックス

ア 外観（汚損、損傷、腐食、変形）、過熱の確認

イ 断線、ゆるみ

ウ 内部侵入物（雨水、小動物、昆虫、草等）の痕跡等確認

（4）液位検出器

ア レベルスイッチの設置位置及び作動確認

イ 投げ込み式水位計の水位検知状況及び作動確認

（5）マンホールポンプ槽内

スカム堆積状況等の確認

（6）配管

ア 漏水、ジョイント部の確認

イ 支持金物、支持材の確認

（7）マンホール蓋

ア コネクタ部の設置状況等の確認

イ 大蓋のみ（小蓋なし）の場合はその旨記載すること

ウ ゆがみ、ガタツキ、摩耗、腐食の有無

エ 大蓋、子蓋共に固着等が無く開閉が行えることを確認すること

（8）操作盤自動・施錠確認

（9）その他

ア 臨時点検

イ 簡易な故障修理

電気設備（表示灯、ヒューズ、リレー、タイマー等の取替）

機械設備（ポンプ、配管の詰まり除去・ポンプの据付直し）

ウ 設備の清掃

（10）道路上の作業場所の確保及び安全処置

車両及び歩行者の通行の妨げにならないよう、また作業が充分に行えるようバリケード等により作業場所を確保し、安全管理を行い事故防止に努めること。また、必要箇所には交通誘導警備員を配置すること。

・交通誘導警備員人員：N=2人/7箇所（想定）

※ 1日あたり7箇所を想定し1箇所あたりに換算。

5 取替用電気部品等

表示灯及びタイマー等の消耗品は本業務に含むものとする。

なお、液位検出器、水中ポンプ、回転灯、漏電遮断器、電磁接触器、コンデンサの取替作業は小修繕として取り扱う。

6 高所取り付け型制御盤の作業

高所設置の制御盤作業を実施する際は、高所作業車を使用するなど各種法令や規則に則った安全な作業をすること。

7 報告

(1) 点検作業報告は、別紙 6-9「マンホールポンプ設備巡回点検記録表」に必要事項を記入して、作業月の報告をまとめて月度報告とする。

(2) 業務着手初年度の点検時には、点検箇所の全景、マンホール蓋据付状況、槽内状況等について撮影を行い、写真を添付することとする。

(3) 不具合箇所があった場合は、その箇所の写真を添付することとする。

8 特殊点検

(1) 特殊点検は、管理範囲内のマンホールポンプ場において、故障表示が多発することや、他のポンプ場に比べ運転時間が非常に長いポンプ場など特殊な事象があるポンプ場を対象に実施する点検とする。

(2) 特殊点検の作業内容の基本は記載しないが、特殊事象の解消を目的とした作業とする。実施する作業内容については、発注者と協議、調整を行うものとする。

(3) 特殊点検の報告は、7項と同様とする。ただし、点検内容に報告書様式が適さない場合や記入欄が不足する等の場合には、別途任意様式にて提出を行うこととする。

第3節 槽内清掃業務

1 業務概要

マンホールポンプ場の点検状況に応じて受注者の判断で清掃・浚渫を行う。

2 対象施設

清掃対象箇所は、別紙 6-8「マンホールポンプ設備点検業務対象箇所一覧表」の箇所内で受注者の判断で実施するが、年間3箇所を見込んでいる。

3 提出書類

マンホールポンプ槽内清掃箇所報告書及び作業写真(着手前と完了後の対比写真、作業中、安全管理、使用機材等作業内容の判別できるもの)

なお、清掃時に得た可能な限りのマンホールポンプ場の記録も提出する。

4 作業要領

(1) 道路上の作業場所の確保及び安全処置

車両及び歩行者の通行の妨げにならないよう、また作業が充分に行えるようバリケード等により作業場所を確保し、安全管理を行い事故防止に努めること。また、必要箇所に交通誘導警備員を配置すること。

・交通誘導警備員人員：N=2人/6箇所（想定）

※1日あたり6箇所を想定し1箇所あたりに換算。

（2）槽内の液面

ポンプ槽内の液面を下げる場合、操作盤で手動運転を行い、液面を下げる。

（3）槽内の洗浄

槽内の洗浄範囲としては、側壁、底面、ポンプ外面、レベルスイッチ、ケーブル、チェーン及びガイドパイプを洗浄する。

（4）槽内堆積物の除去

槽内のし渣、沈砂及び汚泥を吸泥車等により除去する。

（5）ポンプの送水確認

手動運転にてポンプを起動させ水位が下がるのを確認し、自動運転に切り替える。

（6）逆止弁開放点検

逆止弁への異物噛み込み等による送水不良の場合には開放点検を行い、機能を復旧させる。

（7）後片付け

作業終了後は、マンホール蓋を閉じ、バリケード等を片付け、復旧する。また、マンホール周辺の状況を確認し、必要に応じて清掃も行う。

（8）堆積物の処理

吸泥車等により除去した堆積物は、発注者と協議の上、指示された場所に搬入することとする。

第4章 管路施設業務

第1節 共通事項

- 1 作業前には「福知山市下水道管路台帳管理システム」等を活用し、周囲の下水道管路の管径・材質・土被り・流下方向、取付管延長、公共汚水ますの内径・材質等を確認し、本管を破損させることがないように注意すること。
- 2 水道管・ガス管等の地下埋設物について、事前に調整・確認を十分に行うこと。
- 3 作業に伴う切削等による破片・ごみ等については必ず回収し、周辺清掃に努めること。
- 4 作業完了後は、水を流して流下状況を必ず確認すること。
- 5 清掃及び洗浄等のために吸引した汚水については、下流側最寄りのマンホールまたは中継ポンプ場へ投入すること。ただし、閉塞の原因となる堆積物等ものを含む場合は、発注者と協議の上、指示された場所に搬入することとする。
- 6 公道上の作業においては、受注者により道路管理者及び福知山警察署への届出を行うこと。
- 7 業務を実施した内容の集計については、別紙 6-10「管路施設業務集計表」に整理し月例の報告書に添付することとし、各年度の実施状況の把握を行うこと。
- 8 本業務で実施した内容のうち、管路施設の維持管理上、必要な情報については、「福知山市下水道管路台帳管理システム」に登録を行うこと。登録する内容については、発注者と受注者との協議による。
- 9 点検や調査により発見された管路の破損、その他異常のうち、道路陥没や管路閉塞等の原因となる重大なものや不明水の異常流入等を確認した場合には、直ちに発注者に報告すること。
- 10 点検や調査により発見された管路施設の破損や不明水等の流入、その他異常のうち、第6編 第5章小修繕等業務で修繕可能なものについては、発注者との協議の上、本業務内で修繕対応を行うこと。

第2節 圧送管清掃業務

1 業務内容

高压洗浄車等の機材を使用し、圧送管管路内の清掃を実施する。

2 業務場所

業務範囲内圧送管において、維持管理上支障を及ぼす恐れのある箇所を受注者により選定し、発注者に承諾を受けた箇所とする。

3 特記事項

- (1) 発注者の承諾を受けた箇所の圧送管内部（マンホールポンプ含む）の清掃等を実施する。作業延長は約 100m とし、1 箇所の作業で 100m に達しない場合は、他の場所で

達成すること。

ただし、発注者の判断により3割を超える作業延長の増減を行う場合には、発注者と受注者で協議するものとする。

- (2) 車両及び歩行者の通行の妨げにならないよう、また作業が充分に行えるようバリケード等により作業場所を確保し、安全管理を行い事故防止に努めること。また、必要箇所に交通誘導警備員を配置すること。

・交通誘導警備員人員：N=2人/日(想定)

- (3) 清掃業務の実施にあたり、高圧洗浄車以外の方法が有効な箇所については高圧洗浄以外の方法による清掃も可能とする。ただし高圧洗浄車で施工した場合の費用と同等となるように延長換算した延長を作業延長とすることとし、実際の清掃延長と延長換算した清掃延長を換算根拠と併せて報告すること。

4 報告

- (1) 圧送管清掃を行った後には、速やかに圧送管清掃報告を行い、月例の業務完了報告時に、圧送管清掃報告書・作業写真を提出すること。
- (2) 作業写真は、着手前と完了後の対比、作業中、安全管理、使用資機材、作業内容等が判別できるものを添付すること。

第3節 管路緊急対応業務

1 業務内容

下水道本管及び公共汚水ます・取付管内での障害発生連絡を受けた、または発見した場合、直ちに現場確認を行い、障害の特定及び機能回復を図る。

2 業務実施時間等

24時間体制とする。

3 特記事項

- (1) 車両及び歩行者の通行の妨げにならないよう、また作業が充分に行えるようバリケード等により作業場所を確保し、安全管理を行い事故防止に努めること。また、必要箇所に交通誘導警備員を配置すること。

・交通誘導警備員：N=1人/回(高圧洗浄)※2人×0.5日(想定)

対応想定件数はそれぞれ高圧洗浄1回とし、そのうち、簡易作業を伴う件数は日中1回、時間外深夜1回である。

- (2) 復旧作業において市民への影響が大きいと判断される場合は、監視室に連絡し、発注者の承諾を得た後、作業を実施すること。
- (3) 管路施設等から汚水が溢れた場合には、現場周辺の洗浄及び消毒作業を実施すること。
- (4) 業務に際し不明な点等が発生した場合には、発注者と協議すること。

4 報告

- (1) 管路緊急対応を行った後には、速やかに緊急対応報告を行い、月例の業務完了報告時に改めて、緊急対応報告書・作業写真を提出すること。
- (2) 作業写真は、着手前と完了後の対比、作業中、安全管理、使用資機材、作業内容等が判別できるよう整理すること。

第4節 不明水調査業務（マンホール内部調査）

1 業務内容

下水道管路に流入する不明水を発見するため、降雨時または降雨後に管路内部・マンホール内部を目視により確認する。

2 業務場所

業務範囲内において、維持管理上支障を及ぼす恐れのある箇所を受注者により選定し、発注者に承諾を受けた箇所とする。その他、発注者が異常の恐れがあると判断し、指示した箇所を含むものとする。

3 特記事項

- (1) 不明水調査は、1回4時間（0.5日）、年2回実施するものとする。

ただし、発注者の判断により調査日数を追加する場合は、発注者と受注者で協議するものとする。

- (2) 作業は、指定された地区のマンホール蓋を開け、マンホール内部の状況を目視し、下記（3）から（6）の内容等を確認する。

また確認した内容が分かるように写真撮影を行い整理すること。

- (3) 躯体と管路のジョイント部等からの不明水の流入を確認する。
- (4) 管路・インバート部を点検し、流量・流下状況等の異常の有無を確認する。
- (5) マンホール蓋開閉時にマンホール蓋の錆等の劣化状況を点検・確認し、全景、表面、裏面の写真を撮影すること。
- (6) その他不明水の原因となる兆候、破損等がないかを確認する。
- (7) 調査にあたり事前にマンホール内の洗浄が必要となった場合は、適宜実施すること。

4 報告

- (1) 不明水調査業務を行った後には、月例の業務完了報告時に、調査報告書・業務写真を提出すること。
- (2) 報告書には、調査箇所を「福知山市下水道管路台帳管理システム」の図面に記入したものを添付すること。

第5節 本管テレビカメラ調査業務

1 業務内容

第6編 農集福知山南部地区下水道施設運転管理等業務
第4章 管路施設業務

下水道管路に流入する不明水や管路の破損等を発見するため、本管用テレビカメラにより、下水道管路内を確認する。

2 業務場所

業務範囲内において、維持管理上支障を及ぼす恐れのある箇所を受注者により選定し、発注者に承諾を受けた箇所とする。その他、発注者が異常の恐れがあると判断し、指示した箇所を含むものとする。

3 特記事項

- (1) 車両及び歩行者の通行の妨げにならないよう、また作業が充分に行えるようバリケード等により作業場所を確保し、安全管理を行い事故防止に努めること。また、必要箇所に交通誘導警備員を配置すること。

・交通誘導警備員：N=2人/回(想定)

・調査は、1回2時間(0.25日)、年1回を見込んでいる。

ただし、発注者の判断により調査箇所を追加する場合は、発注者と受注者で協議するものとする。

- (2) 調査は、「下水道維持管理指針 実務編(公益社団法人 日本下水道協会)」の内容を準用し実施することとするが、調査記録等は異常の有無が判断できる程度に簡素化できるものとする。

- (3) 不明水の発見を目的にした調査については、降雨時または降雨後の流入の増加が見込まれる時期に実施すること。

- (4) 調査にあたり事前に管内の洗浄が必要となった場合は、適宜実施すること。

4 報告

- (1) 業務を行った後には、月例の業務完了報告時に、調査報告書・業務写真を提出すること。

- (2) 報告書には、調査箇所を「福知山市下水道管路台帳管理システム」の図面に記入したものを添付すること。

第6節 取付け管テレビカメラ調査業務

1 業務内容

取付け管テレビカメラを公共ますから取付け管に挿入し、本管接合部に向けて移動させ、取付管の異常の有無を、地上の調査員が目視により調査する。公共ますは地上から目視により点検する。

2 業務場所

維持管理上支障を及ぼす恐れのある箇所を受注者により選定し、発注者に承諾を受けた箇所とする。その他、発注者が異常の恐れがあると判断し、指示した箇所を含むものとする。

3 特記事項

- (1) 車両及び歩行者の通行の妨げにならないよう、また作業が充分に行えるようバリケード等により作業場所を確保し、安全管理を行い事故防止に努めること。また、必要箇所交通誘導警備員を配置すること。

・交通誘導警備員： $N=0.5$ 人/回※2人×2時間(0.25日)(想定)

調査想定件数は1回である。

- (2) 洗浄のために吸引した汚水については、下流側最寄りのマンホールまたは中継ポンプ場へ投入すること。ただし、閉塞の原因となるものを含む場合は、発注者と協議の上、指示された場所に搬入することとする。

- (3) 業務に際し不明な点等が発生した場合には、発注者と協議すること。

- (4) 調査にあたり事前に管内の洗浄が必要となった場合は、適宜実施すること。

4 報告

- (1) 対応を行った後には、月例の業務完了報告時に、調査報告書・業務写真を提出すること。

- (2) 報告書には、調査箇所を「福知山市下水道管路台帳管理システム」の図面に記入したものを添付すること。

第5章 小修繕等業務

第1節 共通事項

1 業務概要

- (1) 本業務委託にかかる対象施設における設備等の機能を正常に発揮、維持できるよう適切に修繕及び物品調達等を行うものとする。詳細な概要は次節以降のとおりとする。
- (2) 受注者が負担を負う修繕等は、次節以降に示す1件あたりの費用未満のものを原則とする。ただし受注者が行う修繕等が、1件あたりの費用を超える場合や次節以降に示す各年度の予定件数や上限額を超える場合であっても、年度末までの委託業務費用内で、可能と判断される場合は、発注者との協議のうえ、実施してよいものとする。なお、年度末までの委託業務費用内を超過する恐れがある等で本業務内での実施が困難な場合は、発注者との協議により別途契約とする場合がある。

2 報告

- (1) 修繕等を実施した場合は、作業内容が確認できる実施報告書（写真帳含む）及び修繕等に要した費用の分かる内訳書について、月例の報告書に添付し報告することとする。ただし発注者が緊急を要するものとして提出を求めたものについては、月例の報告書とは別に報告することとする。
- (2) 修繕に要した費用の集計については、別紙 6-11「小修繕等業務集計表」に整理し月例の報告書に添付することとし、各年度の修繕費用の把握を行うこと。この集計様式については、全小修繕項目を集約した報告様式でも可能とする。
- (3) 修繕内容は、「福知山市下水道管路台帳管理システム」に入力することとする。

第2節 污水处理施設修繕

1 業務概要

対象施設における設備等の機能を正常に発揮、維持できるよう適切に修繕を行うものとする。

2 対象施設

- (1) 菟原污水处理場
- (2) 川合污水处理場
- (3) 大原污水处理場

3 各年度の上限額

污水处理施設修繕における各年度の累計上限額は、144万円とする。

ただし、遅行状況により限度額を超える恐れがある場合は、下記の特記事項によるものとする。

4 提出書類

(1) 実施前

- ・修繕実施打合せ簿
- ・修繕見積書（押印不要）等

(2) 実施後（月度報告時）

・修繕施工写真 ・修繕費用集計表（年度累計様式） ・報告書等

5 特記事項

(1) 受注者は、対象施設の施設故障状況一覧表の優先順位を発注者と協議の上決定し修繕を実施することとする。

点検等により、施設状況に変動が見られた場合には、適宜施設故障状況一覧表について変更を行い、発注者と協議を行うこととする。

(2) 受注者が負担を行う修繕は、1件あたりの費用が30万円未満（消費税及び地方消費税を含む）のものとする。ただし、修繕内容や機器等の性能上、1件あたりの費用が30万円以上となる場合は、発注者と協議して決定することとする。

(3) 修繕に使用する部品等は、仕様変更による性能低下とならないよう実施することとする。

(4) 受注者は、修繕の実施にあたって、発注者の承諾を得ることとする。

(5) 受注者は、設備修繕の結果について報告書に記録を行わなければならない。

(6) (5) の記録に対して、発注者から提出を求めた場合は速やかに提出することとする。

(7) 当初において小修繕で実施中に想定外の異常が発見され、大幅に費用が増加すると判断された際には、発注者と協議するものとする。

(8) 年度内において、修繕件数が想定を大幅に超え、小修繕費用が不足すると予想される場合は、発注者と協議するものとする。

(9) かし担保期間は、修繕の完了した日から1年間とする。

第3節 マンホールポンプ施設修繕

1 業務概要

住居などから流入する汚水を次の施設に送水する機能に異常等が発生した場合には、速やかに対象施設の機能回復が行い、対象施設の機能を正常に発揮、維持できるよう適切に修繕を行うものとする。

2 対象施設

当該処理区域のマンホールポンプ施設とする。

3 各年度の上限額

マンホールポンプ施設修繕における各年度の累計上限額は、48万円（消費税及び地方消費税含む）とする。

ただし、履行状況により限度額を超える恐れがある場合は、下記の特記事項によるものとする。

4 提出書類

(1) 実施前

・修繕実施打合せ簿 ・修繕見積書（押印不要）等

(2) 実施後（月度報告時）

・修繕施工写真 ・修繕費用集計表（年度累計様式） ・報告書等

5 特記事項

(1) 受注者は、対象施設の施設故障状況一覧表の優先順位を発注者と協議の上決定し修繕を実施することとする。

点検等により、施設状況に変動が見られた場合には、適宜施設故障状況一覧表について変更を行い、発注者と協議を行うこととする。

(2) 受注者が負担を行う修繕は、1件あたりの費用が30万円未満（消費税及び地方消費税を含む）のものとする。ただし、修繕機器等の性能上、1件あたりの費用が30万円以上となる場合は、発注者と協議して決定することとする。

(3) 修繕に使用する部品等は、仕様変更による性能低下とならないよう実施すること。

(4) 受注者は、修繕の実施にあたって発注者の承諾を得ること。

(5) 受注者は、設備修繕の結果について報告書に記録を行わなければならない。

また、その記録に対して、発注者から提出を求めた場合は速やかに提出すること。

(6) 当初において小修繕で実施中に想定外の異常が発見され、大幅に費用がかさむと判断された際には、発注者と協議するものとする。

(7) 年度内において、修繕件数が想定を大幅に超え、小修繕費用が不足する場合は発注者と協議するものとする。

(8) かし担保期間は、修繕の完了した日から1年間とする。

第4節 公共汚水ます修繕

1 業務概要

下水道管路に接続している公共汚水ますに、破損や不具合が発生している場合は、下水道管路の接続機能が正常に維持できるよう適切に修繕を行う。また、修繕の施工に際しては、発注者の承諾を得てから実施すること。

2 対象箇所

当該処理区域の公共汚水ますとする。

3 各年度の予定件数及び限度額

公共汚水ます修繕の費用における各年度の累計上限額は、20万円（消費税及び地方消費税を含む）とする。修繕想定件数は、1件である。

ただし、履行状況により限度額を超える恐れがある場合は、下記の特記事項によるものとする。

4 提出書類

(1) 実施前

・修繕実施打合せ簿 ・修繕見積書（押印不要）等

(2) 実施後（月度報告時）

・修繕施工写真 ・修繕費用集計表（年度累計様式） ・報告書等

5 特記事項

(1) 車両及び歩行者の通行の妨げにならないよう、また作業が十分に行えるようバリケード等により作業場所を確保し、安全管理を行い事故防止に努めること。また、必要箇所に交通誘導警備員を配置すること。

・交通誘導警備員：N=2人/件（想定）

(2) 使用する部材は、福知山市下水道用標準構造図の仕様を満足したもの、または、下水道協会及び下水道推進機構の認定品を基本とする。

(3) 作業の前日までに、自治会や作業場所周辺住民の理解を得ること。

(4) 当初の修繕予定件数と実績の差が大きい場合、その他修繕内容で疑義が生じた場合には、発注者と受注者で協議するものとする。

(5) 修繕内容の確認が困難な場合には、掘削を求めることがある。

第5節 止水修繕

1 業務概要

下水道管路及びマンホール本体における漏水や浸入水を伴う不良箇所の修繕を行う。工法においては、状況に応じた適切な方法を選択し止水を行う。

この修繕により、下水道管路の機能を正常に維持できるよう適切に修繕を行うこととする。また、修繕の施工に際しては、発注者の承諾を得てから実施することとする。

2 対象箇所

当該処理区域の管路施設とする。

3 各年度の予定件数等

止水修繕の費用における各年度の累計上限額は、20万円（消費税及び地方消費税含む）とする。修繕想定件数は、2件である。

ただし、施工条件等によりこの費用を超える恐れがある場合は、下記の特記事項によるものとする。

4 提出書類

(1) 実施前

・修繕実施打合せ簿 ・修繕見積書（押印不要）等

(2) 実施後（月度報告時）

・修繕施工写真 ・修繕費用集計表（年度累計様式） ・報告書等

5 特記事項

(1) 車両及び歩行者の通行の妨げにならないよう、また作業が十分に行えるようバリケード等により作業場所を確保し、安全管理を行い事故防止に努めること。また、必要箇所に交通誘導警備員を配置すること。

・交通誘導警備員：N=2人/5件（想定）

※1日あたり5件を想定し1件あたりに換算。

(2) 使用する部材は、福知山市下水道用標準構造図の仕様を満足したもの、または、下水道協会及び下水道推進機構の認定品を基本とする。

(3) 作業の前日までに、自治会や作業場所周辺住民の理解を得ること。

(4) 当初の修繕予定件数と実績の差が大きい場合、その他修繕内容で疑義が生じた場合には、発注者と受注者で協議するものとする。

(5) 修繕内容の確認が困難な場合には、掘削を求めることがある。

第6節 取付管修繕

1 業務概要

下水道管路に接続している取付管に、破損や不具合が発生している場合は、下水道管路への接続機能が正常に維持できるよう適切に修繕を行うこととする。

また、修繕の施工に際しては、発注者の承諾を得てから実施することとする。

2 対象箇所

当該処理区域の取付管とする。

3 各年度の予定件数及び限度額

取付管修繕の費用における各年度の累計上限額は、35万円（消費税及び地方消費税を含む）とする。修繕予定件数は1件である。

ただし、履行状況により限度額を超える恐れがある場合は、下記の特記事項によるものとする。

4 提出書類

(1) 実施前

・修繕実施打合せ簿 ・修繕見積書等

(2) 実施後（月度報告時）

・修繕施工写真 ・修繕費用集計表（年度累計様式） ・報告書等

5 特記事項

(1) 車両及び歩行者の通行の妨げにならないよう、また作業が十分に行えるようバリケード等により作業場所を確保し、安全管理を行い事故防止に努めること。また、必要箇所に交通誘導警備員を配置すること。

・交通誘導警備員：N=2人/件（想定）

(2) 使用する部材は、福知山市下水道用標準構造図の仕様を満足したもの、または、下水道協会及び下水道推進機構の認定品を基本とする。

- (3) 作業の前日までに、自治会や作業場所周辺住民の理解を得ること。
- (4) 当初の修繕予定件数と実績の差が大きい場合、その他修繕内容で疑義が生じた場合には、発注者と受注者で協議するものとする。
- (5) 修繕内容の確認が困難な場合には、掘削を求めることがある。

第7節 本管簡易修繕

1 業務概要

下水道本管に、破損や不具合が発生している場合は、本管路の機能が正常に維持できるよう適切に修繕を行う。

また、修繕の施工に際しては、発注者の承諾を得てから実施すること。

2 対象箇所

当該処理区域の下水道本管とする。

3 各年度の予定件数及び限度額

本管簡易修繕の費用における各年度の累計上限額は、36万円（消費税及び地方消費税を含む）とする。簡易修繕予定件数は1件である。

ただし、履行状況により限度額を超える恐れがある場合は、下記の特記事項によるものとする。

4 提出書類

(1) 実施前

・修繕実施打合せ簿 ・修繕見積書等

(2) 実施後（月度報告時）

・修繕施工写真 ・修繕費用集計表（年度累計様式） ・報告書等

5 特記事項

- (1) 車両及び歩行者の通行の妨げにならないよう、また作業が十分に行えるようバリケード等により作業場所を確保し、安全管理を行い事故防止に努めること。また、必要箇所に交通誘導警備員を廃止すること。

・交通誘導警備員：N=2人/件（想定）

- (2) 使用する部材は、福知山市下水道用標準構造図の仕様を満足したもの、または、下水道協会及び下水道推進機構の認定品を基本とする。
- (3) 作業の前日までに、自治会や作業場所周辺住民の理解を得ること。
- (4) 当初の修繕予定件数と実績の差が大きい場合、その他修繕内容で疑義が生じた場合には、発注者と受注者で協議するものとする。
- (5) 修繕内容の確認が困難な場合には、掘削を求めることがある。

第8節 物品調達

第6編 農集福知山南部地区下水道施設運転管理等業務
第5章 小修繕等業務

1 業務概要

本業務は、対象となる施設において、放流水質の基準値内の放流水を維持ができ、機器類の安定した稼働を継続できるよう、適正な物品類の調達を行うものである。

また、処理施設維持管理業務の履行に際して、適正な在庫管理を行うこととする。

2 調達する物品区分

調達する物品について、区分概要を次に記載し、各調達物品の内容を下記の表に示す。

(1) 薬品類及び機械・電気部品類

薬品類は、汚水処理施設からの放流水質の確保や保全、発生する汚泥の安定処理に必要となる薬品類とする。

機械・電気部品類は、異常または故障が発生した場合に、所有しているその部品類を使用して復旧できる部品類とする。

(2) 維持管理消耗品

維持管理消耗品は、作業に必要となる燃料費、機器類の保守管理に係る油脂類、現場整備に係る清掃用具や現場作業者の衛生用品等のような作業現場業務を履行するために必要とする消耗品とする。

(3) その他消耗品

その他消耗品は、業務履行報告に関する事務用品費用等の一般的な消耗品とする。

表 調達物品の区分と例

薬品類	・放流水塩素消毒用薬品 ・処理水等 p H調整用薬品
機械・電気部品類	・簡易な補修に関する機械及び電気部品
維持管理消耗品	・燃料費（作業用（草刈り機含む）、車両用） ・潤滑油類費（交換及び補充用のオイル・グリース等） ・塗装費（軽微な部分補修用塗料） ・整備費用（掃除道具、ウエス、洗浄油類） ・補修用材料（ボルト、ナット、パッキン、ヒューズ、ランプ等一般汎用品の範囲内とする。） ・水質測定用薬剤 ・衛生用品（石鹼、消毒液、救急用薬品） ・上記に該当しないものであっても本業務を遂行するために、一般的に当然必要であると認められる消耗品
その他消耗品	・報告記録用紙費（日報、月報、年報、FAX用紙等） ・その他日用品、事務用品等 ・上記に該当しないものであっても本業務を遂行するために、一般的に当然必要であると認められる物品

3 各年度の上限額

(1) 薬品類

薬品類の各年度の購入累計上限額は、61万円（消費税及び地方消費税含む）とする。

想定した使用量に対して増減が激しい場合は、発注者と調達費用に関する協議を行い、決定するものとする。

(2) 機械・電気部品類

機械・電気部品類の各年度の購入累計上限額は、28万円（消費税及び地方消費税含む）とする。

第6編 農集福知山南部地区下水道施設運転管理等業務
第5章 小修繕等業務

調達する部品類の単価は、5万円未満（消費税及び地方消費税含む）とするが、部品の性能上、単価が5万円以上（消費税及び地方消費税を含む）の部品類は、発注者と協議の上、調達方法を決定する。

4 調達物品の管理

- (1) 受注者は、処理場等の管理運転に要する薬剤等及び潤滑油脂類、消耗品等の調達及び管理を行わなければならない。
- (2) 物品管理者及び薬品類の管理者を選任し、保管、取扱等には十分注意して適正な管理を行うこととする。
- (3) 物品の調達管理は、適正な品質及び規格の物品等を調達し、施設等の運転、耐用年数等に影響を与えないようにすることとする。
- (4) 常に在庫数量等を把握して適宜適切に調達し、在庫不足、品質低下等による施設運転等への支障を与えないようにすることとする。
- (5) 薬品類については、品質証明書等の書類を保管し、発注者から提出を求められた場合は、写し等を提出することとする。
- (6) 調達する薬品類の化学物質等安全データシート（MSDS）は、常に最新のものを常備し、保管することとする。

5 記録及び報告

受注者は、納入品及び数量（使用量含む）の記録を行い、定期的にその記録の報告を行うこととする。

また、その記録に対して、発注者の求めがあった場合は速やかに提出することとする。

6 その他

物品調達の実施にあたっては、地元経済の発展のため、地元企業から優先して購入することをお願いする。

その他の記載なき事項については、発注者と受注者の協議の上、決定するものとする。

処理場名

令和 年 月 日

点検日		1日	2日	3日	4日	5日	6日	7日	8日	9日	10日	11日	12日	13日	14日	15日	16日	17日	18日	19日	20日	21日	22日	23日	24日	25日	26日	27日	28日	29日	30日	31日
点検・確認内容	曜日																															
	天候																															
	気温																															
	表示ランプ																															
	悪臭・異常音																															
	各槽内目視																															
	機器目視																															
	排水流入水路																															
	スクリーン残渣処分																															
	消毒薬剤残量																															
	窓・扉・照明																															
	点検者氏名	工具・備品の整頓																														
戸締まり及び施錠																																
敷地内危険・異常箇所																																
敷地内清掃・除草																																
敷地内植木の散水																																
保守点検があるとき○																																
備考	不良（作業）箇所																															
	不良（作業）箇所																															
	不良（作業）箇所																															
	不良（作業）箇所																															

*記載方法：良→○、不良→× 不良内容等を備考欄に記載すること。また、作業等について特記事項を記載。

日	流入量 m ³	pH		透視度		水温		残留塩素 mg/l	滅菌剤 (k g)		汚泥引抜量 m ³	水道		動力電気		電灯電気		備考
		流入	放流	流入	放流	流入	放流		入荷量	使用量		表示値	使用量	表示値	使用量	表示値	使用量	
1																		
2																		
3																		
4																		
5																		
6																		
7																		
8																		
9																		
10																		
11																		
12																		
13																		
14																		
15																		
16																		
17																		
18																		
19																		
20																		
21																		
22																		
23																		
24																		
25																		
26																		
27																		
28																		
29																		
30																		
31																		
平均																		
最大																		
最小																		
計																		
累計																		

特記事項

菟原 汚 水 処 理 場 機 器 点 検 表

令和 年 月 日 曜日 ℃ 天候 点検者

機器稼動設定

ばっ気沈砂引抜	連続	回/日	-	分/回	散水ポンプ	回/日	分/回
1系嫌気汚泥引抜		回/日		分/回	脱臭装置散水時間	回/日	秒/回
1系沈殿槽汚泥引抜		回/日		分/回	濃縮槽汚泥引抜	回/日	秒/回
2系嫌気汚泥引抜		回/日		分/回	濃縮槽脱離液電動弁	-	回/日 - 分/回
2系沈殿槽汚泥引抜		回/日		分/回	透視度計洗浄時間		回/日

各 単 位 装 置 の 状 況

荒目スクリーン			稼動状況	良	・	否	2系	汚水計量槽		堰高	cm		
			し渣量	少	・	除去				流量	m3/日		
細目スクリーン			稼動状況	良	・	否		嫌気濾床槽	第1室	異常水位	良	・	否
			し渣量	少	・	除去				スカム生成状況	良	・	否
ばっ気沈砂槽	ばっ気状況	良	・	否	第2室	汚泥引抜P稼動状況				良	・	否	
	排出ポンプ	良	・	否		異常水位				良	・	否	
	砂溜槽沈砂	少	・	除去		スカム生成状況				良	・	否	
破砕機	稼動状況	良	・	否	第3室	異常水位				良	・	否	
原水ポンプ槽	揚水状況	良	・	否		スカム生成状況			良	・	否		
	フロート	良	・	否		ばっ気槽			第1室	空気量	m3/min		
	電磁流量計	良	・	否	ばっ気強度					m3/m3hr			
非常用ポンプ	待機状態	良	・	否	生物膜			良		・	否		
	バッテリー液	良	・	補充	旋回流			良		・	否		
微細目スクリーン	稼動状況	良	・	否	第2室			消泡		良	・	否	
	し渣量	少	・	除去				空気量	m3/min				
流量調整槽	揚水状況	良	・	否				ばっ気強度	m3/m3hr				
	フロート	良	・	否				生物膜	良	・	否		
	攪拌状況	良	・	否				旋回流	良	・	否		
し渣脱水機	し渣量	少	・	除去	返送水槽	槽内状況		良	・	否			
	稼働状況	良	・	否				堰高	cm				
透視度計	異常の有無	有	・	無			返送水量	m3/日					
換気ファン	稼動状況	良	・	否	返送水率		%						
1系	汚水計量槽		堰高	cm		沈殿槽	越流状況	良	・	否			
			流量	m3/日				エアリフトポンプ	良	・	否		
	嫌気濾床槽	第1室	異常水位	良	・			否	スキマー	良	・	否	
			スカム生成状況	良	・		否	散水ポンプ槽	稼動状況	良	・	否	
			汚泥引抜P稼動状況	良	・		否		フロート	良	・	否	
		第2室	異常水位	良	・		否		消毒槽	薬剤接触状況	良	・	否
			スカム生成状況	良	・	否	消毒剤	補給		kg			
			スカム生成状況	良	・	否	塩素注入率	mg/l					
	ばっ気槽	第1室	空気量	m3/min		汚泥濃縮槽	槽内状況	良	・	否			
			ばっ気強度	m3/m3hr				エアリフトポンプ	良	・	否		
			生物膜	良	・			否	汚泥界面	m			
			旋回流	良	・		否	No.1	槽内状況	良	・	否	
			消泡	良	・		否		散気装置	良	・	否	
		第2室	空気量	m3/min		汚泥貯留槽	No.2		液位, 貯留量	m,	m3		
			ばっ気強度	m3/m3hr					汚泥濃度	mg/l			
			生物膜	良	・				否	槽内状況	良	・	否
			旋回流	良	・		否	散気装置	良	・	否		
			消泡	良	・		否	液位, 貯留量	m,	m3			
	返送水槽	槽内状況	良	・	否	脱臭設備	稼動状況	良	・	否			
			堰高	cm				汚泥引抜ポンプNo.1	稼動状況	良	・	否	
			返送水量	m3/日				汚泥引抜ポンプNo.2	稼動状況	良	・	否	
			返送水率	%				稼動状況	良	・	否		
	沈殿槽	越流状況	良	・	否	ブロワ室	室内状況	良	・	否			
			エアリフトポンプ	良	・			否					
			スキマー	良	・			否					

【備考】

川 合 汚 水 処 理 場 機 器 点 検 表

令和 年 月 日 曜日 ℃ 天候

														点検者			
月 日	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	平均			
流入水量 (m3/日)																	
透視度 (cm)																	
動力				kwh r		電灯		kwh r		水道		m3					
機 器 稼 動 設 定							各 単 位 装 置 の 状 況										
破砕機		連続		回/日		-		分/回		ばっ気槽		第 1 室		ばっ気強度		m3/m3hr	
ばっ気沈砂引抜		連続		回/日		-		分/回						空気量		m3/min	
沈殿槽汚泥引抜				回/日				分/回						旋回流		良 ・ 否	
濃縮槽汚泥引抜				回/日				秒/回						消泡		良 ・ 否	
土壌脱臭装置散水時間				回/日				分/回				第 2 室		ばっ気強度		m3/m3hr	
各 単 位 装 置 の 状 況							空気量		m3/min								
中継ポンプ槽		揚水状況				良 ・ 否		沈殿槽		旋回流				良 ・ 否			
		液位計				良 ・ 否				消泡		良 ・ 否					
		電磁流量計				良 ・ 否				放流槽		越流状況		良 ・ 否			
前処理室		室内状況				良 ・ 否		エアリフトポンプ				良 ・ 否					
自動荒目スクリーン		稼動状況				良 ・ 否		スキマー				良 ・ 否					
		し渣量				少 ・ 除去		汚泥濃縮槽				透視度計		良 ・ 否			
ばっ気沈砂槽		ばっ気状況				良 ・ 否				薬剤接触状況		良 ・ 否					
		排出ポンプ				良 ・ 否				消毒剤		補給 kg					
		砂溜槽沈砂				少 ・ 除去				塩素注入率		mg/l					
破砕機		稼動状況				良 ・ 否		汚泥貯留槽		槽内状況		良 ・ 否					
細目スクリーン		稼動状況				良 ・ 否				エアリフトポンプ		良 ・ 否					
自動微細目スクリーン		稼動状況				良 ・ 否				汚泥厚		m					
し渣脱水機 No. 1		し渣量				少 ・ 除去		汚泥貯留槽		槽内状況		良 ・ 否					
		稼動状況				良 ・ 否				散気装置目詰り		良 ・ 否					
し渣脱水機 No. 2		し渣量				少 ・ 除去				脱臭設備		液位, 貯留量		m, m3			
		稼動状況				良 ・ 否		稼動状況				良 ・ 否					
ブロワ室		室内状況				良 ・ 否		換気ファン		稼動状況		良 ・ 否					
発電装置		待機状態				良 ・ 否		【備考】									
		バッテリー液				良 ・ 補充											
沈殿分離槽		第 1 室	槽内状況				良 ・ 否										
沈殿分離槽		第 2 室	槽内状況				良 ・ 否										

菟原汚水処理場 令和 年度 機器運転時間等 月報

機器運転時間 [h]		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
機 器 名														
荒目スクリーン														
破砕機														
No.1 ブローワー														
No.2 ブローワー														
No.3 ブローワー														
No.1 原水ポンプ														
No.2 原水ポンプ														
No.1 流量調整ポンプ														
No.2 流量調整ポンプ														
No.1 水中攪拌ポンプ														
No.2 水中攪拌ポンプ														
No.1 汚泥引抜ポンプ														
No.2 汚泥引抜ポンプ														
散水ポンプ														
給気ファン														

※ 毎月1日、出来るだけ同じ時間に読んで下さい。
※ メーターの積算値は、小数点第1位まで読んで下さい。

[上段： カウンター積算値]
[下段： 当月機器運転時間等]

菟原污水处理場 令和 年度 機器運転時間等 月報

機器運転時間 [h]		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
機器名														
排気ファン														
脱臭ファン														
非常用エンジンポンプ														

※ 毎月1日、出来るだけ同じ時間に読んで下さい。

※ メーターの積算値は、小数点第1位まで読んで下さい。

[上段：カウンター積算値]

[下段：当月機器運転時間等]

川合汚水処理場 令和 年度 機器運転時間等 月報

機器運転時間 [h]		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
機 器 名														
中継ポンプ①														
中継ポンプ②														
荒目スクリーン														
破砕機														
No.1 プロロー														
No.2 プロロー														
No.3 プロロー														
No.1 微細目スクリーン														
No.2 微細目スクリーン														
No.1 し渣脱水機														
No.2 し渣脱水機														
排気ファン														
脱臭ファン														
自家発電装置														

※ 毎月1日、出来るだけ同じ時間に読んで下さい。
※ メーカーの積算値は、小数点第1位まで読んで下さい。

[上段： カウンター積算値]
[下段： 当月機器運転時間等]

大原污水处理場 令和 年度 機器運転時間等 月報

[illegible]

※ 毎月1日、出来るだけ同じ時間に読んで下さい。

※ メーターの積算値は、小数点第1位まで読んで下さい。

水 質 分 析 検 査 報 告 書

月分

測定項目	単位	菟原污水处理場		川合污水处理場		大原污水处理場	
		流入水	放流水	流入水	放流水	流入水	放流水
気温	℃						
水温	℃						
pH	-						
浮遊物質(SS)	m g /ℓ						
C O D	m g /ℓ						
B O D	m g /ℓ						
ATU-B O D	m g /ℓ						
全燐 (T-P)	m g /ℓ						
全窒素 (T-N)	m g /ℓ						
大腸菌	個/ℓ						
蒸発残留物	m g /ℓ						
透視度	c m						

月分

採水箇所	単位	菟原污水处理場	川合污水处理場	大原污水处理場
		濃縮汚泥	濃縮汚泥	濃縮汚泥
汚泥含水率	%			
汚泥有機分	%			

施 設 名	計 器 名	メーカ	検 出 器	変 換 器	製造番号	備考	年
菟原污水处理場	流入流量計	愛知時計	TAV80V-30UT		Ser. 52521		2023
川合污水处理場	流入流量計	アズビル/山武	SMT31A-080PJ1LSAAAA-XX-A		-		-

菟原処理場

大枠	分類				数量	機器点検(回)	機器点検 及び総合 点検(回)
消火器具	粉末 (ABC)	蓄圧			3	2	0
誘導灯及び誘導標識	誘導灯	1 階	C 級		2	2	0
	誘導灯	地下 1 階	C 級		1	2	0
配線	総合点検				1	0	1

川合処理場

大枠	分類				数量	機器点検(回)
消火器具	粉末 (ABC)	蓄圧			2	1

農集福知山南部地区

1	三和町 峠 1号	51		101	
2	三和町 峠 2号	52		102	
3	三和町 峠 3号	53		103	
4	三和町 上川合 1号	54		104	
5	三和町 上川合 2号	55		105	
6	三和町 上川合 3号	56		106	
7	三和町 上川合 4号	57		107	
8	三和町 菟原下一 1号	58		108	
9	三和町 菟原下一 2号	59		109	
10	三和町 菟原下一 3号	60		110	
11	三和町 菟原下一 4号	61		111	
12	三和町 菟原下一 5号 ◎	62		112	
13	三和町 菟原下一 6号	63		113	
14	三和町 菟原下二 1号	64		114	
15	三和町 菟原下二 2号	65		115	
16	三和町 菟原中 1号	66		116	
17	三和町 菟原中 2号	67		117	
18	三和町 菟原中 3号	68		118	
19	三和町 菟原中 4号	69		119	
20	三和町 菟原中 5号	70		120	
21	三和町 菟原中 6号	71		121	
22	三和町 菟原中 7号	72		122	
23	三和町 菟原中 8号	73		123	
24	三和町 菟原中 9号	74		124	
25	三和町 菟原中 10号	75		125	
26	三和町 菟原中 11号	76		126	
27	三和町 高杉 1号	77		127	
28	三和町 大原 1号	78		128	
29	三和町 大原 2号	79		129	
30		80		130	
31		81		131	
32		82		132	
33		83		133	
34		84		134	
35		85		135	
36		86		136	
37		87		137	
38		88		138	
39		89		139	
40		90		140	
41		91		141	
42		92		142	
43		93		143	
44		94		144	
45		95		145	
46		96		146	
47		97		147	
48		98		148	
49		99		149	
50		100		150	

※ 川合地区系統(1-7)、菟原地区系統(8-27)、大原簡易排水地区系統(28, 29)

※ 施設名の◎印はポンプ出力7.5kW以上を示す。

マンホールポンプ設備 巡回点検記録表 設備点検 ・ 特殊点検

施 設 名	号 マンホールポンプ設備		
点 検 日	令和 年 月 日 () 天候		
号 数	1号	2号	3号
仕 様	Kw / / φ / 台		
ポ ン プ 型 式			
ポ ン プ 製 造 番 号			
吐 出 し 量 (定 格)	m3/min	m3/min	
ポ ン プ 点 検			
外 観	良 ・ 不良	良 ・ 不良	良 ・ 不良
異 常 音	有 ・ 無	有 ・ 無	有 ・ 無
振 動	有 ・ 無	有 ・ 無	有 ・ 無
電流値 定格 A	A (指示 A)	A (指示 A)	A (指示 A)
運 転 時 間 (h r)			
上 段 : 指 示 値 下 段 : 前 回 差 引			
減 水 確 認	良 ・ 不良	良 ・ 不良	良 ・ 不良
停 止 水 位 に よ る 自 動 停 止 確 認	良 ・ 不良		
フ ロ ー ト ス イ ッ チ 動 作 ・ 外 観	良 ・ 不良		
絶 縁 抵 抗 測 定	MΩ	MΩ	MΩ
着 脱 装 置	良 ・ 不良	良 ・ 不良	良 ・ 不良
逆 止 弁	良 ・ 不良	良 ・ 不良	良 ・ 不良
吊 り 下 げ チ ェ ー ン	良 ・ 不良	良 ・ 不良	良 ・ 不良
操 作 盤 点 検			
外 観	良 ・ 不良 ・ 不良箇所 ()		
回 転 灯 ・ 表 示 灯 等 確 認	良 ・ 不良	・ 回転灯設置無 ・ 計器指示値	
回 転 灯 損 傷 内 部 水 滴 付 着	良 ・ 不良	・ 設置無	
通 報 装 置 作 動 テ ス ト	良 ・ 不良	・ 設置無	
漏 電 遮 断 機 作 動 テ ス ト	良 ・ 不良	良 ・ 不良	良 ・ 不良
3 E ト リ ッ プ 作 動 テ ス ト	良 ・ 不良	良 ・ 不良	良 ・ 不良
断 線 ・ ゆ る み ・ ヒ ュ ー ズ 切 れ の 有 無	有 ・ 無	・ 取替部品 ()	
水 位 計 指 示 値 の 誤 差	有 (誤差)	無	・ 設置無
操 作 盤 内 清 掃 ほ か	/ 予備品 良	・ 不足 (補充)	
マンホール槽への配線状況	良 ・ 不良		
そ の 他			
液位検出器の状況及び作動確認	良 ・ 不良 ・ 不良箇所 ()		
ス カ ム 堆 積	有 [/ 多 (清掃要) ・ 少 (観察)] ・ 無		
配 管 漏 水	有 ・ 無	有 ・ 無	有 ・ 無
ジ ョ イ ン ト 部 接 合 状 況	良 ・ 不良	良 ・ 不良	良 ・ 不良
マ ン ホ ー ル 蓋	良 ・ 不良	不良箇所 ()	
操 作 盤 自 動 ・ 施 錠 確 認	(氏名)		
備 考			
	別紙報告書等 (写真ほか) 有 ・ 無		
受 注 者 ・ 氏 名	⑩	⑩	⑩

※ 右上の「設備点検・特殊点検」は、該当する方に○をつけてください。

処理区名：農集福知山南部地区

番号	実施日	実施項目	実施場所	実施内容	単位	実施数量	備考
1							
2							
3							
4							
5							
6							
7							
8							
9							
10							
11							
12							
13							
14							
15							
16							
17							
18							
19							
20							
21							
22							
23							
24							
25							

実施回数集計

項 目	予定数量	実施数量	単位	差	備考
圧送管清掃	1	0	回	1	1回100m 高圧洗浄
管路緊急対応(高圧洗浄：昼間)	1	0	回	1	
管路緊急対応(高圧洗浄：夜間)	0	0	回	0	
管路緊急対応(簡易作業：昼間)	1	0	回	1	
管路緊急対応(簡易作業：夜間)	1	0	回	1	
不明水調査	2	0	回	2	1回4時間
本管テレビカメラ	1	0	回	1	
取付け管テレビカメラ	1	0	回	1	
その他	0	0	回	0	

処理区名：農集福知山南部地区

番号	実施日	実施項目	実施場所	実施内容	実施費用(税込)	備考
1						
2						
3						
4						
5						
6						
7						
8						
9						
10						
11						
12						
13						
14						
15						
16						
17						
18						
19						
20						
21						
22						
23						
24						
25						
26						
27						
28						
29						
30						
31						
32						
33						
34						
35						

実施回数・金額集計		予定回数	予定金額（税込）	実施回数	実施金額（税込）	回数差	金額差（税込）
汚水処理場施設修繕			1,440,000				
マンホールポンプ施設修繕			480,000				
公共汚水ます修繕		1	200,000				
止水修繕		2	200,000				
取付管修繕		1	350,000				
本管簡易修繕		1	360,000				
物品調達（薬品）			610,000				
物品調達（機械電気部品）			290,000				
その他			0				
合 計			3,930,000				

第7編 農集福知山北部地区下水道施設運転管理等業務

第1章 污水处理施設管理業務

第1節 污水处理施設運転・保守管理業務

1 管理施設

(1) 施設名称

- ①井田額田污水处理場
- ②向污水处理場
- ③上夜久野污水处理場
- ④高内日置污水处理場
- ⑤千原污水处理場
- ⑥小倉污水处理場
- ⑦大江河東污水处理場
- ⑧北有路污水处理場
- ⑨有路污水处理場

(2) 施設規模

別紙 1-2「処理施設規模」及び別紙 1-3「処理施設位置図」参照

2 日常点検

(1) 日数 毎日（土曜日、日曜日、祝日、年末年始、保守点検日及び受注者の定める休日を除く。但し、特別な事情がある場合は発注者と協議すること。）

(2) 内容 別紙 7-1「日常目視点検表」及び別紙 7-2「日常管理記録表」に基づき実施し、故障、異常があった場合には、適切な応急措置を行うと共に、発注者に連絡することとする。

3 保守点検

(1) 日数 毎週1回（但し、特別な事情がある場合は発注者と協議すること。）

(2) 内容 別紙 7-3「施設点検表」に基づき、施設の機器と水質について技術的な判断と管理を行うこととする。また、定期的に機器の保守を実施することとする。各月最終週における保守点検において、機器運転時間を別紙 7-4「機器運転時間集計表」により記録することとする。

4 放流水質の確保

日常点検時には、放流水質が基準値以内であり、安定した水質管理に努めることとする。

5 薬品類の管理

(1) 污水处理に必要な薬品類は、常に使用状況と在庫数を薬品使用状況報告書に記録するとともに管理し、不足が無いように物品調達を行うこととする。

第7編 農集福知山北部地区下水道施設運転管理等業務
第1章 污水处理施設管理等業務

(2) 当該污水处理施設で使用する薬品は、次のとおりである。

① 塩素滅菌剤（放流処理水用）

ア 外 観	円形扁平型錠剤(約 30mmφ×約 13mmφ)
イ 有効成分	トリクロロイソシアヌル酸：99%
ウ 納 入 量	1220kg（年間見込み量）

(3) 污水处理に使用する薬品類が污水处理の放流水質と合わない場合には、速やかに発注者に報告し、協議の上、新たな薬品類を使用することとする。

6 発生汚泥の管理

(1) 污水处理で発生する汚泥は、定期的又は臨機に必要と認められた場合は、汚泥泥槽の清掃として実施する。

(2) 汚泥槽の清掃は、バキューム車で引抜き、福知山終末処理場へ搬入する。(汚泥等の運搬費用についても本業務に含むものとする。年間当りの汚泥発生量は井田額田污水处理場 138m³、向污水处理場 54m³、上夜久野污水处理場 266m³、高内日置污水处理場 42m³、千原污水处理場 53m³、小倉污水处理場 76m³、大江河東污水处理場 197m³、北有路污水处理場 217m³、有路污水处理場 231m³を見込んでいる。)

7 簡易な故障修理

通常の勤務者が時間内でできる作業とし、外部より作業者を求めなくてもよい作業であり、特殊な機器・部品、または高度な専門技術を必要としない修理である。日常点検時には、放流水質が基準値以内であり、安定した水質管理に努めることとする。

8 緊急時の措置

故障等の連絡があった場合は、直ちに現場を確認し、適切な応急措置を行うと共に、発注者へ連絡することとする。

9 施設管理報告

本業務では、次に示す報告書類を提出すること。

(1) 月度報告事項

第1編 第1章 第13節 業務履行報告 3 月度報告に記載の内容に準ずる。

(2) 年度報告事項

第1編 第1章 第13節 業務履行報告 4 年度報告に記載の内容に準ずる。

(3) 適宜報告事項

第1編 第1章 第13節 業務履行報告 5 適宜報告に記載の内容に準ずる。

10 疑義等

本仕様書に定めのない事項又は疑義が生じたときは、発注者、受注者の双方協議の上、定めるものとする。

第2節 水質検査業務

1 業務概要

福知山北部地区の農業集落排水処理施設からの放流水質や、処分される汚泥等の状況を定期的に測定し基準値内であることを確認するための試験を行うものである。

2 業務内容

(1) 日常水質検査

(2) 法定水質検査

3 共通事項

(1) 検査要領

ア 採水及び採泥等をするときは、採取記録をすること。

イ 採取した検体は、速やかに水質検査を行うこと。

ただし、速やかに検査が出来ない場合は、関係法令等の方法により措置を施すこと。

ウ 関係法令及び、水質測定方法手順書に基づき行うこと。

エ 測定機器毎の誤差をなくすため、同一測定機器を用いて行うこと。

オ 受注者の用意した測定機器を使用する場合は、測定機器のリストと測定機器の校正記録又は、それに相当するものを提出すること。

(2) 検査結果報告書等

ア 別紙 7-5「水質分析検査報告書」に施設ごとの採水、採泥記録を記載し、速やかに発注者に報告すること。

イ 各項目の検査結果が基準値の2分の1以上を超過した場合は、超過している項目を速やかに発注者に打合せ簿により報告すること。

ウ 測定値が基準値内でない、もしくは検査結果が基準値を超過している場合は、その結果を発注者に報告するとともに、その項目の再検査を実施すること。

エ 月度報告として、当該月の水質検査結果と次月の採取予定表を発注者に提出すること。

(3) 基準値超過

ア 本業務において、放流水質等の法定基準を達成できない場合は、次のとおり対応すること。

① 未達成状況の確認及び報告

放流水質が法定基準を達成できていないことを把握した場合は、速やかに発注者に報告すること。

② 改善計画書の提出

(ア) 改善計画書の提出を命じられてから10日以内に改善計画書を発注者に提出し、発注者の指導、監督に従って原因究明や改善対応をすること。

第7編 農集福知山北部地区下水道施設運転管理等業務
第1章 污水处理施設管理等業務

(イ) 原因究明、改善計画書の作成及び実施にかかる費用は、受注者が負担すること。

(ウ) 受注者は、自らの負担で行う計測において、改善対応の効果を確認し、改善の状況を発注者に報告すること。

(4) 月度報告書

月度報告書は、各施設の水質検査結果及び次月採取予定表を提出すること。

(5) 年度報告書

年度報告書は、水質検査結果及び週報告書のデータをそれぞれ、年ごとにまとめ、日平均値、最小値、最大値及び基準値を表記したものを、業務完了届及びエクセル形式データと共に提出すること。

(6) 維持管理年報資料の作成

発注者の指示に従い維持管理年報資料の作成を行うこと

4 日常水質検査 採取及び検査業務

(1) 汚水の水質検査

汚水の水質検査は、毎月1回実施する。

採取検体と年間の検体数は、次の表のとおりとする。

検査項目		1施設の年間採取検体		対象施設	年間検体数
		流入水	放流水	対象数：9施設	
1	気温	12	12	井田額田污水处理場	216
2	水温	12	12	向污水处理場	216
3	pH	12	12	上夜久野污水处理場	216
4	浮遊物質(SS)	12	12	高内日置污水处理場	216
5	COD	12	12	千原污水处理場	216
6	BOD	12	12	小倉污水处理場	216
7	ATU-BOD	12	12	大江河東污水处理場	216
8	全磷(T-P)	12	12	北有路污水处理場	216
9	全窒素(T-N)	12	12	有路污水处理場	216
10	大腸菌	12	12		216
11	蒸発残留物	12	12		216

(2) 汚泥の性状検査

汚泥の性状検査は、毎月1回実施する。

採取検体と年間の検体数は、次の表のとおりとする。

検査項目	1施設の年間採取検体	対象施設	年間検体数
------	------------	------	-------

第7編 農集福知山北部地区下水道施設運転管理等業務
第1章 污水处理施設管理等業務

		濃縮汚泥	施設数：9 施設	
1	汚泥含水率（％）	12	井田額田污水处理場 向污水处理場 上夜久野污水处理場 高内日置污水处理場 千原污水处理場	108
2	汚泥有機分（％）	12	小倉污水处理場 大江河東污水处理場 北有路污水处理場 有路污水处理場	108

検査項目		1 施設の年間採取検体	対象施設	年間検体数
		活性汚泥	施設数：3 施設	
1	MLSS(活性汚泥濃度 mg/l)	12	上夜久野污水处理場 小倉污水处理場	36
2	MLVSS(活性汚泥有機分％)	12	千原污水处理場	36

5 法定水質検査

法定水質検査は、四半期ごとに1回実施する。

採取検体と年間の検体数は、次の表のとおりとする。

法定水質検査は、検査機関から提出される計量証明を添付すること。

対象箇所年間回数（四半期／回）

検体項目		1 施設の年間採取検体	対象施設	年間 検体数
		放流水	施設数：9 施設	
1	水温	4	井田額田污水处理場	36
2	気温	4	向污水处理場	36
3	p H	4	上夜久野污水处理場	36
4	浮遊物質(SS)	4	高内日置污水处理場	36
5	COD	4	千原污水处理場	36
6	BOD	4	小倉污水处理場	36
7	ATU - BOD	4	大江河東污水处理場	36
8	全磷（T-P）	4	北有路污水处理場	36
9	全窒素（T-N）	4	有路污水处理場	36

第7編 農集福知山北部地区下水道施設運転管理等業務
第1章 汚水処理施設管理等業務

10	大腸菌	4		36
11	蒸発残留物	4		36
12	鉱物油類	4		36
13	動植物油類	4		36
14	銅	4		36
15	亜鉛	4		36
16	溶解性鉄	4		36
17	溶解性マンガン	4		36
18	全クロム	4		36
19	カドミウム	4		36
20	鉛及びその化合物	4		36
21	六価クロム	4		36
22	砒素及びその化合物	4		36
23	全水銀	4		36
24	1,4 ジオキサン	4		36
25	ニッケル	4		36

第7編 農集福知山北部地区下水道施設運転管理等業務
第2章 処理施設附帯業務

第2章 処理施設附帯業務

第1節 共通事項

本章は、農集福知山北部地区に関連する下水道施設等における計装機器点検、建物附帯設備法令点検等及び場内環境整備ほか各業務について記載する。なお、各節における業務については、実施後の月度報告において随時提出するものとする。

第2節 自家発電機用エンジン点検業務

1 業務概要

自家発電機用エンジンの機能を良好な状態に保つため、専門業者による整備点検を受けることとする。

2 業務要領

- (1) 上夜久野污水处理場の自家発電機用エンジン点検整備を行う。
- (2) 履行期間内において対象の設備に重大なトラブルが発生した場合は、即時にその復旧に対応するものとする。
- (3) 点検整備を行うたびに速報として報告書を速やかに作成して提出するものとする。
- (4) 履行期間中に対象機器以外の機器故障などが発生した場合は、機器の早急な復旧を行うとともに、原因調査を迅速に行い報告すること。復旧に際して発生した費用は、その内容により協議して決定する。

3 点検整備内容

- (1) 本点検業務範囲には、対象機器の点検、調整及び、対象機器の一般的消耗品（メーカー推奨で交換する消耗品など）の交換も含むこととするため、準備及び不足分の補充も行うこと。

(2) 点検整備計画

業務契約期間内に以下の整備点検を受けることとする。

場所	機関型式	台数	令和8年度	令和9年度	令和10年度
上夜久野污水处理場	DCA25SPI2-T 5191137	1	D点検	-	-

4 整備点検報告

整備点検を完了した時は、専門業者から提出される報告書（写真含む）を提出すること。

第3節 計装機器保守点検業務

1 業務概要

農業福知山北部地区下水道施設の計装設備を維持するため、設備の保守・点検調整を行う。点検を行う施設は別紙7-6「計装設備点検対象機器一覧表」のとおりとする。

2 業務内容

(1) 流量計点検

ア 検出器外観目視点検

イ 変換器設定値確認

ウ 検出器絶縁抵抗測定

エ 模擬信号による指示値確認及びゼロ点・スパン調整

3 留意事項

(1) 本業務の履行に際して、点検対象となる機器について、事前に現場に確認を行い、対象機器の形式や設置場所などを理解したうえ業務を行うこと。

(2) 対象機器の点検に必要な消耗品類は、事前に準備しておくこと。

点検時に、部品などの劣化や損傷により機器等の障害または障害の発生するおそれがあるときは、速やかに報告するとともに障害原因の除去及び再発防止を講じること。なお、その除去及び再発防止に関し、別途費用が発生する場合は、その負担について発注者と協議を行い決定するものとする。

(3) 対象機器の一般的消耗品（メーカー推奨で通常1年間で交換する消耗品など）一式の補充も含むものとする。

第4節 消防設備点検業務

1 業務概要

消防法第17条の3の3の規定対象となる処理施設の消防用設備の機器点検、総合点検を行うものである。また、対象外となる処理施設については自主点検を行うものとする。

自主点検は、消火器の使用期限の確認及び誘導標識の損傷等を確認するものである。

2 業務内容

(1) 機器点検、総合点検を行う対象施設と点検回数は次のとおりとする。

①点検の時期	前期：機器点検+総合点検（8月～10月）	
	後期：機器点検	（2月～3月）
②対象施設	上夜久野污水处理場	機器点検 2回／年
		総合点検 1回／年
	大江河東污水处理場	機器点検 2回／年
		総合点検 1回／年
	有路污水处理場	機器点検 2回／年
		総合点検 1回／年

(2) 自主点検を行う対象施設と点検回数は次のとおりとする。

井田額田污水处理場	自主点検 1回／年
向污水处理場	自主点検 1回／年

第7編 農集福知山北部地区下水道施設運転管理等業務
第2章 処理施設附帯業務

千原污水处理場	自主点検 1 回／年
小倉污水处理場	自主点検 1 回／年
高内日置污水处理場	自主点検 1 回／年
北有路污水处理場	自主点検 1 回／年

3 対象消防設備

別紙7-7「消防設備点検対象機器一覧表」のとおり

4 業務要領

(1) 作業範囲及び実施回数等

- ア 対象設備の法定点検を実施すること。
- イ 対象設備に不時の異常・故障が発生した場合及び発注者の依頼があった場合は、受注者は技術者を派遣し対応すること。
- ウ 消防法の点検基準に基づいて実施すること。
- エ 対象設備の点検有資格者を派遣し、法定点検を実施するとともに「点検報告書」を作成すること。
- オ 「点検結果報告書」は3年ごとに所轄消防署へ提出するため、提出準備に協力すること。
- カ 受注者は、下記の書類を提出すること。
 - ア) 業務工程表 (毎回点検実施10日前)
 - イ) 点検報告書 (前期分2部、後期分2部、自主点検分1部)

5 不具合事項対応

消防設備不具合事項において以下に示す項目以外については小修繕対応とする。

- (1) 消火器等の交換または薬剤詰め替え
- (2) 屋内消火栓設備等のホース耐圧試験
- (3) 故障・異常時の出動対応に要する経費
- (4) 大規模と判断される消防設備の修理または取替
- (5) その他発注者との協議により決定した事項

第5節 場内環境整備業務

1 業務概要

各施設等の管理敷地内及び周辺の一般清掃、草刈・樹木剪定等の作業により、景観を保つことを目的とする。

2 対象施設

- (1) 井田額田污水处理場
- (2) 上夜久野污水处理場
- (3) 向污水处理場
- (4) 高内日置污水处理場

- (5) 千原污水处理場
- (6) 小倉污水处理場
- (7) 大江河東污水处理場
- (8) 北有路污水处理場
- (9) 有路污水处理場
- (10) 旧今西中污水处理場
- (11) 旧三河污水处理場

3 業務内容

- (1) 一般清掃、草刈・樹木剪定

各施設内及び周辺の環境整備作業により、景観を保つため適宜、草刈及び剪定等を行うこと。

- (2) 刈草及び剪定くず等の処分

①場内環境整備作業により発生した刈草及び剪定くず等の処分は、福知山市一般廃棄物処理基本計画の廃棄物の資源化拡大に基づいて、福知山バイオマスセンターに運搬して、再資源化として処分を行うこと。

②処分量は、対象施設で年間0.5t程度を見込んでいる。なお、受注者の創意工夫により、別途資源の有効活用を実施する場合は、発注者と協議を行い、承諾を得た再資源化を行うことができるものとする。

- (3) 処分報告

廃棄物計量施設で発行される計量証明（領収書）の空欄に「運搬物名」「会社名」「署名」等を記入して月報でまとめて報告すること。

第3章 マンホールポンプ施設業務

第1節 共通事項

- 1 作業前には、「マンホールポンプ場台帳」、「福知山市下水道管路台帳管理システム」、「マンホールポンプ巡回点検記録表」等を活用して、業務を履行する。
- 2 公道上及び私有地内の作業となるため、作業前後には関係者への周知や連絡を行うこととする。
- 3 作業を行う際には、周辺の状況を確認して、歩行者や車両の通行に支障を及ぼさないように安全な作業とする。
- 4 作業後は、周辺も含めて片付け、清掃を行うこととする。
- 5 業務を実施した内容の集計については、一覧表に整理して月度報告に添付することとし、各年度の実施状況の把握を行うこととする。

第2節 マンホールポンプ設備点検業務

1 業務概要

マンホールポンプ設備を巡回方式で点検を行う。

2 対象箇所

別紙 7-8「マンホールポンプ設備点検業務対象箇所一覧表」のとおり
箇所数は126箇所とする。

3 点検回数

設備点検は1箇所当たり年1回を基本とし、次の4項の作業を行うものとする。

ただし、故障表示が多発するなど特殊な事象がある箇所については、発注者との協議により、8項に示す特殊点検を実施できるものとする。

1年間で通常点検126回、特殊点検43回を見込んでいる。

4 点検作業（巡回点検記録表に基づく）※下記内容を基本とする。

(1)汚水ポンプ

- ア 外観の確認
- イ 運転状況（異音、振動、電流値、運転時間、減水）の確認
- ウ 自動起動、停止（水位）の確認
- エ 絶縁抵抗測定
- オ 着脱装置、逆止弁の機能確認
- カ 吊り下げチェーン（摩耗、損傷、腐食、変形）の確認

(2)現場操作盤

- ア 外観（汚損、損傷、腐食、変形）、過熱の確認
- イ 回転灯、表示灯、計器指示値の確認

※電流計は正常な送水時の値に赤色指針をあわせ、後から行った者が異常か正常

か判断出来るようにしておくこと。

ウ 各機器の作動テスト

エ 断線、ゆるみ、端子の腐食（スパーク痕など）、ヒューズの確認

オ マンホール槽への配線状況の確認

※電線管内のケーブルの撤去・入線が容易にできることを確認する。

カ 内部侵入物（雨水、小動物、昆虫、草等）の痕跡等確認

(3)計器収納ボックス

ア 外観（汚損、損傷、腐食、変形）、過熱の確認

イ 断線、ゆるみ

ウ 内部侵入物（雨水、小動物、昆虫、草等）の痕跡等確認

(4)液位検出器

ア レベルスイッチの設置位置及び作動確認

イ 投げ込み式水位計の水位検知状況及び作動確認

(5)マンホールポンプ槽内

スカム堆積状況等の確認

(6)配管

ア 漏水、ジョイント部の確認

イ 支持金物、支持材の確認

(7)マンホール蓋

ア コネクタ部の設置状況等の確認

イ 大蓋のみ（小蓋なし）の場合はその旨記載すること

ウ ゆがみ、ガタツキ、摩耗、腐食の有無

エ 大蓋、子蓋共に固着等が無く開閉が行えることを確認すること

(8)操作盤自動・施錠確認

(9)その他

ア 臨時点検

イ 簡易な故障修理

電気設備（表示灯、ヒューズ、リレー、タイマー等の取替）

機械設備（ポンプ、配管の詰まり除去・ポンプの据付直し）

ウ 設備の清掃

(10)道路上の作業場所の確保及び安全処置

車両及び歩行者の通行の妨げにならないよう、また作業が充分に行えるようバリケード等により作業場所を確保し、安全管理を行い事故防止に努めること。また、必要箇所に交通誘導警備員を配置すること。

・交通誘導警備員人員：N=2人/7箇所（想定）

※1日あたり7箇所を想定し1箇所あたりに換算。

5 取替用電気部品等

(1)表示灯及びタイマー等の消耗品は本業務に含むものとする。

なお、液位検出器、水中ポンプ、回転灯、漏電遮断器、電磁接触器、コンデンサの取替作業は小修繕として取り扱う。

6 高所取り付け型制御盤の作業

(1)高所設置の制御盤作業を実施する際は、高所作業車を使用するなど各種法令や規則に則った安全な作業をすること。

7 報告

(1)点検作業報告は、別紙 7-9「マンホールポンプ設備巡回点検記録表」に必要事項を記入して、作業月の報告をまとめて月度報告とする。

(2)業務着手初年度の点検時には、点検箇所の全景、マンホール蓋据付状況、槽内状況等について撮影を行い、写真を添付することとする。

(3)不具合箇所があった場合は、その箇所の写真を添付することとする。

8 特殊点検

(1)特殊点検は、管理範囲内のマンホールポンプ場において、故障表示が多発することや、他のポンプ場に比べ運転時間が非常に長いポンプ場など特殊な事象があるポンプ場を対象に実施する点検とする。

(2)特殊点検の作業内容の基本は記載しないが、特殊事象の解消を目的とした作業とする。実施する作業内容については、発注者と協議、調整を行うものとする。

(3)特殊点検の報告は、7項と同様とする。ただし、点検内容に報告書様式が適さない場合や記入欄が不足する等の場合には、別途任意様式にて提出を行うこととする。

第3節 槽内清掃業務

1 業務概要

マンホールポンプ場の点検状況に応じて受注者の判断で清掃・浚渫を行う。

2 対象施設

清掃対象箇所は、別紙 7-8 の箇所内で受注者の判断で実施するが、年間35箇所を見込んでいる。

3 提出書類

マンホールポンプ槽内清掃箇所報告書及び作業写真(着手前と完了後の対比写真、作業中、安全管理、使用機材等作業内容の判別できるもの)

なお、清掃時に得た可能な限りのマンホールポンプ場の記録も提出する。

4 作業要領

(1)道路上の作業場所の確保及び安全処置

車両及び歩行者の通行の妨げにならないよう、また作業が充分に行えるようバリケード等により作業場所を確保し、安全管理を行い事故防止に努めること。また、必要箇所に交通誘導警備員を配置すること。

・交通誘導警備員人員：N=2人/6箇所（想定）

※1日あたり6箇所を想定し1箇所あたりに換算。

(2)槽内の液面

ポンプ槽内の液面を下げる場合、操作盤で手動運転を行い、液面を下げる。

(3)槽内の洗浄

槽内の洗浄範囲としては、側壁、底面、ポンプ外面、レベルスイッチ、ケーブル、チェーン及びガイドパイプを洗浄する。

(4)槽内堆積物の除去

槽内のし渣、沈砂及び汚泥を吸泥車等により除去する。

(5)ポンプの送水確認

手動運転にてポンプを起動させ水位が下がるのを確認し、自動運転に切り替える。

(6)逆止弁開放点検

逆止弁への異物噛み込み等による送水不良の場合には開放点検を行い、機能を復旧させる。

(7)後片付け

作業終了後は、マンホール蓋を閉じ、バリケード等を片付け、復旧する。また、マンホール周辺の状況を確認し、必要に応じて清掃も行う。

(8)堆積物の処理

吸泥車等により除去した堆積物は、発注者と協議の上、指示された場所に搬入することとする。

第4章 管路施設業務

第1節 共通事項

- 1 作業前には「福知山市下水道管路台帳管理システム」等を活用し、周囲の下水道管路の管径・材質・土被り・流下方向、取付管延長、公共汚水ますの内径・材質等を確認し、本管を破損させることがないように注意すること。
- 2 水道管・ガス管等の地下埋設物について、事前に調整・確認を十分に行うこと。
- 3 作業に伴う切削等による破片・ごみ等については必ず回収し、周辺清掃に努めること。
- 4 作業完了後は、水を流して流下状況を必ず確認すること。
- 5 清掃及び洗浄等のために吸引した汚水については、下流側最寄りのマンホールまたは中継ポンプ場へ投入すること。ただし、閉塞の原因となる堆積物等ものを含む場合は、発注者と協議の上、指示された場所に搬入することとする。
- 6 公道上の作業においては、受注者により道路管理者及び福知山警察署への届出を行うこと。
- 7 業務を実施した内容の集計については、別紙 7-10「管路施設業務集計表」に整理し月例の報告書に添付することとし、各年度の実施状況の把握を行うこと。
- 8 本業務で実施した内容のうち、管路施設の維持管理上、必要な情報については、「福知山市下水道管路台帳管理システム」に登録を行うこと。登録する内容については、発注者と受注者との協議による。
- 9 点検や調査により発見された管路の破損、その他異常のうち、道路陥没や管路閉塞等の原因となる重大なものや不明水の異常流入等を確認した場合には、直ちに発注者に報告すること。
- 10 点検や調査により発見された管路施設の破損や不明水等の流入、その他異常のうち、第7編 第5章 小修繕等業務で修繕可能なものについては、発注者との協議の上、本業務内で修繕対応を行うこと。

第2節 圧送管清掃業務

1 業務内容

高压洗浄車等の機材を使用し、圧送管管路内の清掃を実施する。

2 業務場所

業務範囲内圧送管において、維持管理上支障を及ぼす恐れのある箇所を受注者により選定し、発注者に承諾を受けた箇所とする。

3 特記事項

- (1) 発注者の承諾を受けた箇所の圧送管内部（マンホールポンプ含む）の清掃等を実施する。作業延長は約 100mとし、1 箇所の作業で 100mに達しない場合は、他の場所で達成すること。

第7編 農集福知山北部地区下水道施設運転管理等業務
第4章 管路施設業務

ただし、発注者の判断により3割を超える作業延長の増減を行う場合には、発注者と受注者で協議するものとする。

- (2) 車両及び歩行者の通行の妨げにならないよう、また作業が充分に行えるようバリケード等により作業場所を確保し、安全管理を行い事故防止に努めること。また、必要箇所には交通誘導警備員を配置すること。

・交通誘導警備員人員：N=2人/日(想定)

- (3) 清掃業務の実施にあたり、高圧洗浄車以外の方法が有効な箇所については高圧洗浄以外の方法による清掃も可能とする。ただし高圧洗浄車で施工した場合の費用と同等となるように延長換算した延長を作業延長とすることとし、実際の清掃延長と延長換算した清掃延長を換算根拠を併せて報告すること。

4 報告

- (1) 圧送管清掃を行った後には、速やかに圧送管清掃報告を行い、月例の業務完了報告時に、圧送管清掃報告書・作業写真を提出すること。
- (2) 作業写真は、着手前と完了後の対比、作業中、安全管理、使用資機材、作業内容等が判別できるものを添付すること。

第3節 管路緊急対応業務

1 業務内容

下水道本管及び公共汚水ます・取付管内での障害発生の連絡を受けた、または発見した場合、直ちに現場確認を行い、障害の特定及び機能回復を図る。

2 業務実施時間等

24時間体制とする。

3 特記事項

- (1) 車両及び歩行者の通行の妨げにならないよう、また作業が充分に行えるようバリケード等により作業場所を確保し、安全管理を行い事故防止に努めること。また、必要箇所には交通誘導警備員を配置すること。

・交通誘導警備員：N=1人/回（高圧洗浄）※2人×0.5日(想定)

・交通誘導警備員：N=1人/回（汚泥吸引）※2人×0.5日(想定)

対応想定件数はそれぞれ高圧洗浄1回、汚泥吸引1回とし、そのうち、簡易作業を伴う件数は日中1回、時間外深夜1回である。

- (2) 復旧作業において市民への影響が大きいと判断される場合は、監視室に連絡し、発注者の承諾を得た後、作業を実施すること。
- (3) 管路施設等から汚水が溢れた場合には、現場周辺の洗浄及び消毒作業を実施すること。
- (4) 業務に際し不明な点等が発生した場合には、発注者と協議すること。

4 報告

- (1) 管路緊急対応を行った後には、速やかに緊急対応報告を行い、月例の業務完了報告時に改めて、緊急対応報告書・作業写真を提出すること
- (2) 作業写真は、着手前と完了後の対比、作業中、安全管理、使用資機材、作業内容等が判別できるよう整理すること。

第4節 不明水調査業務（マンホール内部調査）

1 業務内容

下水道管路に流入する不明水を発見するため、降雨時または降雨後に管路内部・マンホール内部を目視により確認する。

2 業務場所

業務範囲内において、維持管理上支障を及ぼす恐れのある箇所を受注者により選定し、発注者に承諾を受けた箇所とする。その他、発注者が異常の恐れがあると判断し、指示した箇所を含むものとする。

3 特記事項

- (1) 不明水調査は、1回4時間（0.5日）、年2回実施するものとする。

ただし、発注者の判断により調査日数を追加する場合は、発注者と受注者で協議するものとする。

- (2) 作業は、指定された地区のマンホール蓋を開け、マンホール内部の状況を目視し、下記（3）から（6）の内容等を確認する。

また確認した内容が分かるように写真撮影を行い整理すること。

- (3) 躯体と管路のジョイント部等からの不明水の流入を確認する。

- (4) 管路・インバート部を点検し、流量・流下状況等の異常の有無を確認する。

- (5) マンホール蓋開閉時にマンホール蓋の錆等の劣化状況を点検・確認し、全景、表面、裏面の写真を撮影すること。

- (6) その他不明水の原因となる兆候、破損等がないかを確認する。

- (7) 調査にあたり事前にマンホール内の洗浄が必要となった場合は、適宜実施すること。

4 報告

- (1) 不明水調査業務を行った後には、月例の業務完了報告時に、調査報告書・業務写真を提出すること。
- (2) 報告書には、調査箇所を「福知山市下水道管路台帳管理システム」の図面に記入したものを添付すること。

第5節 本管テレビカメラ調査業務

1 業務内容

第7編 農集福知山北部地区下水道施設運転管理等業務
第4章 管路施設業務

下水道管路に流入する不明水や管路の破損等を発見するため、本管用テレビカメラにより、下水道管路内を確認する。

2 業務場所

業務範囲内において、維持管理上支障を及ぼす恐れのある箇所を受注者により選定し、発注者に承諾を受けた箇所とする。その他、発注者が異常の恐れがあると判断し、指示した箇所を含むものとする。

3 特記事項

(1) 車両及び歩行者の通行の妨げにならないよう、また作業が充分に行えるようバリケード等により作業場所を確保し、安全管理を行い事故防止に努めること。また、必要箇所に交通誘導警備員を配置すること。

・交通誘導警備員：N=2人/回(想定)

・調査は、1回2時間(0.25日)、年1回を見込んでいる。

ただし、発注者の判断により調査箇所を追加する場合は、発注者と受注者で協議するものとする。

(2) 調査は、「下水道維持管理指針 実務編(公益社団法人 日本下水道協会)」の内容を準用し実施することとするが、調査記録等は異常の有無が判断できる程度に簡素化できるものとする。

(3) 不明水の発見を目的にした調査については、降雨時または降雨後の流入の増加が見込まれる時期に実施すること。

(4) 調査にあたり事前に管内の洗浄が必要となった場合は、適宜実施すること。

4 報告

(1) 業務を行った後には、月例の業務完了報告時に、調査報告書・業務写真を提出すること。

(2) 報告書には、調査箇所を「福知山市下水道管路台帳管理システム」の図面に記入したものを添付すること。

第6節 取付け管テレビカメラ調査業務

1 業務内容

取付け管テレビカメラを公共ますから取付け管に挿入し、本管接合部に向けて移動させ、取付管の異常の有無を、地上の調査員が目視により調査する。公共ますは地上から目視により点検する。

2 業務場所

維持管理上支障を及ぼす恐れのある箇所を受注者により選定し、発注者に承諾を受けた箇所とする。その他、発注者が異常の恐れがあると判断し、指示した箇所を含むものとする。

3 特記事項

(1) 車両及び歩行者の通行の妨げにならないよう、また作業が充分に行えるようバリケード等により作業場所を確保し、安全管理を行い事故防止に努めること。また、必要箇所交通誘導警備員を配置すること。

・交通誘導警備員：N=0.5人/回※2人×2時間(0.25日)(想定)

調査想定件数は1回である。

(2) 洗浄のために吸引した汚水については、下流側最寄りのマンホールまたは中継ポンプ場へ投入すること。ただし、閉塞の原因となるものを含む場合は、発注者と協議の上、指示された場所に搬入することとする。

(3) 業務に際し不明な点等が発生した場合には、発注者と協議すること。

(4) 調査にあたり事前に管内の洗浄が必要となった場合は、適宜実施すること。

4 報告

(1) 対応を行った後には、月例の業務完了報告時に、調査報告書・業務写真を提出すること。

(2) 報告書には、調査箇所を「福知山市下水道管路台帳管理システム」の図面に記入したものを添付すること。

第5章 小修繕等業務

第1節 共通事項

1 業務概要

- (1) 本業務委託にかかる対象施設における設備等の機能を正常に発揮、維持できるよう適切に修繕及び物品調達等を行うものとする。詳細な概要は次節以降のとおりとする。
- (2) 受注者が負担を負う修繕等は、次節以降に示す1件あたりの費用未満のものを原則とする。ただし受注者が行う修繕等が、1件あたりの費用を超える場合や次節以降に示す各年度の予定件数や上限額を超える場合であっても、年度末までの委託業務費用内で、可能と判断される場合は、発注者との協議のうえ、実施してよいものとする。なお、年度末までの委託業務費用内を超過する恐れがある等で本業務内での実施が困難な場合は、発注者との協議により別途契約とする場合がある。

2 報告

- (1) 修繕等を実施した場合は、作業内容が確認できる実施報告書（写真帳含む）及び修繕等に要した費用の分かる内訳書について、月例の報告書に添付し報告することとする。ただし発注者が緊急を要するものとして提出を求めたものについては、月例の報告書とは別に報告することとする。
- (2) 修繕に要した費用の集計については、別紙 7-11「小修繕等業務集計表」に整理し月例の報告書に添付することとし、各年度の修繕費用の把握を行うこと。この集計様式については、全小修繕項目を集約した報告様式でも可能とする。
- (3) 修繕内容は、「福知山市下水道管路台帳管理システム」に入力することとする。

第2節 污水处理施設修繕

1 業務概要

対象施設における設備等の機能を正常に発揮、維持できるよう適切に修繕を行うものとする。

2 対象施設

- (1) 上夜久野污水处理場
- (2) 井田額田污水处理場
- (3) 向污水处理場
- (4) 千原污水处理場
- (5) 小倉污水处理場
- (6) 高内日置污水处理場
- (7) 北有路污水处理場
- (8) 大江河東污水处理場
- (9) 有路污水处理場

3 各年度の上限額

第7編 農集福知山北部地区下水道施設運転管理等業務
第5章 小修繕等業務

汚水処理施設修繕における各年度の累計上限額は、284万円（消費税及び地方消費税含む）とする。

ただし、遅行状況により限度額を超える恐れがある場合は、下記の特記事項によるものとする。

4 提出書類

（1）実施前

・修繕実施打合せ簿 ・修繕見積書（押印不要）等

（2）実施後（月度報告時）

・修繕施工写真 ・修繕費用集計表（年度累計様式） ・報告書等

5 特記事項

（1）受注者は、対象施設の施設故障状況一覧表の優先順位を発注者と協議の上決定し修繕を実施することとする。

点検等により、施設状況に変動が見られた場合には、適宜施設故障状況一覧表について変更を行い、発注者と協議を行うこととする。

（2）受注者が負担を行う修繕は、1件あたりの費用が30万円未満（消費税及び地方消費税を含む）のものとする。ただし、修繕内容や機器等の性能上、1件あたりの費用が30万円以上（消費税及び地方消費税含む）となる場合は、発注者と協議して決定することとする。

（3）修繕に使用する部品等は、仕様変更による性能低下とならないよう実施することとする。

（4）受注者は、修繕の実施にあたって、発注者の承諾を得ることとする。

（5）受注者は、設備修繕の結果について報告書に記録を行わなければならない。

（6）（5）の記録に対して、発注者から提出を求めた場合は速やかに提出することとする。

（7）当初において小修繕で実施中に想定外の異常が発見され、大幅に費用が増加すると判断された際には、発注者と協議するものとする。

（8）年度内において、修繕件数が想定を大幅に超え、小修繕費用が不足すると予想される場合は、発注者と協議するものとする。

（9）かし担保期間は、修繕の完了した日から1年間とする。

第3節 マンホールポンプ施設修繕

1 業務概要

住居などから流入する汚水を次の施設に送水する機能に異常等が発生した場合には、速やかに対象施設の機能回復が行い、対象施設の機能を正常に発揮、維持できるよう適切に修繕を行うものとする。

2 対象施設

当該処理区域のマンホールポンプ施設とする。

3 各年度の上限額

マンホールポンプ施設修繕における各年度の累計上限額は、112万円（消費税及び地方消費税含む）とする。

ただし、履行状況により限度額を超える恐れがある場合は、下記の特記事項によるものとする。

4 提出書類

(1) 実施前

・修繕実施打合せ簿 ・修繕見積書（押印不要）等

(2) 実施後（月度報告時）

・修繕施工写真 ・修繕費用集計表（年度累計様式） ・報告書等

5 特記事項

(1) 受注者は、対象施設の施設故障状況一覧表の優先順位を発注者と協議の上決定し修繕を実施することとする。

点検等により、施設状況に変動が見られた場合には、適宜施設故障状況一覧表について変更を行い、発注者と協議を行うこととする。

(2) 受注者が負担を行う修繕は、1件あたりの費用が30万円未満（消費税及び地方消費税を含む）のものとする。ただし、修繕機器等の性能上、1件あたりの費用が30万円以上（消費税及び地方消費税含む）となる場合は、発注者と協議して決定することとする。

(3) 修繕に使用する部品等は、仕様変更による性能低下とならないよう実施すること。

(4) 受注者は、修繕の実施にあたって発注者の承諾を得ること。

(5) 受注者は、設備修繕の結果について報告書に記録を行わなければならない。

また、その記録に対して、発注者から提出を求めた場合は速やかに提出すること。

(6) 当初において小修繕で実施中に想定外の異常が発見され、大幅に費用がかさむと判断された際には、発注者と協議するものとする。

(7) 年度内において、修繕件数が想定を大幅に超え、小修繕費用が不足する場合は発注者と協議するものとする。

(8) かし担保期間は、修繕の完了した日から1年間とする。

第4節 公共汚水ます修繕

1 業務概要

下水道管路に接続している公共汚水ますに、破損や不具合が発生している場合は、下水道管路の接続機能が正常に維持できるよう適切に修繕を行う。また、修繕の施工に際

しては、発注者の承諾を得てから実施すること。

2 対象箇所

当該処理区域の公共汚水ますとする。

3 各年度の予定件数及び限度額

公共汚水ます修繕の費用における各年度の累計上限額は、20万円（消費税及び地方消費税を含む）とする。修繕想定件数は、1件である。

ただし、履行状況により限度額を超える恐れがある場合は、下記の特記事項によるものとする。

4 提出書類

（1）実施前

・修繕実施打合せ簿 ・修繕見積書（押印不要）等

（2）実施後（月度報告時）

・修繕施工写真 ・修繕費用集計表（年度累計様式） ・報告書等

5 特記事項

（1）車両及び歩行者の通行の妨げにならないよう、また作業が十分に行えるようバリケード等により作業場所を確保し、安全管理を行い事故防止に努めること。また、必要箇所に交通誘導警備員を配置すること。

・交通誘導警備員：N=2人/件（想定）

（2）使用する部材は、福知山市下水道用標準構造図の仕様を満足したもの、または、下水道協会及び下水道推進機構の認定品を基本とする。

（3）作業の前日までに、自治会や作業場所周辺住民の理解を得ること。

（4）当初の修繕予定件数と実績の差が大きい場合、その他修繕内容で疑義が生じた場合には、発注者と受注者で協議するものとする。

（5）修繕内容の確認が困難な場合には、掘削を求めることがある。

第5節 止水修繕

1 業務概要

下水道管路及びマンホール本体における漏水や浸入水を伴う不良箇所の修繕を行う。工法においては、状況に応じた適切な方法を選択し止水を行う。

この修繕により、下水道管路の機能を正常に維持できるよう適切に修繕を行うこととする。また、修繕の施工に際しては、発注者の承諾を得てから実施することとする。

2 対象箇所

当該処理区域の管路施設とする。

3 各年度の予定件数等

止水修繕の費用における各年度の累計上限額は、20万円（消費税及び地方消費税含

む)とする。修繕想定件数は、2件である。

ただし、施工条件等によりこの費用を超える恐れがある場合は、下記の特記事項によるものとする。

4 提出書類

(1) 実施前

・修繕実施打合せ簿 ・修繕見積書（押印不要）等

(2) 実施後（月度報告時）

・修繕施工写真 ・修繕費用集計表（年度累計様式） ・報告書等

5 特記事項

(1) 車両及び歩行者の通行の妨げにならないよう、また作業が十分に行えるようバリケード等により作業場所を確保し、安全管理を行い事故防止に努めること。また、必要箇所に交通誘導警備員を配置すること。

・交通誘導警備員：N=2人/5件（想定）

※1日あたり5件を想定し1件あたりに換算。

(2) 使用する部材は、福知山市下水道用標準構造図の仕様を満足したもの、または、下水道協会及び下水道推進機構の認定品を基本とする。

(3) 作業の前日までに、自治会や作業場所周辺住民の理解を得ること。

(4) 当初の修繕予定件数と実績の差が大きい場合、その他修繕内容で疑義が生じた場合には、発注者と受注者で協議するものとする。

(5) 修繕内容の確認が困難な場合には、掘削を求めることがある。

第6節 取付管修繕

1 業務概要

下水道管路に接続している取付管に、破損や不具合が発生している場合は、下水道管路への接続機能が正常に維持できるよう適切に修繕を行うこととする。

また、修繕の施工に際しては、発注者の承諾を得てから実施することとする。

2 対象箇所

当該処理区域の取付管とする。

3 各年度の予定件数及び限度額

取付管修繕の費用における各年度の累計上限額は、35万円（消費税及び地方消費税を含む）とする。修繕予定件数は1件である。

ただし、履行状況により限度額を超える恐れがある場合は、下記の特記事項によるものとする。

4 提出書類

(1) 実施前

第7編 農集福知山北部地区下水道施設運転管理等業務
第5章 小修繕等業務

・修繕実施打合せ簿 ・修繕見積書（押印不要）等

（2）実施後（月度報告時）

・修繕施工写真 ・修繕費用集計表（年度累計様式） ・報告書等

5 特記事項

（1）車両及び歩行者の通行の妨げにならないよう、また作業が十分に行えるようバリケード等により作業場所を確保し、安全管理を行い事故防止に努めること。また、必要箇所に交通誘導警備員を配置すること。

・交通誘導警備員：N=2人/件（想定）

（2）使用する部材は、福知山市下水道用標準構造図の仕様を満足したもの、または、下水道協会及び下水道推進機構の認定品を基本とする。

（3）作業の前日までに、自治会や作業場所周辺住民の理解を得ること。

（4）当初の修繕予定件数と実績の差が大きい場合、その他修繕内容で疑義が生じた場合には、発注者と受注者で協議するものとする。

（5）修繕内容の確認が困難な場合には、掘削を求めることがある。

第7節 本管簡易修繕

1 業務概要

下水道本管に、破損や不具合が発生している場合は、本管路の機能が正常に維持できるよう適切に修繕を行う。

また、修繕の施工に際しては、発注者の承諾を得てから実施すること。

2 対象箇所

当該処理区域の下水道本管とする。

3 各年度の予定件数及び限度額

本管簡易修繕の費用における各年度の累計上限額は、36万円（消費税及び地方消費税を含む）とする。簡易修繕予定件数は1件である。

ただし、履行状況により限度額を超える恐れがある場合は、下記の特記事項によるものとする。

4 提出書類

（1）実施前

・修繕実施打合せ簿 ・修繕見積書（押印不要）等

（2）実施後（月度報告時）

・修繕施工写真 ・修繕費用集計表（年度累計様式） ・報告書等

5 特記事項

（1）車両及び歩行者の通行の妨げにならないよう、また作業が十分に行えるようバリケード等により作業場所を確保し、安全管理を行い事故防止に努めること。また、必要箇所に交通誘導警備員を廃止すること。

・交通誘導警備員：N=2人/件（想定）

- （2）使用する部材は、福知山市下水道用標準構造図の仕様を満足したもの、または、下水道協会及び下水道推進機構の認定品を基本とする。
- （3）作業の前日までに、自治会や作業場所周辺住民の理解を得ること。
- （4）当初の修繕予定件数と実績の差が大きい場合、その他修繕内容で疑義が生じた場合には、発注者と受注者で協議するものとする。
- （5）修繕内容の確認が困難な場合には、掘削を求めることがある。

第8節 物品調達

1 業務概要

本業務は、対象となる施設において、放流水質の基準値内の放流水を維持ができ、機器類の安定した稼働を継続できるよう、適正な物品類の調達を行うものである。

また、処理施設維持管理業務の履行に際して、適正な在庫管理を行うこととする。

2 調達する物品区分

調達する物品について、区分概要を次に記載し、各調達物品の内容を下記の表に示す。

（1）薬品類及び機械・電気部品類

薬品類は、汚水処理施設からの放流水質の確保や保全、発生する汚泥の安定処理に必要な薬品類とする。

機械・電気部品類は、異常または故障が発生した場合に、所有しているその部品類を使用して復旧できる部品類とする。

（2）維持管理消耗品

維持管理消耗品は、作業に必要な燃料費、機器類の保守管理に係る油脂類、現場整備に係る清掃用具や現場作業者の衛生用品等のような作業現場業務を履行するために必要とする消耗品とする。

（3）その他消耗品

その他消耗品は、業務履行報告に関する事務用品費用等の一般的な消耗品とする。

表 調達物品の区分と例

薬品類	<ul style="list-style-type: none"> ・放流水塩素消毒用薬品 ・処理水等pH調整用薬品
機械・電気部品類	<ul style="list-style-type: none"> ・簡易な補修に関する機械及び電気部品
維持管理消耗品	<ul style="list-style-type: none"> ・燃料費（作業用（草刈り機含む）、車両用） ・潤滑油類費（交換及び補充用のオイル・グリース等） ・塗装費（軽微な部分補修用塗料） ・整備費用（掃除道具、ウエス、洗浄油類） ・補修用材料（ボルト、ナット、パッキン、ヒューズ、ランプ等一般汎用品の範囲内とする。） ・水質測定用薬剤 ・衛生用品（石鹼、消毒液、救急用薬品） ・上記に該当しないものであっても本業務を遂行するために、一般的に当然必要であると認められる消耗品
その他消耗品	<ul style="list-style-type: none"> ・報告記録用紙費（日報、月報、年報、FAX用紙等） ・その他日用品、事務用品等

	・上記に該当しないものであっても本業務を遂行するために、一般的に当然必要であると認められる物品
--	---

3 各年度の上限額

(1) 薬品類

薬品類の各年度の購入累計上限額は、205万円（消費税及び地方消費税含む）とする。

想定した使用量に対して増減が激しい場合は、発注者と調達費用に関する協議を行い、決定するものとする。

(2) 機械・電気部品類

機械・電気部品類の各年度の購入累計上限額は、47万円（消費税及び地方消費税含む）とする。

調達する部品類の単価は、5万円未満（消費税及び地方消費税含む）とするが、部品の性能上、単価が5万円以上（消費税及び地方消費税を含む）の部品類は、発注者と協議の上、調達方法を決定する。

4 調達物品の管理

(1) 受注者は、処理場等の管理運転に要する薬剤等及び潤滑油脂類、消耗品等の調達及び管理を行わなければならない。

(2) 物品管理者及び薬品類の管理者を選任し、保管、取扱等には十分注意して適正な管理を行うこととする。

(3) 物品の調達管理は、適正な品質及び規格の物品等を調達し、施設等の運転、耐用年数等に影響を与えないようにすることとする。

(4) 常に在庫数量等を把握して適宜適切に調達し、在庫不足、品質低下等による施設運転等への支障を与えないようにすることとする。

(5) 薬品類については、品質証明書等の書類を保管し、発注者から提出を求められた場合は、写し等を提出することとする。

(6) 調達する薬品類の化学物質等安全データシート（MSDS）は、常に最新のものを常備し、保管することとする。

5 記録及び報告

受注者は、納入品及び数量（使用量含む）の記録を行い、定期的にその記録の報告を行うこととする。

また、その記録に対して、発注者の求めがあった場合は速やかに提出することとする。

6 その他

物品調達の実施にあたっては、地元経済の発展のため、地元企業から優先して購入することをお願いする。

その他の記載なき事項については、発注者と受注者の協議の上、決定するものとする。

処理場名

点検日		令和												年		月分																		
		1日	2日	3日	4日	5日	6日	7日	8日	9日	10日	11日	12日	13日	14日	15日	16日	17日	18日	19日	20日	21日	22日	23日	24日	25日	26日	27日	28日	29日	30日	31日		
点検・確認内容	曜日																																	
	天候																																	
	気温																																	
	表示ランプ																																	
	悪臭・異常音																																	
	各槽内目視																																	
	機器目視																																	
	排水流入水路																																	
	スクリーン残渣処分																																	
	消毒薬剤残量																																	
	窓・扉・照明																																	
	工具・備品の整頓																																	
	戸締まり及び施錠																																	
敷地内危険・異常箇所																																		
敷地内清掃・除草																																		
敷地内植木の散水																																		
保守点検があるとき○																																		
点検者氏名																																		
備考	日付	不良（作業）内容												処置・対応内容												処置日								

*記載方法：良→○、不良→× 不良内容等を備考欄に記載すること。また、作業等について特記事項を記載。

処理場			令和			年			月分			備考							
日	流入量 m³		pH		透視度		水温		残留塩素 mg/l	滅菌剤 (k g)		汚泥引抜量 m³	水道		動力電気		電灯電気		
	流入	放流	流入	放流	流入	放流	流入	放流		入荷量	使用量		表示値	使用量	表示値	使用量	表示値	使用量	
1																			
2																			
3																			
4																			
5																			
6																			
7																			
8																			
9																			
10																			
11																			
12																			
13																			
14																			
15																			
16																			
17																			
18																			
19																			
20																			
21																			
22																			
23																			
24																			
25																			
26																			
27																			
28																			
29																			
30																			
31																			
平均																			
最大																			
最小																			
計																			
累計																			

特記事項

施設名	北部 井田額田汚水処理場			点検者			検印			
施設規模	1,090 人	295m ³ /日	点検年月日	年 月 日		天 候				
型 式	JARUS－Ⅲ型 2系列		作業時間	: ~ :		気 温	℃			
月 日	/	/	/	/	/	/	計	平均		
流入水量	m ³	m ³	m ³	m ³	m ³	m ³	m ³	m ³	m ³ /日	
機器類の状況					各単装置の状況					
名 称	NO.	電流値	設定状況	異常の有無	機器のタイマー設定					
自動荒目スクリーン			停 ・ 運	無 ・ 有	嫌気性ろ床槽(1系列)	設定時刻				
破 砕 機		(A)	停 ・ 運	無 ・ 有	1室汚泥引抜ポンプ	作動時間	回	分/回		
流量調整ポンプ	NO.1	(A)	手・切・自	無 ・ 有	嫌気性ろ床槽(1系列)	設定時刻				
	NO.2	(A)	手・切・自	無 ・ 有	2室汚泥引抜ポンプ	作動時間	回	分/回		
水中攪拌ポンプ	NO.1	(A)	手・切・自	無 ・ 有	嫌気性ろ床槽(2系列)	設定時刻				
	NO.2	(A)	手・切・自	無 ・ 有	1室汚泥引抜ポンプ	作動時間	回	分/回		
汚泥引抜ポンプ	NO.1	(A)	手・切・自	無 ・ 有	嫌気性ろ床槽(2系列)	設定時刻				
	NO.2	(A)	手・切・自	無 ・ 有	2室汚泥引抜ポンプ	作動時間	回	分/回		
放流ポンプ	NO.1	(A)	手・切・自	無 ・ 有	嫌気性ろ床槽(1系列)	設定時刻				
	NO.2	(A)	手・切・自	無 ・ 有	1室空気弁	作動時間	回	分/回		
自動微細目スクリーン	NO.1		手・切・自	無 ・ 有	嫌気性ろ床槽(1系列)	設定時刻				
	NO.2		手・切・自	無 ・ 有	2室空気弁	作動時間	回	分/回		
散水ポンプ		(A)	手・切・自	無 ・ 有	嫌気性ろ床槽(2系列)	設定時刻				
	NO.1	(A)	手・切・自	無 ・ 有	1室空気弁	作動時間	回	分/回		
ばっきブロワ	NO.2	(A)	手・切・自	無 ・ 有	嫌気性ろ床槽(2系列)	設定時刻				
	NO.3	(A)	手・切・自	無 ・ 有	2室空気弁	作動時間	回	分/回		
上澄水排出ポンプ		(A)	手・切・自	無 ・ 有	沈殿槽(1系列)	設定時刻				
濃縮汚泥移送ポンプ		(A)	手・切・自	無 ・ 有	汚泥引抜ポンプ	作動時間	回	分/回		
汚泥移送ポンプ		(A)	手・切・自	無 ・ 有	沈殿槽(2系列)	設定時刻				
ばっき液ポンプ		(A)	手・切・自	無 ・ 有	汚泥引抜ポンプ	作動時間	回	分/回		
汚泥濃縮貯留槽攪拌機		(A)	手・切・自	無 ・ 有	各電動弁設定状況					
汚泥貯留槽攪拌機		(A)	手・切・自	無 ・ 有	沈砂排出ポンプ弁	手動 (開・閉) ・ 自動	異 常	無 ・ 有		
汚泥貯留槽ブロワ		(A)	手・切・自	無 ・ 有	上澄水排出ポンプ弁	手動 (開・閉) ・ 自動		無 ・ 有		
給気ファン		(A)	手・切・自	無 ・ 有	散水ノズル弁	手動 (開・閉) ・ 自動		無 ・ 有		
排気ファン		(A)	手・切・自	無 ・ 有	汚泥濃縮貯留槽散気弁	手動 (開・閉) ・ 自動		有 無	無 ・ 有	
脱臭ファン		(A)	停 ・ 運	無 ・ 有	汚泥貯留槽散気弁	手動 (開・閉) ・ 自動			無 ・ 有	
各電動弁設定状況					各電動弁設定状況					
NO1-1 空気弁	手動 (開・閉) ・ 自動	異 常 有 無	無 ・ 有	NO2-1 空気弁	手動 (開・閉) ・ 自動	異 常 有 無	無 ・ 有			
NO1-2 空気弁	手動 (開・閉) ・ 自動		無 ・ 有	NO2-2 空気弁	手動 (開・閉) ・ 自動		無 ・ 有			
NO1-3 空気弁	手動 (開・閉) ・ 自動		無 ・ 有	NO2-3 空気弁	手動 (開・閉) ・ 自動		無 ・ 有			
NO1-4 空気弁	手動 (開・閉) ・ 自動		無 ・ 有	NO2-4 空気弁	手動 (開・閉) ・ 自動		無 ・ 有			
NO1-5 空気弁	手動 (開・閉) ・ 自動		無 ・ 有	NO2-5 空気弁	手動 (開・閉) ・ 自動		無 ・ 有			
NO1-1 汚泥引抜弁	手動 (開・閉) ・ 自動		無 ・ 有	NO2-1 汚泥引抜弁	手動 (開・閉) ・ 自動		無 ・ 有			
NO1-2 汚泥引抜弁	手動 (開・閉) ・ 自動		無 ・ 有	NO2-2 汚泥引抜弁	手動 (開・閉) ・ 自動		無 ・ 有			
NO1-3 汚泥引抜弁	手動 (開・閉) ・ 自動		無 ・ 有	NO2-3 汚泥引抜弁	手動 (開・閉) ・ 自動		無 ・ 有			
NO1余剰汚泥引抜弁	手動 (開・閉) ・ 自動		無 ・ 有	NO2余剰汚泥引抜弁	手動 (開・閉) ・ 自動		無 ・ 有			
NO1沈殿汚泥引抜弁	手動 (開・閉) ・ 自動		無 ・ 有	NO2沈殿汚泥引抜弁	手動 (開・閉) ・ 自動		無 ・ 有			

井田額田污水处理場(2)

各 単 位 装 置 の 水 質										
単位装置名	現 場 測 定 項 目 (1 系 列)									
	色相	臭気	生物膜	水温(℃)	pH	透視度(cm)	DO(mg/l)			残留塩素
流量調整槽	無・有 ()	無・有 ()								
嫌気性ろ床槽第1室	無・有 ()	無・有 ()								
嫌気性ろ床槽第2室	無・有 ()	無・有 ()								
嫌気性ろ床槽第3室	無・有 ()	無・有 ()								
接触ばっ気槽第1室	無・有 ()	無・有 ()	少・中・多				流入	中央	流出	
接触ばっ気槽第2室	無・有 ()	無・有 ()	少・中・多							
沈殿槽	無・有 ()	無・有 ()								

単位装置名	現 場 測 定 項 目 (2 系 列)									
	色相	臭気	生物膜	水温(℃)	pH	透視度(cm)	DO(mg/l)			残留塩素
嫌気性ろ床槽第1室	無・有 ()	無・有 ()								
嫌気性ろ床槽第2室	無・有 ()	無・有 ()								
嫌気性ろ床槽第3室	無・有 ()	無・有 ()								
接触ばっ気槽第1室	無・有 ()	無・有 ()	少・中・多				流入	中央	流出	
接触ばっ気槽第2室	無・有 ()	無・有 ()	少・中・多							
沈殿槽	無・有 ()	無・有 ()								
消毒槽										
散水ポンプ槽	無・有 ()	無・有 ()								
放流ポンプ槽	無・有 ()	無・有 ()								

井田額田汚水処理場(3)

点検年月日		令和 年 月 日		点検者								
各 単 位 装 置 の 汚 泥 堆 積 状 況												
単位装置名		汚 泥 厚				ス カ ム		引抜き 除去量	異常水位 の 痕 跡	ガスの発生 (硫化水素等)		
		流入部	中央部	流出部	引抜き	有無	引抜き					
ばっ気沈砂槽					要・不要	無・有	要・不要		無 ・ 有			
流量調整槽					要・不要	無・有	要・不要		無 ・ 有			
1 系 列	嫌気性ろ床槽第1室	cm		cm	要・不要	無・有	要・不要		無 ・ 有	無・少・中・多		
	嫌気性ろ床槽第2室	cm		cm	要・不要	無・有	要・不要		無 ・ 有	無・少・中・多		
	嫌気性ろ床槽第3室	cm		cm	要・不要	無・有	要・不要		無 ・ 有	無・少・中・多		
	接触ばっ気槽第1室								無 ・ 有	無・少・中・多		
	接触ばっ気槽第2室								無 ・ 有	無・少・中・多		
	沈殿槽		cm		要・不要	無・有	要・不要		無 ・ 有			
2 系 列	嫌気性ろ床槽第1室	cm		cm	要・不要	無・有	要・不要		無 ・ 有	無・少・中・多		
	嫌気性ろ床槽第2室	cm		cm	要・不要	無・有	要・不要		無 ・ 有	無・少・中・多		
	嫌気性ろ床槽第3室	cm		cm	要・不要	無・有	要・不要		無 ・ 有	無・少・中・多		
	接触ばっ気槽第1室								無 ・ 有	無・少・中・多		
	接触ばっ気槽第2室								無 ・ 有	無・少・中・多		
	沈殿槽		cm		要・不要	無・有	要・不要		無 ・ 有			
消毒槽			無・少・中・多		要・不要				無 ・ 有			
散水ポンプ槽			無・少・中・多		要・不要				無 ・ 有			
放流ポンプ槽			無・少・中・多		要・不要				無 ・ 有			
汚泥濃縮槽			無・少・中・多		要・不要	無・有	要・不要			無・少・中・多		
汚泥貯留槽						要・不要	無・有	要・不要		無・少・中・多		
		前	GL	cm	堆積	cm	MLSS	mg/L	色 相			
		後	GL	cm	堆積	cm	MLSS	mg/L	色 相			
1系接触ばっ気槽		1室 MLSS		mg/l		SV	2系接触ばっ気槽		1室 MLSS		mg/l	SV
		2室 MLSS		mg/l		%			2室 MLSS		mg/l	%
特 記 事 項												

井田額田汚水処理場(4)

各単位装置の状況			各単位装置の状況								
破砕機		異常音	無・有・要補修		2 系 列	嫌気性ろ床槽	汚泥引抜ポンプの作動		良・不良・調整		
細目スクリーン	スクリーンし渣		少・中・多(L)				スカム生成状況(第1室)		良・不良		
	し渣の掻き上げ状況		良・不良・調整				スカム生成状況(第2室)		良・不良		
流量調整槽	レベルスイッチの作動状況		良・不良・調整				スカム生成状況(第3室)		良・不良		
	流量調整ポンプの揚水状況		良・不良・調整			接触ばっ気槽	空気量・ばっ気強度(第1室)		m ³ /h m ³ m/h		
	水中攪拌ポンプの攪拌状況		良・不良・調整				空気量・ばっ気強度(第2室)		m ³ /h m ³ m/h		
自動微細目スクリーン	スクリーンし渣		少・中・多・除去				旋回流の状況		良・不良・調整		
	し渣の掻き上げ状況		良・不良・調整				発泡の状況		少・中・多・消泡		
し渣脱水機	作動状況		良・不良・調整				逆洗の要・不要(第1室)		要・不要・実施		
	し渣の堆積状況		少・中・多・除去				逆洗の要・不要(第2室)		要・不要・実施		
汚水計量槽		スカム、汚泥の堆積状況		少・中・多・除去		汚泥計量槽	清掃		要・不要・実施		
		三角堰の越流量		h= Q=			三角堰の越流量		h= Q=		
1 系 列	嫌気性ろ床槽	汚泥引抜ポンプの作動		良・不良・調整		沈殿槽	越流せきの越流状況		良・不良・調整		
		スカム生成状況(第1室)		良・不良			汚泥引抜ポンプの作動		良・不良・調整		
		スカム生成状況(第2室)		良・不良			スカムスキマの作動		良・不良・調整		
		スカム生成状況(第3室)		良・不良							
	接触ばっ気槽	空気量・ばっ気強度(第1室)		m ³ /h m ³ m/h		散水ポンプ槽		レベルスイッチの作動状況		良・不良・調整	
		空気量・ばっ気強度(第2室)		m ³ /h m ³ m/h				散水ポンプの作動状況		良・不良・調整	
		旋回流の状況		良・不良・調整		消毒槽	消毒剤の残量		無 ・ 有 (kg) 施設内 (kg)		
		発泡の状況		少・中・多・消泡			消毒状況		良・不良・調整		
		逆洗の要・不要(第1室)		要・不要・実施			放流ポンプ槽	レベルスイッチの作動状況		良・不良・調整	
		逆洗の要・不要(第2室)		要・不要・実施				放流ポンプの作動状況		良・不良・調整	
	汚泥計量槽	清掃		要・不要・実施		汚泥濃縮貯留槽	汚泥濃縮の状況		良・不良		
		三角堰の越流量		h= Q=			上澄水排水装置の作動状況		良・不良・調整		
	沈殿槽	越流せきの越流状況		良・不良・調整			濃縮汚泥移送ポンプの状況		良・不良・調整		
		汚泥引抜ポンプの作動		良・不良・調整		汚泥貯留槽	汚泥濃縮の状況		良・不良		
		スカムスキマの作動		良・不良・調整			攪拌装置の作動状況		良・不良・調整		
	作業内容					自動荒目スクリーン	スクリーンし渣の量		少・中・多(L)		
施設内清掃		無 ・ 有			ばっ気沈砂槽	ばっ気状況		良・不良・調整			
各単位装置の清掃		無 ・ 有	(沈殿、微細目、計量槽等)			沈砂排出ポンプの作動状況		良・不良・調整			
ブロワ切替		自 ・ 無 ・ 有	(No. →No.)			排砂槽沈砂状況(量)		少・中・多(L)			
自動微細目スクリーン切替		自 ・ 無 ・ 有	(No. →No.)			発泡の状況		少・中・多・消泡			
汚泥引抜 (沈殿槽)		自 ・ 無 ・ 有	濃縮貯留槽へ								
〃 (嫌気1・2・3)		自 ・ 無 ・ 有	〃								
汚泥移送		自 ・ 無 ・ 有	貯留槽へ								

施設名	北部 向污水处理場		点検者				検 印			
施設規模	530 人	144 m ³ /日	点検年月日		年 月 日		天 候			
型 式	JARUS-Ⅲ型 1系列		作業時間		: ~ :		気 温	℃		
月 日	/	/	/	/	/	/	/	計	平均	
流入水量	m ³	m ³	m ³	m ³	m ³	m ³	m ³	m ³	m ³ /日	
機器類の状況					各単位装置の状況					
名 称	NO.	電流値	設定状況	異常の有無	破砕機	異常音	無・有・要補修			
自動荒目スクリーン			手・切・自	無 ・ 有	細目スクリーン	スクリーンし渣	少・中・多(L)			
破 砕 機		(A)	手・切・自	無 ・ 有		し渣の掻き上げ状況	良・不良・調整			
流量調整ポンプ	NO.1	(A)	手・切・自	無 ・ 有	流量調整槽	レベルスイッチの作動状況	良・不良・調整			
	NO.2	(A)	手・切・自	無 ・ 有		流量調整ポンプの揚水状況	良・不良・調整			
水中攪拌ポンプ		(A)	手・切・自	無 ・ 有		水中攪拌ポンプの攪拌状況	良・不良・調整			
散水ポンプ		(A)	手・切・自	無 ・ 有	自動微細目スクリーン	スクリーンし渣	少・中・多・除去			
汚泥引抜ポンプ		(A)	手・切・自	無 ・ 有		し渣の掻き上げ状況	良・不良・調整			
汚泥供給ポンプ		(A)	手・切・自	無 ・ 有	し渣脱水機	作動状況	良・不良・調整			
自動微細目スクリーン	NO.1		手・切・自	無 ・ 有		し渣の堆積状況	少・中・多・除去			
	NO.2		手・切・自	無 ・ 有	汚水計量槽	スカム、汚泥の堆積状況	少・中・多・除去			
し渣脱水機		(A)	手・切・自	無 ・ 有		三角堰の越流量	h= Q=			
ブロワ	NO.1	(A)	手・切・自	無 ・ 有	嫌気性ろ床槽	汚泥引抜ポンプの作動	良・不良・調整			
	NO.2	(A)	手・切・自	無 ・ 有		空気量・ばっ気強度(第1室)	m ³ /h m3m3/h			
	NO.3	(A)	手・切・自	無 ・ 有		空気量・ばっ気強度(第2室)	m ³ /h m3m3/h			
	NO.4	(A)	手・切・自	無 ・ 有	接触ばっ気槽	旋回流の状況	良・不良・調整			
スクリーン室ファン			手・切・自	無 ・ 有		発泡の状況	少・中・多・消泡			
ブロワ室ファン			手・切・自	無 ・ 有		逆洗の要・不要(第1室)	要・不要・実施			
倉庫排気ファン			停 ・ 運	無 ・ 有		逆洗の要・不要(第2室)	要・不要・実施			
積算時間メーター					返送水計量槽	スカム、汚泥の堆積状況	少・中・多・除去			
流量調整ポンプ	NO.1	h	ブ ロ ワ	NO.1	h	越流せきの越流状況	良・不良・調整			
	NO.2	h		NO.2	h	沈殿槽	汚泥引抜ポンプの作動	良・不良・調整		
水中攪拌ポンプ		h		NO.3	h		スカムスキマの作動状況	良・不良・調整		
汚泥引抜ポンプ		h		NO.4	h	散水ポンプ槽	レベルスイッチの作動状況	良・不良・調整		
汚泥供給ポンプ		h	散水ポンプ		h	散水ポンプの作動状況	良・不良・調整			
各電動弁設定状況						消毒剤の補充	無 ・ 有 (kg)			
沈砂排出弁	開 ・ 閉 ・ 自動			異常 有無	無 ・ 有	消毒槽	消毒剤の残量	施設内 (kg)		
沈殿槽汚泥引抜弁	開 ・ 閉 ・ 自動				無 ・ 有		消毒状況	良・不良・調整		
汚泥引抜三方弁	開 ・ 閉 ・ 自動				無 ・ 有	汚泥濃縮貯留槽	汚泥濃縮の状況	良・不良		
作業内容						攪拌装置の目詰まりの有無	無・有・調整			
施設内清掃	無 ・ 有				汚泥貯留槽	汚泥濃縮の状況	良・不良			
各単位装置の清掃	無 ・ 有		(沈殿、微細目、計量槽等)			攪拌装置の目詰まり	無・有・調整			
ブロワ切替	自 ・ 無 ・ 有		(No. →No.)		自動荒目スクリーン	スクリーンし渣の量	少・中・多(L)			
自動微細目スクリーン切替	自 ・ 無 ・ 有		(No. →No.)		ばっ気沈砂槽	ばっ気状況	良・不良・調整			
汚泥引抜 (沈殿槽)	自 ・ 無 ・ 有		濃縮貯留槽へ			沈砂排出ポンプの作動状況	良・不良・調整			
〃 (嫌気1・2・3)	自 ・ 無 ・ 有		〃			排砂槽沈砂状況(量)	少・中・多(L)			
汚泥移送	無 ・ 有		貯留槽へ			発泡の状況	少・中・多・消泡			
					脱臭設備	作動状況	良・不良・調整			

向污水处理場(2)

点検年月日	令和 年 月 日			点検者							
各 単 位 装 置 の 水 質											
単位装置名	現 場 測 定 項 目										
	色相	臭気	生物膜	水温(℃)	pH	透視度(cm)	DO(mg/l)			残留塩素(mg/l)	ORP(mv)
流量調整槽	無・有 ()	無・有 ()									
嫌気性ろ床槽第1室	無・有 ()	無・有 ()									
嫌気性ろ床槽第2室	無・有 ()	無・有 ()									
嫌気性ろ床槽第3室	無・有 ()	無・有 ()									
接触ばっ気槽第1室	無・有 ()	無・有 ()	少・中・多				流入	中央	流出		
接触ばっ気槽第2室	無・有 ()	無・有 ()	少・中・多								
沈殿槽	無・有 ()	無・有 ()									
消毒槽											
放流槽	無・有 ()	無・有 ()									

各 単 位 装 置 の 汚 泥 堆 積 状 況									
単位装置名	汚 泥 厚				ス カ ム		引抜き 除去量	異常水位 の 痕 跡	ガスの発生 (硫化水素等)
	流入部	中央部	流出部	引抜き	有無	引抜き			
ばっ気沈砂槽				要・不要	無・有	要・不要		無 ・ 有	
流量調整槽				要・不要	無・有	要・不要		無 ・ 有	
嫌気性ろ床槽第1室	cm		cm	要・不要	無・有	要・不要		無 ・ 有	無・少・中・多
嫌気性ろ床槽第2室	cm		cm	要・不要	無・有	要・不要		無 ・ 有	無・少・中・多
嫌気性ろ床槽第3室	cm		cm	要・不要	無・有	要・不要		無 ・ 有	無・少・中・多
接触ばっ気槽第1室								無 ・ 有	無・少・中・多
接触ばっ気槽第2室								無 ・ 有	無・少・中・多
沈殿槽		cm		要・不要	無・有	要・不要		無 ・ 有	
消毒槽		無・少・中・多		要・不要				無 ・ 有	
汚泥濃縮貯留槽		無・少・中・多		要・不要	無・有	要・不要			無・少・中・多
汚泥貯留槽	GL	cm	堆積	cm	要・不要	無・有	要・不要		無・少・中・多
	MLSS		mg/L	色相					
- メ モ -									

三 次 処 理 急 速 ろ 過 機 点 検 用 紙

施 設 名	向 汚 水 処 理 場				点 検 時 刻	:	
令 和	年	月	天 候		気 温	℃	担 当 者

機 器 類 の 点 検							
機 器 名	No.	電 流 値	積 算 メ ー タ ー	自 動 運 転	異常の有無	設 定 状 況	備 考
急 速 ろ 過 ポ ン プ	1	A	h	良 ・ 否	無 ・ 有	自 ・ 手	
	2	A	h	良 ・ 否	無 ・ 有	自 ・ 手	
急 速 ろ 過 逆 洗 ポ ン プ	1	A	h	良 ・ 否	無 ・ 有	自 ・ 手	
	2	A	h	良 ・ 否	無 ・ 有	自 ・ 手	
コ ン プ レ ッ サ ー	-	Mpa	h	良 ・ 否	無 ・ 有	自 ・ 手	

電 磁 弁 の 点 検				
名 称	自 動 運 転	異常の有無	設 定 状 況	備 考
電 磁 弁 F - 1	良 ・ 否	無 ・ 有	自 動 ・ 手 動	
電 磁 弁 F - 2	良 ・ 否	無 ・ 有	自 動 ・ 手 動	
電 磁 弁 F - 3	良 ・ 否	無 ・ 有	自 動 ・ 手 動	
電 磁 弁 F - 4	良 ・ 否	無 ・ 有	自 動 ・ 手 動	
電 磁 弁 F - 5	良 ・ 否	無 ・ 有	自 動 ・ 手 動	

圧 力 計	上	M p a	逆 洗 浄 の 有 無	無 ・ 有
	下	M p a	ろ 材 交 換 の 有 無	不 要 ・ 要
ろ 過 流 量 計 m^3/h				

施設名	北部 高内日置污水处理場			点検者				検印		
施設規模	380 人	102.6m ³ /日	点検年月日	年 月 日			天 候			
型 式	JARUS－I 型 1系列		作業時間	: ~ :			気 温	℃		
月 日	/	/	/	/	/	/	/	計	平均	
流入水量	m ³	m ³	m ³	m ³	m ³	m ³	m ³	m ³	m ³ /日	
機器類の状況					各単位装置の状況					
名 称	NO.	電流値	設定状況	異常の有無	破砕機	異常音	無・有・要補修			
自動荒目スクリーン			手・切・自	無 ・ 有	細目スクリーン	スクリーンし渣	少・中・多(L)			
破 砕 機		(A)	手・切・自	無 ・ 有		し渣の掻き上げ状況	良・不良・調整			
原水ポンプ	NO.1	(A)	手・切・自	無 ・ 有	自動微細目スクリーン	スクリーンし渣	少・中・多・除去			
	NO.2	(A)	手・切・自	無 ・ 有		し渣の掻き上げ状況	良・不良・調整			
自動微細目スクリーン	NO.1		手・切・自	無 ・ 有	し渣脱水機	作動状況	良・不良・調整			
	NO.2		手・切・自	無 ・ 有		し渣の堆積状況	少・中・多・除去			
	NO.3		手・切・自	無 ・ 有		レベルスイッチの作動状況	良・不良・調整			
し渣脱水機		(A)	手・切・自	無 ・ 有	原水ポンプ槽	原水ポンプの揚水状況	良・不良・調整			
ブロワ	NO.1	(A)	手・切・自	無 ・ 有		電磁流量計の作動状況	良・不良・調整			
	NO.2	(A)	手・切・自	無 ・ 有	分水計量槽	スカム、汚泥の堆積状況	少・中・多・除去			
	NO.3	(A)	手・切・自	無 ・ 有		三角堰の越流量	h= Q=			
消雪ポンプ		(A)	手・切・自	無 ・ 有	沈殿分離槽	移流部の詰まりの発生	無・有(第 室)			
脱臭ファン		(A)	手・切・自	無 ・ 有		空気量・ばっ気強度(第1室)	m ³ /h	m3m3/h		
積算時間メーター						空気量・ばっ気強度(第2室)	m ³ /h	m3m3/h		
原水ポンプ	NO. 1	h	ブ	NO. 1	接触ばっ気槽	旋回流の状況	良・不良・調整			
	NO. 2	h	ロ	NO. 2		発泡の状況	少・中・多・消泡			
消雪ポンプ		h	ワ	NO. 3		逆洗の要・不要(第1室)	要・不要・実施			
各電動弁設定状況						逆洗の要・不要(第2室)	要・不要・実施			
沈砂排出弁	手動 (開・閉) ・ 自動			異常有無	無 ・ 有	沈殿槽	越流せきの越流状況	良・不良・調整		
汚泥引抜弁	手動 (開・閉) ・ 自動				無 ・ 有		汚泥引抜ポンプの作動	良・不良・調整		
汚泥移送弁	手動 (開・閉) ・ 自動				無 ・ 有		スカムスキマの作動状況	良・不良・調整		
作業内容						消毒剤の補充	無 ・ 有 (kg)			
施設内清掃	無 ・ 有					消毒槽	消毒剤の残量	施設内 (kg)		
各単位装置の清掃	無 ・ 有			(沈殿、微細目、計量槽等)			消毒状況	良・不良・調整		
ブロワ切替	自 ・ 無 ・ 有			(No. →No.)		汚泥濃縮の状況	良・不良			
自動微細目スクリーン切替	自 ・ 無 ・ 有			(No. →No.)	汚泥濃縮貯留槽	攪拌装置の目詰まりの有無	無・有・調整			
汚泥引抜 (沈殿槽)	自 ・ 無 ・ 有			濃縮貯留槽へ		汚泥移送ポンプの作動	良・不良・調整			
〃 (沈分槽1・2)	無 ・ 有			〃	自動荒目スクリーン	スクリーンし渣の量	少・中・多(L)			
汚泥移送	自 ・ 無 ・ 有			貯留槽へ		汚泥濃縮の状況	良・不良			
ばっ気沈砂槽	ばっ気状況				汚泥貯留槽	攪拌装置の目詰まり	無・有・調整			
	沈砂排出ポンプの作動状況					スクリーンの作動状況	良・不良・調整			
	排砂槽沈砂状況(量)				脱臭設備	作動状況	良・不良・調整			
	発泡の状況					プレフィルターの清掃	要・不要・実施			

高内日置污水处理場(2)

点検年月日		令和 年 月 日			点検者						
各 単 位 装 置 の 水 質											
単位装置名	現 場 測 定 項 目										
	色相	臭気	生物膜	水温(℃)	pH	透視度(cm)	DO(mg/l)			残留塩素(mg/l)	ORP(mv)
原水ポンプ槽	無・有 ()	無・有 ()	/	/	/	/	/			/	/
沈殿分離第1室	無・有 ()	無・有 ()	/	/	/	/	/			/	/
沈殿分離第2室	無・有 ()	無・有 ()	/	/	/	/	/			/	/
接触ばっ気槽第1室	無・有 ()	無・有 ()	少・中・多	/	/	/	流入	中央	流出	/	/
接触ばっ気槽第2室	無・有 ()	無・有 ()	少・中・多	/	/	/				/	/
沈殿槽	無・有 ()	無・有 ()	/	/	/	/	/			/	/
消毒槽	/	/	/	/	/	/	/			/	/
放流槽	無・有 ()	無・有 ()	/	/	/	/	/			/	/

各 単 位 装 置 の 汚 泥 堆 積 状 況										
単位装置名	汚 泥 厚				ス カ ム		引抜き 除去量	異常水位 の 痕 跡	ガスの発生 (硫化水素等)	
	流入部	中央部	流出部	引抜き	有無	引抜き				
ばっ気沈砂槽				要・不要	無・有	要・不要		無 ・ 有		
沈殿分離槽第1室	cm		cm	要・不要	無・有	要・不要		無 ・ 有	無・少・中・多	
沈殿分離槽第2室	cm		cm	要・不要	無・有	要・不要		無 ・ 有	無・少・中・多	
接触ばっ気槽第1室								無 ・ 有	無・少・中・多	
接触ばっ気槽第2室								無 ・ 有	無・少・中・多	
沈殿槽		cm		要・不要	無・有	要・不要		無 ・ 有		
消毒槽		無・少・中・多		要・不要				無 ・ 有		
放流槽				要・不要				無 ・ 有		
汚泥濃縮貯留槽		無・少・中・多		要・不要	無・有	要・不要		無 ・ 有	無・少・中・多	
汚泥貯留槽				要・不要	無・有	要・不要			無・少・中・多	
	前	GL	cm	堆積	cm	MLSS	mg/L	色相		
	後	GL	cm	堆積	cm	MLSS	mg/L	色相		

施設名	北部 小倉污水处理場		点検者				検印		
施設規模	310 人	83.7 m ³ /日	点検年月日		年 月 日		天 候		
型 式	JARUS－ XIV型 1系列		作業時間		: ~ :		気 温	℃	
月 日	/	/	/	/	/	/	/	計	平均
流入水量	m ³	m ³	m ³	m ³	m ³	m ³	m ³	m ³	m ³ /日
機器類の状況					各単位装置の状況				
名 称	NO.	電流値	設定状況	異常の有無	破砕機	異常音	無・有・要補修		
自動荒目スクリーン			手・切・自	無 ・ 有	細目スクリーン	スクリーンし渣	少・中・多(L)		
破 碎 機		(A)	手・切・自	無 ・ 有		し渣の掻き上げ状況	良・不良・調整		
流量調整ポンプ	NO.1	(A)	手・切・自	無 ・ 有		レベルスイッチの作動状況	良・不良・調整		
	NO.2	(A)	手・切・自	無 ・ 有	流量調整槽	流量調整ポンプの揚水状況	良・不良・調整		
水中攪拌機		(A)	手・切・自	無 ・ 有		水中攪拌ポンプの攪拌状況	良・不良・調整		
散水ポンプ		(A)	手・切・自	無 ・ 有	自動微細目スクリーン	スクリーンし渣	少・中・多・除去		
消雪ポンプ		(A)	手・切・自	無 ・ 有		し渣の掻き上げ状況	良・不良・調整		
貯留槽水中ミキサー		(A)	手・切・自	無 ・ 有	し渣脱水機	作動状況	良・不良・調整		
ばっ気攪拌機		(A)	手・切・自	無 ・ 有		し渣の堆積状況	少・中・多・除去		
自動微細目スクリーン	NO.1		手・切・自	無 ・ 有	汚水計量槽	スカム、汚泥の堆積状況	少・中・多・除去		
	NO.2		手・切・自	無 ・ 有		三角堰の越流量	h= Q=		
し渣脱水機		(A)	手・切・自	無 ・ 有		ばっ気装置の作動状況	良・不良・調整		
	NO.1	(A)	手・切・自	無 ・ 有	ばっ気槽	攪拌状態	良・不良・調整		
	NO.2	(A)	手・切・自	無 ・ 有		スカムの堆積状況	無・有・調整		
ブロワ 沈砂	NO.3	(A)	手・切・自	無 ・ 有		発泡状態	少・中・多・消泡		
エア	NO.4	(A)	手・切・自	無 ・ 有		活性汚泥濃度の調整	不要・要(高・低)		
貯留	NO.5	(A)	手・切・自	無 ・ 有		越流せきの越流状況	良・不良・調整		
ブロワ室ファン			手・切・自	無 ・ 有	沈殿槽	汚泥返送ポンプの作動	良・不良・調整		
バイパスファン			手・切・自	無 ・ 有		スカムスキマの作動状況	良・不良・調整		
排気ファン		(A)	手・切・自	無 ・ 有	汚泥計量槽	スカム、汚泥の堆積状況	少・中・多・除去		
脱臭ファン		(A)	手・切・自	無 ・ 有		三角堰の越流量	h= Q=		
コンポスト室ファン			手・切・自	無 ・ 有	散水ポンプ槽	レベルスイッチの作動状況	良・不良・調整		
積算時間メーター						散水ポンプの作動状況	良・不良・調整		
流量調整ポンプ	NO.1	h		NO.1	h	消毒槽	消毒剤の補充	無 ・ 有 (kg)	
	NO.2	h		NO.2	h		消毒剤の残量	施設内 (kg)	
水中攪拌機		h		NO.3	h		消毒状況	良・不良・調整	
ばっ気攪拌機		h		NO.4	h	汚泥濃縮槽	汚泥濃縮の状況	良・不良	
散水ポンプ		h		NO.5	h		汚泥移送ポンプの作動状況	良・不良・調整	
消雪ポンプ		h					汚泥濃縮の状況	良・不良	
各電動弁設定状況					汚泥貯留槽(1室)	散気装置の目詰まり	無・有・調整		
沈砂排出弁	手動 (開・閉) ・ 自動			無 ・ 有		水中ミキサーの作動状況	良・不良・調整		
沈殿槽汚泥引抜弁	手動 (開・閉) ・ 自動			無 ・ 有	汚泥貯留槽(2室)	汚泥濃縮の状況	良・不良		
濃縮汚泥引抜弁	手動 (開・閉) ・ 自動			無 ・ 有		散気装置の目詰まり	無・有・調整		
余剰汚泥引抜弁	手動 (開・閉) ・ 自動			無 ・ 有	自動荒目スクリーン	スクリーンし渣の量	少・中・多(L)		
脱離液流出弁	手動 (開・閉) ・ 自動			無 ・ 有		ばっ気状況	良・不良・調整		
生物脱臭散水弁	手動 (開・閉) ・ 自動			無 ・ 有	ばっ気沈砂槽	沈砂排出ポンプの作動状況	良・不良・調整		
散水弁	手動 (開・閉) ・ 自動			無 ・ 有		排砂槽沈砂状況(量)	少・中・多(L)		
機器のタイマー設定						発泡の状況	少・中・多・消泡		
ばっ気ブロワ	作動時間	回/日	分/回	脱臭設備	作動状況	良・不良・調整			
沈殿槽汚泥返送	作動時間	回/日	分/回						
作業内容									
施設内清掃	無 ・ 有				汚泥引抜 (沈殿槽)	自 ・ 無 ・ 有	濃縮貯留槽へ		
各単位装置の清掃	無 ・ 有	(沈殿、微細目、計量槽等)			汚泥移送	自 ・ 無 ・ 有	貯留槽へ		
ブロワ切替	自 ・ 無 ・ 有	(No. → No.)			自動微細目スクリーン切替	自 ・ 無 ・ 有	(No. → No.)		

小倉污水处理場(2)

点検年月日	令和	年	月	日	点検者					
各 単 位 装 置 の 水 質										
単位装置名	現 場 測 定 項 目									
	色相	臭気	水温(℃)	pH	透視度(cm)	DO(mg/l)	残留塩素(mg/l)	ORP(mv)	SV	MLSS (mg/L)
流量調整槽	無・有 ()	無・有 ()								
ばっ気槽	無・有 ()	無・有 ()				ばっ気		ばっ気		
						攪拌		攪拌		
沈殿槽	無・有 ()	無・有 ()								
消毒槽	無・有 ()	無・有 ()								
放流水	無・有 ()	無・有 ()								

[illegible]

施設名		北部 上夜久野污水处理場				点検者				検 印									
施設規模		1570 人 424 m³/日				点検年月日		年 月 日				天 候							
型 式		JARUSー X I 型 1 系列				作業時間		: ~ :				気 温		℃					
月 日		/		/		/		/		/		/		計 平均					
流入水量		m³		m³		m³		m³		m³		m³		m³/日					
機器類の状況									各単位装置の状況										
名 称		NO.	電流値	設定状況	異常の有無	細目スクリーン			スクリーンし渣		少・中・多(L)								
自動荒目スクリーン				手・切・自	無 ・ 有				し渣の掻き上げ状況		良・不良・調整								
破碎機			(A)	手・切・自	無 ・ 有	自動荒目スクリーン			スクリーンし渣の量		少・中・多(L)								
原水ポンプ		NO.1	(A)	手・切・自	無 ・ 有				原水ポンプ槽		レベルスイッチの作動状況		良・不良・調整						
		NO.2	(A)	手・切・自	無 ・ 有	原水ポンプの作動状況		良・不良・調整											
流量調整ポンプ		NO.1	(A)	手・切・自	無 ・ 有	ばっ気沈砂槽			ばっ気状況		良・不良・調整								
		NO.2	(A)	手・切・自	無 ・ 有				沈砂排出ポンプの作動状況		良・不良・調整								
水中攪拌ポンプ		NO.1	(A)	手・切・自	無 ・ 有				排砂槽沈砂状況(量)		少・中・多(L)								
		NO.2	(A)	手・切・自	無 ・ 有						発泡の状況		少・中・多・消泡						
汚泥引抜ポンプ		NO.1	(A)	手・切・自	無 ・ 有	流量調整槽			レベルスイッチの作動状況		良・不良・調整								
		NO.2	(A)	手・切・自	無 ・ 有				流量調整ポンプの揚水状況		良・不良・調整								
放流ポンプ		NO.1	(A)	手・切・自	無 ・ 有				自動微細目スクリーン		スクリーンし渣		少・中・多・除去						
		NO.2	(A)	手・切・自	無 ・ 有	し渣の掻き上げ状況		良・不良・調整											
散水ポンプ			(A)	手・切・自	無 ・ 有	し渣脱水機			作動状況		良・不良・調整								
自動微細目スクリーン		NO.1		手・切・自	無 ・ 有				し渣の堆積状況		少・中・多・除去								
		NO.2		手・切・自	無 ・ 有														
し渣脱水機				手・切・自	無 ・ 有	汚水計量槽			スカム、汚泥の堆積状況		少・中・多・除去								
ブロワ 濃貯 貯留 沈砂		NO.1	(A)	手・切・自	無 ・ 有				三角堰の越流量		h= Q=								
		NO.2	(A)	手・切・自	無 ・ 有														
		回分槽(1室)		NO.3	(A)	手・切・自	無 ・ 有	ばっ気攪拌装置の作動状況		良・不良・調整									
				NO.4	(A)	手・切・自	無 ・ 有			攪拌状態		良・不良・調整							
				NO.5	(A)	手・切・自	無 ・ 有					スカムの堆積状況		無・有・調整					
				NO.6	(A)	手・切・自	無 ・ 有							発泡状態		少・中・多・消泡			
ばっ気攪拌機		NO.1	(A)	手・切・自	無 ・ 有	活性汚泥濃度の調整		不要・要(高・低)											
		NO.2	(A)	手・切・自	無 ・ 有			汚泥引抜ポンプの状況		良・不良・調整									
上澄水排出装置		NO.1	(A)	手・切・自	無 ・ 有	回分槽(2室)			ばっ気攪拌装置の作動状況		良・不良・調整								
		NO.2	(A)	手・切・自	無 ・ 有				攪拌状態		良・不良・調整								
前処理給気ファン			(A)	手・切・自	無 ・ 有				スカムの堆積状況		無・有・調整								
			(A)	手・切・自	無 ・ 有						発泡状態		少・中・多・消泡						
前処理排気ファン			(A)	手・切・自	無 ・ 有				活性汚泥濃度の調整		不要・要(高・低)								
			(A)	手・切・自	無 ・ 有						汚泥引抜ポンプの状況		良・不良・調整						
ブロワ室ファン			(A)	手・切・自	無 ・ 有	排出状況			良・不良・調整										
積算時間メーター						上澄水排水装置(1室)			排出状況		良・不良・調整								
流量調整 ポンプ		NO.1		h	ブ				NO.1		h	スカム、汚泥の流出状況		無・少量・多量					
		NO.2		h	ロ				NO.2		h	上澄水排水装置(2室)		排出状況		良・不良・調整			
									NO.3		h			スカム、汚泥の流出状況		無・少量・多量			
作業内容									散水ポンプ槽			レベルスイッチの作動状況		良・不良・調整					
施設内清掃			無 ・ 有			散水ポンプの作動状況		良・不良・調整											
各単位装置の清掃			無 ・ 有			(沈殿、微細目、計量槽等)			消毒槽			消毒剤の補充		無 ・ 有 (kg)					
ブロワ切替			自 ・ 無 ・ 有			(No. →No.)						消毒剤の残量		施設内 (kg)					
自動微細目スクリーン切替			自 ・ 無 ・ 有			(No. →No.)			消毒槽			消毒状況		良・不良・調整					
汚泥引抜 (回分槽 1・2)			自 ・ 無 ・ 有			濃縮貯留槽へ						放流ポンプ槽			レベルスイッチの作動状況		良・不良・調整		
汚泥移送			自 ・ 無 ・ 有			貯留槽へ			放流ポンプの作動状況		良・不良・調整								
									汚泥貯留槽			スカム、汚泥の堆積状況		少・中・多・除去					
												汚泥濃縮の状況		良・不良					
									脱臭設備						散気装置の目詰まり		無・有・調整		
															作動状況		良・不良・調整		

上夜久野汚水処理場(2)

点検年月日	令和 年 月 日				点検者					
各 単 位 装 置 の 水 質										
単位装置名	現 場 測 定 項 目									
	色相	臭気	水温(℃)	pH	透視度(cm)	DO(mg/l)	残留塩素(mg/l)	ORP(mv)	SV	MLSS (mg/L)
原水ポンプ槽	無・有 ()	無・有 ()	/	/			/	/	/	/
流量調整槽	無・有 ()	無・有 ()					/		/	/
回分槽第1室	無・有 ()	無・有 ()					/	/		
回分槽第2室	無・有 ()	無・有 ()					/	/		
散水ポンプ槽	無・有 ()	無・有 ()	/	/		/	/	/	/	/
消毒槽	無・有 ()	無・有 ()	/	/	/	/		/	/	/
放流ポンプ槽	無・有 ()	無・有 ()	/	/		/	/	/	/	/

各 単 位 装 置 の 汚 泥 堆 積 状 況										
単位装置名	汚 泥 厚				ス カ ム		引抜き 除去量	異常水位 の 痕 跡	ガスの発生 (硫化水素等)	
	流入部	中央部	流出部	引抜き	有無	引抜き				
ばっ気沈砂槽	/	/	/	要・不要	無・有	要・不要		無 ・ 有	/	
流量調整槽	/	/	/	要・不要	無・有	要・不要		無 ・ 有	無・少・中・多	
回分槽第1室	/	cm	/	/	/	/	/	無 ・ 有	無・少・中・多	
回分槽第2室	/	cm	/	/	/	/	/	無 ・ 有	無・少・中・多	
消毒槽	/	無・少・中・多	/	要・不要	/	/	/	無 ・ 有	/	
放流ポンプ槽	/	無・少・中・多	/	要・不要	/	/	/	無 ・ 有	/	
汚泥濃縮貯留槽	/	無・少・中・多	/	要・不要	無・有	要・不要		無 ・ 有	無・少・中・多	
汚泥貯留槽	/			要・不要	無・有	要・不要		/	無・少・中・多	
	前	GL cm	堆積 cm	MLSS mg/L	色相	自 家 発 電 装 置 点 検				
	後	GL cm	堆積 cm	MLSS mg/L	色相					
－ メ モ ー							電圧	(V)		
							周波数	(Hz)		
							電池電圧	(V)		
							充電状況	良 ・ 否		
							燃料量	良 ・ 補給(ℓ)		
							オイル量	良 ・ 補給(ℓ)		
							冷却水量	良 ・ 補給(ℓ)		
							エアークリーナー	良 ・ 否		
							ファンベルト	良 ・ 否		
							バッテリー液量	良 ・ 否		
							その他異常	無 ・ 有		

施設名	北部 千原污水处理場			点検者			検 印			
施設規模	260 人	78.3 m ³ /日	点検年月日	年 月 日			天 候			
型 式	JARUS－ XIV型 1系列		作業時間	: ~ :			気 温	℃		
月 日	/	/	/	/	/	/	/	計	平均	
流入水量	m ³	m ³	m ³	m ³	m ³	m ³	m ³	m ³	m ³ /日	
機器類の状況					各単位装置の状況					
名 称	NO.	電流値	設定状況	異常の有無	自動荒目スクリーン	スクリーンし渣の量	少・中・多(L)			
自動荒目スクリーン			手・切・自	無 ・ 有	ばっ気沈砂槽	ばっ気状況	良・不良・調整			
破 碎 機		(A)	手・切・自	無 ・ 有		沈砂排出ポンプの作動状況	良・不良・調整			
流量調整ポンプ	NO.1	(A)	手・切・自	無 ・ 有		排砂槽沈砂状況(量)	少・中・多(L)			
	NO.2	(A)	手・切・自	無 ・ 有		発泡の状況	少・中・多・消泡			
水中攪拌ポンプ		(A)	手・切・自	無 ・ 有	破砕機	異常音	無・有・要補修			
散水ポンプ		(A)	手・切・自	無 ・ 有	細目スクリーン	スクリーンし渣	少・中・多(L)			
消雪ポンプ		(A)	手・切・自	無 ・ 有		し渣の掻き上げ状況	良・不良・調整			
貯留槽水中ミキサー		(A)	手・切・自	無 ・ 有	流量調整槽	レベルスイッチの作動状況	良・不良・調整			
ばっ気攪拌機		(A)	手・切・自	無 ・ 有		流量調整ポンプの揚水状況	良・不良・調整			
自動微細目スクリーン	NO.1		手・切・自	無 ・ 有	自動微細目スクリーン	水中攪拌ポンプの攪拌状況	良・不良・調整			
	NO.2		手・切・自	無 ・ 有		スクリーンし渣	少・中・多・除去			
し渣脱水機		(A)	手・切・自	無 ・ 有	し渣脱水機	し渣の掻き上げ状況	良・不良・調整			
ブロワ 沈砂 エア 貯留	NO.1	(A)	手・切・自	無 ・ 有		作動状況	良・不良・調整			
	NO.2	(A)	手・切・自	無 ・ 有	し渣の堆積状況	少・中・多・除去				
	NO.3	(A)	手・切・自	無 ・ 有	汚水計量槽	スカム、汚泥の堆積状況	少・中・多・除去			
	NO.4	(A)	手・切・自	無 ・ 有		三角堰の越流量	h= Q=			
	NO.5	(A)	手・切・自	無 ・ 有	ばっ気槽	ばっ気装置の作動状況	良・不良・調整			
	NO.6	(A)	手・切・自	無 ・ 有		攪拌状態	良・不良・調整			
脱臭ファン		(A)	手・切・自	無 ・ 有	スカムの堆積状況	無・有・調整				
積算時間メーター					ばっ気槽	発泡状態	少・中・多・消泡			
流量調整 ポンプ	NO.1	h	ブロワ	NO.1		h	活性汚泥濃度の調整	不要・要(高・低)		
	NO.2	h		NO.2		h	越流せきの越流状況	良・不良・調整		
各電動弁設定状況						沈殿槽	汚泥返送ポンプの作動	良・不良・調整		
沈砂排出弁	手動 (開・閉) ・ 自動			異常有無	汚泥計量槽	スカムスキマの作動状況	良・不良・調整			
余剰汚泥引抜弁	手動 (開・閉) ・ 自動					スカム、汚泥の堆積状況	少・中・多・除去			
汚泥移送弁	手動 (開・閉) ・ 自動					三角堰の越流量	h= Q=			
し渣脱水機洗浄弁	手動 (開・閉) ・ 自動					無 ・ 有	散水ポンプ槽	レベルスイッチの作動状況	良・不良・調整	
機器のタイマー設定					散水ポンプの作動状況	良・不良・調整				
ばっ気ブロワ	作動時間	回/日 分/回		消毒槽	消毒剤の補充	無 ・ 有 (kg)				
沈殿槽汚泥返送	作動時間	回/日 分/回			消毒剤の残量	施設内 (kg)				
作業内容					消毒状況	良・不良・調整				
施設内清掃	無 ・ 有			汚泥濃縮貯留槽	汚泥濃縮の状況	良・不良				
各単位装置の清掃	無 ・ 有 (沈殿、微細目、計量槽等)				攪拌装置の目詰まりの有無	無・有・調整				
ブロワ切替	自・無・有 (No. →No.)				汚泥移送ポンプの作動状況	良・不良・調整				
自動微細目スクリーン切替	自・無・有 (No. →No.)			汚泥貯留槽	汚泥濃縮の状況	良・不良				
汚泥引抜 (沈殿槽)	自・無・有 濃縮貯留槽へ				攪拌装置の目詰まり	無・有・調整				
汚泥移送	自・無・有 貯留槽へ				水中ミキサーの作動状況	良・不良・調整				
					脱臭設備	作動状況	良・不良・調整			

千原污水处理場(2)

点検年月日	令和 年 月 日				点検者					
各 単 位 装 置 の 水 質										
単位装置名	現 場 測 定 項 目									
	色相	臭気	水温(℃)	pH	透視度(cm)	DO(mg/l)	残留塩素(mg/l)	ORP(mv)	SV	MLSS (mg/L)
流量調整槽	無・有 ()	無・有 ()								
ばっ気槽	無・有 ()	無・有 ()				ばっ気		ばっ気		
						攪拌		攪拌		
沈殿槽	無・有 ()	無・有 ()								
消毒槽										
放流水	無・有 ()	無・有 ()								

各 単 位 装 置 の 汚 泥 堆 積 状 況										
単位装置名	汚 泥 厚				ス カ ム		引抜き 除去量	異常水位 の 痕 跡	ガスの発生 (硫化水素等)	
	流入部	中央部	流出部	引抜き	有無	引抜き				
ばっ気沈砂槽				要・不要	無・有	要・不要		無 ・ 有		
流量調整槽				要・不要	無・有	要・不要		無 ・ 有	無・少・中・多	
ばっ気槽								無 ・ 有	無・少・中・多	
沈殿槽		cm		要・不要	無・有	要・不要		無 ・ 有		
消毒槽		無・少・中・多		要・不要				無 ・ 有		
汚泥濃縮貯留槽		無・少・中・多		要・不要	無・有	要・不要		無 ・ 有	無・少・中・多	
汚泥貯留槽				要・不要	無・有	要・不要			無・少・中・多	
	前	GL cm	堆積 cm	MLSS mg/L	色相					
	後	GL cm	堆積 cm	MLSS mg/L	色相					

施設名	北部 大江河東汚水処理場			点検者			検印			
施設規模	680 人	184 m ³ /日	点検年月日	年 月 日			天候			
型式	JARUSーⅢ型 1系列		作業時間	: ~ :			気温	℃		
月 日	/	/	/	/	/	/	/	計	平均	
流入水量	m ³	m ³	m ³	m ³	m ³	m ³	m ³	m ³	m ³ /日	
機器類の状況					各単位装置の状況					
名 称	NO.	電流値	設定状況	異常の有無	自動荒目スクリーン	スクリーンし渣の量	少・中・多(L)			
自動荒目スクリーン		(mA)	手・切・自	無 ・ 有	ばっ気沈砂槽	ばっ気状況	良・不良・調整			
破 砕 機		(A)	手・切・自	無 ・ 有		沈砂排出ポンプの作動状況	良・不良・調整			
流量調整ポンプ	NO.1	(A)	手・切・自	無 ・ 有		排砂槽沈砂状況(量)	少・中・多(L)			
	NO.2	(A)	手・切・自	無 ・ 有		発泡の状況	少・中・多・消泡			
水中攪拌ポンプ		(A)	手・切・自	無 ・ 有	破砕機	異常音	無・有・要補修			
汚泥引抜ポンプ		(A)	手・切・自	無 ・ 有	細目スクリーン	スクリーンし渣	少・中・多(L)			
自動微細目スクリーン	NO.1	(mA)	手・切・自	無 ・ 有		し渣の掻き上げ状況	良・不良・調整			
	NO.2	(mA)	手・切・自	無 ・ 有	流量調整槽	レベルスイッチの作動状況	良・不良・調整			
し渣脱水機		(A)	手・切・自	無 ・ 有		流量調整ポンプの揚水状況	良・不良・調整			
ブロワ	NO.1	(A)	手・切・自	無 ・ 有		自動微細目スクリーン	水中攪拌ポンプの攪拌状況	良・不良・調整		
	NO.2	(A)	手・切・自	無 ・ 有	スクリーンし渣		少・中・多・除去			
	NO.3	(A)	手・切・自	無 ・ 有	し渣脱水機	し渣の掻き上げ状況	良・不良・調整			
	NO.4	(A)	手・切・自	無 ・ 有		作動状況	良・不良・調整			
前処理室ファン			手・切・自	無 ・ 有	汚水計量槽	し渣の堆積状況	少・中・多・除去			
スクリーン室ファン			手・切・自	無 ・ 有		スカム、汚泥の堆積状況	少・中・多・除去			
ブロワ室ファン			手・切・自	無 ・ 有	嫌気性ろ床槽	三角堰の越流量	h= Q=			
局所ファン			停 ・ 運	無 ・ 有		汚泥引抜ポンプの作動	良・不良・調整			
積算時間メーター					接触ばっ気槽	空気量・ばっ気強度(第1室)	m ³ /h m ³ m ³ /h			
流量調整ポンプ	NO.1	h	ブロワ	NO.1		h	空気量・ばっ気強度(第2室)	m ³ /h m ³ m ³ /h		
	NO.2	h		NO.2		h	旋回流の状況	良・不良・調整		
水中攪拌ポンプ	h	NO.3		h		発泡の状況	少・中・多・消泡			
汚泥引抜ポンプ	h	NO.4		h		逆洗の要・不要(第1室)	要・不要・実施			
各電動弁設定状況							逆洗の要・不要(第2室)	要・不要・実施		
汚泥引抜弁	手動 ・ 切 ・ 自動		異常	無 ・ 有	返送水計量槽	スカム、汚泥の堆積状況	少・中・多・除去			
					沈殿槽	越流せきの越流状況	良・不良・調整			
作業内容						汚泥引抜ポンプの作動	良・不良・調整			
施設内清掃						スカムスキマの作動状況	良・不良・調整			
各単位装置の清掃	無 ・ 有		(沈殿、微細目、計量槽等)		消毒槽	消毒剤の補充	無 ・ 有 (kg)			
ブロワ切替	自 ・ 無 ・ 有		(No. →No.)			消毒剤の残量	施設内 (kg)			
自動微細目スクリーン切替	自 ・ 無 ・ 有		(No. →No.)			消毒状況	良・不良・調整			
汚泥引抜 (沈殿槽)	自 ・ 無 ・ 有		濃縮貯留槽へ		放流槽	スカム、汚泥の堆積状況	少・中・多・除去			
〃 (嫌気1・2・3)	自 ・ 無 ・ 有		〃			放流状況	良・不良・調整			
汚泥移送	無 ・ 有		貯留槽へ		汚泥濃縮貯留槽	汚泥濃縮の状況	良・不良			
						攪拌装置の目詰まりの有無	無・有・調整			
					汚泥貯留槽	汚泥の状況	良・不良			

大江河東污水处理場(2)

点検年月日	令和	年	月	日	点 検 者						
各 単 位 装 置 の 水 質											
単位装置名	現 場 測 定 項 目										
	色相	臭 気	生物膜	水温(℃)	pH	透視度(cm)	DO(mg/l)		残留塩素(mg/l)	ORP(mv)	
流量調整槽											
嫌気性ろ床槽第1室	無・有 ()	無・有 ()									
嫌気性ろ床槽第2室	無・有 ()	無・有 ()									
嫌気性ろ床槽第3室	無・有 ()	無・有 ()									
接触ばっ気槽第1室	無・有 ()	無・有 ()	少・中・多				流入	中央	流出		
接触ばっ気槽第2室	無・有 ()	無・有 ()	少・中・多								
沈殿槽	無・有 ()	無・有 ()									
消毒槽											
放流槽	無・有 ()	無・有 ()									

各 単 位 装 置 の 汚 泥 堆 積 状 況									
単位装置名	汚 泥 厚			引抜き	ス カ ム		引抜き 除去量	異常水位 の 痕 跡	ガスの発生 (硫化水素等)
	流入部	中央部	流出部		有無	引抜き			
ばっ気沈砂槽				要・不要	無・有	要・不要		無 ・ 有	
流量調整槽				要・不要	無・有	要・不要		無 ・ 有	
嫌気性ろ床槽第1室	cm		cm	要・不要	無・有	要・不要		無 ・ 有	無・少・中・多
嫌気性ろ床槽第2室	cm		cm	要・不要	無・有	要・不要		無 ・ 有	無・少・中・多
嫌気性ろ床槽第3室	cm		cm	要・不要	無・有	要・不要		無 ・ 有	無・少・中・多
接触ばっ気槽第1室								無 ・ 有	無・少・中・多
接触ばっ気槽第2室								無 ・ 有	無・少・中・多
沈殿槽		cm		要・不要	無・有	要・不要		無 ・ 有	
消毒槽		無・少・中・多		要・不要				無 ・ 有	
汚泥濃縮貯留槽		無・少・中・多		要・不要	無・有	要・不要			無・少・中・多
汚泥貯留槽	GL	cm	堆積	cm	要・不要	無・有	要・不要		無・少・中・多
	MLSS	mg/L	色相						
- メ モ -									

施設名	北部 北有路污水处理場			点検者				検印		
施設規模	810 人		219m ³ /日		点検年月日		年 月 日		天候	
型式	JARUSーⅢ型 1系列			作業時間		: ~ :		気温	℃	
月 日	/		/		/		/		計	平均
流入水量	m ³		m ³		m ³		m ³		m ³	m ³ /日
機器類の状況					各単位装置の状況					
名 称	NO.	電流値	設定状況	異常の有無	破砕機	異常音	無・有・要補修			
自動荒目スクリーン			手・切・自	無 ・ 有	細目スクリーン	スクリーンし渣	少・中・多(L)			
破 碎 機		(A)	手・切・自	無 ・ 有		し渣の掻き上げ状況	良・不良・調整			
流量調整ポンプ	NO.1	(A)	手・切・自	無 ・ 有	流量調整槽	レベルスイッチの作動状況	良・不良・調整			
	NO.2	(A)	手・切・自	無 ・ 有		流量調整ポンプの揚水状況	良・不良・調整			
水中攪拌ポンプ	NO.1	(A)	手・切・自	無 ・ 有		自動微細目スクリーン	水中攪拌ポンプの攪拌状況	良・不良・調整		
	NO.2	(A)	手・切・自	無 ・ 有	スクリーンし渣		少・中・多・除去			
散水ポンプ		(A)	手・切・自	無 ・ 有	し渣脱水機	し渣の掻き上げ状況	良・不良・調整			
汚泥引抜ポンプ		(A)	手・切・自	無 ・ 有		作動状況	良・不良・調整			
放流ポンプ	NO.1	(A)	手・切・自	無 ・ 有	汚水計量槽	し渣の堆積状況	少・中・多・除去			
	NO.2	(A)	手・切・自	無 ・ 有		スカム、汚泥の堆積状況	少・中・多・除去			
自動微細目スクリーン	NO.1		手・切・自	無 ・ 有	嫌気性ろ床槽	三角堰の越流量	h= Q=			
	NO.2		手・切・自	無 ・ 有		汚泥引抜ポンプの作動	良・不良・調整			
し渣脱水機			手・切・自	無 ・ 有	接触ばっ気槽	空気量・ばっ気強度(第1室)	m ³ /h m ³ m ³ /h			
ブロワ	NO.1	(A)	切 ・ 入	無 ・ 有		空気量・ばっ気強度(第2室)	m ³ /h m ³ m ³ /h			
	NO.2	(A)	切 ・ 入	無 ・ 有		旋回流の状況	良・不良・調整			
	NO.3	(A)	切 ・ 入	無 ・ 有		発泡の状況	少・中・多・消泡			
	NO.4	(A)	切 ・ 入	無 ・ 有		逆洗の要・不要(第1室)	要・不要・実施			
倉庫ファン			手・切・自	無 ・ 有		逆洗の要・不要(第2室)	要・不要・実施			
ブロワ室ファン			手・切・自	無 ・ 有	返送水計量槽	スカム、汚泥の堆積状況	少・中・多・除去			
前処理室ファン			手・切・自	無 ・ 有	沈殿槽	越流せきの越流状況	良・不良・調整			
スクリーン室ファン			手・切・自	無 ・ 有		汚泥引抜ポンプの作動	良・不良・調整			
管理室ファン			手・切・自	無 ・ 有		スカムスキマの作動状況	良・不良・調整			
階段室ファン			手・切・自	無 ・ 有	散水ポンプ槽	レベルスイッチの作動状況	良・不良・調整			
積算時間メーター						散水ポンプの作動状況	良・不良・調整			
流量調整ポンプ	NO.1	h	ブロワ	NO.1	h	消毒槽	消毒剤の補充	無 ・ 有 (kg)		
	NO.2	h		NO.2	h		消毒剤の残量	施設内 (kg)		
放流ポンプ	NO.1	h		NO.3	h		消毒状況	良・不良・調整		
	NO.2	h		NO.4	h	放流ポンプ槽	レベルスイッチの作動状況	良・不良・調整		
各電動弁設定状況					放流ポンプの作動状況		良・不良・調整			
沈砂排弁	開 ・ 閉 ・ 自動			異常	汚泥濃縮貯留槽	汚泥濃縮の状況	良・不良			
汚泥引抜弁(沈殿)	開 ・ 閉 ・ 自動					攪拌装置の目詰まりの有無	無・有・調整			
〃 (濃貯)	開 ・ 閉 ・ 自動					汚泥移送ポンプの作動状況	良・不良・調整			
〃 (嫌気1)	開 ・ 閉 ・ 自動				汚泥貯留槽	汚泥濃縮の状況	良・不良			
散水弁 (ばっ気)	開 ・ 閉 ・ 連動					攪拌装置の目詰まり	無・有・調整			
スクリーン洗水弁	開 ・ 閉 ・ 自動				ばっ気沈砂槽	ばっ気状況	良・不良・調整			
作業内容						沈砂排出ポンプの作動状況	良・不良・調整			
施設内清掃	無 ・ 有			排砂槽沈砂状況(量)		少・中・多(L)				
各単位装置の清掃	無 ・ 有 (沈殿、微細目、計量槽等)			発泡の状況		少・中・多・消泡				
ブロワ切替	自 ・ 無 ・ 有 (No. →No.)			自動荒目スクリーン		スクリーンし渣の量	少・中・多(L)			
自動微細目スクリーン切替	自 ・ 無 ・ 有 (No. →No.)			脱臭設備	作動状況	良・不良・調整				
汚泥引抜 (沈殿槽)	自 ・ 無 ・ 有 濃縮貯留槽へ									
〃 (嫌気1・2・3)	自 ・ 無 ・ 有 〃									
汚泥移送	自 ・ 無 ・ 有 貯留槽へ									

北有路污水处理場(2)

点検年月日	令和	年	月	日	点検者						
各 単 位 装 置 の 水 質											
単位装置名	現 場 測 定 項 目										
	色相	臭気	生物膜	水温(℃)	pH	透視度(cm)	DO(mg/l)		残留塩素(mg/l)	ORP(mv)	
流量調整槽											
嫌気性ろ床槽第1室	無・有 ()	無・有 ()									
嫌気性ろ床槽第2室	無・有 ()	無・有 ()									
嫌気性ろ床槽第3室	無・有 ()	無・有 ()									
接触ばっ気槽第1室	無・有 ()	無・有 ()	少・中・多				流入	中央	流出		
接触ばっ気槽第2室	無・有 ()	無・有 ()	少・中・多								
沈殿槽	無・有 ()	無・有 ()									
消毒槽	無・有 ()										
放流ポンプ槽	無・有 ()	無・有 ()									

各 単 位 装 置 の 汚 泥 堆 積 状 況									
単位装置名	汚 泥 厚				ス カ ム		引抜き 除去量	異常水位 の 痕 跡	ガスの発生 (硫化水素等)
	流入部	中央部	流出部	引抜き	有無	引抜き			
ばっ気沈砂槽				要・不要	無・有	要・不要		無 ・ 有	
流量調整槽				要・不要	無・有	要・不要		無 ・ 有	
嫌気性ろ床槽第1室	cm		cm	要・不要	無・有	要・不要		無 ・ 有	無・少・中・多
嫌気性ろ床槽第2室	cm		cm	要・不要	無・有	要・不要		無 ・ 有	無・少・中・多
嫌気性ろ床槽第3室	cm		cm	要・不要	無・有	要・不要		無 ・ 有	無・少・中・多
接触ばっ気槽第1室								無 ・ 有	無・少・中・多
接触ばっ気槽第2室								無 ・ 有	無・少・中・多
沈殿槽		cm		要・不要	無・有	要・不要		無 ・ 有	
消毒槽		無・少・中・多		要・不要				無 ・ 有	
汚泥濃縮貯留槽		無・少・中・多		要・不要	無・有	要・不要			無・少・中・多
汚泥貯留槽	GL	cm	堆積	cm	要・不要	無・有	要・不要		無・少・中・多
	MLSS	mg/L		色相					
- メ モ -									

施設名	北部 有路污水处理場		点検者				検印			
施設規模	890 人	241m ³ /日	点検年月日		年 月 日		天 候			
型 式	JARUSー III型 1系列		作業時間		: ~ :		気 温	℃		
月 日	/	/	/	/	/	/	/	計	平均	
流入水量	m ³	m ³	m ³	m ³	m ³	m ³	m ³	m ³	m ³ /日	
機器類の状況					各単位装置の状況					
名 称	NO.	電流値	設定状況	異常の有無	破砕機	異常音	無・有・要補修			
自動荒目スクリーン			手・切・自	無 ・ 有	細目スクリーン	スクリーンし渣	少・中・多(L)			
破 碎 機		(A)	手・切・自	無 ・ 有		し渣の掻き上げ状況	良・不良・調整			
流量調整ポンプ	NO.1	(A)	手・切・自	無 ・ 有	流量調整槽	レベルスイッチの作動状況	良・不良・調整			
	NO.2	(A)	手・切・自	無 ・ 有		流量調整ポンプの揚水状況	良・不良・調整			
水中攪拌ポンプ		(A)	手・切・自	無 ・ 有		水中攪拌ポンプの攪拌状況	良・不良・調整			
汚泥引抜ポンプ		(A)	手・切・自	無 ・ 有	自動微細目スクリーン	スクリーンし渣	少・中・多・除去			
散水ポンプ		(A)	手・切・自	無 ・ 有		し渣の掻き上げ状況	良・不良・調整			
自動微細目スクリーン	NO.1		手・切・自	無 ・ 有	し渣脱水機	作動状況	良・不良・調整			
	NO.2		手・切・自	無 ・ 有		し渣の堆積状況	少・中・多・除去			
し渣脱水機			手・切・自	無 ・ 有	汚水計量槽	スカム、汚泥の堆積状況	少・中・多・除去			
ブロワ	NO.1	(A)	手・切・自	無 ・ 有		三角堰の越流量	h= Q=			
	NO.2	(A)	手・切・自	無 ・ 有	嫌気性ろ床槽	汚泥引抜ポンプの作動	良・不良・調整			
	NO.3	(A)	手・切・自	無 ・ 有		スカム、汚泥の堆積状況	少・中・多・除去			
脱臭ファン		(A)	手・切・自	無 ・ 有	接触ばっ気槽	空気量・ばっ気強度(第1室)	m ³ /h m ³ m ³ /h			
スクリーン室ファン			手・切・自	無 ・ 有		空気量・ばっ気強度(第2室)	m ³ /h m ³ m ³ /h			
ブロワ室ファン			手・切・自	無 ・ 有		旋回流の状況	良・不良・調整			
バイパスファン			手・切・自	無 ・ 有		発泡の状況	少・中・多・消泡			
積算時間メーター						逆洗の要・不要(第1室)	要・不要・実施			
流量調整ポンプ	NO.1	h	ブ	NO.1	h	逆洗の要・不要(第2室)	要・不要・実施			
	NO.2	h	ロ	NO.2	h	返送水計量槽	スカム、汚泥の堆積状況			
水中攪拌ポンプ		h	ワ	NO.3	h		越流せきの越流状況			
汚泥引抜ポンプ		h	散水ポンプ		h	沈殿槽	汚泥引抜ポンプの作動			
脱臭ファン		h					スカムスキマの作動状況			
各電動弁設定状況					散水ポンプ槽	レベルスイッチの作動状況	良・不良・調整			
沈砂排出弁	開 ・ 閉 ・ 自動			異常		散水ポンプの作動状況	良・不良・調整			
沈殿槽汚泥引抜弁	開 ・ 閉 ・ 自動					消毒槽	消毒剤の補充	無 ・ 有 (kg)		
濃縮汚泥引抜弁	開 ・ 閉 ・ 自動						消毒剤の残量	施設内 (kg)		
汚泥引抜弁 No.1	開 ・ 閉 ・ 自動						消毒状況	良・不良・調整		
汚泥引抜弁 No.2	開 ・ 閉 ・ 自動						汚泥濃縮の状況	良・不良		
作業内容					汚泥濃縮貯留槽	攪拌装置の目詰まりの有無	無・有・調整			
施設内清掃	無 ・ 有					汚泥移送ポンプの作動	良・不良・調整			
各単位装置の清掃	無 ・ 有			(沈殿、微細目、計量槽等)	汚泥貯留槽	汚泥濃縮の状況	良・不良			
ブロワ切替	自 ・ 無 ・ 有			(No. →No.)		攪拌装置の目詰まり	無・有・調整			
自動微細目スクリーン切替	自 ・ 無 ・ 有			(No. →No.)	自動荒目スクリーン	スクリーンし渣の量	少・中・多(L)			
汚泥引抜 (沈殿槽)	自 ・ 無 ・ 有			濃縮貯留槽へ	ばっ気沈砂槽	ばっ気状況	良・不良・調整			
〃 (嫌気1・2・3)	自 ・ 無 ・ 有			〃			沈砂排出ポンプの作動状況	良・不良・調整		
汚泥移送	自 ・ 無 ・ 有			貯留槽へ			排砂槽沈砂状況(量)	少・中・多(L)		
							発泡の状況	少・中・多・消泡		
					脱臭設備	作動状況	良・不良・調整			

北部 有路污水处理場(2)

点検年月日	令和	年	月	日	点検者					
各 単 位 装 置 の 水 質										
単位装置名	現 場 測 定 項 目									
	色相	臭気	生物膜	水温(℃)	pH	透視度(cm)	DO(mg/l)			残留塩素(mg/l)
流量調整槽										
嫌気性ろ床槽第1室	無・有 ()	無・有 ()								
嫌気性ろ床槽第2室	無・有 ()	無・有 ()								
嫌気性ろ床槽第3室	無・有 ()	無・有 ()								
接触ばっ気槽第1室	無・有 ()	無・有 ()	少・中・多				流入	中央	流出	
接触ばっ気槽第2室	無・有 ()	無・有 ()	少・中・多							
沈殿槽	無・有 ()	無・有 ()								
消毒槽										
放流槽	無・有 ()	無・有 ()								

[illegible]

処理場名 上夜久野污水处理場

機器運転時間 [h]

機 器 名	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	計
№1流量調整ポンプ													
№2流量調整ポンプ													
№3流量調整ポンプ													
№1水中攪拌ポンプ													
№2水中攪拌ポンプ													
№3水中攪拌ポンプ													
№4水中攪拌ポンプ													
№1自動微細目スクリーン													
№2自動微細目スクリーン													
自動微細目し渣脱水機													
№1曝気攪拌装置													
№2曝気攪拌装置													
№1エアリフトブロウ													
№2エアリフトブロウ													
曝気沈砂用ブロウ													
№1汚泥引抜ポンプ													
№2汚泥引抜ポンプ													
№3汚泥引抜ポンプ													
沈殿槽													
汚泥貯留槽ブロウ													
自家発電装置													

流量 [m3]

機 器 名	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	計
汚水流入流量													
返送汚泥流量													
余剰汚泥流量													

※ 毎月1日、出来るだけ同じ時間に読んで下さい。
 ※ メーターの積算値は、小数点第1位まで読んで下さい。

[上段 : カウンター積算値]
 [下段 : 当月機器運転時間]

処理場名 井田額田汚水処理場

機器運転時間 [h]													
機 器 名	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	計
No.1ブロワ(常用)													
No.2ブロワ(常用)													
No.1ブロワ(予備)													
No.2ブロワ(予備)													
自動粗目スクリーン													
破砕機													
No.1流量調整槽ポンプ													
No.2流量調整槽ポンプ													
水中攪拌ポンプ													
No.1自動微細目スクリーン													
No.2自動微細目スクリーン													
し渣脱水機													
嫌気汚泥引抜ポンプ													
No.1放流ポンプ													
No.2放流ポンプ													
前処理室排気ファン													
スクリーン室排気ファン													
ブロワ室排気ファン													
局所排気ファン													
汚泥貯留槽ブロワ													

流量 [m3]													
機 器 名	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	計
汚水流入流量													

※ 毎月1日、出来るだけ同じ時間に読んで下さい。

※ メーターの積算値は、小数点第1位まで読んで下さい。

[上段 : カウンター積算値]

[下段 : 当月機器運転時間]

処理場名 向汚水処理場

機器運転時間 [h]													
機 器 名	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	計
No.1ブロワ(常用)													
No.2ブロワ(常用)													
No.1ブロワ(予備)													
No.2ブロワ(予備)													
自動粗目スクリーン													
破砕機													
No.1流量調整槽ポンプ													
No.2流量調整槽ポンプ													
水中攪拌ポンプ													
No.1自動微細目スクリーン													
No.2自動微細目スクリーン													
し渣脱水機													
嫌気汚泥引抜ポンプ													
No.1放流ポンプ													
No.2放流ポンプ													
前処理室排気ファン													
スクリーン室排気ファン													
ブロワ室排気ファン													
局所排気ファン													
汚泥貯留槽ブロワ													

流量 [m3]													
機 器 名	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	計
汚水流入流量													

※ 毎月1日、出来るだけ同じ時間に読んで下さい。

※ メーターの積算値は、小数点第1位まで読んで下さい。

[上段 : カウンター積算値]

[下段 : 当月機器運転時間]

処理場名 千原汚水処理場

機器運転時間 [h]													
機 器 名	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	計
No.1ブロワ(常用)													
No.2ブロワ(常用)													
No.1ブロワ(予備)													
No.2ブロワ(予備)													
自動粗目スクリーン													
破碎機													
No.1流量調整槽ポンプ													
No.2流量調整槽ポンプ													
水中攪拌ポンプ													
No.1自動微細目スクリーン													
No.2自動微細目スクリーン													
し渣脱水機													
嫌気汚泥引抜ポンプ													
No.1放流ポンプ													
No.2放流ポンプ													
前処理室排気ファン													
スクリーン室排気ファン													
ブロワ室排気ファン													
局所排気ファン													
汚泥貯留槽ブロワ													

流量 [m3]													
機 器 名	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	計
汚水流入流量													

※ 毎月1日、出来るだけ同じ時間に読んで下さい。
※ メーターの積算値は、小数点第1位まで読んで下さい。

[上段 : カウンター積算値]
[下段 : 当月機器運転時間]

処理場名 小倉汚水処理場

機器運転時間 [h]

機 器 名	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	計
No.1ブロワ(常用)													
No.2ブロワ(常用)													
No.1ブロワ(予備)													
No.2ブロワ(予備)													
自動粗目スクリーン													
破砕機													
No.1流量調整槽ポンプ													
No.2流量調整槽ポンプ													
水中攪拌ポンプ													
No.1自動微細目スクリーン													
No.2自動微細目スクリーン													
し渣脱水機													
嫌気汚泥引抜ポンプ													
No.1放流ポンプ													
No.2放流ポンプ													
前処理室排気ファン													
スクリーン室排気ファン													
ブロワ室排気ファン													
局所排気ファン													
汚泥貯留槽ブロワ													

流量 [m3]

機 器 名	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	計
汚水流入流量													

※ 毎月1日、出来るだけ同じ時間に読んで下さい。
 ※ メーターの積算値は、小数点第1位まで読んで下さい。

[上段 : カウンター積算値]
 [下段 : 当月機器運転時間]

処理場名 高内日置污水处理場

機器運転時間 [h]

機 器 名	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	計
No.1ブロワ(常用)													
No.2ブロワ(常用)													
No.1ブロワ(予備)													
No.2ブロワ(予備)													
自動粗目スクリーン													
破碎機													
No.1流量調整槽ポンプ													
No.2流量調整槽ポンプ													
水中攪拌ポンプ													
No.1自動微細目スクリーン													
No.2自動微細目スクリーン													
し渣脱水機													
嫌気汚泥引抜ポンプ													
No.1放流ポンプ													
No.2放流ポンプ													
前処理室排気ファン													
スクリーン室排気ファン													
ブロワ室排気ファン													
局所排気ファン													
汚泥貯留槽ブロワ													

流量 [m3]

機 器 名	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	計
汚水流入流量													

※ 毎月1日、出来るだけ同じ時間に読んで下さい。
 ※ メーターの積算値は、小数点第1位まで読んで下さい。

[上段 : カウンター積算値]
 [下段 : 当月機器運転時間]

処理場名 北有路污水处理場

機器運転時間 [h]													
機 器 名	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	計
No.1ブロワ(常用)													
No.2ブロワ(常用)													
No.1ブロワ(予備)													
No.2ブロワ(予備)													
自動粗目スクリーン													
破碎機													
No.1流量調整槽ポンプ													
No.2流量調整槽ポンプ													
水中攪拌ポンプ													
No.1自動微細目スクリーン													
No.2自動微細目スクリーン													
し渣脱水機													
嫌気汚泥引抜ポンプ													
No.1放流ポンプ													
No.2放流ポンプ													
前処理室排気ファン													
スクリーン室排気ファン													
ブロワ室排気ファン													
局所排気ファン													
汚泥貯留槽ブロワ													

流量 [m3]													
機 器 名	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	計
汚水流入流量													

※ 毎月1日、出来るだけ同じ時間に読んで下さい。
※ メーターの積算値は、小数点第1位まで読んで下さい。

[上段 : カウンター積算値]
[下段 : 当月機器運転時間]

処理場名 大江河東汚水処理場

機器運転時間 [h]													
機 器 名	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	計
No.1ブロワ(常用)													
No.2ブロワ(常用)													
No.1ブロワ(予備)													
No.2ブロワ(予備)													
自動粗目スクリーン													
破砕機													
No.1流量調整槽ポンプ													
No.2流量調整槽ポンプ													
水中撈拌ポンプ													
No.1自動微細目スクリーン													
No.2自動微細目スクリーン													
し渣脱水機													
嫌気汚泥引抜ポンプ													
No.1放流ポンプ													
No.2放流ポンプ													
前処理室排気ファン													
スクリーン室排気ファン													
ブロワ室排気ファン													
局所排気ファン													
汚泥貯留槽ブロワ													

流量 [m3]													
機 器 名	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	計
汚水流入流量													

※ 毎月1日、出来るだけ同じ時間に読んで下さい。
※ メーターの積算値は、小数点第1位まで読んで下さい。

[上段 : カウンター積算値]
[下段 : 当月機器運転時間]

処理場名 有路污水处理場

機器運転時間 [h]													
機 器 名	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	計
No.1ブロワ(常用)													
No.2ブロワ(常用)													
No.1ブロワ(予備)													
No.2ブロワ(予備)													
自動粗目スクリーン													
破碎機													
No.1流量調整槽ポンプ													
No.2流量調整槽ポンプ													
水中攪拌ポンプ													
No.1自動微細目スクリーン													
No.2自動微細目スクリーン													
し渣脱水機													
嫌気汚泥引抜ポンプ													
No.1放流ポンプ													
No.2放流ポンプ													
前処理室排気ファン													
スクリーン室排気ファン													
ブロワ室排気ファン													
局所排気ファン													
汚泥貯留槽ブロワ													

流量 [m3]													
機 器 名	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	計
汚水流入流量													

※ 毎月1日、出来るだけ同じ時間に読んで下さい。
※ メーターの積算値は、小数点第1位まで読んで下さい。

[上段 : カウンター積算値]
[下段 : 当月機器運転時間]

水 質 分 析 検 査 報 告 書

月分

測定項目	単位	上夜久野污水处理場		井田額田污水处理		向污水处理場		千原污水处理場		小倉污水处理場	
		流入水	放流水	流入水	放流水	流入水	放流水	流入水	放流水	流入水	放流水
気温	°C										
水温	°C										
pH	-										
浮遊物質(SS)	m g / ℓ										
C O D	m g / ℓ										
B O D	m g / ℓ										
ATU-B O D	m g / ℓ										
全磷 (T - P)	m g / ℓ										
全窒素 (T - N)	m g / ℓ										
大腸菌	個/ℓ										
蒸発残留物	m g / ℓ										
透視度	c m										

採水箇所	単位	上夜久野污水处理場		井田額田污水处理	向污水处理場	千原污水处理場	小倉污水处理場	
		濃縮汚泥	活性汚泥	濃縮汚泥	濃縮汚泥	濃縮汚泥	濃縮汚泥	活性汚泥
MLSS (活性汚泥濃度)	m g / ℓ							
MLVSS (活性汚泥有機分)	%							
汚泥含水率	%							
汚泥有機分	%							

測定項目	単位	高内日置污水处理場		北有路污水处理場		大江河東污水处理		有路污水处理場	
		流入水	放流水	流入水	放流水	流入水	放流水	流入水	放流水
気温	°C								
水温	°C								
pH	-								
浮遊物質(SS)	m g / ℓ								
C O D	m g / ℓ								
B O D	m g / ℓ								
ATU-B O D	m g / ℓ								
全磷 (T - P)	m g / ℓ								
全窒素 (T - N)	m g / ℓ								
大腸菌	個/ℓ								
蒸発残留物	m g / ℓ								
透視度	c m								

採水箇所	単位	高内日置污水处理場	北有路污水处理場	大江河東污水处理	有路污水处理場	
		濃縮汚泥	濃縮汚泥	濃縮汚泥	濃縮汚泥	活性汚泥
MLSS (活性汚泥濃度)	m g / ℓ					
MLVSS (活性汚泥有機分)	%					
汚泥含水率	%					
汚泥有機分	%					

施 設 名	計 器 名	メーカ	検 出 器	変 換 器	製造番号	備考	年
大江河東污水处理場	流入流量計	愛知時計	TAV100V-10UEFVF-IX		Ser. 8904		1996
北有路污水处理場	流入流量計	愛知時計	TAV100V-10UEFVF-IX		Ser12903		1998
有路污水处理場	流入流量計	愛知時計	TAV100V-30UNAVV-IZ		Ser25499		2006
有路污水处理場	流入流量計	愛知時計	TAV80V-30UNAVV-IZ		Ser25470		2006
井田額田污水处理場	流入流量計	愛知時計	TAV80V-10UEFVF-IX		Ser6962		1994
上夜久野污水处理場	流入流量計	愛知時計	TAV150V-10UTFVF-IX		Ser11371		1998
向污水处理場	流入流量計	愛知時計	TAV100V-10UTFVF-IX		Ser13763		1999
高内日置污水处理場	流入流量計	アズビル/山武	SMT31A-100PJ1LSBAAA-XX-A		-		-
高内日置污水处理場	流入流量計	アズビル/山武	SMT31-080PJ1LSBAAA-XX-A		-		-
千原污水处理場	流入流量計	アズビル/山武	MTG11A-080PJ1LSAAEA-XX-A		-		-

上夜久野污水处理場

大枠	分類			数量	機器点検(回)	機器点検及び 総合点検(回)
消火器具	粉末 (ABC)	蓄圧		2	2	0
	強化液 (中性)	蓄圧		3	2	0
誘導灯及び誘導標識	誘導標識	避難口		2	2	0

大江河東污水处理場

大枠	分類			数量	機器点検(回)	機器点検及び 総合点検(回)
消火器具	粉末 (ABC)	蓄圧		2	2	0
誘導灯及び誘導標識	誘導灯	避難口	C 級	4	2	0
	誘導標識	避難口		1	2	0
配線	総合点検			1	0	1

有路污水处理場

大枠	分類			数量	機器点検(回)	機器点検及び 総合点検(回)
消火器具	粉末 (ABC)	蓄圧		2	2	0
誘導灯及び誘導標識	誘導灯	避難口	C 級	5	2	0
配線	総合点検			1	0	1

井田額田污水处理場

大枠	分類			数量	自主点検(回)
消火器具	粉末 (ABC)	蓄圧		1	1

向污水处理場

大枠	分類			数量	自主点検(回)
消火器具	粉末 (ABC)	蓄圧		1	1

千原污水处理場

大枠	分類			数量	自主点検(回)
消火器具	粉末 (ABC)	蓄圧		1	1

小倉污水处理場

大枠	分類			数量	自主点検(回)
消火器具	粉末 (ABC)	蓄圧		1	1

高内日置污水处理場

大枠	分類			数量	自主点検(回)
消火器具	粉末 (ABC)	蓄圧		1	1

北有路污水处理場

大枠	分類			数量	自主点検(回)
消火器具	粉末 (ABC)	蓄圧		1	1
誘導灯及び誘導標識	誘導灯	避難口	C 級	4	1
	誘導標識	避難口		1	1

福知山北部農集排水エリア
農業集落排水事業 夜久野

1	夜久野町 井田 1号	51	夜久野町 日置 9号	101	
2	夜久野町 井田 2号	52	夜久野町 日置 10号	102	
3	夜久野町 井田 4号	53	夜久野町 日置 11号	103	
4	夜久野町 井田 5号	54	夜久野町 日置 12号	104	
5	夜久野町 額田 1号	55	夜久野町 日置 13号	105	
6	夜久野町 額田 2号	56	夜久野町 日置 14号	106	
7	夜久野町 額田 3号	57	夜久野町 日置 15号	107	
8	夜久野町 額田 4号	58	夜久野町 日置 16号	108	
9	夜久野町 額田 5号	59	夜久野町 千原 1号	109	
10	夜久野町 額田 6号	60	夜久野町 千原 2号	110	
11	夜久野町 額田 7号	61	夜久野町 千原 3号	111	
12	夜久野町 額田 8号	62	夜久野町 千原 4号	112	
13	夜久野町 額田 9号	63	夜久野町 千原 5号	113	
14	夜久野町 額田 10号	64	夜久野町 千原 6号	114	
15	夜久野町 今西中 1号	65	夜久野町 千原 7号	115	
16	夜久野町 今西中 2号	66	夜久野町 千原 8号	116	
17	夜久野町 板生 1号	67	夜久野町 小倉 1号	117	
18	夜久野町 板生 2号	68	夜久野町 小倉 2号	118	
19	夜久野町 板生 3号	69	夜久野町 小倉 3号	119	
20	夜久野町 板生 4号	70	夜久野町 小倉 4号	120	
21	夜久野町 板生 5号	71	夜久野町 小倉 5号	121	
22	夜久野町 板生 6号	72	夜久野町 小倉 6号	122	
23	夜久野町 板生 7号	73	夜久野町 小倉 7号	123	
24	夜久野町 板生 8号	74	夜久野町 小倉 8号	124	
25	夜久野町 板生 9号	75		125	
26	夜久野町 板生 10号	76		126	
27	夜久野町 直見 1号	77		127	
28	夜久野町 直見 2号	78		128	
29	夜久野町 直見 3号	79		129	
30	夜久野町 直見 4号	80		130	
31	夜久野町 直見 5号	81		131	
32	夜久野町 平野 1号	82		132	
33	夜久野町 平野 2号	83		133	
34	夜久野町 平野 3号	84		134	
35	夜久野町 平野 4号	85		135	
36	夜久野町 平野 5号	86		136	
37	夜久野町 平野 6号	87		137	
38	夜久野町 平野 7号	88		138	
39	夜久野町 高内 1号	89		139	
40	夜久野町 高内 2号	90		140	
41	夜久野町 高内 3号	91		141	
42	夜久野町 高内 4号	92		142	
43	夜久野町 高内 5号	93		143	
44	夜久野町 日置 1号	94		144	
45	夜久野町 日置 2号	95		145	
46	夜久野町 日置 3号	96		146	
47	夜久野町 日置 5号	97		147	
48	夜久野町 日置 6号	98		148	
49	夜久野町 日置 7号	99		149	
50	夜久野町 日置 8号	100		150	

※ 井田額田地区系統(1-12、15、16)、向地区系統(13、14)、上夜久野地区系統(17-38)、
高内日置地区系統(39-58)、千原地区系統(59-66)、小倉地区系統(67-74)

福知山北部農集排水エリア
農業集落排水事業 大江

1	大江町 千原 1号 ◎	51	大江町 二箇下 3号	101	
2	大江町 千原 2号	52	大江町 二箇下 4号	102	
3	大江町 千原 3号	53		103	
4	大江町 尾藤 1号	54		104	
5	大江町 尾藤 2号	55		105	
6	大江町 尾藤 3号	56		106	
7	大江町 尾藤 4号	57		107	
8	大江町 尾藤 5号	58		108	
9	大江町 尾藤 6号	59		109	
10	大江町 尾藤 7号	60		110	
11	大江町 尾藤 8号	61		111	
12	大江町 尾藤 9号	62		112	
13	大江町 尾藤 10号	63		113	
14	大江町 尾藤 11号	64		114	
15	大江町 三河 1号	65		115	
16	大江町 三河 2号	66		116	
17	大江町 三河 3号	67		117	
18	大江町 三河 4号	68		118	
19	大江町 三河 5号	69		119	
20	大江町 三河 6号	70		120	
21	大江町 三河 7号	71		121	
22	大江町 北有路 1号 ◎	72		122	
23	大江町 北有路 2号	73		123	
24	大江町 北有路 4号	74		124	
25	大江町 北有路 5号	75		125	
26	大江町 北有路 6号	76		126	
27	大江町 北有路 7号	77		127	
28	大江町 北有路 8号	78		128	
29	大江町 北有路 9号	79		129	
30	大江町 北有路 10号	80		130	
31	大江町 北有路 11号	81		131	
32	大江町 北有路 12号	82		132	
33	大江町 南有路 1号	83		133	
34	大江町 南有路 2号	84		134	
35	大江町 南有路 3号	85		135	
36	大江町 南有路 4号	86		136	
37	大江町 南有路 5号	87		137	
38	大江町 南有路 6号	88		138	
39	大江町 南有路 7号	89		139	
40	大江町 南有路 8号	90		140	
41	大江町 南有路 9号	91		141	
42	大江町 南有路 10号	92		142	
43	大江町 南有路 11号	93		143	
44	大江町 南有路 12号	94		144	
45	大江町 南有路 13号	95		145	
46	大江町 二箇上 1号	96		146	
47	大江町 二箇上 2号	97		147	
48	大江町 二箇上 3号	98		148	
49	大江町 二箇下 1号	99		149	
50	大江町 二箇下 2号	100		150	

※ 大江河東地区系統(1-14)、北有路地区系統(15-32)

有路地区系統(33-52)

※ 施設名の◎印はポンプ出力7.5kW以上を示す。

マンホールポンプ設備 巡回点検記録表 設備点検 ・ 特殊点検

施 設 名	号 マンホールポンプ設備		
点 検 日	令和 年 月 日 () 天候		
号 数	1号	2号	3号
仕 様	Kw / / φ / 台		
ポ ン プ 型 式			
ポ ン プ 製 造 番 号			
吐 出 し 量 (定 格)	m3/min	m3/min	
ポ ン プ 点 検			
外 観	良 ・ 不良	良 ・ 不良	良 ・ 不良
異 常 音	有 ・ 無	有 ・ 無	有 ・ 無
振 動	有 ・ 無	有 ・ 無	有 ・ 無
電流値 定格 A	A (指示 A)	A (指示 A)	A (指示 A)
運 転 時 間 (h r)			
上 段 : 指 示 値 下 段 : 前 回 差 引			
減 水 確 認	良 ・ 不良	良 ・ 不良	良 ・ 不良
停 止 水 位 に よ る 自 動 停 止 確 認	良 ・ 不良		
フ ロ ー ト ス イ ッ チ 動 作 ・ 外 観	良 ・ 不良		
絶 縁 抵 抗 測 定	MΩ	MΩ	MΩ
着 脱 装 置	良 ・ 不良	良 ・ 不良	良 ・ 不良
逆 止 弁	良 ・ 不良	良 ・ 不良	良 ・ 不良
吊 り 下 げ チ ェ ー ン	良 ・ 不良	良 ・ 不良	良 ・ 不良
操 作 盤 点 検			
外 観	良 ・ 不良 ・ 不良箇所 ()		
回 転 灯 ・ 表 示 灯 等 確 認	良 ・ 不良	・ 回転灯設置無 ・ 計器指示値	
回 転 灯 損 傷 内 部 水 滴 付 着	良 ・ 不良	・ 設置無	
通 報 装 置 作 動 テ ス ト	良 ・ 不良	・ 設置無	
漏 電 遮 断 機 作 動 テ ス ト	良 ・ 不良	良 ・ 不良	良 ・ 不良
3 E ト リ ッ プ 作 動 テ ス ト	良 ・ 不良	良 ・ 不良	良 ・ 不良
断 線 ・ ゆ る み ・ ヒ ュ ー ズ 切 れ の 有 無	有 ・ 無	・ 取替部品 ()	
水 位 計 指 示 値 の 誤 差	有 (誤差)	無	・ 設置無
操 作 盤 内 清 掃 ほ か	/ 予備品 良	・ 不足 (補充)	
マンホール槽への配線状況	良 ・ 不良		
そ の 他			
液位検出器の状況及び作動確認	良 ・ 不良 ・ 不良箇所 ()		
ス カ ム 堆 積	有 [/ 多 (清掃要) ・ 少 (観察)] ・ 無		
配 管 漏 水	有 ・ 無	有 ・ 無	有 ・ 無
ジ ョ イ ン ト 部 接 合 状 況	良 ・ 不良	良 ・ 不良	良 ・ 不良
マ ン ホ ー ル 蓋	良 ・ 不良	不良箇所 ()	
操 作 盤 自 動 ・ 施 錠 確 認	(氏名)		
備 考			
	別紙報告書等 (写真ほか) 有 ・ 無		
受 注 者 ・ 氏 名	⑩	⑩	⑩

※ 右上の「設備点検・特殊点検」は、該当する方に○をつけてください。

处理区名：福知山北部集落排水处理施設管理業務

令和〇年〇月末時点

[illegible]

実施回数集計

項 目	予定数量	実施数量	単位	差	備考
圧送管清掃	1	0	回	1	1回100m 高圧洗浄
管路緊急対応(高圧洗浄：昼間)	1	0	回	1	
管路緊急対応(高圧洗浄：夜間)	0	0	回	0	
管路緊急対応(汚泥吸引：昼間)	1	0	回	1	
管路緊急対応(汚泥吸引：夜間)	0	0	回	0	
管路緊急対応(簡易作業：昼間)	1	0	回	1	
管路緊急対応(簡易作業：夜間)	1	0	回	1	
不明水調査	2	0	回	2	1回4時間
本管テレビカメラ	1	0	回	1	
取付け管テレビカメラ	1	0	回	1	
その他	0	0	回	0	

处理区名：福知山北部集落排水处理施設管理業務

令和〇年〇月末時点

[illegible]

実施回数・金額集計						
	予定回数	予定金額（税込）	実施回数	実施金額（税込）	回数差	金額差（税込）
污水处理場施設修繕		2,840,000		0		2,840,000
マンホールポンプ施設修繕		1,120,000		0		1,120,000
公共污水ます修繕	1	200,000	0	0	1	200,000
止水修繕	2	200,000	0	0	2	200,000
取付管修繕	1	350,000	0	0	1	350,000
本管簡易修繕	1	360,000	0	0	1	360,000
物品調達（薬品）		2,050,000		0		2,050,000
物品調達（機械電気部品）		470,000		0		470,000
その他		0		0		0
合 計		7,590,000		0		7,590,000

第8編 マンホールポンプ緊急対応業務
第1章 マンホールポンプ緊急対応業務

第8編 マンホールポンプ緊急対応業務

第1章 マンホールポンプ緊急対応業務

第1節 業務概要

- (1) マンホールポンプ操作盤の回転灯点灯及び通報装置により福知山終末処理場監視室（以下、監視室）又は、下水道課へ故障連絡のあったマンホールポンプ場について、迅速に現場確認を行い、故障原因の特定及び解消により設備の機能を復旧させる。
- (2) 対象となるマンホールポンプ場は、別紙2-7、別紙3-6、別紙4-8、別紙5-8、別紙6-8、別紙7-8に示す。ただし、業務途中で増減することもあるものとする。

第2節 業務時間

24時間体制とする。ただし、当直者は発注者の勤務時間内は除く。2名/班体制とする。

第3節 現地対応数

次の表に示す回数を想定している。

	昼(8：30－ 17：15)	夜(17：15 －8：30)	合計
公共下水道区域	317	271	588
特定環境保全公共下水道区域 福知山	39	33	72
特定環境保全公共下水道区域 三和	15	12	27
特定環境保全公共下水道区域 大江中部	11	9	20
農業集落排水処理区域：東部	47	39	86
農業集落排水処理区域：西部	56	47	103
農業集落排水処理区域：南部	11	10	21
農業集落排水処理区域：北部	51	43	94

第4節 対応要領（故障及び現場状況の電話受付、確認、故障対応、報告）

(1) 電話受付

ア 回転灯点灯によりマンホールポンプ場の故障連絡及び通報装置から受信した際は、別紙8-1「マンホールポンプ緊急対応記録表」を記入する。

(2) 現地での確認内容

- ア 操作盤及びマンホール周辺の損傷及び汚損状況
- イ 操作盤の故障表示内容
- ウ 操作盤内電気部品及びポンプ動作状況
- エ ポンプ運転電流値（クランプメータによる測定）
- オ 必要に応じて電圧値、絶縁抵抗値を測定
- カ マンホール槽内の水位及び異常の有無
- キ ポンプの送水状況（減水量・時間、振動等）
- ク 水位検知機器の動作、ポンプの自動運転
- コ 操作盤内スイッチ類の定位
- サ 復旧完了後の警報等リセット
- シ 作業完了後の周辺状況（必要に応じて清掃・消毒を行う）
- ス その他故障原因特定の為に必要な作業

（3）故障対応

- ア ポンプ引揚、異物除去・空気弁清掃・羽根車等外観確認、据付
- イ 不良フロートスイッチの振替作業
- ウ 不良タイマー、リレー、ヒューズ及び表示灯の取替作業
- エ レベルスイッチ設置位置の変更など再発防止措置
- オ 設備機能保持に必要な応急処置
- カ 不良状況改善の為に検討及び報告
- キ マンホールから汚水が溢れた場合の現場周辺の洗浄及び消毒作業。なお、消毒剤は次亜塩素酸ソーダ0.1%（1,000ppm）同等品を使用すること。（夾雑物や汚物の滞留がなく、上記作業のみで対応可能な場合）

（4）表示灯及びタイマー等の消耗品は本業務に含むものとする。

なお、液位検出器、水中ポンプ、回転灯、漏電遮断器、電磁接触器の取替作業は各編（第2編第6章、第3編第6章、第4編第5章、第5編第5章、第6編第5章、第7編第5章、）に示す小修繕等業務として取り扱う。

4 報告

- （1）故障処置などの対応が完了すれば、報告書を作成し月報とともに提出をする。

段階的な処置を行った場合は、その段階処置の内容を含めて報告する。

- （2）業務を実施した内容の集計については、別紙 8-1「マンホールポンプ緊急対応記録表」及び別紙 8-2「マンホールポンプ緊急対応件数表」に整理して月度報告に添付することとし、各年度の実施状況の把握を行うこととする。

- （3）段階的な処置を行っても、故障や異常原因が解消しない場合は、速やかに

発注者に報告し、指示を受けることとする。

第5節 留意事項

- 1 作業前には、「マンホールポンプ場台帳」、「福知山市下水道台帳管理システム」、「福知山市下水道施設台帳管理システム」、「マンホールポンプ巡回点検記録表」等を活用して、業務を履行する。
- 2 公道上及び私有地内の作業となるため、作業前後には関係者への周知や連絡を行うこととする。
- 3 作業を行う際には、周辺の状況を確認して、歩行者や車両の通行に支障を及ぼさないように安全な作業とする。
- 4 作業後は、周辺も含めて片付け、清掃を行うこととする。

[illegible]

【注意】 対応内容には、通報の原因を記載し、こういった対応をしたか記入ください。
完了年月日には、恒久的な対応が完了した年月日を記入ください。例えば ポンプ交換など。

			4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年間 合計
公共	昼														
	夜														
特環	昼														
福知山	夜														
特環	昼														
三和	夜														
特環	昼														
大江	夜														
農集	昼														
東部	夜														
農集	昼														
西部	夜														
農集	昼														
南部	夜														
農集	昼														
北部	夜														